

久保田城跡

佐竹史料館改築事業に伴う発掘調査報告書

二〇二四・三

秋田市教育委員会

秋田市

久保田城跡

- 佐竹史料館改築事業に伴う発掘調査報告書 -

2024 3 秋田市教育委員会

秋田市

久保田城跡







- 佐竹史料館改築事業に伴う発掘調査報告書 -

2024 3 秋田市教育委員会

例 言

- 1 本報告書は、佐竹史料館改築事業に伴う久保田城跡（秋田市千秋公園地内）の緊急発掘調査報告書である。
- 2 本事業は、事業主体者が秋田市（担当課：佐竹史料館）業務受託者が株式会社イビソク秋田営業所、調査担当者が秋田市教育委員会（担当課：文化振興課）となり実施した。本発掘調査経費については、事業主体者である秋田市（担当課：佐竹史料館）が負担した。
- 3 本発掘調査は建物建築予定範囲のうち、近世整地層や遺構面に影響を与える範囲のみ実施した。
- 4 本報告書の執筆は、第1・2・4章第1・2・4節を佐藤桃子（秋田市）、第3章第1～3・5節、第4章第3節を佐藤好司（株式会社イビソク）、第3章第4節を山崎貴之（株式会社イビソク）が行った。
- 5 発掘調査写真は山崎貴之・佐藤好司、遺物写真は山崎貴之（株式会社イビソク）が撮影した。
- 6 出土遺物および記録類は、秋田市教育委員会が一括して保管する。
- 7 発掘調査では下記の各氏より指導、助言を賜った。（敬称略・順不同）
文化庁、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室、久保田城址歴史案内ボランティアの会、高橋学、安田忠市、利部修、宇田川浩一、加藤朋夏、田口一男、古代の森研究舎

凡 例

- 1 図中の方位は、各図面に示した。
- 2 図中の地図には、秋田市管内図1/500 000 同1/25 000 都市計画図1/2 500を使用した。
- 3 本文中の平面図の中で、柱痕は  の網掛けで図示した。
- 4 本文中の遺物については、土器・陶磁器、石製品、瓦、鉄製品、銭貨の基礎分類ごとに記述した。
- 5 実測図の中で、青磁は「青磁」の文字と  、鉄釉は「鉄釉」の文字と  の網掛けで図示し、白磁は「白磁」の文字のみで示した。煤範囲は  の網掛けで、また、瓦に塗布されている釉薬は、赤瓦は  、いぶし瓦は  の網掛けで図示した。
- 6 遺物実測図の縮尺は、土器・陶磁器は1/3、石製品は1/3・1/6、瓦は1/4、鉄製品は1/2、銭貨は1/1とした。
- 7 遺物写真の縮尺は、石製品は1/3・1/6、瓦は1/4、鉄製品は1/2、銭貨は1/1、それ以外は1/3とした。

目 次

例言・凡例

第1章 調査の概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査期間と体制	1
第3節 調査の経過	3
第2章 遺跡の位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5
(1) 周辺の遺跡	5
(2) 久保田城跡の概要	6
(3) 久保田城二の丸の変遷について	6
第3章 調査の方法と成果	16
第1節 調査の方法	16
第2節 層序	18
第3節 遺構	21
第4節 遺物	135
第5節 自然科学分析	217
第4章 まとめ	219
第1節 出土遺物の年代と各遺構・各整地層の年代について	219
第2節 調査地の利用状況について	220
第3節 100号礎石建物跡の根固石石材について	225
第4節 まとめ	227
写真図版	228
報告書抄録	289

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

秋田市（担当課：佐竹史料館）は、佐竹史料館改築事業を計画した。しかし、当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「久保田城跡」に所在することから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。

協議の結果、令和2年10月7日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。これを受けて秋田市教育委員会は、分布調査による現況確認と試掘による範囲確認調査を令和2年1月4・5日に実施した。調査の結果、遺構・遺物が確認された。

令和4年2月18日付けで秋田市（担当課：佐竹史料館）より秋田県教育委員会に土木工事等のための発掘調査に関する通知書（文化財保護法第94条）が提出された。これに対し、範囲確認調査の結果に基づき、令和4年3月4日付け教生2364で、秋田県教育委員会より「工事による掘削が埋蔵文化財に及ぶ場合」に該当するため、事業予定地に対して発掘調査条件の通知があった。

この通知を受けて秋田市（担当課：佐竹史料館）は工事着手前に発掘調査を実施することとし、令和4年4月2日付けで秋田市教育委員会に事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を依頼した。協議の結果、事業主体者が秋田市（担当課：佐竹史料館）、調査担当者が秋田市教育委員会（担当課：秋田市観光文化スポーツ部文化振興課）となり、令和5年7月3日までに発掘作業を完了し、引き続き令和6年3月2日まで整理作業を行うこととした。また、費用負担については、秋田市（担当課：佐竹史料館）が負担し、発掘作業・整理作業については、業務受託者に委託することとした。秋田市（担当課：佐竹史料館）による入札の結果、株式会社イソク秋田営業所が秋田市の指示・監理のもと業務を受託することになった。また、令和4年4月2日付けで事業主体者の秋田市（担当課：佐竹史料館）調査担当者の秋田市教育委員会（担当課：文化振興課）、業務受託者の株式会社イソク秋田営業所の三者で発掘調査に関する協定書結び、事業を実施した。

第2節 調査期間と体制

範囲調査（令和2年度）

調査期間 令和2年1月4・5日

調査面積 11㎡（調査対象面積 約1500㎡）

調査担当者 秋田市教育委員会

調査体制 秋田市観光文化スポーツ部文化振興課

課長 納谷 信 広

文化財担当

副参事 岡部 友 明

主席主査 神田 和 彦（調査担当）

主席主査 眞井田 宏 彰

主 査 田 中 圭 紅

主 査 髙 藤 和 敏

主 任 堤 絵 莉 子

第1章 調査の概要

発掘作業・整理作業（令和4年度）

調査期間 令和4年5月25日～12月8日（発掘作業）
令和4年12月9日～令和5年3月31日（整理作業）

調査面積 A区 714 7㎡
B区 368 5㎡

事業主体者 秋田市（担当課：佐竹史料館）

調査担当者 秋田市教育委員会

調査体制 秋田市観光文化スポーツ部文化振興課

課長 畠山 健

副参事 石塚 信康

文化財担当

主席主査 眞井田 宏 彰（調査担当）

主席主査 田 中 圭 紅

主 査 齋 藤 和 敬

主 任 佐 藤 桃 子（主務者・調査担当）

主 事 齋 藤 志 帆 子

主 事 佐々木 淳

業務受託者 株式会社イビソク秋田営業所

調査支援員（現場代理人） 佐藤好司

調査補助員 山崎貴之

計 測 員 石田純子

調査作業員 阿久津強、石川淑子、伊藤眞耕、伊藤保一、大高晃悦、齋藤康男、佐々木登、
鈴木清隆、鈴木寿、高橋朋子、堀井健治、三浦アエ子、三浦正直

整理作業員 石川淑子、高橋朋子

発掘作業・整理作業（令和5年度）

調査期間 令和5年4月3日～7月31日（発掘作業）
令和5年7月31日～令和6年3月19日（整理作業）

調査面積 C区 688 4㎡

事業主体者 秋田市（担当課：佐竹史料館）

調査担当者 秋田市教育委員会

調査体制 秋田市観光文化スポーツ部文化振興課

課長 畠山 健

文化財担当

主席主査 眞井田 宏 彰（調査担当）

主席主査 伊 藤 才 城

主席主査 田 中 圭 紅

主 任 佐 藤 桃 子（主務者・調査担当）

主 任 佐々木 淳

主 事 鈴木 聖 香

業務受託者 株式会社イビソク秋田営業所

調査支援員（現場代理人） 佐藤好司

調査補助員 山崎貴之

計 測 員 石田純子

発掘作業員 伊藤真耕、加賀谷久仁男、鎌田一夫、佐々木登、佐藤敏昭、照井稔、
富野三千雄

整理作業員 石川淑子、伊藤保一、佐藤穂波、高橋朋子

第3節 調査の経過

範囲確認調査（令和2年度）

令和2年10月7日付けの事前調査依頼に基づき範囲確認調査を行った。範囲確認調査については令和2年度国庫補助金および県費補助金を用いて実施し、詳細については秋田市教育委員会2021『令和2年度 秋田市遺跡事前確認調査報告書』で報告を行っている。

範囲確認調査により、久保田城関連の遺構・遺物が確認され、事業実施にあたっては発掘調査が必要となるため事業者と協議し、調査の計画・積算を行った。

発掘作業（令和4年度）

調査対象地を便宜上、A区（旧佐竹史料館の裏手側）、B区（旧佐竹史料館の表側）、C区（旧佐竹史料館建物下）に区分して調査を実施した。

5月2日、重機を用いてA区の表土および造成土である第1層の除去を開始した。5月30日、作業員が入場し、表土除去が終わった場所から、順次グリッド打設と人力による攪乱の掘削ならびに遺構精査を行った。調査区南東隅より開始し、土塁基底部と考えられる遺構を確認した。6月3日、調査区南側において礎石建物跡を検出した。6月2日、第1遺構面の遺構検出状況と遺跡全景の空中写真撮影を行った。攪乱や遺構等からは江戸後期を中心とした遺物が確認され、第1層検出面の遺構群はそれ以降のものと考えられた。7月8日、土塁の調査を開始する。近現代の攪乱により大幅に削平を受けている状況を確認した。8月8日、設計変更に伴い追加となったA区中央の範囲について、表土除去・遺構検出を行う。8月19日、追加で開削した調査範囲より礎石が検出される。A区南東隅で確認されていた礎石建物跡と規模・構造を同一とすることから、同一遺構を構成する礎石であると考えられる。これにより、礎石建物跡の展開や規模が明らかになった。9月9日、完掘状況の全景写真撮影を行う。9月1日、第1遺構面の調査を完了し、重機を使い第1層の除去を開始する。除去に伴い、調査区南側を中心に古伊万里等の江戸前期の遺物が確認された。9月1日、第2遺構面において人力による遺構精査を行った。9月2日、検出写真を撮影した後、遺構調査を開始する。大型土坑や柱穴等を複数確認する。10月2日、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策として定員を設けた形で現地説明会を開催し、計3名の参加があった。10月1日、A区の補足調査や記録化と並行しながら、B区の表土除去を開始する。10月14日、第2遺構面完掘状況を撮影し、土塁の断ち割りや土層状況の確認等、補足調査を行った。調査を終えた箇所から埋め戻しも開始した。

10月2日、A区での遺構精査を概ね終了し、調査区全体の遺構分布の概要を把握した。B区の遺構精査を

本格的に開始した。A区に比べ表土の堆積が浅く全体に削平をうけていると考えられ、第1層は調査区の一部のみに確認された。遺物は江戸後期のものが大半を占めていた。10月2日、久保田城址歴史案内ボランティアの会を対象に、現地説明会を行った。11月19日、B区調査区南東の柱穴を調査したところ、掘立柱建物跡になることを確認した。11月2日、第1遺構面の記録化を終了し、第1層の除去を行う。11月28日、遺跡全景の空中写真撮影を行った。11月29日までに検出遺構および土層断面の記録化を終えた。12月8日までにプレハブ・機材等を全て撤収し、令和4年度発掘作業の全工程を終了した。

発掘作業（令和5年度）

旧佐竹史料館が解体された後、C区の調査を開始した。4月3日、重機を用いて表土・造成土・攪乱の除去を開始した。表土除去が終わった場所から、順次グリッド打設と人力による攪乱の掘削ならび遺構精査を行ったが、建物基礎による攪乱の影響が大きく、地山まで掘削されている場所もあった。そのため柱穴や礎石と考えられる遺構は確認されたが局所的であり、組み合わせが不明瞭なものが多かった。7月5日、第1遺構面切り合い上部遺構の調査は概ね完了し、下部遺構の調査を開始する。7月2日、遺跡全景の空中写真撮影を行った。7月24日、第1層の除去を行い、検出遺構および土層断面の記録化を行う。7月28日、埋め戻しを開始し、並行して撤収準備を行う。7月31日までにプレハブ・機材等を全て撤収し、令和5年度発掘作業の全工程を終了した。

整理作業（令和4年度・5年度）

A・B区の発掘作業に引き続き、令和4年12月1日から、出土遺物等の整理作業を実施した。令和4年度は遺物洗浄（令和4年12月）遺物接合（令和5年1月～2月）遺物実測（令和5年3月）遺構図面・台帳等整理（令和4年12月～令和5年3月）を行った。

令和5年度は発掘作業に並行して室内整理作業を実施し、発掘調査終了後の8月より本格的に作業を開始した。遺物洗浄（令和5年4月～8月）遺物接合（令和5年8月）遺物実測（令和5年4月～10月）遺物図面トレース（令和5年8月～10月）遺物写真撮影（令和5年9月～11月）遺構図面・台帳等整理（令和5年9月）遺構図面編集（令和5年8月～12月）遺物図面レイアウト（令和5年12月）遺構図面レイアウト（令和6年1月）、編集作業（令和5年12月～令和6年2月）を実施し、印刷所へ入稿した。令和6年3月19日までに校正・製本・印刷物の送付を行い、全工程を終了した。出土遺物はコンテナ（54 34 19m）で計6箱である。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

調査地である久保田城跡の丸は、JR奥羽本線秋田駅の北西約800mの台地に位置している。秋田市街地の秋田市千秋久保田町地内で、北緯 39 43 13、東経 140 7 28（世界測地系：X = - 30802 Y = - 60760）である。秋田市の都市公園「千秋公園」の南東地点となっている（第1図）。

調査対象地が位置する千秋公園は、地形分類では千秋公園台地にあたり、周辺部は秋田低地にあたる（経済企画庁総合開発局国土調査課編 1966 第2図）。この台地は北東約1.3kmに位置している手形山から古旭川（現在の旭川は久保田城築城時に掘り替えられた川）の浸食によって切断されたと考えられる独立丘陵であり、標高40m・35m・25mの3面の段丘からなる。いずれも北部に位置する手形山と同様に第四紀系の礫層や含礫砂層（潟西層）からなっている。

第2節 歴史的環境

（1）周辺の遺跡

秋田市教育委員会が昭和6年から6年に作成した『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書』（秋田市教育委員会 1989）および『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書 - 改訂版 -』（秋田市教育委員会 2002）に基づいて、久保田城跡周辺の遺跡について概観する（第3図、第1表）。

近世の遺跡は、久保田城跡（1）周辺で、南西に古川堀反町遺跡（2）、南側に藩校明德館跡（3）、東根小屋町遺跡（4）がある。また、久保田城跡から北約1.7kmに名勝旧秋田藩主佐竹氏別邸（如斯亭）庭園（6）、北東約1.3kmに平田篤胤墓（7）、西約2kmに八橋一里塚（11）、北北東約2.5kmに高梨台遺跡（13）、北北西1.9kmに万固山天徳寺（21）がある。

古川堀反町遺跡は、平成16・17年に秋田中央警察署改築事業に伴う緊急発掘調査が実施された。秋田藩の家老が居住していた武家屋敷跡である（秋田県教育委員会 2008）。藩校明德館跡は平成12年に市街地再開発事業に伴う緊急発掘調査が実施され、江戸・明治期の遺構（建物跡・溝跡・井戸跡等）とともに近世陶磁器が出土している（秋田市教育委員会 2002）。

名勝旧秋田藩主佐竹氏別邸（如斯亭）庭園は、平成24年度に修復整備に伴う発掘調査が行われ、元禄年間（1688～1704）に整備された佐竹氏別邸庭園であることが考古学的調査によっても追認され、修復整備に必要な当時の建物遺構や庭園遺構についての所見を得ることができた（秋田市教育委員会 2013）。東根小屋町遺跡は平成14・15年に教育・福祉複合施設整備に伴う緊急発掘調査が実施され、秋田藩の上級武士の宅地跡（建物跡・井戸跡等）が発見されている（秋田県教育委員会 2005）。平田篤胤墓（国指定史跡）は国学四大人の一人である平田篤胤（1776～1843）の墓である。八橋一里塚は慶長9年（1604）に江戸日本橋を起点として主要街道の一里ごとに置かれた塚で、八橋一里塚は日本橋から14里である。高梨台遺跡は縄文時代の遺跡と考えられていたが（五十嵐 1967）、平成28・29年度に市営住宅建築工事に伴う範囲確認調査を行ったところ近世瓦がまとまって出土している（秋田市教育委員会 2017・2018）。万固山天徳寺は重要文化財天徳寺ほか2棟の保存修理事業に伴い本堂および書院部分の発掘調査が行われ、本堂は2期の変遷、書院は3期の変遷があることが判明した（秋田市教育委員会 2020）。

(2) 久保田城跡の概要

久保田城跡は、秋田藩主佐竹氏12代約27年間の居城で、現在の千秋公園一帯がその範囲である。慶長7年(1602)に常陸国水戸城(茨城県水戸市)から秋田に転封された佐竹義宣(1570-1633)は、当初旧藩主秋田(安東)実季(1576-1659)の居城であった土崎の湊城に入城した。しかし、海岸に近い湊城は狭小の平城であることから、家臣団の居住地の確保と諸施設の建設用地等の収容能力的な問題や、防衛的な不安などから新城を築くこととなった。久保田神明山を選定し、翌年の慶長8年(1603)5月に着工した。神明山には川尻村の肝煎である豪族三浦氏(後の川尻氏)の氏神(後に川尻総社神社)や数軒の人家があったが、それぞれを移転させている。そして約1年後の同9年(1604)8月には湊城を破却して新城へ移り、それ以降も継続して城の整備を続けた。

久保田城は、本丸、二の丸、三の丸・北の丸からなる三重構造である。本丸は東西6間(約117m)、南北12間(216m)で、藩主の住居である本丸御殿や政務所等が置かれ城の中核となっている。本丸は台地の最も高台に位置し、一面を平らにして外周には土塁を巡らし、土塁の間には4箇所の門(表門・裏門・帯曲輪門・埋門)と5箇所の切戸口を設けていた。そして、門を除く土塁の上には多間長屋を建て、多間長屋のない部分は板塀となっているなど、城内を厳重に守り固めていた。また、北西隅には御隅櫓(新兵具庫)、南西隅には御出書院が置かれていた。

二の丸は東西3間(約70m)南北24間(432m)で、諸役所(境目方役所・勘定方役所等)や金蔵・厩等が置かれていた。二の丸は本丸の正面としての玄関口にあたり、外部からの道はここに集まり、内堀を渡る橋4箇所には門(黒門・松下門・不浄門・土門)を設け、足輕番所を置いて警備していた。

三の丸は二の丸の北・東・南の3方をコの字型に囲んでいる一段低い地区である。三の丸は3つの地域からなっており、二の丸東方で大手門と大手北の門との間の高地を上中城、二の丸南方の低地を下中城、上中城から北へ続く北の丸を山の手という。三の丸地域の詳細な記録は少ないが、規模については東西6間(約115m)南北14間(約259m)と台地の大きさが記載されている。

これらの基本となる構造に加え、本丸の西には堀と土塁によって囲まれた独立した郭がつくられ、兵具庫が置かれた。この兵具庫が置かれた郭は、「西曲輪」や「捨曲輪」と呼ばれるが、本報告書では「西曲輪」と呼ぶ(秋田市2003)。

堀は、本丸・二の丸を囲む内堀、三の丸(北の丸・西曲輪を含む)を囲む外堀がある。西曲輪部分では内堀と外堀が合流する部分がある。

(3) 久保田城二の丸の変遷について

調査地点は、久保田城二の丸の南東部にあたる(第4図)。上述のように、久保田城の主要部は慶長8-9年(1603-1604)に築城工事が行われたとされる。それ以後も三の丸、北の丸、堀川などの普請の記事があり、城の整備は継続していたと考えられるが、二の丸は城の主要部分であるため、慶長9年(1604)の段階で、それ以降の絵図に描かれるような形に普請されていたと考えられる。二の丸には様々な施設が置かれた。これについては平成3年度刊行の佐竹史料館増築に伴う発掘調査報告書(秋田市教育委員会1992)で詳細に検討され、整理されている(第5図、第5表)。

当該地には、「安楽寺(安楽院)」「鐘楼」「善性院」「勘定所」「境目方役所」などの各施設が設置されたと考えられている。『梅津政景日記』の記載により、「安楽寺」は築城当初から置かれていたと考えられる。「安楽寺(院)」には住職は置かれず、算用所や文書所が置かれるなど役所としての機能が強かったようである。寛永16年(1639)には、「善性院」の梵鐘という名目で時鐘が設置されていることから、「善性院」はこれ以前

にも設置されており、新たに「鐘楼」が設置されたと考えられる。宝永4年(1707)には、安楽院の南側に勘定所が設置され、勘定奉行配下の勘定役が勤務し、金銭出納や物産関係の用務を行っていた。その後、勘定所に隣接して、国境の調査や図面作成等を行う境目方役所が設置された。この境目方役所の設置年代は定かではないが、宝暦9年(1759)の絵図には記載されていないことから、18世紀後半から19世紀前半と考えられる。これらの施設は、嘉永7年(1854)に放火により「勘定所」「安楽院」「境目方役所」が焼失したとされる。その後の明治元年(1868)と明治1年(1884)の絵図には、「勘定所」と「境目方役所」の記載はあるが、「安楽院」の記載はなく、火災後再建されなかったと考えられる。勘定所、境目方役所がいつ解体されたか明確ではないが、明治3年(1899)に当該地に秋田県立図書館が建設されている。その後、昭和3年(1957)秋田市美術館が建設され、同じ建物が平成2年(1990)に佐竹史料館となったが、令和4年に改築事業に伴い解体され現在に至っている。

【第2章引用・参考文献】

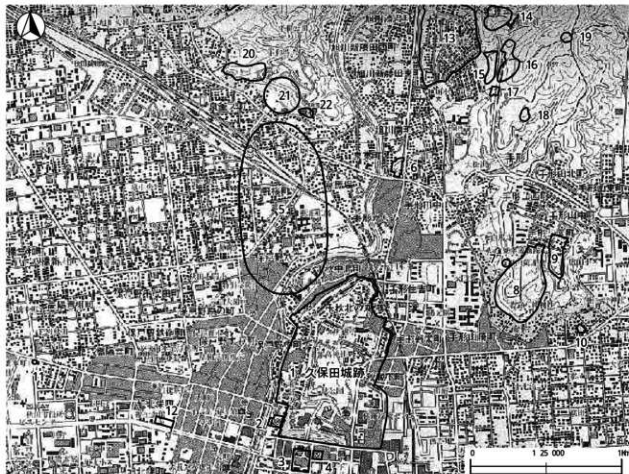
- 秋田市 2003『秋田市史 第三巻 近世通史編』
- 秋田市教育委員会 1989『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書』
- 秋田市教育委員会 1992『久保田城跡 - 佐竹史料館増築に伴う二の丸発掘調査報告書 -』
- 秋田市教育委員会 2002『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書 - 改訂版 -』
- 秋田市教育委員会 2002『藩校明德館跡 - 市街地再開発事業に伴う発掘調査報告書 -』
- 秋田市教育委員会 2013『名勝旧秋田藩主佐竹氏別邸(如斯亭)庭園 - 修復整備に伴う発掘調査概報 -』
- 秋田市教育委員会 2020『万固山天徳寺 - 重要文化財天徳寺本堂ほか2棟保存修理事業に伴う発掘調査報告書 -』
- 秋田県教育委員会 1980『国典類抄 第十巻 軍部 全』秋田県立秋田図書館編
- 秋田県教育委員会 1989『秋田県の文化財』
- 秋田県教育委員会 2005『東根小屋遺跡 - 秋田県教育・福祉複合施設整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 -』
- 秋田県教育委員会 2008『古川堀反町遺跡 - 秋田中央警察署改築工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 -』
- 秋田考古学協会 1976『秋田市金照寺山一ツ森遺跡発掘調査報告書』
- 五十嵐芳郎 1967『高梨台 遺跡とその資料 秋田市新藤田字高梨台遺跡』
- 井上隆明・相沢清治 1972『八丁夜話 第一〜第七』第二期 新秋田叢書 第一巻。歴史図書社
- 今村義孝 1971『羽陰史略前編』新秋田叢書 第一巻。歴史図書社
- 今村義孝・井上隆明・田口勝一郎・渡部鋼次郎 1971『伊豆園茶話 巻一〜巻六』新秋田叢書 第七巻。歴史図書社
- 今村義孝・井上隆明・田口勝一郎・渡部鋼次郎 1971『伊豆園茶話 巻七〜巻十二』新秋田叢書 第八巻。歴史図書社
- 経済企画庁総合開発局国土調査課編 1966『土地分類基本調査 秋田 地形・表層地質・土壌』
- 東京大学史料編纂所 1966『大日本古記録 梅津政景日記 九』岩波書店
- 橋本宗彦 1898『秋田沿革史大成』(上)(井上隆明 校注 1973 加賀屋書店)
- 原武男 1989『佐竹家譜(中)』東洋書院
- 原武男 1989『佐竹家譜(下)』東洋書院



第1図 遺跡位置図



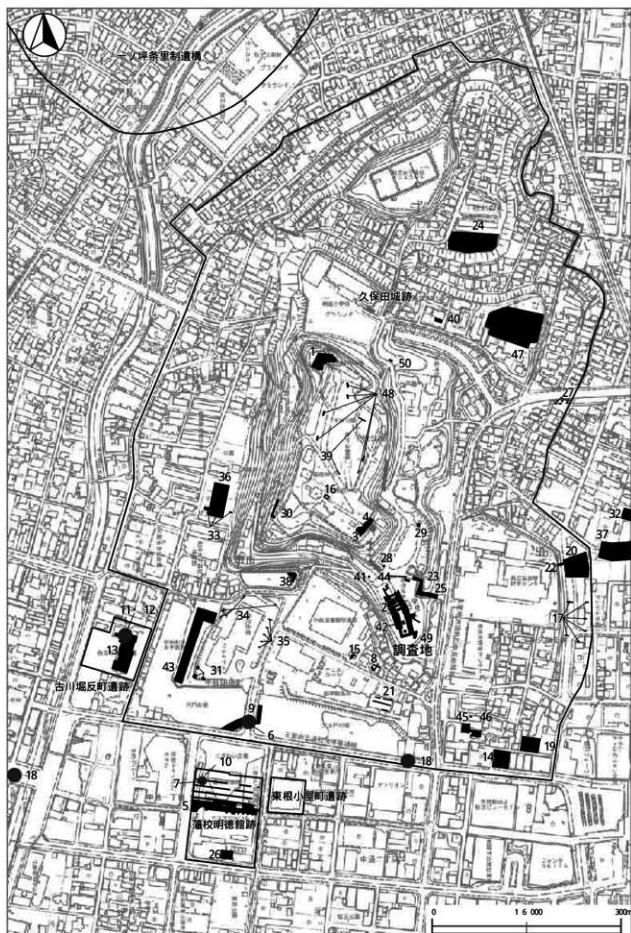
第2図 地形分類図 (S 1 50 000)



第3図 周辺の遺跡

第1表 周辺遺跡一覧

No	遺跡名	種別	所在地	時代	遺構・遺物
1	久保田城跡	城郭	秋田市千秋公園・千秋明徳町等	近世	建物跡・土壕・土取り穴・瓦・銅製品・鉄製品・ガラス製品・陶磁器
2	古川堀反町遺跡	武家屋敷跡	秋田市千秋明徳町1-9	近世	近世陶磁器
3	藩校明徳館跡	遺物包含地・武家屋敷・学校跡	秋田市中通一丁目4	近世	掘立柱建物跡・柱列・井戸跡・溝跡・土坑 近世陶磁器
4	東根小屋町遺跡	武家屋敷跡	秋田市中通二丁目1-52	近世	柱列・井戸跡・溝跡・土坑・柱穴 近世陶磁器・土器・木製品・金属製品・銭貨・動物遺体・種実遺体
5	一ノ坪糸里制遺構	糸里制遺構	秋田市保戸野八丁・泉一ノ坪他	奈良・平安	
6	名勝旧秋田藩主佐竹氏別邸(如斯亭)庭園	庭園	秋田市旭川南町2-73	近世	建物跡・柱列跡・溝跡・土坑・柱穴・通路・便所・土師器・須恵器・陶磁器・木製品・鉄製品
7	平田黒風墓	墓址	秋田市手形字大沢	近世	
8	蛇野遺跡	遺物包含地・城館	秋田市手形字蛇野・稚子・大沢	縄文・奈良・平安・中世	石器・赤褐色土器
9	柳沢遺跡	集落跡	秋田市広面字柳沢	縄文	掘穴住居跡・土壇 縄文土器・石皿・扁平打製石器・磨製石斧
10	桜田邸内遺跡	遺物包含地	秋田市広面字赤沼	縄文	
11	八橋一里塚	一里塚	秋田市八橋本町一丁目	近世	
12	當福寺石造物	宝篋印塔・板碑	秋田市旭北栄町7-42	中世・近世	宝篋印塔・板碑
13	高梨台遺跡	遺物包含地	秋田市新藤田字高梨台	縄文・近世	縄文土器・石皿・石匙・スクレイパー・瓦
14	中山台遺跡	遺物包含地	秋田市新藤田字中山台	奈良・平安	須恵器
15	中台遺跡	集落跡	秋田市手形字中台58-1他	縄文	掘穴住居・縄文土器
16	大松沢 遺跡	遺物包含地	秋田市手形字大松沢	縄文・平安	縄文土器・須恵器・土師器・陶器・石器
17	大松沢 遺跡	遺物包含地	秋田市手形字大松沢	中世	中世陶器
18	手形山南遺跡	集落跡・遺物包含地	秋田市手形字大松沢	平安	赤褐色土器・須恵器・土師器・近世陶磁器・磁石
19	手形山泉跡	泉跡	秋田市手形字大松沢	奈良・平安	貯蔵・須恵器
20	山崎堀	堀跡	秋田市外旭川水口字山崎等	中世	貯・鍵郭
21	万箇山天徳寺	社寺	秋田市泉三根 10	近世	柱列・溝跡・礎石跡・礎土・盛土・ビット・陶磁器・かわらけ・木製品・金属製品・銭貨
22	三根根遺跡	遺物包含地・館跡	秋田市泉三根根・五庵山	縄文・平安・中世	縄文土器・赤褐色土器



第4図 久保田城跡と既往調査地点

第2表 久保田城跡および周辺の既往調査一覧(1)

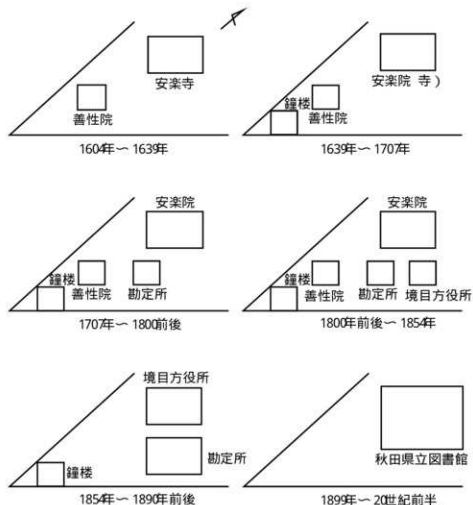
遺跡名	所在地	調査期間	面積	状況	調査原因・概要	文献
1 久保田城跡	秋田市千秋公園7番1	1988 5 23 ～6 16	600㎡	発掘	御隅櫓復元。御隅櫓や多門櫓、柱列の根固を抽出。	秋田市教育委員会 1989『久保田城跡 本丸御隅櫓跡発掘調査報告書』
2 久保田城跡	秋田市千秋公園地内	1991 12 9 ～1992 1 8	144㎡	発掘	佐竹史料館増築。二の丸東南部の勘定所・埴目方役所の区画施設を抽出。	秋田市教育委員会 1992『久保田城跡 佐竹史料館増築に伴う二の丸発掘調査報告書』
3 久保田城跡	秋田市千秋公園地内	1997 5 29 ～6 24	280㎡	発掘	表門復元。表門の礎石や地覆石、土塼、石垣を抽出。	秋田市教育委員会 1997『久保田城跡 表門復元に伴う発掘調査報告書』
4 久保田城跡	秋田市千秋公園地内	2000 5 8 ～5 16	217㎡	発掘	表門復元。表門立替の状況を確認。	秋田市教育委員会 2001『久保田城跡 表門復元に伴う発掘調査報告書』
5 藩校明徳館跡	秋田市中通一丁目4内	2000 6 5 ～11 10	2200㎡	発掘	市街地再開発事業。建物7棟、柱列、溝、井戸などを抽出。	秋田市教育委員会 2002『藩校明徳館跡 市街地再開発事業に伴う発掘調査報告書』
6 久保田城跡	秋田市千秋明徳町	2002 5 12 ～7 12	528㎡	試掘	秋田中央道路建設。旧中土橋や堀遺岸を抽出。	秋田県教育委員会 2003『遺跡詳細分布調査報告書』
7 藩校明徳館跡	秋田市中通一丁目	2002 12 10 ～12 12	30㎡	試掘	秋田中央道路建設。溝・ピットを確認。	秋田県教育委員会 2003『遺跡詳細分布調査報告書』
8 久保田城跡	秋田市千秋明徳町20番 21 20番 14	2002 11 18 ～11 19	57 5㎡	試掘	学校建設。沢状の旧地形態および内堀を確認。	秋田市教育委員会 2003『秋田市内遺跡確認調査報告書』
9 久保田城跡	秋田市千秋明徳町20番地 外	2003 5 26 ～7 7	722㎡	発掘	秋田中央道路建設。旧中土橋や穴門の堀遺岸を抽出。	秋田県教育委員会 2006『久保田城跡・藩校明徳館跡』
10 藩校明徳館跡	秋田市中通 丁目4番地 外	2003 7 8 ～8 1	200㎡	発掘	秋田中央道路建設。1世紀前半遺構の武家屋敷。	秋田県教育委員会 2006『久保田城跡・藩校明徳館跡』
11 久保田城跡	秋田市千秋明徳町	2004 8 23 ～9 7		踏査・試掘	秋田中央警察署庁舎建設。武家屋敷に伴う遺構・遺物を確認。	秋田県教育委員会 2005『遺跡詳細分布調査報告書』
12 久保田城跡	秋田市千秋明徳町	2004 10 27 ～11 25	225㎡	試掘	秋田中央警察署庁舎建設。武家屋敷に伴う遺構・遺物を確認。	秋田県教育委員会 2005『遺跡詳細分布調査報告書』
13 古川堀反町遺跡	秋田市千秋明徳町 9	2005 3 15 ～7 26	1690㎡	発掘	秋田中央警察署庁舎建設。旧旭川右岸の湿地部埋立の状況と武家屋敷を確認。	秋田県教育委員会 2008『古川堀反町遺跡』
14 久保田城跡	秋田市千秋久保田町 38 37	2005 5 18	20㎡	試掘	ホテル建設。外堀内。遺構・遺物の確認なし。	秋田市教育委員会 2006『平成17年度秋田市遺跡確認調査報告書』
15 久保田城跡	秋田市千秋明徳町20番 11 18	2005 5 25 ～5 26	34 8㎡	試掘	事務所建設。湿地の埋立。武家屋敷に伴う遺構・遺物を確認。	秋田市教育委員会 2006『平成17年度秋田市遺跡確認調査報告書』
16 久保田城跡	秋田市千秋公園1番 8号	2005 7 11 ～7 12	17 8㎡	試掘	店舗建設。近世の整地層、遺構・遺物を確認。	秋田市教育委員会 2006『平成17年度秋田市遺跡確認調査報告書』
17 久保田城跡	秋田市千秋久保田町地内	2005 11 15 ～11 16	69 6㎡	試掘	土地区画整理。外堀の東西両岸を確認。	秋田市教育委員会 2006『平成17年度秋田市遺跡確認調査報告書』
18 久保田城跡	秋田市千秋明徳町、大町二丁目	2006 1 25 ～2 22		試掘	秋田中央道路整備。近代の護岸を確認。	秋田県教育委員会 2006『遺跡詳細分布調査報告書』
19 久保田城跡	秋田市千秋久保田町 92 他	2006 11 20	20㎡	試掘	マンション建設。外堀内。立上りは未抽出。	秋田市教育委員会 2006『平成18年度秋田市遺跡確認調査報告書』
20 久保田城跡	秋田市千秋久保田町地内	2006 12 22 ～2007 1 12	45 8㎡	試掘	土地区画整理。外堀の西側立上りを確認。	秋田市教育委員会 2006『平成18年度秋田市遺跡確認調査報告書』
21 久保田城跡	秋田市千秋明徳町20番 10	2007 6 26 ～6 28	195 3㎡	試掘	高等学校体育館新築。三の丸跡。礎石、柱穴、土坑、ピット、整地層を確認。	秋田市教育委員会 2008『平成19年度秋田市遺跡確認調査報告書』
22 久保田城跡	秋田市千秋久保田町地内	2007 8 4 ～11 15	360㎡	発掘	秋田駅西北地区土地区画整理。三の丸を取囲む外堀や護岸用の杭を抽出。	秋田市教育委員会 2008『久保田城跡 秋田駅西北地区土地区画整理事業都市計画道路千秋久保田町線に伴う三の丸跡発掘調査報告書』
23 久保田城跡	秋田市千秋公園地内	2007 11 2 ～12 10	150㎡	発掘	千秋公園再整備計画黒門再建。新旧 2時期の黒門の礎石を抽出。	秋田市教育委員会 2009『久保田城跡 千秋公園再整備計画黒門再建に伴う発掘調査報告書』

第3表 久保田城跡および周辺の既往調査一覧(2)

遺跡名	所在地	調査期間	面積	状況	調査原因・概要	文献
24 久保田城跡	秋田市千秋北の丸 藩 209地内	2008 5 23	98㎡	試掘	宗教法人会館新築。削平を 受け遺構確認なし。	秋田市教育委員会 2009 ² 平成 20年度秋田市遺跡確認調 査報告書。
25 久保田城跡	秋田市千秋公園地 内	2008 10 14 ～ 12 12	80㎡	発掘	千秋公園再整備計画黒門再 建。黒門前の内堀に架かる 唐倉構構脚の掘方を検出。	秋田市教育委員会 2009 ² 久 保田城跡 千秋公園再整備 計画黒門再建に伴う発掘調 査報告書。
26 藩校明德館跡	秋田市中通一丁目 地内	2011 3 10 ～ 3 11	35 5㎡	試掘	市街地再開発事業。遺構の 確認なし。	秋田市教育委員会 2012 ² 平成 2年度秋田市遺跡確認調 査報告書。
27 久保田城跡	秋田市千秋城下町 外	2011 3 14 ～ 3 18	50㎡	試掘	主要地方道秋田岩見前同線 建設。外堀内。立上りは未 検出。	秋田県教育委員会 2012 ² 遺 跡詳細分布調査報告書。
28 久保田城跡	秋田市千秋公園地 内	2012 12 27	2 7㎡	試掘	千秋公園整備事業。遺構・ 遺物の確認なし。	秋田市教育委員会 2013 ² 平成 2年度秋田市遺跡確認調 査報告書。
29 久保田城跡	秋田市千秋公園地 内	2014 7 22	8 6㎡	試掘	千秋公園市民交流ゾーン整 備。遺構の確認なし。	秋田市教育委員会 2015 ² 平成 20年度秋田市遺跡確認調 査報告書。
30 久保田城跡	秋田市千秋公園地 内	2014 11 19	8 4㎡	試掘	千秋公園さくら景観整備。 遺構の確認なし。	秋田市教育委員会 2015 ² 平成 20年度秋田市遺跡確認調 査報告書。
31 久保田城跡	秋田市千秋明德町 204 外	2016 2		試掘	県・市連携文化施設整備。 県保護室試掘。	秋田県教育委員会 2018 ² 遺 跡詳細分布調査報告書。
32	秋田市千秋城下町 地内	2016 11 7	26 4㎡	試掘	秋田駅西北地区土地区画整 理。濠地の状況を確認。	秋田市教育委員会 2017 ² 平成 28年度秋田市遺跡確認調 査報告書。
33 久保田城跡	秋田市千秋矢置町 番 22	2017 11 13 ～ 11 20	230㎡	試掘	県市連携文化施設整備事業 に伴う掘運施設移転。内堀 跡を確認。	秋田市教育委員会 2018 ² 平成 29年度秋田市遺跡確認調 査報告書。
34 久保田城跡	秋田市千秋明德町 204 外	2017 11 13 ～ 11 16	16 1㎡	試掘	県・市連携文化施設整備。 土塁・土坑・柱穴を確認。	秋田県教育委員会 2018 ² 遺 跡詳細分布調査報告書。
35 久保田城跡	秋田市千秋明德町 204 外	2018 2 5 ～ 2 8	1 1㎡	試掘	県・市連携文化施設整備。 近世整地層・土坑	秋田県教育委員会 2019 ² 遺 跡詳細分布調査報告書。
36 久保田城跡	秋田市千秋矢置町 地内	2018 6 18 ～ 11 14	1272㎡	発掘	秋田和洋女子高等学校校舎 建設。西曲輪郭東側堀跡を 検出。	秋田市教育委員会 2019 ² 久 保田城跡 秋田和洋女子高 等学校校舎建設事業に伴う 発掘調査報告書。
37	秋田市千秋城下町 地内 外	2018 9 12 ～ 9 13	19 4㎡	試掘	秋田駅東第三地区および秋 田駅西北地区土地区画整 理。濠地の状況を確認。	秋田市教育委員会 2019 ² 平成 30年度秋田市遺跡確認調 査報告書。
38 久保田城跡	秋田市千秋公園地 内	2019 7 17	2㎡	試掘	内堀水質浄化整備。内堀 内。近代以降の堆積土。	秋田市教育委員会 2020 ² 令 和元年度秋田市遺跡確認調 査報告書。
39 久保田城跡	秋田市千秋公園地 内 本丸	2020 1 15 ～ 1 16	30㎡	試掘	千秋公園さくら景観整備。 御殿繋遺構および整地層 を確認。	秋田市教育委員会 2020 ² 令 和元年度秋田市遺跡確認調 査報告書。
40 久保田城跡	秋田市千秋北の丸 地内	2020 4 28	2㎡	試掘	集合住宅建設。二期の整地 層を検出。	秋田市教育委員会 2021 ² 令 和元年度秋田市遺跡確認調 査報告書。
41 久保田城跡	秋田市千秋公園地 内	2020 6 2	3㎡	試掘	千秋公園整備事業。二の丸 整地層を確認。	秋田市教育委員会 2021 ² 令 和元年度秋田市遺跡確認調 査報告書。
42 久保田城跡	秋田市千秋公園地 内	2020 11 4 ～ 11 5	1 1㎡	試掘	佐竹史料館改築。二の丸整 地層を確認。	秋田市教育委員会 2021 ² 令 和元年度秋田市遺跡確認調 査報告書。
43 久保田城跡	秋田市千秋明德町 地内	2020 9 2 ～ 12 11		試掘	県・市連携文化施設整備事 業。近世整地層・土坑等を 確認。	秋田県教育委員会 2021 ² 遺 跡詳細分布調査報告書。
44 久保田城跡	秋田市千秋公園地 内	2020 9 17 ～ 10 30	69㎡	発掘	千秋公園整備事業。二の丸 境目方役所等の区画施設と 三期の整地層を検出。	秋田市教育委員会 2021 ² 久 保田城跡 千秋公園整備事 業 大坂等詰管設備工事 発掘調査報告書。
45 久保田城跡	秋田市千秋久保田 町 番 173・ 174・ 175・ 47	2021 7 8 ～ 7 9	58㎡	試掘	マンション建設。土塁を確認。 。	秋田市教育委員会 2022 ² 令 和元年度秋田市遺跡確認調 査報告書。
46 久保田城跡	秋田市千秋久保田 町 番 173・ 174・ 175・ 47	2021 9 22 ～ 11 29	312㎡	発掘	マンション建設。土塁及び 基礎層の状況を確認。	秋田市教育委員会 2022 ² 久 保田城跡。千秋久保田町 マンション建設工事に伴う 発掘調査報告書。

第4表 久保田城跡および周辺の既往調査一覧(3)

遺跡名	所在地	調査期間	面積	状況	調査原因・概要	文献
47 久保田城跡	秋田市千秋北の丸地内	2021 12 13		試掘	ピットを確認。	秋田県教育委員会 2022『遺跡詳細分布調査報告書』
48 久保田城跡	秋田市千秋公園地内	2021 12 13 ～12 14	28㎡	試掘	千秋公園さくら原観整備事業。御殿関連遺構および整地層を確認。	秋田市教育委員会 2022『令和 5年度秋田市遺跡確認調査報告書』
49 久保田城跡	秋田市千秋公園 1 4	2022 5 25 ～2023 7 24	1644㎡	発掘	佐竹史料館改築。二の丸東南部の勘定所・境目方役所の範囲を調査。期の整地層と礎石建物跡・掘立柱建物跡・土塁等を検出。	本書
50 久保田城跡	秋田市千秋公園地内	2023 9 22	8㎡	試掘	千秋公園給水設備更新。遺構および整地層を確認。	秋田市教育委員会 2024『令和 5年度秋田市遺跡確認調査報告書』



第5図 二の丸南東部変遷模式図(秋田市教育委員会 1992に加筆)

第5表 久保田城二の丸関連文献史料（秋田市教育委員会 1992より作成）

和暦	西暦	内容	出典
慶長8年	1604年	久保田城完成。二の丸造替か。 梅津政康、「安楽寺」内の費用場に勤務。	『秋田沿革史大成』(上) 『梅津政康日記』
寛永16年	1639年	二の丸に「時鐘」を設置する。	『国典類抄軍部(全)』前編軍部一
寛永17年	1640年	大風により「時鐘」が壊れ、修理する。	『国典類抄軍部(全)』前編軍部一
寛永18年	1641年	佐竹義隆、二の丸「安楽寺」の前に舞台を作り、猿楽を興行する。	『佐竹家譜(中)』「義隆」
寛文初年頃	1661～1662年	絵図に「安楽寺」記載。	寛文初年 1661 1662 『御城下古絵図』
寛文10年	1670年	二の丸御小座、御門、長屋の柱立を祝う。御門の棟上げを行う。	『羽陰史略(前編)』
寛文11年	1671年	佐竹義裕、二の丸御扇より本丸に移る。	『羽陰史略(前編)』
寛文11年	1671年	佐竹義和、二の丸御小屋に入る。	『羽陰史略(前編)』
宝永4年	1707年	「勘定所」を二の丸に設置。	『国典類抄軍部(全)』前編軍部一
宝永6年	1709年	「時鐘堂」の建替えを実施する。	『国典類抄軍部(全)』前編軍部一
正徳元年	1711年	佐竹義裕、二の丸馬場に夏町場を見る。	『佐竹家譜(中)』「義裕」
寛保2年	1742年	絵図に「安楽院」、「勘定所」記載。	寛保2年 1742 『御城下絵図』
宝暦9年	1759年	絵図に「安楽院」、「勘定所」記載。「境目方役所」はなし。	宝暦9年 1759 『御城下絵図』
安永8年	1779年	二の丸には寺2箇所、厩1箇所、その他諸役所がある、と記載。 二の丸には門8箇所、寺2箇所、役所3箇所、金蔵・厩・櫓3箇所あり、建坪184坪である、と記載。	『国典類抄軍部(全)』後編軍部一 『国典類抄軍部(全)』後編軍部一
文化11年	1816年	二の丸御扇の普請が完成する。	『八丁夜話』「第三」
文政8年	1825年	佐竹義厚、二の丸にて日市を観る。二の丸にて踊りを観る。	『佐竹家譜(下)』「義厚」
天保11年	1842年	二の丸厩が焼失。土蔵・板倉も被害を被る。	『佐竹家譜(下)』「義厚」
	1843年～1900年	「境目方役所」の設置？	
嘉永7年	1854年	「安楽院」、「勘定所」、「境目方役所」焼失。	『伊頭憲茶話』「十の巻」御勘定所出火
慶応2年	1866年	二の丸の「時鐘」が破れて錆なます。	『伊頭憲茶話』「二の巻」御城の時鐘
明治元年	1868年	絵図に「勘定所」、「境目方役所」記載。「安楽院」はない。	『秋田城郭市内全図』
明治11年	1884年	測量図に「勘定所」、「境目方役所」記載。「安楽院」はない。	『明治十七年陸軍省所轄地秋田城郭全図』
明治31年	1899年	秋田県立図書館の設置。	

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

佐竹史料館改築事業による建物基礎や地中梁等の影響範囲を調査対象地とし調査区を設定した。当初1413㎡を対象としたが、建物の設計変更等に伴い大きく2度変更を行い、最終的には1644㎡の調査区となった。調査開始時には既存建物が存在していたために、建物を挟んで南北に調査区を設定し、南側をA区、北側をB区とし既存建物部分をC区と呼称した。調査はA・B区を令和4年度、C区を既設建物解体後の令和5年度に実施した。発掘調査による発生土はA区のすべておよびB区の一部については場外搬出し、それ以外は場内仮置きとし、いずれも調査後に発生土を用いて戻灰しを行っている。

調査対象地内に秋田市街区多角点等を用いたトラス測量により世界測地系平面直角座標第10系に基づく2点の新設基準点を設置した。標高値はTPを用いた。各基準点は下記のとおりである。

4 14 1(X 30835 358 Y 60728 719 Z 22 312m)

4 15 1(X 30869 991 Y 60763 327 Z 22 154m)

なお、調査対象地内には既に基準点が設置されていたため、これらについても点検測量の上基準点として使用している。

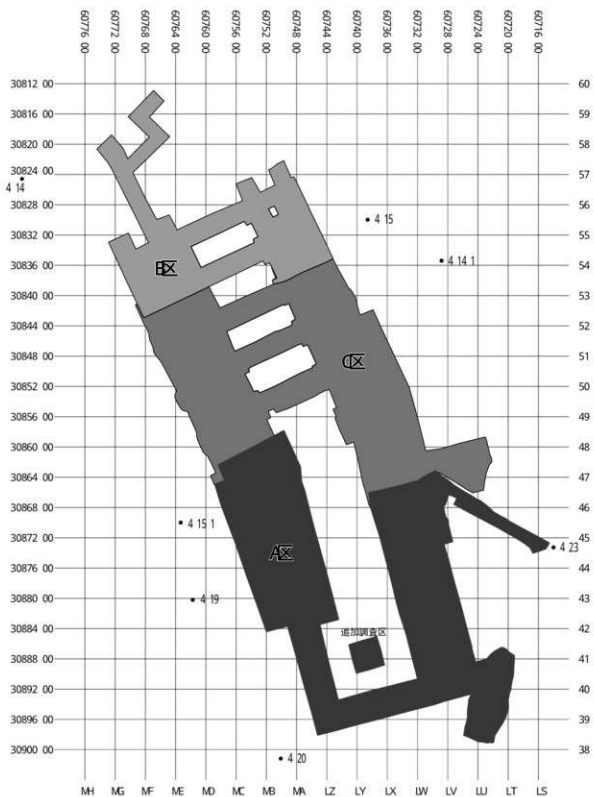
グリッドの設定に当たっては座標北方向をグリッドの南北軸とし、これに直行する東西軸を設定した。グリッド南北軸に算用数字(…48 49 50…)、グリッド東西軸に2文字のアルファベット(…MC MB MA…)を付し、各グリッドの南東隅の交点で両者を組み合わせてグリッド名とした。調査区のほぼ中心部の座標値がX 30852 000 Y 60748 000であることから、この地点をグリッドMS0とし、東西南北ともに4m単位のグリッドとした。各グリッドの東西軸および南北軸の座標値は、第6表のとおりとなる。

調査と並行して、調査対象地東辺部の土塁状の高まりについては現況地形測量を行い10mの等高線図を作成した。

第6表 各グリッドの方向軸の世界測地系座標

南北軸	Y座標	東西軸	X座標
LS	60716 000	38	30900 000
LT	60720 000	39	30896 000
LJ	60724 000	40	30892 000
LV	60728 000	41	30888 000
LW	60732 000	42	30884 000
LX	60736 000	43	30880 000
LY	60740 000	44	30876 000
LZ	60744 000	45	30872 000
MA	60748 000	46	30868 000
MB	60752 000	47	30864 000
MC	60756 000	48	30860 000
MD	60760 000	49	30856 000
ME	60764 000	50	30852 000
MF	60768 000	51	30848 000
MG	60772 000	52	30844 000
MH	60776 000	53	30840 000
		54	30836 000
		55	30832 000
		56	30828 000
		57	30824 000
		58	30820 000
		59	30816 000
		60	30812 000

成した。表土および近代の整地層および大型の攪乱については、層を確認しながらバックホーを利用し除去し、途中より作業員による手掘りに切り替え掘り下げた。第1遺構面から第2遺構面の中間層についてはミニバックホーを利用して除去し、作業員により精査を行った。遺物は、表土除去時、中間層掘削時にはグリッド名・層位名等を記録したグリッド上げを基本として取り上げた。個別の遺構については遺構名・層位名等を記録し取り上げを行い、重要な遺物については平面位置の記録を合わせて行った。遺構名称については遺構種別毎の4桁数字の連番で1桁目が遺構検出面を表している。平面図・土層断面図は、原則1/200の縮尺で作成した。平面図はトータルステーションによるCGP板測量で作成し、出土状況等は写真測量により作成した。遺構写真は、35mm版モノクロフィルムおよびデジタル

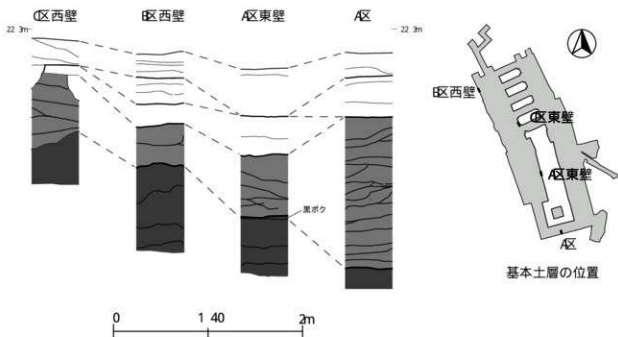


第6図 調査区とグリッド配置図

眼レフカメラでRAW形式およびJPEG形式で記録した。遺物は調査終了時で、55 34 15cmのコンテナで約65箱である。遺物は洗浄・注記・接合・復元作業を行い、分類作業を経て実測する遺物の抽出を行った。遺物実測図は1 1で作成した。遺物写真はデジタル一眼レフカメラを使用、Tiff形式で記録した。

第2節 層序

調査区の層序については調査区がA・B・Cの3地区に分割したこと、調査区が計画建物形状に沿って複雑な形状を呈したことから全体を通しての断面図の作成が出来なかった。各調査区の最終段階において、地山面の確認を目的としてトレンチを設定し断割を行い断面記録の作成を行った。この断面記録を用いて柱状図を作成し第7図に示した。調査区で確認された土層は大別層で分類したが、一部で細別層に分類している。ただし、細別層による分類は調査区全体を通じて整合を取ることはできなかったため、異地点間において同一数字の細別層が同じものを指すわけではない。調査区内は全体として削平を受けており、第1遺構面検出面である層の遺存状況は悪く、B区およびC区の一部で確認されたに過ぎない。調査区で確認された土層の大別と概要を要約すると下記のとおりである。

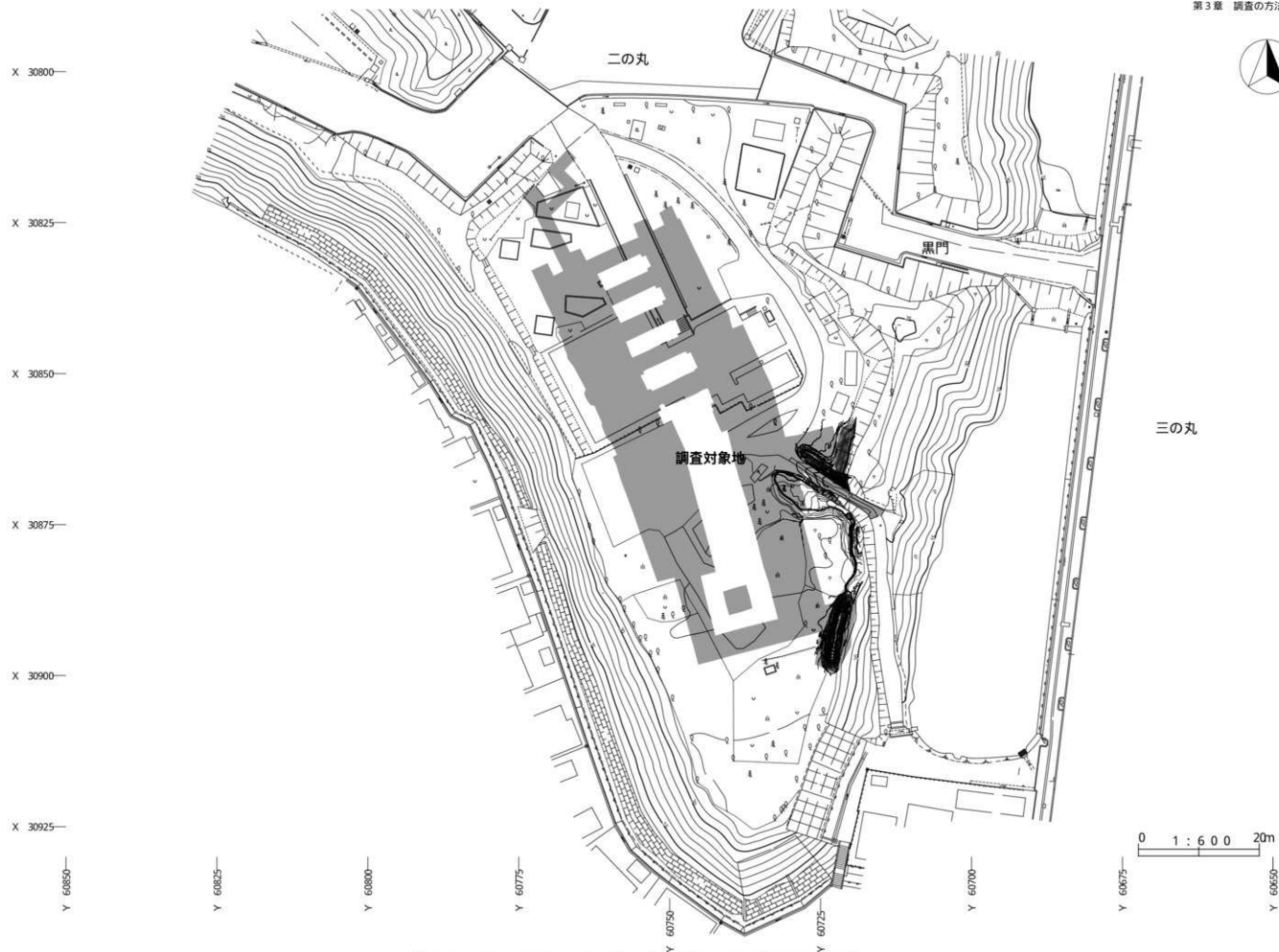


第7図 基本土層柱状図と基本土層の位置

第 層（現表土層・造成土）：現状の地表面である。部位により造成が行われており一様ではない。本来の表土層は概ね黒褐色粘質土である。

第 層（近代）：近代における整地層である。近世～近代にかけての遺物が含まれる。整地の状況は一様ではないが、調査区北側のB区においては整地層であるにふい黄褐色粘土層の下部に厚さ5cm程の石炭ガラ層を含んでいる。

第 層（近世整地層・堆積層）：黒褐色粘質土を標準とする。調査区全体に安定的に存在するのではなく、削平によりA区およびB区の一部で確認される。炭化物粒子を含むのが特徴である。部分的に複数層に細分される。1世紀～18世紀の遺物を含む。一部では黄褐色粘土を含む整地層となる。第 層上面を第1遺構面



第8図 調査地の周辺地形 秋田市立佐竹史料館周辺の地形測量図を一部改編

と称する。

第層（近世整地層）：にぶい黄橙色～明赤褐色粘土・黒褐色粘土のブロックを主体的に含む。地山ローム層や段丘礫層下の粘土層由来である。遺物は含まず、築城期の整地層である。旧地形の傾斜に合わせて南に向かい厚くなる傾向にあり調査区南端では概ね3m程の厚さとなる。第層を除去した第層上面を第2遺構面と称する。

第層（地山ローム層・砂礫層）：地山層を総称する。最上面には黒褐色粘質土が部分的に存在し、次に黄褐色粘土のローム層、最下層は段丘礫層で拳大以上の砂礫が主体。断割トレンチにより確認した旧地形の状況は北西から南東に向かい傾斜し河岸段丘の段丘崖であったと考えられる。調査対象地北端の標高値は22m、南端の標高値は19.9m、その比高は2.1mである。

第3節 遺構（第9～8図）

検出された遺構は、第1遺構面（層上面）においては溝24条、井戸3基、土坑540基、ピット185基、礎石根固2基、その他遺構15基。第2遺構面（層上面）においては溝2条、土坑138基、ピット26基、礎石根固8基、その他遺構2基である。また、堀4基、建物3棟、石敷遺構1箇所、土塁2基、防空壕1箇所が確認されている。既に触れたように、第1遺構面の検出面である第層は削平が著しく部分的にしか確認されなかったため、第1遺構面検出遺構の中には本来は第2遺構面に帰属するものが一定量含まれていると思われる。遺構の個々の記述に当たっては、遺構数が多いことから網羅することはできないため、実測遺物の抽出された遺構を中心に、特徴的な遺構について行っている。調査地の周辺地形を第8図、調査区全体図を第9・64図、調査区分割図を第10～20図、第65～75図に示した。

（1）第1遺構面検出遺構

堀（SA）

100号堀跡（SA1001（第2図））

A区のL43・LV42・LV43・LV44・LW43グリッドにおいて検出された。1008～1017号礎石跡、1046号ピットで構成される。いずれも根固を伴うので礎石建の堀である。SP1012・1044は控柱である。軸はN35°Wに偏する。堀部は柱間4間で心々間で5.45m、柱間が1.8m、堀と控柱は心々間で2.7mであり堀部の柱間の1/5弱となる。南東端の1006号礎石跡は土塁1の裾部に近接して存在しており、土塁部よりの遮蔽施設として機能している。また、1017号礎石跡は100号礎石建物跡の北辺ラインと一致する。遺構の配置関係から100号遺構、100号礎石建物跡との関連が伺われる。以下、個々の礎石跡について記述する。

1008号礎石跡（SS1008）

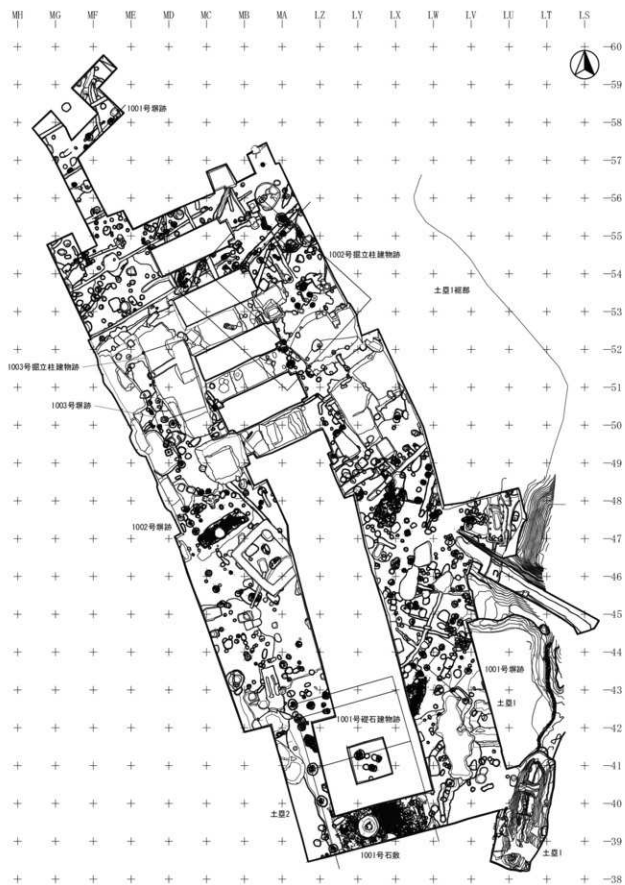
堀跡北端の礎石である。径0.58m、深さ0.14mを測る。掘方平面は円形で断面形状は箱型である。底面は平坦である。根固は掘方中央の径0.33mの範囲に1～8cmの垂円礫が密に入れられている。123号土坑より新しい。遺物は出土していない。

1009号礎石跡（SS1009）

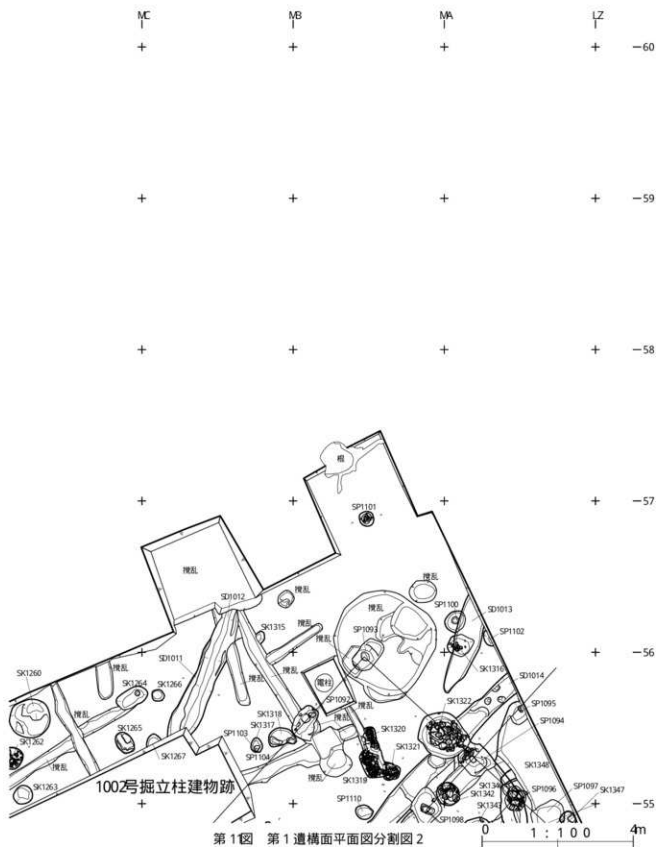
堀跡北西端の礎石である。長軸0.53m、短軸0.49m、深さ0.1mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状は逆台形である。底面は平坦である。根固は掘方中央のやや南西よりの径0.19mの範囲に1～6cmの垂円礫が密に入れられている。120号土坑より新しい。遺物は出土していない。

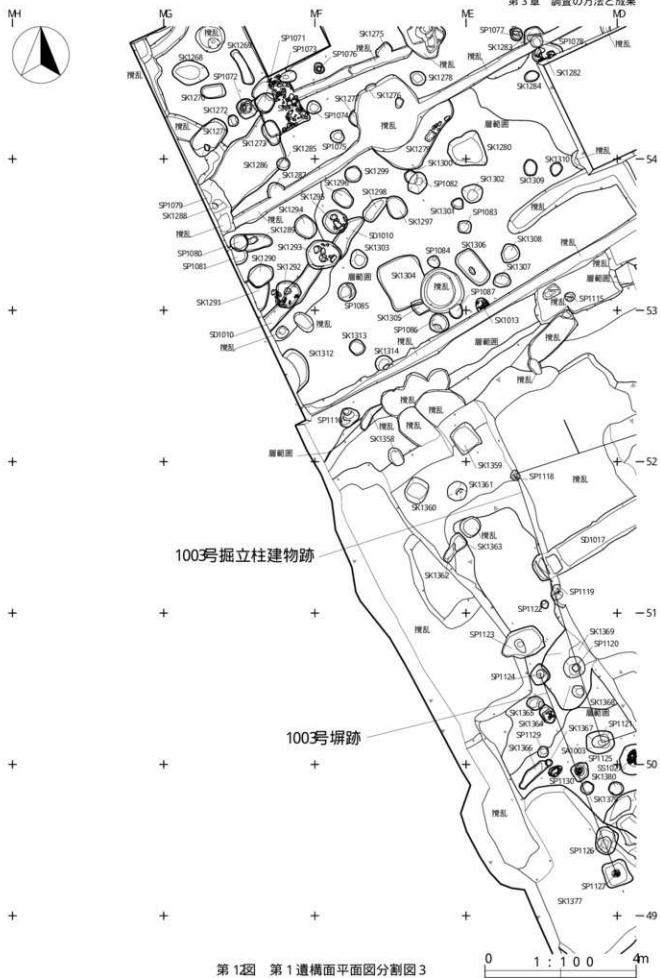
1010号礎石跡（SS1010）

堀跡北端の礎石である。長軸0.5m、短軸0.41m、深さ0.12mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状は

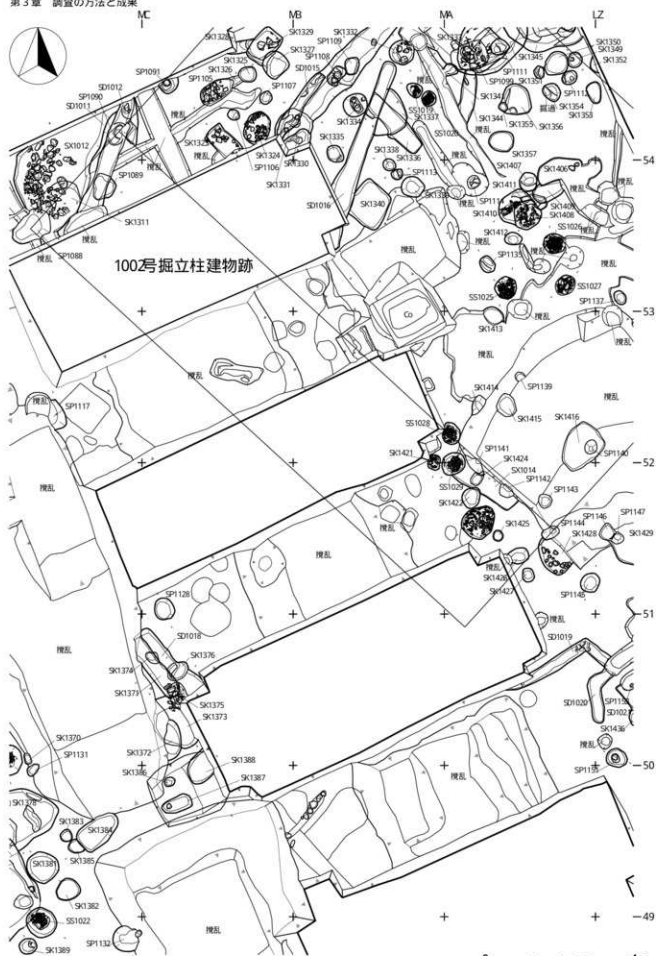


第9図 第1遺構面平面図全体図





第1図 第1遺構面平面図分割図3



第13図 第1遺構面平面図分割図4

LY LX LW

LV

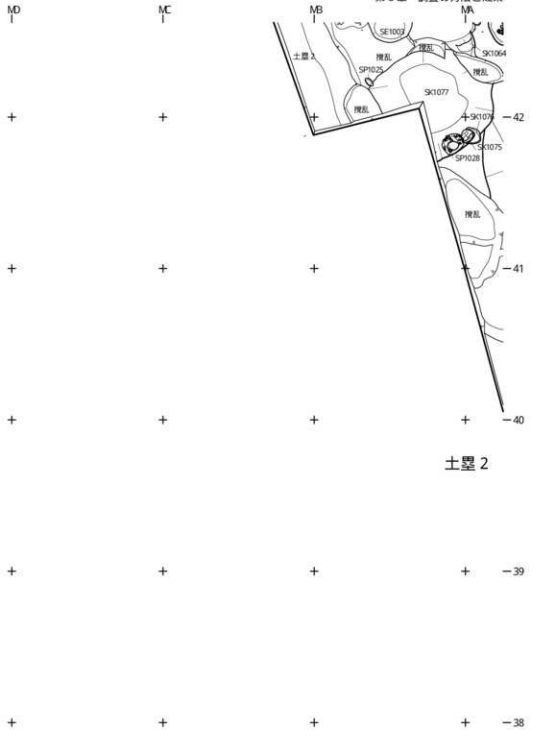


土塁 裾部



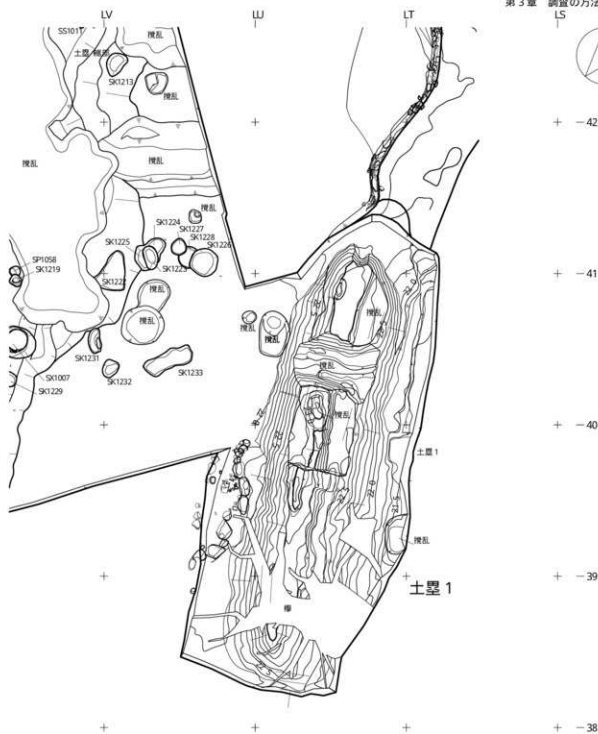
第14図 第1遺構面平面図分割図5

0 1 : 100 4m

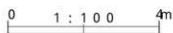


第18図 第1遺構面平面図分割図9

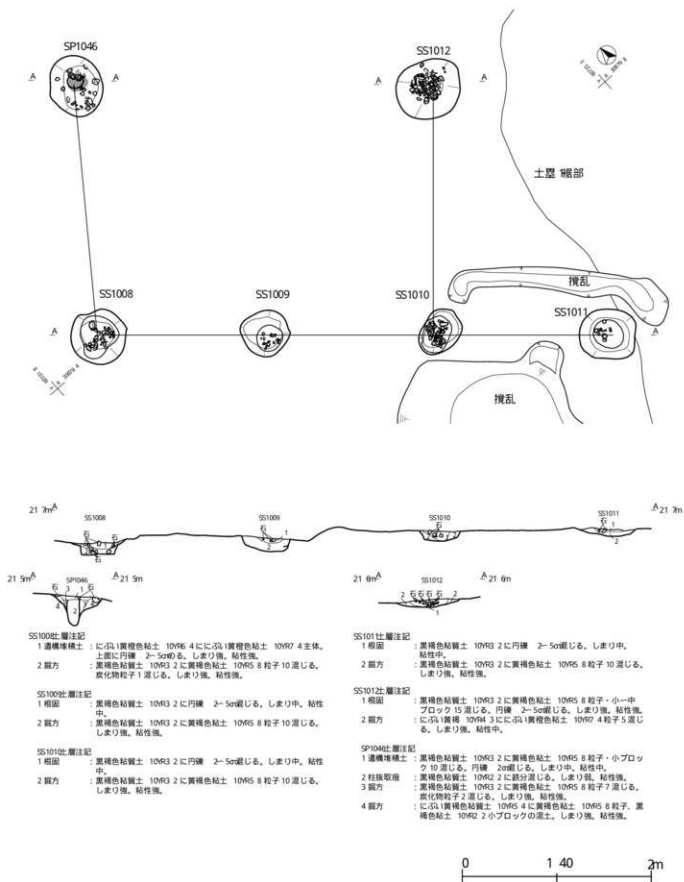




第20図 第1遺構面平面図分割図11



100号堀跡



第2図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(堀跡1)

逆台形である。底面は平坦である。根固は掘方中央の径0.29mの範囲に1~9cmの垂円礫が密に入れられている。重複はない。遺物は出土していない。

101号礎石跡 (SS101)

塀跡南東端の礎石である。長軸0.59m、短軸0.52m、深さ0.12mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状は皿状である。底面はやや凹凸がある。根固は削平により一部失われるが、径0.15mの範囲に1~6cmの垂円礫が入れられている。重複はない。遺物は出土していない。

101号礎石跡 (SS1012)

控柱の礎石である。長軸0.68m、短軸0.61m、深さ0.08mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状は皿状である。根固は掘方中央の径0.29mの範囲に1~6cmの垂円礫が密に入れられている。重複はない。遺物は出土していない。

104号ピット (SP1046)

控柱のピットである。長軸0.65m、短軸0.59m、深さ0.26mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状は凸字状である。根固は掘方中央の径0.9mの範囲に2~12cmの垂円礫が入れられている。根固を除去したところ柱痕跡(2層)が確認された。このことから当初は掘立柱構造であったものが礎石建に改修されたことが伺われる。142号土坑より新しい。遺物は出土していない。

100号塀跡 (SA1002(第2図))

A・B区のMB46・MC46・MC4グリッドにおいて検出された。1013~1015号礎石跡で構成される。いずれも根固を伴うので礎石建である。軸はN49°Wに偏する。塀部は柱間2間で心々間で1.96m、柱間が1013号礎石跡と1014号礎石跡で1.05m、1014号礎石跡と1015号礎石跡で0.91mである。柱間が2間であるが、他に伸びる様子もないことから塀と判断した。土塁2に並行して存在している。以下、個々の礎石跡について記述する。

1013号礎石跡 (SS1013)

塀跡北西端の礎石である。長軸0.97m、短軸0.79m、深さ0.07mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状は皿状である。根固は径1~10cmの垂円礫が密に入れられている。139号土坑より新しい。遺物は出土していない。

1014号礎石跡 (SS1014)

塀跡北西端の礎石である。長軸0.77m、短軸0.71m、深さ0.14mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状は皿状である。根固は掘方中央の径0.4mの範囲に1~8cmの垂円礫が密に入れられている。重複はない。遺物は出土していない。

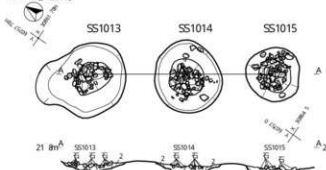
1015号礎石跡 (SS1015)

塀跡北西端の礎石である。長軸0.57m、短軸0.56m、深さ0.2mを測る。掘方平面は円形で断面形状は逆台形である。底面は平坦である。根固は掘方中央のやや南西よりの径0.19mの範囲に1~9cmの垂円礫が密に入れられている。重複はない。遺物は出土していない。

100号塀跡 (SA1003(第2図))

C区のMC49・MD49・MD50グリッドにおいて検出された。1124~1127号ピットで構成される。軸はN21°Wに偏する。いずれも掘立柱である。柱間3間で心々間で5.64m、柱間が1124号ピットと1125号ピット間で2.77m、1125号ピットと1126号ピット間で2.05m、1126号ピットと1127号ピット間で0.82mである。以下、個々のピットについて記述する。

100号堀跡

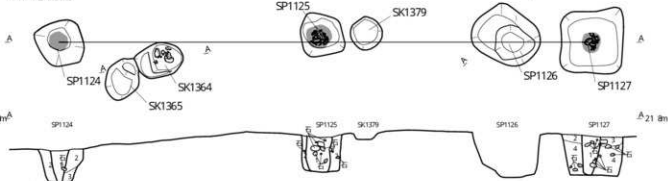


SS1013土層注記
 1 遺構堆積土：黄褐色粘土 10V65 8主体とする。円礫 2~70φのせる。しまり強。粘性強。
 2 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10V63 3に円礫 3~50φ混じる。炭化物粒子 5混じる。しまり強。粘性中。

SS1014土層注記
 1 遺構堆積土：にぶい黄褐色粘質土 10V64 3に黄褐色粘土 10V65 8粒子混じる。円礫 2~100φ混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性強。
 2 掘方：暗褐色粘質土 10V63 3に円礫 3~50φ混じる。炭化物粒子 5混じる。しまり強。粘性中。 遺跡位置

SS1015土層注記
 1 遺構堆積土：にぶい黄褐色粘質土 10V64 3に黄褐色粘土 10V65 8粒子混じる。円礫 2~100φ混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性強。
 2 掘方：暗褐色粘質土 10V63 3に円礫 3~50φ混じる。炭化物粒子 5混じる。しまり強。粘性中。

100号堀跡



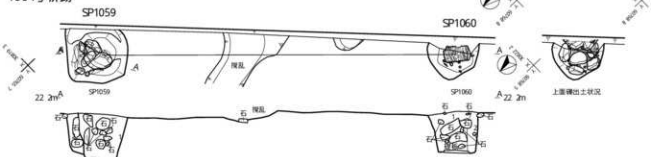
SP1124土層注記
 1 柱礎：にぶい黄褐色粘質土 10V64 3ににぶい黄褐色粘土 10V67 2粒子・小一中ブロック7混じる。しまり中。粘性中。
 2 掘方：にぶい黄褐色粘土 10V64 3ににぶい黄褐色粘土 10V67 2粒子・小一中ブロック25。にぶい黄褐色粘土 10V67 4粒子・小一中ブロック25。明赤褐色粘土 5V65 8粒子・小一中ブロック25混じる。しまり強。粘性強。
 3 遺構堆積土：にぶい黄褐色粘土 10V65 3ににぶい黄褐色粘土 10V67 2粒子・小一中ブロック30。にぶい黄褐色粘土 10V67 4粒子・小一中ブロック30混じる。しまり強。粘性強。

SP1125土層注記
 1 柱礎：暗褐色粘質土 10V63 4に黄褐色粘土 10V65 8粒子・小一中ブロック30混じる。円礫 3~50φ混じる。しまり中。粘性中。
 2 掘方：にぶい黄褐色粘土 10V65 4ににぶい黄褐色粘土 10V67 2粒子・小一中ブロック。にぶい黄褐色粘土 10V67 4粒子・小一中ブロックの混土。炭化物粒子 3混じる。しまり強。粘性強。

SP1126土層注記
 1 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10V63 3ににぶい黄褐色粘土 10V67 4粒子・小ブロック10。にぶい黄褐色粘土 10V67 2粒子・小一中ブロック10混じる。炭化物粒子 5混じる。しまり中。粘性中。
 2 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10V62 2に黄褐色粘土 10V65 8粒子5。にぶい黄褐色粘土 10V67 4粒子 5混じる。炭化物粒子 5混じる。しまり中。粘性中。
 3 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10V63 4に黄褐色粘土 10V65 8粒子・小一中ブロック7混じる。炭化物粒子 3混じる。しまり中。粘性中。

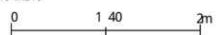
SP1127土層注記
 1 柱礎：にぶい黄褐色粘質土 10V64 3ににぶい黄褐色粘土 10V67 2粒子・小ブロック5混じる。炭化物粒子 2混じる。しまり中。粘性中。
 2 掘方：にぶい黄褐色粘質土 10V64 3ににぶい黄褐色粘土 10V67 2粒子・小ブロック3混じる。炭化物粒子・炭土粒子 2混じる。しまり強。粘性中。
 3 掘方：暗褐色粘質土 10V63 4ににぶい黄褐色粘土 10V67 2粒子・小一中ブロック3混じる。円礫 100φ混じる。炭化物粒子・炭土粒子 3混じる。しまり強。粘性中。
 4 掘方：暗褐色粘質土 10V63 3ににぶい黄褐色粘土 10V67 2粒子・小ブロック15混じる。円礫 5~100φ混じる。しまり強。粘性中。

100号堀跡



SP1059土層注記
 1 柱基礎取：黄褐色粘質土 10V63 1に黄褐色粘土 10V65 8粒子・小ブロック10混じる。円礫 10~150φ混じる。しまり中。粘性中。
 2 掘方：暗褐色粘質土 10V63 2に黄褐色粘土 10V65 8粒子 5混じる。円礫 10~150φ混じる。しまり中。粘性中。

SP1060土層注記
 1 柱基礎取：黄褐色粘質土 10V63 2に円礫 5~20φ混じる。炭化物粒子 2混じる。上面に鉄分沈着。しまり中。粘性中。
 2 掘方：黄褐色粘質土 10V64 2ににぶい黄褐色粘土 10V67 4粒子 10混じる。炭化物粒子 2混じる。しまり中。粘性中。



第2図 第1遺構面検出遺構面・断面図(堀跡2)

1124号ピット (SP1124)

一辺0.47m、深さ0.34mを測る。掘方平面は隅丸方形で断面形状は逆台形である。底面は平坦である。堆積は3層に細分され、1層が柱痕、2〜3層が掘方埋土である。柱痕は掘方中央やや東寄りに確認される。1369号土坑より新しい。遺物は磁器片が出土しているが、図示するものはない。

1125号ピット (SP1125)

長辺0.47m、短辺0.44m、深さ0.38mを測る。掘方平面は隅丸長方形で断面形状は箱型である。底面は平坦である。堆積は2層に細分され、1層が柱痕、2層が掘方埋土である。柱痕は掘方中央に確認される。重複はない。遺物は出土していない。

1126号ピット (SP1126)

長辺0.7m、短辺0.57m、深さ0.47mを測る。掘方平面は隅丸長方形で断面形状は箱型である。底面は中央部が1段下がる。堆積は3層に細分され、いずれも自然堆積状況であるが2層が抜き取られた柱の痕跡をとどめている可能性がある。137号土坑より新しい。遺物は陶器片、燻瓦、鉄釘が出土しているが、このうち平瓦(燻瓦)を図示した(第88図2)。

1127号ピット (SP1127)

一辺0.65m、深さ0.44mを測る。掘方平面は隅丸方形で断面形状は箱型である。底面は平坦である。堆積は4層に細分され、1層が柱痕、2〜4層が掘方埋土である。掘方内には径1〜8cmの亜円礫が入る。1369号土坑より新しい。遺物は磁器、かわらけ、鉄釘が出土しているが、図示するものはない。

100号塀跡 (SA 1004 (第2図))

C区のME57・ME58グリッドにおいて検出された。1059・1060号ピットで構成される。軸はN44°に偏し、100号掘立柱建物と同軸である。いずれも掘立柱である。検出されたピット2基のみであるため、調査区外に広がる掘立柱建物の可能性も考えられる。柱間2間で心々間で3.78mである。以下、個々のピットについて記述する。

1059号ピット (SP1059)

長辺0.64m、短辺0.57m以上、深さ0.45mを測る。掘方平面は隅丸長方形で断面形状は箱型である。底面は中央部が1段下がる。堆積は2層に細分され、1層は柱抜取痕、2層は掘方埋土である。南側は調査区外である。柱抜取痕内には5〜17mの亜円礫が詰め込まれていた。遺物は陶磁器、瓦質土器、銅銭が出土しているが、このうち陶器土瓶、瓦質土器火鉢、銅銭を図示した(第88図3〜5)。

1060号ピット (SP1060)

長辺0.53m、短辺0.41m以上、深さ0.37mを測る。掘方平面は隅丸長方形で断面形状は箱型である。底面は平坦である。堆積は2層に細分され、1層は柱抜取痕、2層は掘方埋土である。南側は調査区外である。柱抜取痕内には2〜18mの亜円礫が詰め込まれていた。底面には縦22.7cm 横17.7cm 厚さ2.9cmの礎板が設置されていた。礎板はクリ製である。遺物は磁器片、かわらけ、礎板が出土しているが、このうち礎板を図示した(第88図6)。

建物跡 (SB)

100号礎石建物跡 (SA 1001 (第2図))

A区の南側で検出された建物である。1001〜1007号礎石跡で構成される。1007号礎石跡は追加調査区内において検出された。検出されたのは想定される建物の西辺および北辺の一部で他は調査区外である。西辺は

1002～1006号礎石跡、北辺は1001・1002号礎石跡、建物内部の100号礎石跡である。いずれも根固を伴うので礎石建である。軸はN16°Wに偏する南北棟の建物である。西辺は柱間4間以上で、検出された心々間で15.78m、柱間が北側から100号・100号礎石間で1.56m、1003号・1004号礎石間で5.53m、1004号・1005号礎石間で3.51m、1005号・1006号礎石間で5.18mをそれぞれ測る。北辺は柱間2間以上で、検出された柱間は心々間で3.64mを測る。なお、100号礎石跡は建物中央部に位置すると思われることから、西辺は10.64mに復元される。この場合100号礎石は入口部を示すものと思われる。100号礎石南東側の建物内において凝灰岩製の不明石造物が出土している（第8図7）。建物に付属する可能性もある。

建物内部南側には100号石敷が所在しており、建物に付属するものと思われる。また、建物外部ではあるが100号遺構（礎）・100号遺構（池状敷石）・100号堀跡も建物に付随する遺構と考えられる。建物は東辺の土塁1、西辺の土塁2に挟まれた幅19m程の狭い範囲に建てられており、建物西辺は土塁2に近接している。以下、個々の礎石について記述する。

100号礎石跡（SS1001）

掘方は長軸0.84m、短軸0.76m以上、深さ0.13mを測る。平面は楕円形で断面形状は逆台形である。根固石はほぼ掘方の範囲に2～21cmの亜円礫が密に入れられている。重複はない。北側は攪乱により一部消失する。遺物は根固や掘方に混じって陶磁器、鉄釘、不明鉄製品が出土するが、このうち陶器鉢を图示した（第8図8）。

100号礎石跡（SS1002）

掘方は長軸0.84m、短軸0.76m以上、深さ0.13mを測る。平面は楕円形で断面形状は皿状である。根固石は掘方中央部の径0.55mの範囲に2～21cmの亜円礫が密に入れられている。重複はない。遺物は根固や掘方に混じって陶磁器、かわらけが出土するが、图示するものはない。

100号礎石跡（SS1003）

掘方は長軸0.92m、短軸0.83m以上、深さ0.09mを測る。平面は楕円形で断面形状は皿状である。根固石は掘方中央部の径0.65mの範囲に2～27cmの亜円礫が密に入れられている。106号土坑より新しく、107号土坑より古い。遺物は根固や掘方に混じって磁器、燻瓦が出土するが、图示するものはない。

100号礎石跡（SS1004）

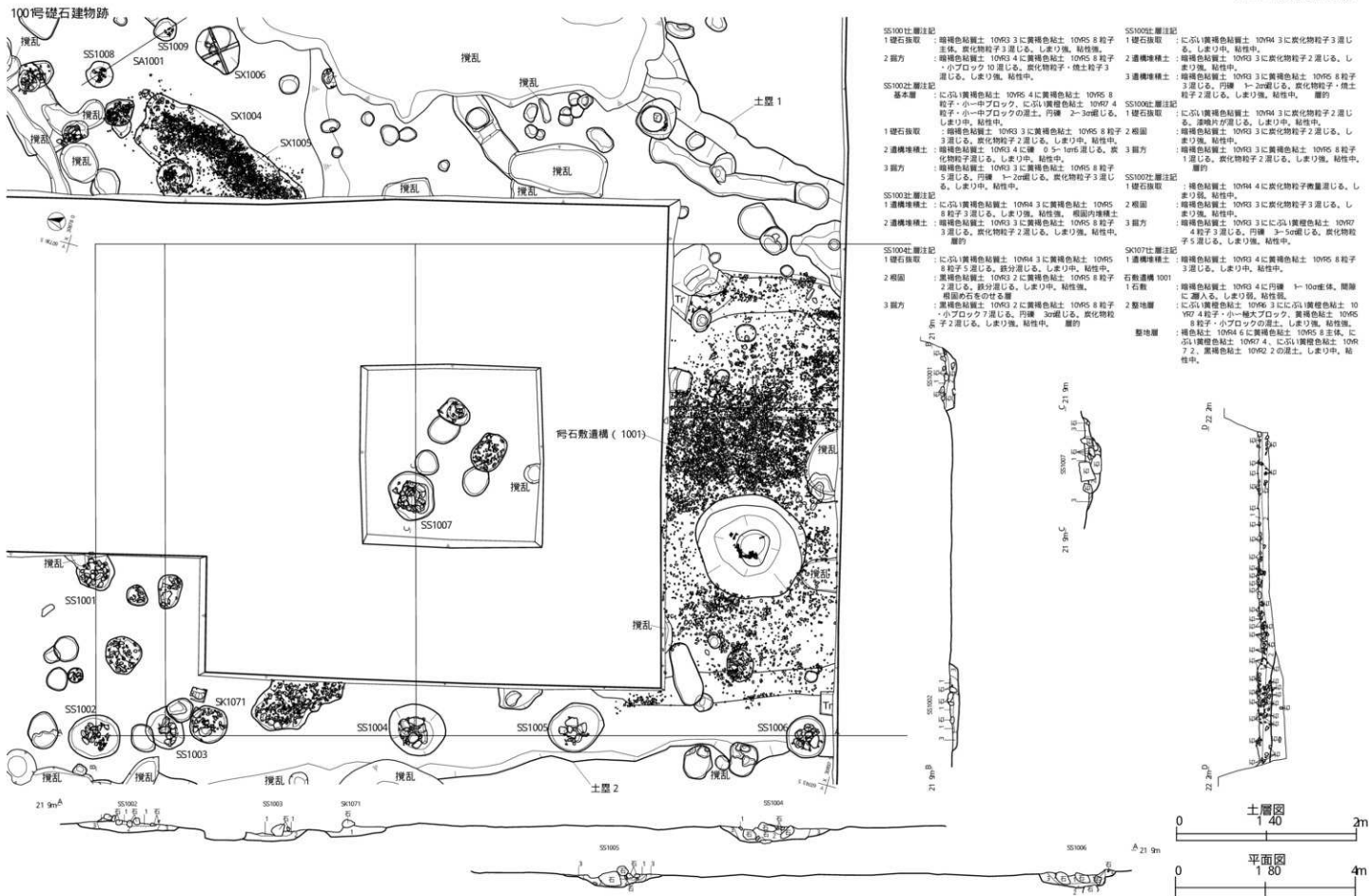
掘方は長軸1.25m、短軸1.13m、深さ0.23mを測る。平面は楕円形で断面形状は逆台形である。根固石は掘方中央部の径0.74mの範囲に3～35cmの亜円礫が密に入れられている。重複はない。遺物は根固や掘方に混じって陶磁器片が出土するが、图示するものはない。

100号礎石跡（SS1005）

掘方は長軸1.27m、短軸1.09m、深さ0.11mを測る。平面は楕円形で断面形状は皿状である。根固石は掘方中央部の径0.61mの範囲に2～27cmの亜円礫が密に入れられている。重複はない。土塁2の裾部に近接する。遺物は根固に混じって陶器片が出土するが、图示するものはない。

100号礎石跡（SS1006）

掘方は長軸0.93m、短軸0.86m、深さ0.19mを測る。平面は楕円形で断面形状は逆台形である。根固石は掘方中央部の径0.62mの範囲に3～29cmの亜円礫が密に入れられている。重複はない。掘方は土塁2裾部と僅かに重複する。遺物は出土しない。



- SS100土層注記
1 壁石採取 : 珪質色粘質土 10K63 に黄褐色粘土 10K95 8 粒子混在。炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
2 掘方 : 珪質色粘質土 10K63 4 に黄褐色粘土 10K95 8 粒子・小アブロック 9 混じる。炭化物粒子・焼土粒子 3 混じる。しまり強。粘性中。
- SS102土層注記
基本層 : 珪質色粘質土 10K96 4 に黄褐色粘土 10K95 8 粒子・小アブロック・珪質色粘土 10K97 4 粒子・小アブロックの混在。円礫 2-3cm 混じる。しまり中。粘性中。
1 壁石採取 : 珪質色粘質土 10K63 3 に黄褐色粘土 10K95 8 粒子 3 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
2 遺構堆積土 : 珪質色粘質土 10K63 4 に珪質色粘土 10K95 8 粒子 3 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
3 掘方 : 珪質色粘質土 10K63 3 に黄褐色粘土 10K95 8 粒子 5 混じる。円礫 1-2cm 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
- SS103土層注記
1 遺構堆積土 : 珪質色粘質土 10K64 3 に黄褐色粘土 10K95 8 粒子 3 混じる。しまり強。粘性中。掘削面堆積土。珪質色粘質土 10K63 3 に黄褐色粘土 10K95 8 粒子 3 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり強。粘性中。
2 遺構堆積土 : 珪質色粘質土 10K63 3 に黄褐色粘土 10K95 8 粒子 3 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり強。粘性中。
3 掘方 : 珪質色粘質土 10K63 3 に黄褐色粘土 10K95 8 粒子 3 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり強。粘性中。
- SS104土層注記
1 壁石採取 : 珪質色粘質土 10K63 3 に黄褐色粘土 10K95 8 粒子 5 混じる。珪質色粘土 10K97 4 粒子・小アブロックの混在。円礫 2-3cm 混じる。しまり中。粘性中。
2 遺構堆積土 : 珪質色粘質土 10K63 3 に黄褐色粘土 10K95 8 粒子 3 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり強。粘性中。
3 掘方 : 珪質色粘質土 10K63 3 に黄褐色粘土 10K95 8 粒子 3 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり強。粘性中。
- SS105土層注記
1 壁石採取 : 珪質色粘質土 10K64 3 に黄褐色粘土 10K95 8 粒子 5 混じる。珪質色粘土 10K97 4 粒子・小アブロックの混在。円礫 2-3cm 混じる。しまり中。粘性中。
2 掘方 : 珪質色粘質土 10K63 3 に黄褐色粘土 10K95 8 粒子 3 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり強。粘性中。
3 掘方 : 珪質色粘質土 10K63 3 に黄褐色粘土 10K95 8 粒子 3 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり強。粘性中。
- SS106土層注記
1 壁石採取 : 珪質色粘質土 10K64 3 に黄褐色粘土 10K95 8 粒子 5 混じる。珪質色粘土 10K97 4 粒子・小アブロックの混在。円礫 2-3cm 混じる。しまり中。粘性中。
2 掘方 : 珪質色粘質土 10K63 3 に黄褐色粘土 10K95 8 粒子 3 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり強。粘性中。
3 掘方 : 珪質色粘質土 10K63 3 に黄褐色粘土 10K95 8 粒子 3 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり強。粘性中。
- SS107土層注記
1 遺構堆積土 : 珪質色粘質土 10K64 4 に炭化物粒子微量混じる。しまり強。粘性中。
2 掘方 : 珪質色粘質土 10K63 3 に炭化物粒子 3 混じる。しまり強。粘性中。
3 掘方 : 珪質色粘質土 10K63 3 に珪質色粘土 10K95 8 粒子 3 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり強。粘性中。
- SK107土層注記
1 遺構堆積土 : 珪質色粘質土 10K63 4 に黄褐色粘土 10K95 8 粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
2 掘方 : 珪質色粘質土 10K63 4 に円礫 1-10cm 混在。間隙に埋入。しまり強。粘性中。
3 掘方 : 珪質色粘質土 10K63 3 に珪質色粘土 10K95 8 粒子・小アブロックの混在。珪質色粘土 10K97 4 粒子・小アブロックの混在。炭化物粒子 2 混じる。しまり強。粘性中。
- 石敷遺構 1001
1 石敷 : 珪質色粘質土 10K63 3 に珪質色粘土 10K95 8 粒子 5 混じる。珪質色粘土 10K97 4 粒子・小アブロックの混在。円礫 2-3cm 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり強。粘性中。
2 掘方 : 珪質色粘質土 10K63 3 に珪質色粘土 10K95 8 粒子 3 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり強。粘性中。
- 土層図
0 2m
平面図
0 4m

第2図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(建物1)

100号掘立柱建物跡



第2図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(建物2)

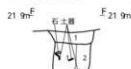
114号ビット



SP114土層注記

- 1 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10YR3 4 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 15、に近い黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小一中ブロック 15 混じる。しまり強、粘性中。
- 2 遺構堆積土：褐色粘質土 10YR4 4 に近い黄褐色粘土 10YR7 2 20、黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小一中ブロック 20 混じる。しまり強、粘性中。
- 3 遺構堆積土：に近い黄褐色粘質土 10YR4 3 に近い黄褐色粘土 10YR7 2 15、に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 15 混じる。しまり強、粘性中。

109号ビット・101号溝



SP101土層注記

- 1 遺構堆積土：に近い黄褐色粘質土 10YR4 3 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 20 混じる。円礫 2cm 混じる。しまり中、粘性強。

SP109土層注記

- 1 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10YR3 3 に炭化物粒子 3 混じる。しまり中、粘性中。
- 2 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10YR3 2 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 10 混じる。しまり中、粘性中。

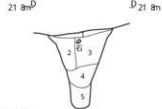
109号ビット



SP109土層注記

- 1 柱礎：黄褐色粘質土 10YR3 2 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 5 混じる。円礫 5-7mm 混じる。しまり中、粘性強。
- 2 竈方：黄褐色粘土 10YR3 2 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小一中大ブロック 30、に近い黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小ブロック 30、黄褐色粘土 10YR2 2 粒子・小ブロック 30 混じる。しまり中、粘性強。
- 3 竈方：黄褐色粘土 10YR3 3 に黄褐色粘土 10YR5 8、黄褐色粘土 10YR2 2 の互層。あまり中、粘性強。

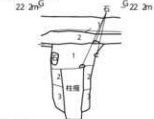
114号ビット



SP114土層注記

- 1 遺構堆積土：に近い黄褐色粘質土 10YR4 3 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 5 混じる。円礫 3cm 混じる。しまり中、粘性中。
- 2 遺構堆積土：に近い黄褐色粘質土 10YR4 3 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 10 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり強、粘性中。
- 3 遺構堆積土：褐色粘質土 10YR4 4 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小一中ブロック 15 混じる。明赤褐色粘土 5YR5 8 粒子・小ブロック 3 混じる。円礫 5cm 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり強、粘性中。
- 4 遺構堆積土：灰黄褐色粘質土 10YR4 2 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 7 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり強、粘性中。
- 5 遺構堆積土：黄褐色粘土 10YR3 3 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 5 混じる。鉄分混じり。グライ化する。しまり中、粘性中。

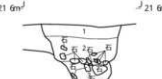
109号ビット



SP109土層注記

- 表土層：黄褐色粘質土 10YR2 3。しまり強、粘性中。
- 1 整地層：に近い黄褐色粘土 10YR5 3。しまり強、粘性強。
- 2 炭ガラク：黄褐色土 10YR2 2、石炭ガラク。しまり強、粘性強。
- 整地層：黄褐色粘質土 10YR3 3 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 10 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり強、粘性中。
- 1 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10YR3 3 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 7 混じる。円礫 3-30mm 混じる。しまり中、粘性中。
- 2 遺構堆積土：に近い黄褐色粘土 10YR5 3 に近い黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小ブロック 20 混じる。しまり強、粘性強。
- 3 遺構堆積土：に近い黄褐色粘土 10YR4 3 に近い黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小ブロック 10 混じる。しまり強、粘性強。

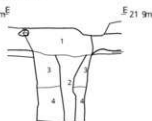
109号ビット



SP109土層注記

- 1 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10YR3 2 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 5 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中、粘性中。
- 2 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10YR3 2 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 5 混じる。円礫 5cm 混じる。炭化物粒子 3 混じる。焼土粒子 1 混じる。しまり中、粘性中。
- 3 遺構堆積土：に近い黄褐色粘土 10YR5 6 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小大ブロック 50 混じる。しまり強、粘性強。

108号ビット



SP108土層注記

- 表土層：黄褐色粘質土 10YR2 3。しまり強、粘性中。
- 整地層：黄褐色粘質土 10YR3 3 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 5 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中、粘性中。
- 整地層：褐色粘土 10YR4 4 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小ブロック 30% 混じる。しまり強、粘性強。
- 1 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10YR3 2 に近い黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小ブロック 7 混じる。焼土粒子 1 混じる。しまり中、粘性中。
- 2 柱礎：灰黄褐色粘質土 10YR4 2 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 5 混じる。しまり中、粘性中。
- 3 竈方：黄褐色粘質土 10YR3 4 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小大ブロック 30 混じる。しまり強、粘性強。
- 4 竈方：灰黄褐色粘土 10YR4 2 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 30 混じる。しまり強、粘性強。

109号ビット



SP109土層注記

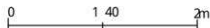
- 1 柱礎：に近い黄褐色粘質土 10YR4 3 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 5 混じる。鉄分混じる。しまり中、粘性中。
- 2 竈方：褐色粘質土 10YR4 4 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 10 混じる。しまり強、粘性強。
- 3 竈方：に近い黄褐色粘質土 10YR4 3 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 15、に近い黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小ブロック 15 混じる。しまり強、粘性強。
- 4 竈方：に近い黄褐色粘質土 10YR5 3 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小一中ブロック 50 混じる。しまり強、粘性強。

109号ビット



SP109土層注記

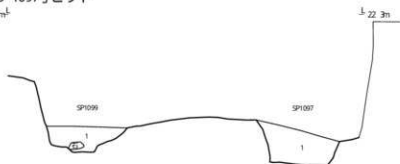
- 1 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10YR3 3 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小大ブロック 20 混じる。しまり中、粘性強。
- 2 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10YR2 2 に円礫 3-5mm 多く混じる。しまり強、粘性中。



第2図 第1遺構面検出遺構断面図(建物3)

1099 109号ビット

22 3m^t



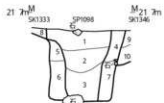
SPI099土層記

1 遺構埋積土 : 黒褐色粘質土 10R3 2 にふい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一中ブロック 15 混じる。円礫 2-3 ϕ 混じる。しまり中。粘性強。

SPI007土層記

1 遺構埋積土 : 灰黄褐色粘質土 10R4 3 にふい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 10 混じる。しまり中。粘性強。

1098号ビット



SPI008土層記

- 1 柱状取掘 : 黒褐色粘質土 10R3 2 にふい黄褐色粘土 10R7 4 粒子 5 混じる。円礫 5-10 ϕ 混じる。炭化物粒子 5 混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性中。
- 2 柱状取掘 : 褐色粘土 10R4 4 にふい黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック 5。にふい黄褐色粘土 10R7 4 粒子 5 混じる。炭化物粒子 2 混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性強。
- 3 柱状取掘 : 灰黄褐色粘土 10R4 2 にふい黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック 7 混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性強。
- 4 竪方 : 黒褐色粘質土 10R3 2 にふい黄褐色粘土 10R7 4 粒子 3 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
- 5 竪方 : 灰黄褐色粘質土 10R4 3 にふい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一中ブロック 50 混じる。しまり強。粘性強。
- 6 竪方 : 灰黄褐色粘質土 10R4 2 にふい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一大ブロック 20 混じる。鉄分混じる。しまり強。粘性中。
- 7 竪方 : 灰黄褐色粘質土 10R5 3 にふい黄褐色粘土 10R7 4 大ブロック 30。にふい黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小一中ブロック 30 混じる。しまり強。粘性強。

SK333土層記

8 遺構埋積土 : 暗褐色粘質土 10R3 3 に褐色粘土 10R5 8 粒子・小ブロック 5 混じる。しまり中。粘性中。

SK334土層記

- 9 遺構埋積土 : 灰黄褐色粘質土 10R4 3 にふい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 10 混じる。しまり中。粘性中。
- 10 遺構埋積土 : 灰黄褐色粘質土 10R5 2 にふい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 40 混じる。しまり強。粘性強。

1095号ビット

21 6mN N21 6m



SPI095土層記

- 1 遺構埋積土 : 灰黄褐色粘質土 10R4 2 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小ブロック 10。にふい黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック 10 混じる。しまり強。粘性強。
- 2 柱礎 : 灰黄褐色粘質土 10R4 3 にふい黄褐色粘土 10R7 2。小ブロック 7 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性強。
- 3 竪方 : 灰黄褐色粘土 10R4 2 にふい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一大ブロック 30。にふい黄褐色粘土 10R7 2。小ブロック 30 混じる。しまり中。粘性強。
- 4 竪方 : 黒褐色粘土 10R3 2 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小ブロック 5 混じる。炭化物粒子 10 混じる。しまり中。粘性強。

111号ビット

21 8mD D21 8m



SPI111土層記

- 1 遺構埋積土 : 黒色粘質土 10R2 1 に円礫 3-10cm 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 遺構埋積土 : 黒褐色粘質土 10R2 2 にふい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 15 混じる。しまり中。粘性中。

1135号ビット

21 9mP P21 9m



SPI135土層記

- 1 柱礎 : 黒褐色粘質土 10R3 2 に円礫 1-2 ϕ 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 竪方 : 褐色粘土 10R4 4 にふい黄褐色粘土 10R7 4 50 混じる。円礫 1-2 ϕ 混じる。しまり強。粘性強。
- 3 竪方 : 灰黄褐色粘質土 10R4 2 にふい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一中ブロック 5 混じる。しまり中。粘性中。

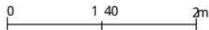
1138号ビット

21 8mQ Q21 8m



SPI138土層記

- 1 柱状取掘 : 黒色粘質土 10R2 1 に円礫 3 ϕ 混じる。炭化物粒子 20 混じる。焼土粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 柱状取掘 : 灰黄褐色粘質土 10R4 2 にふい黄褐色粘土 10R7 4 粒子 10 混じる。円礫 5 ϕ 混じる。炭化物粒子・焼土粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
- 3 柱状取掘 : 暗褐色粘質土 10R3 4 にふい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 7 混じる。しまり中。粘性中。



第26図 第1遺構面検出遺構断面図(建物4)

100号礎石跡 (SS1007)

掘方は長軸1m、短軸0.96m、深さ0.21mを測る。平面は楕円形で断面形状は逆凸字状である。根固石は掘方中央部の径0.69mの範囲に2〜22cmの亜円礫が密に入れられている。重複はない。遺物は根固に混じって陶器掻鉢が出土するが、図示するものはない。

100号石敷

建物南側で確認された石敷遺構で検出幅9.45mを測る。北・南側は調査区外であるが、北側については追加調査区内では確認されないこと、100号礎石付近で礫の分布が確認できなくなることから、北側調査区壁より1m程度延びる範囲と思われる。石敷は黄褐色粘土による整地の後1〜15cmの亜円礫を厚さ5〜7cm程に敷き詰めている。石敷面上より磁器が出土したが、このうち磁器仏飯器を図示した(第88図13)。

100号掘立柱建物跡 (SB1002(第2図))

B・C区の東側で検出された建物である。建物基礎による攪乱や調査区外に延びるため全容が掘みづらいが、南北15.62m、東西13.12m以上の南北棟の掘立柱建物である。軸はN48°Wに偏する。西側に張り出す可能性がある。北辺のピットは西から1088・1090・1091・1092・1093号ピットで109号と109号の間は未調査分が含まれるため、あと1基存在する可能性がある。1088号・1090号ピット間は3.42m、1090号・1091号ピット間は1.85m、1092号・1093号ピット間は2.25mを測る。東辺のピットは北から1093・1094・1096・1097号ピットである。1093号・1094号ピット間は3.94m、1094号・1096号ピット間は1.82m、1096号・1097号ピット間は0.93mを測る。西辺は建物基礎による攪乱の影響で1088号ピット以外は不明である。南辺も同様に建物基礎による攪乱の影響で114号ピット以外は不明である。東辺の建物内に所在する1098・1099号ピットについては建物構造に関係する柱穴と思われる。1094号・1096号間は1.87mを測る。主に検出されたのは側柱ピットであるが、1113・1135・1138・1141・1142号ピットは建物内部の柱穴の可能性が考えられる。1095号ピットは東辺の東側に離れて所在しており建物はさらに東側に広がる可能性がある。1094号・1095号ピット間は1.82mである。100号堀跡は本建物と軸を同じくする。以下、個々のピットについて記述する。

1088号ピット (SP1088)

北西角のピットである。長軸1.13m、短軸0.76m、深さ0.75mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状は箱型である。堆積は4層に細分され、1層が自然堆積、2層が柱痕、3・4層が掘方埋土である。101号土坑より古い。131号土坑との新旧は不明である。遺物は陶磁器が出土するが、図示するものはない。

1090号ピット (SP1090)

北辺列のピットである。長軸0.72m、短軸0.49m、深さ0.64mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状は箱型である。堆積は2層に細分され、いずれも自然堆積状況である。101号ピット・1009号溝より古い。遺物は陶磁器、掻鉢、瓦質土器が出土するが、このうち陶器碗、掻鉢、瓦質土器を図示した(第88図10〜12)。

1091号ピット (SP1091)

北辺列のピットである。長軸0.36m以上、短軸0.56m、深さ0.79mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状はU字状で底面中央は柱当りで段低くなる。堆積は3層に細分され、1層が自然堆積、2・3層が掘方埋土である。北側は調査区外である。遺物は陶器、かわらけが出土するが、図示するものはない。

1092号ピット (SP1092)

北辺列のピットである。長軸0.87m、短軸0.62m、深さ0.5mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状は箱型である。堆積は4層に細分され、1層は柱痕、2〜4層は掘方埋土である。底面には25cm×21cmと17cm×14cmの扁平礫が置かれ、礎石として機能していたものと思われる。重複はない。攪乱により上部が削平さ

れる。遺物は燻瓦が出土するが、図示するものはない。

109号ピット (SP1093)

北東角のピットである。長軸 0.93m、短軸 0.56m、深さ 0.54mを測る。掘方平面は隅丸長方形で断面形状は箱型である。堆積は3層に細分され、1層は柱痕、2・3層は掘方埋土である。重複はない。攪乱により上部削平される。遺物は陶磁器、土風炉、鉄釘が出土するが、図示するものはない。

109号ピット (SP1094)

東辺列のピットである。長軸 0.57m、短軸 0.41m、深さ 0.65mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状は箱型である。堆積は4層に細分され、1層は柱痕、2～4層は掘方埋土である。底面には17cm 15cmと13cm 8cmの扁平礫が重ねて置かれて、礎石として機能していたものと思われる。134号土坑より新しい。遺物は出土しない。

109号ピット (SP1096)

東辺列東側のピットである。長軸 0.67m、短軸 0.57m、深さ 0.55mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状は箱型である。底面中央部は窪む。堆積は2層に細分され、自然堆積である。1層上面には径14～21cmの亜円礫が置かれ、底面から25cmの厚さで径2～16cmの亜円礫が詰められる。134号土坑より新しい。遺物は磁器片が出土するが、図示するものはない。

109号ピット (SP1097)

東辺列のピットである。長辺 0.88m、短辺 0.71m、深さ 0.71mを測る。掘方平面は隅丸長方形で断面形状は箱型である。堆積は1層で、自然堆積である。134号土坑より新しい。遺物は出土しない。

114号ピット (SP1144)

南辺列のピットである。長軸 0.48m、短軸 0.29m、深さ 0.11mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状は逆台形である。堆積は1層で自然堆積である。重複はない。遺物は磁器片が出土するが、図示するものはない。

109号ピット (SP1098)

東辺建物内のピットである。長辺 0.8m、短辺 0.73m、深さ 0.59mを測る。掘方平面は隅丸長方形で断面形状は箱型である。堆積は7層に細分され、1～3層が柱抜取痕、4～7層が掘方埋土である。中央底面には38cm 20cmの楕円形の掘込が認められ、その中には19cm 16cm大の亜角礫が設置されていた。礎石として機能していたものと思われる。134号土坑より新しい。遺物は陶磁器片が出土しているが、図示するものはない。

109号ピット (SP1099)

東辺建物内のピットである。長辺 0.97m、短辺 0.67m、深さ 0.24mを測る。掘方平面は隅丸長方形で断面形状は逆台形である。堆積は1層で自然堆積である。中央底面には48cm 38cmの楕円形の掘込が認められ、その中には30cm 25cm大の亜角礫が設置されていた。礎石として機能していたものと思われる。1043・1346号土坑より新しい。遺物は出土しない。

111号ピット (SP1113)

建物内部のピットである。長軸 0.3m、短軸 0.27m、深さ 0.43mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状はU字形である。堆積は2層に細分され、1層は柱抜取痕の可能性がある。2層は掘方埋土である。1層内には2～7cmの亜円礫が詰められていた。重複はない。遺物は鉄釘が出土するが、図示するものはない。

113号ピット (SP1135)

建物内部のピットである。長軸0.46m、短軸0.36m、深さ0.52mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状は箱型である。底面は東側が1段窪む。堆積は3層に細分され、1層は柱抜取痕、2・3層は掘方埋土である。重複はない。遺物は陶器片が出土するが、図示するものはない。

113号ピット (SP1138)

建物内部のピットである。長辺0.52m、短辺0.49m、深さ0.74mを測る。掘方平面は隅丸長方形で断面形状は箱型である。堆積は3層に細分され、いずれも柱抜取痕と思われる。重複はない。南側は攪乱により一部上部が削平される。遺物は鉄釘が出土するが、図示するものはない。

114号ピット (SP1141)

建物内部のピットである。長軸0.71m、短軸0.32m以上、深さ0.8mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状は逆台形である。堆積は6層に細分され、いずれも自然堆積である。101号遺構より古い。東側は攪乱により削平される。遺物は出土しない。

114号ピット (SP1142)

建物内部のピットである。長軸0.46m、短軸0.3m以上、深さ0.5mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状は箱型である。堆積は3層に細分され、いずれも自然堆積である。101号遺構より古い。攪乱により東側が削平される。遺物は出土しない。

100号掘立柱建物跡 (SA1003(第2図))

C区の北西側で検出された建物である。建物基礎による攪乱や調査区外に延びるため全容が掴みづらいが、南北7.46m、東西4.57mの柱間2間3間の南北棟の掘立柱建物と思われる。軸はN18°VKに偏する。北辺のピットは西から北西角の1118号ピット、北東角の1117号ピットであるが他のピットは全て建物基礎による攪乱で失われる。東辺は北東角の1117号ピット以外は建物基礎による攪乱により失われる。南辺は南東角の112号ピット以外は建物基礎による攪乱により失われる。西辺は本建物中では最も遺存状況が良いが、北側より北西角の1118号ピット、1119・112号ピット、南西角の112号ピットである。1118と1119号ピットの間にはもう1基ピットが存在するものと思われる。1118・1119号ピット間は3.4m、1119・112号ピット間は1.96m、1120・112号ピット間は2.09mを測る。以下、個々のピットについて記述する。

1118号ピット (SP1118)

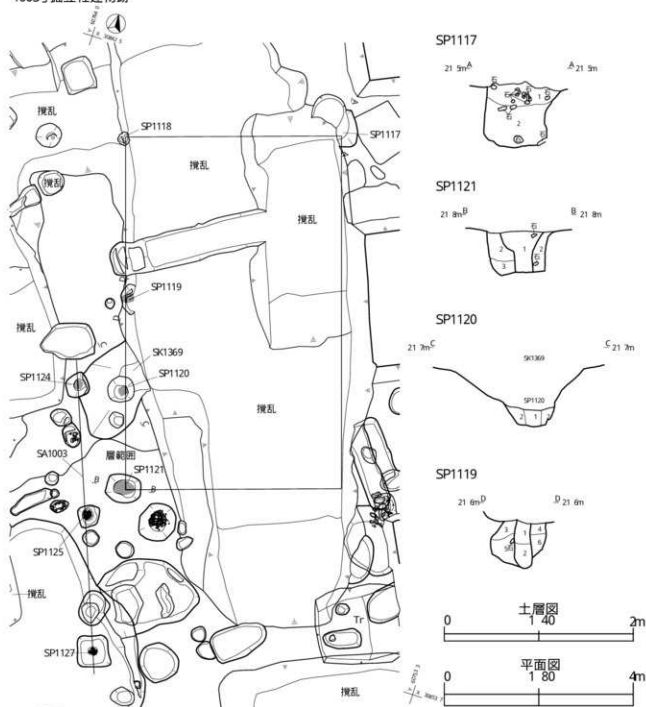
北西角のピットである。長軸0.29m、短軸0.25m以上、深さ0.19mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状は逆凸字状である。堆積は1層で自然堆積である。重複はない。東側は攪乱により削平。遺物は出土しない。

1117号ピット (SP1117)

北東角のピットである。長辺0.78m、短辺0.44m、深さ0.64mを測る。平面は隅丸長方形で断面形状は箱型である。底面は凹凸をもつ。堆積は2層に細分され、人為的埋立の可能性があり、柱抜取痕の可能性がある。径2～5cmの亜円礫が含まれる。遺物は風炉片が出土しているが、図示するものはない。

1119号ピット (SP1119)

西辺列のピットである。長軸0.64m、短軸0.31m以上、深さ0.43mを測る。掘方平面は楕円形で断面形状は逆台形である。堆積は6層に細分され、1・2層が柱痕、3～6層が掘方埋土である。134号土坑より新しい。重複はない。東側は攪乱により削平。遺物は出土していない。



SP1122土層注記

- 1 遺構堆積土：褐色粘質土 10YR5 4 に 5Y1 黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小一中ブロック 15 混じる。円礫 2-5mm 混じる。しまり強。粘性強。
2 遺構堆積土：褐色粘土 10YR5 3 に 5Y1 黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小一中ブロック 20 混じる。しまり強。粘性強。

SP1119土層注記

- 1 柱痕：5Y1 黄褐色粘質土 10YR5 3 に 5Y1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小一中ブロック 25 混じる。しまり中。粘性強。
2 柱痕：褐色粘質土 10YR5 3 に 5Y1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
3 遺構堆積土：5Y1 黄褐色粘質土 10YR5 3 に 5Y1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小一中ブロック 30 混じる。しまり強。粘性強。
4 遺構堆積土：5Y1 黄褐色粘質土 10YR4 3 に 5Y1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小一中ブロック 20 混じる。しまり強。粘性強。
5 遺構堆積土：5Y1 黄褐色粘質土 10YR4 3 に 5Y1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小一中ブロック 25 混じる。しまり強。粘性強。
6 遺構堆積土：褐色粘質土 10YR4 4 に 5Y1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小一中ブロック 30 混じる。しまり強。粘性強。

SP1120土層注記

- 1 柱痕：黄褐色粘質土 10YR4 2 に鉄分混じる。しまり弱。粘性強。
2 竪方：5Y1 黄褐色粘質土 10YR5 3 に 5Y1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小一中ブロック 30 混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性中。

SP1121土層注記

- 1 柱痕取廻り：褐色粘質土 10YR4 4 に 5Y1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小ブロック 15、5Y1 黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 15 混じる。円礫 3-10mm 混じる。しまり中。粘性中。
2 竪方：5Y1 黄褐色粘質土 10YR4 3 に 5Y1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小一中ブロック 20、5Y1 黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小一中ブロック 20 混じる。しまり強。粘性中。
3 竪方：5Y1 黄褐色粘質土 10YR4 3 に 5Y1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小ブロック 10、5Y1 黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 10 混じる。しまり強。粘性中。

第2図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(建物5)

1120号ピット (SP1120)

西辺側のピットである。径0.56m、深さ0.3mを測る。平面は円形で断面形状は逆台形である。堆積は2層に細分され、1層が柱痕、2層が掘方埋土である。柱痕は1辺1.7mの方形である。1369号土坑より新しい。遺物は出土しない。

1121号ピット (SP1121)

南西角のピットである。長軸0.72m、短軸0.59m、深さ0.44mを測る。平面は楕円形で断面形状は箱型である。底面は平坦である。堆積は3層に細分され、1層が柱抜取痕、2・3層が掘方埋土である。重複はない。遺物は出土しない。

溝 (SD)

100号溝跡 (SD1001(第2図))

A区とC区にまたがりM47・M48・M47・M48グリッドにおいて検出された溝状遺構で、検出長6.18m、最大幅0.62mを測り、軸はN45°Wに偏する。断面形状は箱型を呈し底面は平坦である。北側および南側は攪乱により消失しており全容は不明である。ただし、北側の攪乱以北には見せないことから途切れるものと思われる。底面は北端と南端では5cmほどの比高をもつ。堆積は2層に細別されるがいずれも自然堆積である。遺物は1層中より陶器が出土しており、このうち陶器甕 第8図14を图示した。

100号溝跡 (SD1002(第2図))

A区とC区にまたがりM45・M46グリッドにおいて検出された溝状遺構で、検出長3.8m、最大幅0.62m以上を測り、軸はN14°Eに偏する。断面形状は箱型を呈し底面は緩やかに窪む。南側は調査区外、北側は101号遺構により消失している。100号溝跡埋没後に上面に並行して掘削されており、再掘削と思われる。100号溝跡より新しく、114号土坑より古い。堆積は3層に細別されるがいずれも自然堆積である。遺物は多く主に1層中より陶磁器、かわらけ、瓦、獣骨等が出土している。ただし、調査当初、100号溝跡との分別がつかなかったため、この溝の遺物が混じっている可能性がある。このうち磁器皿・碗・蕎麦猪口や陶器鉢、土風炉を图示した 第8図15～35 第9図36・37。

100号溝跡 (SD1003(第2図))

A区とC区にまたがりM45・M46グリッドにおいて検出された溝状遺構で、検出長9.1m、最大幅1.63mを測り、軸はN14°Eに偏する。断面形状は直線的に立ち上がる箱型を呈し底面は平坦である。南側は調査区外、北側は途切れるものと思われる。土塁1の裾部に沿うように掘削されており100号溝跡、114号土坑より古い。底面は北端と南端では5cmほどの比高をもち、南側が低い。堆積は8層に細別されるがいずれも自然堆積である。遺物は主に1～3層中より陶磁器、かわらけ、鉄釘等が出土しており、このうち磁器皿・碗、播鉢、かわらけ、砥石等を图示した 第9図39～58。

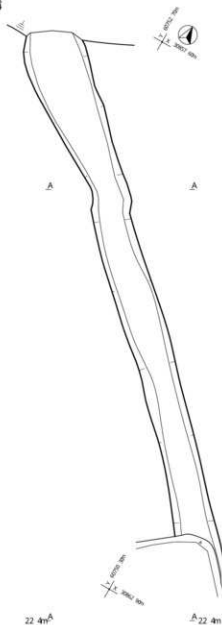
101号溝跡 (SD1010(第12図))

C区のME53・MF52・MF53グリッドにおいて検出された溝状遺構で、検出長3.79m、最大幅0.5m、深さ0.05mを測り、軸はN42°Eに偏する。断面形状は逆台形を呈し、底面は比較的平坦である。南東側は調査外、北西側は途切れる。1292・1293・1295号土坑より古い。堆積土は1層で自然堆積である。遺物は磁器片が出土しており、このうち、磁器碗を图示した 第9図59。

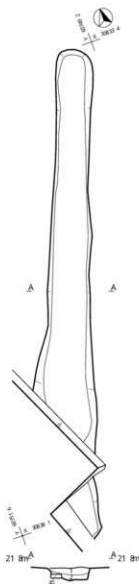
101号溝跡 (SD1012(第30図))

B区のMB55・MB56・MC53・MC54グリッドにおいて検出された溝状遺構で、検出長11.04m、最大幅0.6m、

100号溝



1016号溝



SD1016比層注記

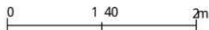
- 1 遺構味積土 : 黒色粘質土 10M2 1 に円礫 5σ混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性中。
 2 遺構味積土 : 黒褐色粘質土 10M2 2 にふい黄褐色粘土 10M7 4 粒子・小ブロック 10 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性強。

基本層土層注記

- 1 表土 : 褐色粘質土 10M4 1 に黄褐色粘土 10M5 8 粒子 3 混じる。円礫 3-5 σ混じる。しまり強。粘性中。
 2 表土 : 黒褐色粘質土 10M3 2 に黄褐色粘土 10M5 8 粒子・小ブロック 5 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり強。粘性中。
 1 整地層 : 灰黄褐色粘土 10M4 2 に黄褐色粘土 10M5 8 粒子・小ブロック 30、にふい黄褐色粘土 10M7 4 粒子・小ブロック 30 混じる。円礫 3-7σ混じる。しまり強。粘性強。
 2 整地層 : にふい黄褐色粘土 10M4 3 に黄褐色粘土 10M5 8 粒子・小ブロック 40、にふい黄褐色粘土 10M7 4 粒子・小ブロック 40 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり強。粘性強。

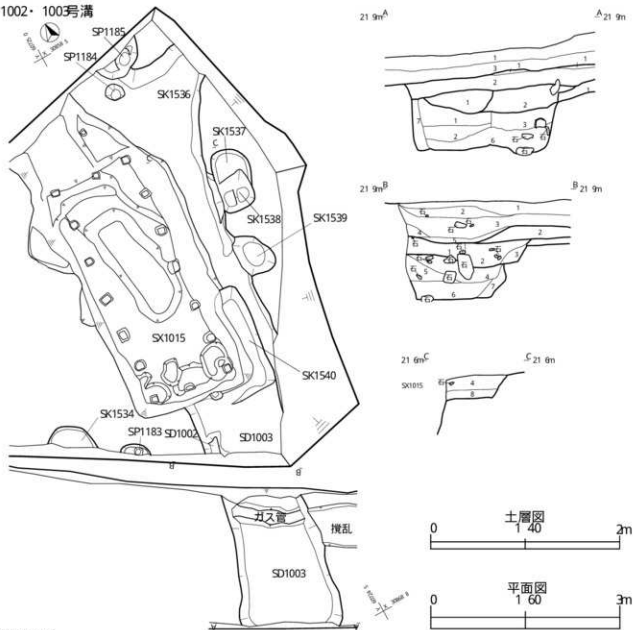
SD100比層注記

- 1 遺構味積土 : 暗褐色粘質土 10M3 4 に黄褐色粘土 10M5 8 粒子 3 混じる。円礫 3-5 σ混じる。しまり中。粘性中。
 2 遺構味積土 : 褐色粘土 10M4 4 に炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
 3 遺構味積土 : 褐色粘質土 10M4 4 に黄褐色粘土 10M5 8 粒子 3 混じる。炭化物粒子・炭土粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。



第28図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(溝1)

1002・1003号溝



基本層土層注記

- 1 表土層 : 灰黄褐色粘質土 10F94 2 に灰黄褐色粘土 10F95 8 粒子・小ブロック 5 混じる。円礫 3~5cm 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 整地層 : 黄褐色粘質土 10F94 4 に灰黄褐色粘土 10F97 4 粒子・小ブロック 20。に灰黄褐色粘土 10F97 2 粒子・小ブロック 20 混じる。しまり強。粘性中。
- 3 表土層 : 黄褐色粘質土 10F92 2 に黄褐色粘土 10F95 8 粒子 3 混じる。円礫 3~5cm 混じる。しまり中。粘性中。
- 4 整地層 : 暗褐色粘質土 10F93 3 に灰黄褐色粘土 10F97 4 粒子 3 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
- 5 整地層 : 黄褐色粘質土 10F92 2 に灰黄褐色粘土 10F97 4 粒子・小ブロック 5 混じる。しまり中。粘性中。
- 6 整地層 : に灰黄褐色粘土 10F95 3 に灰黄褐色粘土 10F97 4 主体。しまり強。粘性強。
- 1 整地層 : 灰黄褐色粘土 10F95 2 に灰黄褐色粘土 10F97 4 粒子・小ブロック 50 混じる。しまり強。粘性強。
- 2 整地層 : 黄褐色粘質土 10F93 2 に灰黄褐色粘土 10F97 4 粒子 3 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
- 3 整地層 : 灰黄褐色粘質土 10F94 2 に黄褐色粘土 10F95 8 粒子 3 混じる。炭化物粒子微量混じる。しまり中。粘性中。
- 4 整地層 : に灰黄褐色粘質土 10F94 3 に炭化物粒子 2 混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性中。
- 1 整地層 : に灰黄褐色粘質土 10F95 3 に黄褐色粘土 10F95 8 粒子主体。に灰黄褐色粘土 10F97 4 粒子・小ブロック 2 混じる。しまり強。粘性強。

SD002土層注記

- 1 遺構埋積土 : 暗褐色粘質土 10F93 3 に灰黄褐色粘土 10F97 4 粒子・小ブロック 3 混じる。円礫 2~3cm 混じる。炭化物粒子 10 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 遺構埋積土 : 黄褐色粘質土 10F93 2 に灰黄褐色粘土 10F97 4 粒子 2 混じる。円礫 3~4cm 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
- 3 遺構埋積土 : に灰黄褐色粘質土 10F94 3 にに灰黄褐色粘土 10F97 4 粒子・小ブロック 30 混じる。しまり中。粘性中。

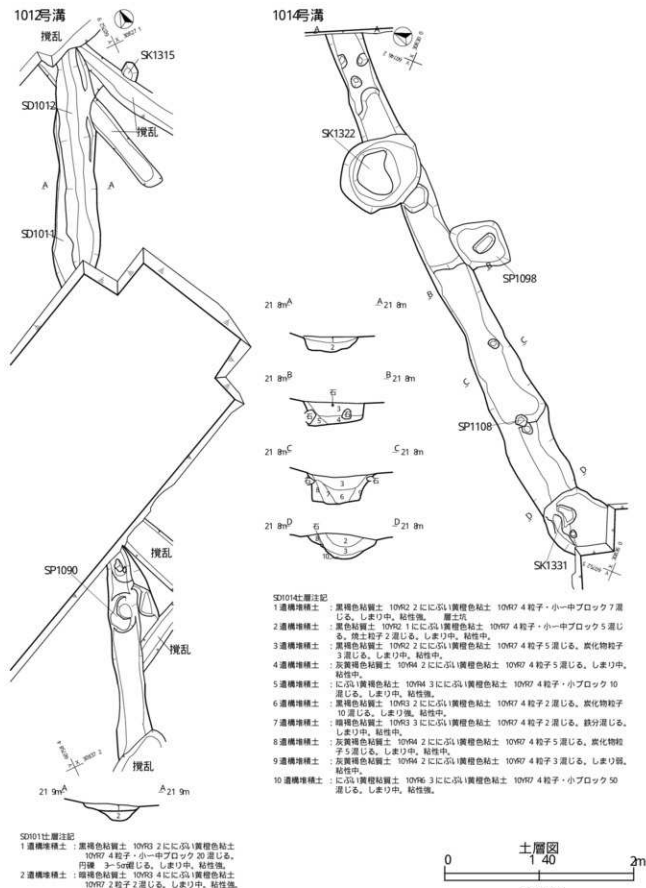
SD100土層注記

- 1 遺構埋積土 : 黄褐色粘質土 10F92 2 に灰黄褐色粘土 10F97 4 粒子 10 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 遺構埋積土 : 灰黄褐色粘質土 10F94 2 に黄褐色粘土 10F95 8 粒子 3 混じる。円礫 1~3cm 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
- 3 遺構埋積土 : 黄褐色粘質土 10F93 1 に灰黄褐色粘土 10F97 4 粒子 2 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
- 4 遺構埋積土 : 灰黄褐色粘質土 10F94 2 にに灰黄褐色粘土 10F97 4 粒子 5 混じる。円礫 10~20cm 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
- 5 遺構埋積土 : 黄褐色粘質土 10F93 2 にに灰黄褐色粘土 10F97 4 粒子・小ブロック 20 混じる。しまり強。粘性中。
- 6 遺構埋積土 : 黄褐色粘質土 10F92 3 にに灰黄褐色粘土 10F97 4 粒子 5 混じる。炭化物粒子 3 混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性中。
- 7 遺構埋積土 : に灰黄褐色粘質土 10F94 3 にに灰黄褐色粘土 10F97 4 粒子・小ブロック 3 混じる。鉄分混じる。しまり強。粘性中。
- 8 遺構埋積土 : 暗褐色粘質土 10F93 4 にに灰黄褐色粘土 10F97 4 粒子 3 混じる。円礫 3~10cm 混じる。しまり中。粘性中。

SK114土層注記

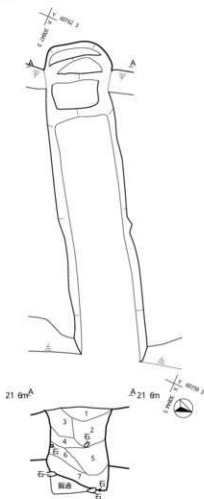
- 1 遺構埋積土 : 灰黄褐色粘質土 10F94 2 に黄褐色粘土 10F95 8 粒子 5 混じる。円礫 3~5cm 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。

第29図 第1遺構面検出遺構面・断面図(溝2)



第30図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(溝3)

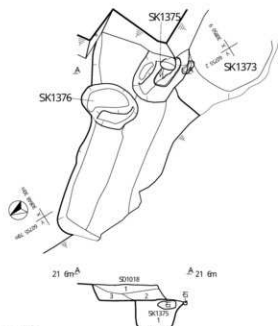
101号溝



SD101a 層注記

- 1 遺構堆積土：灰褐色粘質土 10F4 2 にふい(黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック 5 選じる。円礫 2-3mm 選じる。しまり中。粘性中。
- 2 遺構堆積土：にふい(黄褐色粘質土 10F4 3 にふい(黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小一中ブロック 15、にふい(黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一中ブロック 15 選じる。円礫 2-7mm 選じる。しまり強。粘性中。
- 3 遺構堆積土：にふい(黄褐色粘質土 10F5 3 にふい(黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小一中ブロック 15、にふい(黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一中ブロック 15 選じる。しまり強。粘性中。
- 4 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10R3 2 にふい(黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック 5 選じる。しまり強。粘性中。
- 5 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10R3 2 にふい(黄褐色粘土 10R7 2 粒子 7 選じる。にふい(黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一中ブロック 3 選じる。炭化物粒子・焼土粒子 2 選じる。しまり中。粘性中。
- 6 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10R3 3 にふい(黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 7 選じる。にふい(黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小一中ブロック 5 選じる。円礫 3mm 選じる。しまり強。粘性中。
- 7 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10R2 2 にふい(黄褐色粘土 10R7 4 粒子 7、にふい(黄褐色粘土 10R7 2 粒子 7 選じる。炭化物粒子 3 選じる。しまり中。粘性中。

101号溝

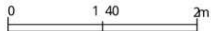


SD101b 層注記

- 1 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10R3 3 にふい(黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック 3 選じる。炭化物粒子 2 選じる。しまり中。粘性中。
- 2 遺構堆積土：にふい(黄褐色粘質土 10F4 3 にふい(黄褐色粘土 10R7 2 粒子 5 選じる。しまり中。粘性中。
- 3 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10R3 3 にふい(黄褐色粘土 10R7 2 粒子 3 選じる。しまり中。粘性中。

SK137a 層注記

- 1 遺構堆積土：にふい(黄褐色粘質土 10F4 3 にふい(黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小一中ブロック 5 選じる。炭化物粒子 2 選じる。しまり強。粘性中。



第3図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(溝4)

深さ0.17mを測り、軸はN 20 日に偏する。上面は並走する101号溝により再掘削される。断面形状は逆台形を呈し底面は平坦である。南北での底面に比高はほとんどない。堆積土は1層で自然堆積であるが、粘性は高く滞水していた可能性がある。南北ともに攪乱により消失する。中央部は調査区外である。1089 109号ピットより新しく、101号溝跡・101号遺構より古い。遺物は陶磁器、赤瓦が出土しており、このうち、陶器皿・鉢を図示した第9図60・61。

101号溝跡(SD101a (第3図)

B区のLZ55・M54・M55・M54グリッドにおいて検出された溝状遺構で、検出長9.02m、最大幅0.74m、深さ0.18mを測り、軸はN 42 日に偏する。北東側、南東側共に調査区外である。断面形状はややばつづくが、箱型で底面は比較的平坦である。底面の比高は0 mで北東側に低くなる傾向がある。堆積土は10層に

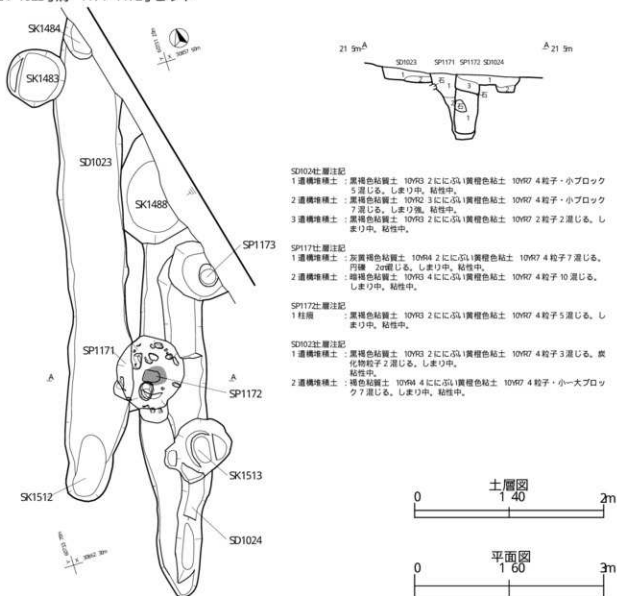
細分されるが、いずれも自然堆積土であるが、一部最下層に堆積する10層は粘性が高く滞水状態を想定させる。133号土坑、1108・1109号ピットより新しく、132号土坑より古い。遺物は1・2層を中心に陶磁器、瓦質土器、かわらけ、燻瓦、鉄釘等が出土しており、このうち、磁器碗、土風炉、かわらけ、燻瓦(丸瓦)、鉄釘を図示した第9図62~67。

1016号溝跡(SD1016(第2図))

B区のMA53・MA54グリッドにおいて検出された溝状遺構で、検出長3.97m、最大幅0.59m、深さ0.1mを測り、軸はN20°Eに偏する、南西側は調査区外で、北東側は途切れる。断面形状は箱型で、底面は平坦である。底面の比高は0.07mで北東側にやや低くなる。1337・1340号土坑より新しく、1336号土坑より古い。堆積土は2層に細分され、下層の2層は粘性が高く滞水状態を想定させる。遺物は1層より陶磁器、かわらけが出土しており、このうち、磁器碗、播鉢を図示した第9図68・69。

1017号溝跡(SD1017(第3図))

C区のMC51・MD5グリッドにおいて検出された溝状遺構で、検出長5.17m、最大幅0.74m、深さ1.03mを測り、軸はN61°Eに偏する。攪乱により上部を削平されるが、南西側立上がりは遺存している。北東側は1024・1027号溝・1171・1172号ピット



第34図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(溝5)

地中梁部にあたるため調査区外であるが、プランのみ検出してあり、さらに北東側に延び、攪乱により消失するが、この攪乱よりさらに北東に延びる状況は確認できないことから途切れるものと思われる。断面形状は箱型で底面は平坦である。堆積土は7層に細分され、いずれも自然堆積土である。遺物は主に下層の7層から陶磁器、播鉢、燻瓦、鉄釘等が出土しているが図示できるものはなかった。

101号溝跡 (SD1018(第3図))

C区のMB50・MC50グリッドにおいて検出された溝状遺構で、検出長2.14m、最大幅0.79m、深さ0.26mを測り軸はN37に偏する。北西側は途切れており、南東側は調査区外である。南側の地中梁部の調査区では延長部と思われる溝状のプランが確認されることからさらに延びるものと思われる。1375・137号土坑より新しく、137号土坑より古い。遺物は出土していない。

102号溝跡 (SD1023(第3図))

C区のLV48・LV47・LV48グリッドにおいて検出された溝状遺構で、検出長4.83m、最大幅0.68m、深さ0.18mを測り軸はN17に偏する。102号溝と並走し、北側調査区外に延び、南側は途切れる。断面形状は箱型で底面はやや凹凸が認められる。1483・148号土坑より新しく、151号土坑、117号ピットより古い。底面は東西で東側が80程深くなるが、堆積状況から新旧関係は伺えなかった。遺構の状況から植栽痕跡の可能性も考えられる。遺物は2層中より磁器瓶類が点出土している(第9図70)。

102号溝跡 (SD1024(第3図))

C区のLV47・LV48・LV47・LV48グリッドにおいて検出された溝状遺構で、検出長3.80m、最大幅0.65m、深さ0.14mを測り軸はN15に偏する。102号溝と並走し、北側調査区外に延び、南側は途切れる。断面形状は箱型で底面はやや平坦である。1488・151号土坑、1171・1173・1174号ピットより古い。遺物は1層中より磁器・燻瓦片が若干出土しており、このうち磁器乗燻を図示した(第9図71)。

井戸 (SE)

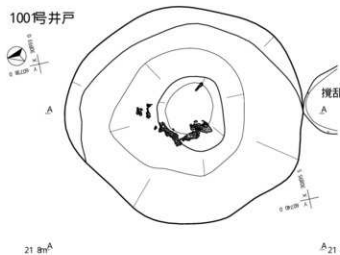
100号井戸 (SE1001(第3図))

A区のLX39・LY39グリッドにおいて検出された井戸状遺構で、長軸2.5m、短軸2.27m、深さ2.25mを測る。平面はN14に偏する楕円形、断面形状は逆凸字状を呈し、底面の中央部は更に長軸0.81m、短軸0.73m、深さ0.19mに掘り窪められている。100号石敷より新しいと思われる。素掘りで、100号石敷面から整地層である層を掘り込んでおり、底面は地山層であるにぶい黄橙色粘土に到達する。堆積土は1層に細分されるが、地山ブロック土を多く含むものが多く人為的に埋め戻された可能性もある。底面においては湧水や滲水の痕跡は確認できず井戸として機能していたかは明らかではない。遺物は陶磁器、土風炉、播鉢、燻瓦などが上層を中心に全体的に出土しているが、底面付近の10層上面からは自然木の炭化材がまとまって出土している。また3層中からは漆器椀片が出土しており、このうち、磁器碗、陶器鉢、燻瓦(本瓦・棧瓦)等を図示した(第9図74～81、第9図82～86)。

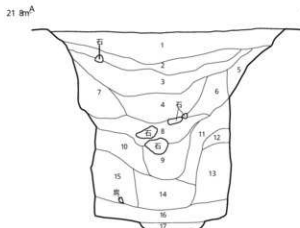
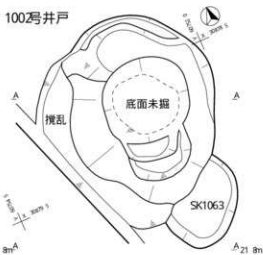
100号井戸 (SE1002(第3図))

A区のMB42・MB43グリッドにおいて検出された井戸状遺構で、長軸1.16m、短軸1.04m、平面はN73に偏する楕円形、断面形状は上面に段をもつ。素掘りで層整地層を掘り込んでいる。安全を考慮し底面まで掘削していないため底面の状況は不明である。106号土坑・土壘2より新しい。西半部は攪乱により上部削平。遺物は陶器片が1点出土しているのみである。

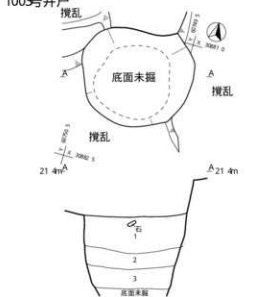
100号井戸



100号井戸



100号井戸

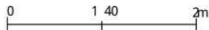


SE100土層注記

- 1 遺構増殖土 : 栗色粘質土 10R2 1 にふい1黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック5選じる。円礫 1-10cm80選じる。しまり中。粘性強。
- 2 遺構増殖土 : 栗褐色粘質土 10R3 1 にふい1黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小-中ブロック30選じる。円礫 1-10cm20選じる。しまり中。粘性強。
- 3 遺構増殖土 : 栗色粘質土 10R1 7 1 にふい1黄褐色粘土 10R7 4 粒子2選じる。円礫 2-5cm5選じる。しまり中。粘性強。
- 4 遺構増殖土 : 栗色粘質土 10R2 1 に円礫 1-10cm5選じる。炭化物粒子7選じる。鉄分選じる。しまり弱。粘性強。
- 5 遺構増殖土 : 暗褐色粘土 10R3 3 にふい1黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小-中ブロック40 : 暗褐色粘土 10R5 8 粒子・小-中ブロック40選じる。炭化物粒子10選じる。鉄分選じる。しまり中。粘性強。
- 6 遺構増殖土 : 栗褐色粘質土 10R3 2 にふい1黄褐色粘土 10R7 4 粒子30、黄褐色粘土 10R5 8 粒子30選じる。円礫 3-7cm5選じる。しまり中。粘性強。
- 7 遺構増殖土 : 褐色粘土 10M4 4 にふい1黄褐色粘土 10R7 4 粒子、明赤褐色粘土 5YR 8 2ブロック、黄褐色粘土 10R5 8 粒子の混土。しまり中。粘性強。
- 8 遺構増殖土 : 栗色粘質土 10R2 1 に円礫 7-25cm7選じる。炭化物粒子5選じる。鉄分選じる。しまり中。粘性強。
- 9 遺構増殖土 : にふい1黄褐色粘土 10R5 4 にふい1黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小-中ブロック5主。明赤褐色粘土 5YR 8 中ブロック5選じる。円礫 5-8cm0選じる。しまり中。粘性強。
- 10 遺構増殖土 : 褐色粘土 10R4 6 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子主体。明赤褐色粘土 5YR 8 粒子・小ブロック15選じる。しまり中。粘性強。
- 11 遺構増殖土 : にふい1黄褐色粘土 10R5 4 に黄褐色粘土 10R5 8、にふい1黄褐色粘土 10R7 4 主体。明赤褐色粘土 5YR 8 粒子2選じる。しまり中。粘性強。
- 12 遺構増殖土 : にふい1黄褐色粘土 10M4 3 に黄褐色粘土 10R2 2、黄褐色粘土 10R5 8 の混土。しまり中。粘性強。
- 13 遺構増殖土 : 黄褐色粘土 10R5 6 にふい1黄褐色粘土 10R7 4、明赤褐色粘土 5YR 8 の混土。炭化物粒子2選じる。しまり中。粘性強。
- 14 遺構増殖土 : 灰黄褐色粘土 10M4 2 に明赤褐色粘土 10YR 6 主体。黄褐色粘土 10R5 8 20、明赤褐色粘土 5YR 8 粒子20選じる。しまり中。粘性強。
- 15 遺構増殖土 : 褐色粘土 10M4 4 に黄褐色粘土 10R5 8、にふい1黄褐色粘土 10R7 4、明赤褐色粘土 5YR 8 粒子の混土。しまり中。粘性強。
- 16 遺構増殖土 : 暗褐色粘土 10R3 3 にふい1黄褐色粘土 10R7 2 粒子・中ブロック、黄褐色粘土 10R5 8、明赤褐色粘土 5YR 8 粒子の混土。しまり中。粘性強。
- 17 遺構増殖土 : にふい1黄褐色粘土 10R5 4 にふい1黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小-中ブロック、にふい1黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小-中ブロック30%選じる。しまり中。粘性強。

SE100土層注記

- 1 遺構増殖土 : 栗褐色粘質土 10R3 2 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子15選じる。鉄分選じる。しまり中。粘性中。
- 2 遺構増殖土 : 栗褐色粘質土 10R2 2 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小-中ブロック5選じる。しまり中。粘性中。
- 3 遺構増殖土 : 褐色粘質土 10M4 4 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小-大ブロック、にふい1黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小-大ブロックの混土。しまり中。粘性強。



第3図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(井戸1)

100号井戸（SE1003(第3図)）

A区のM46・M47グリッドにおいて検出された井戸状遺構で、長軸2.08m、短軸1.64mを測る。平面はN6°Eに偏する楕円形、断面形状は箱型を呈する。素掘りで層整地層を掘り込んでいる。安全を考慮し底面まで掘削していないため底面の状況は不明である。攪乱により上部削平を受ける。遺物は陶磁器、瓦質土器等が出土しているが図示するものはない。

土坑（SK）

100号土坑（SK1008(第3図)）

A区のLX39・LY39グリッドにおいて検出された。長軸2.5m、短軸2.27m、深さ2.25mを測る。平面はN47°Wに偏する隅丸長方形、断面形状は逆台形を呈し、北側と東側は攪乱により削平を受ける。遺物は白磁、陶磁器、播鉢などが各層より出土しており、このうち白磁碗を図示した（第9図87）。

101号土坑（SK1015(第3図)）

A区のM46グリッドにおいて検出された。長軸0.94m、短軸0.72m、深さ0.05mを測る。平面はN28°Wに偏する楕円形、断面形状は逆台形を呈する。1016号ビットより古い。遺物は陶器・土製品が出土しており、このうち陶器皿、不明土製品を図示した（第9図88・89）。

1016号土坑（SK1016(第3図)）

A区のM46グリッドにおいて検出された。長軸1.44m、短軸0.84m、深さ0.34mを測る。平面はN44°Eに偏する楕円形、断面形状は箱型を呈し、底面は北側に向かい浅くなる。東側は攪乱により削平を受ける。上面には7～35cmの亜円礫を載せる。出土遺物はない。

102号土坑（SK1028(第3図)）

A区のM44グリッドにおいて検出された。長軸0.92m、短軸0.77m、深さ0.52mを測る。平面はN73°Eに偏する隅丸長方形、断面形状は箱型を呈するが底面は階段状に西側に深くなる。西側は調査区外。1016号ビットより古い。遺物は磁器が出土しており、このうち青磁香炉を図示した（第9図90）。

105号土坑（SK1055(第3図)）

A区のLZ44グリッドにおいて検出された。径0.62m、深さ0.2mを測る。平面は円形、断面形状は箱型を呈するが底面は西側に段深くなる。重複はない。内部の段深くなった西側に47cm×21cmの亜円礫を置き3～20cmの亜円礫で周囲を固めている。埋土も粘性が高く人為的である。礎石の可能性も考えられる。遺物は磁器、かわらけが出土しており、このうちかわらけを図示した（第9図91）。

106号土坑（SK1061(第16図)）

A区LZ43グリッドにおいて検出された。径0.57m、深さ0.44mを測る。平面円形、断面形状は箱型を呈し底面は平坦である。重複はない。遺物は陶磁器、播鉢、かわらけ、鉄釘が出土しており、このうち鉄軸徳利を図示した（第9図92）。

1068号土坑（SK1068(第16図)）

A区のLZ42グリッドにおいて検出された。径0.56m、深さ0.52mを測る。平面はN73°Eに偏する隅丸長方形、断面形状は皿状を呈する。102号ビットより新しい。遺物は陶磁器、鉄釘等が出土しており、このうち磁器碗を図示した（第9図93）。

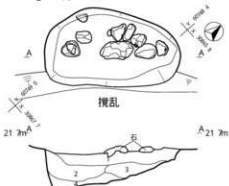
100号土坑



SK100土層注記

- 1 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10R3 3 に赤い黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一大ブロック 30、黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小ブロック 30、明赤褐色粘土 5R5 8 粒子・小ブロック 30 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性強。
- 2 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10R3 4 に赤い黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 10、黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小ブロック 10 混じる。しまり中。粘性強。
- 3 遺構堆積土：黄褐色砂質土 10R3 2 に砂礫 1-3cm 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり弱。粘性なし。

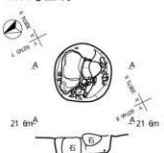
101号土坑



SK101土層注記

- 1 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10R3 3 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小ブロック 5、に赤い黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 5 混じる。しまり強。粘性中。
- 2 遺構堆積土：に赤い黄褐色粘土 10R4 3 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小ブロック 20、に赤い黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 20 混じる。しまり中。粘性中。
- 3 遺構堆積土：褐色粘質土 10R4 4 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小一大ブロック 30、に赤い黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一大ブロック 30 混じる。しまり中。粘性中。
- 4 遺構堆積土：に赤い黄褐色粘土 10R5 4 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小ブロック 20、に赤い黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 20 混じる。しまり中。粘性中。

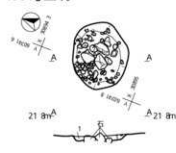
105号土坑



SK105土層注記

- 1 遺構堆積土：に赤い黄褐色粘土 10R4 3 に炭化物粒子 2 混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性強。

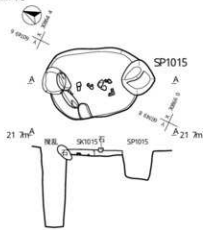
108号土坑



SK108土層注記

- 1 遺構堆積土：褐色粘質土 10R4 4 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・中ブロック 10 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。

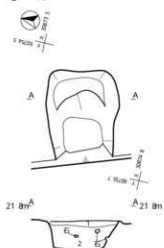
101号土坑



SK101土層注記

- 1 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10R3 4 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 5 混じる。炭化物粒子 2 混じる。鉄分混じる。しまり強。粘性中。

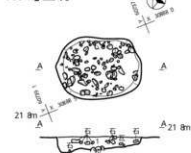
102号土坑



SK102土層注記

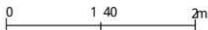
- 1 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10R3 4 に赤い黄褐色粘土 10R7 4 粒子 3 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり弱。粘性中。
- 2 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10R3 3 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小ブロック、に赤い黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一中ブロック混じる。しまり弱。粘性中。

109号土坑



SK109土層注記

- 1 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10R3 2 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 5 混じる。円礫 2-10cm 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。



第34図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(土坑1)

107号土坑 (SK1072(第16・19図))

A区のLZ4グリッドにおいて検出された。長軸0.84m、短軸0.79m、深さ0.31mを測る。平面はN18°Wに偏する楕円形、断面形状は皿状を呈する。底面は両側が深くなる。重複はない。径2～14cmの亜円礫が廃棄される。遺物は礫に混じって陶磁器、土風炉、かわらけ、赤瓦(棧瓦)、鉄釘が出土しており、このうち陶器片(墨書)、土風炉、赤瓦を図示した(第9図94～96)。

107号土坑 (SK1073(第16・19図))

A区のLY4グリッドにおいて検出された。長軸0.48m、短軸0.42m、深さ0.48mを測る。平面はN40°Wに偏する隅丸長方形、断面形状は逆台形を呈する。底面は平坦である。重複はない。径4～7cmの亜円礫が廃棄される。遺物は陶器、金属製品等が出土しており、このうち鉄軸擂鉢を図示した(第9図97)。

107号土坑 (SK1074(第19図))

A区のLY4グリッドにおいて検出された。長軸0.74m、短軸0.53m、深さ0.21mを測る。平面はN78°Eに偏する楕円形、断面形状は皿状を呈する。重複はない。遺物は陶磁器、擂鉢、赤瓦(棧瓦)等が出土しており、このうち磁器碗、赤瓦(棧瓦)を図示した(第9図98・99)。

107号土坑 (SK1077(第35図))

A区のLZ41・LZ42・M41・M42グリッドにおいて検出された。長軸3.02m以上、短軸0.88m、深さ1.15mを測る。平面はN105°Wに偏する楕円形、断面形状は逆台形を呈する。南西は調査区外。1075・1076号土坑、1028号ピットより古い。東・西・北側を攪乱により削平。堆積土は9層に細別されたが、7～9層が自然堆積層、1～8層が人為的埋土と考えられる。遺物は主に5層から出土している。土坑は採土坑として掘削された可能性があり、その後廃棄坑として利用されたものと思われる。人為的埋土の中には炭化物が多く含まれていることから、火災等による片付け行為が想定される。遺物は陶磁器、鉄軸硯、擂鉢、かわらけ、土風炉、鉄釘等多く出土しており、このうち磁器皿・碗・坏・瓶、陶器皿、硯、擂鉢、土風炉、鉄釘等を図示した(第9図100～113 第9図114～133 第9図134～149)。

108号土坑 (SK1084(第34図))

A区追加調査区のLY39グリッドにおいて検出された。長軸0.69m、短軸0.6m、深さ0.07mを測る。平面はN60°Eに偏する楕円形、断面形状は皿状。100号石敷より新しい。径2～16cmの亜円礫が廃棄される。遺物は出土していない。

109号土坑 (SK1091(第34図))

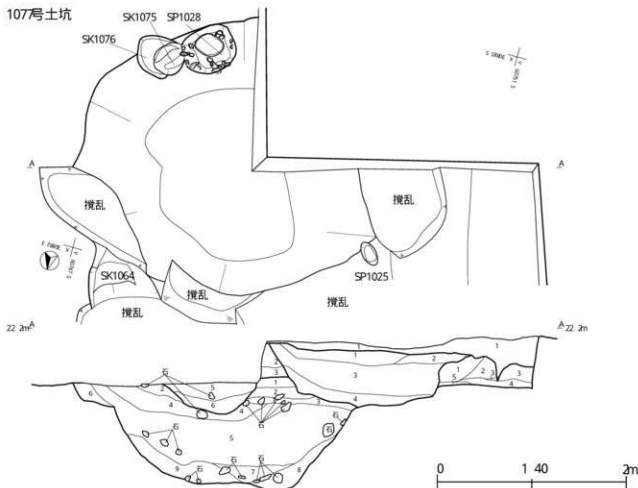
A区追加調査区のLY40・41グリッドにおいて検出された。長軸0.9m、短軸0.66m、深さ0.1mを測る。平面はN71°Wに偏する楕円形、断面形状は箱型。底面は東に向かって浅くなる。109号土坑より新しい。径1～10cmの亜円礫が廃棄される。遺物は陶磁器、燻瓦、鉄釘が出土しており、このうち燻瓦(丸瓦)を図示した(第9図150)。

110号土坑 (SK1100(第36図))

A区のLY89・LY40グリッドにおいて検出された。長軸1m、短軸0.69m以上、深さ0.83mを測る。平面はN48°Wに偏する隅丸長方形、断面形状は逆台形、底面は平坦である。100号石敷より新しく1099・1098号土坑より古い。遺物は陶磁器、擂鉢、土錘、燻瓦等が出土しており、このうち磁器碗、土錘を図示した(第9図151・152)。

111号土坑 (SK1110(第36図))

A区のLY46グリッドにおいて検出された。長軸0.68m、短軸0.57m以上、深さ0.07mを測る。平面は



基本層土層注記

- 1 表土層 : にぶい黄褐色粘土 10YR4 3に黄褐色粘土 10YR5 8粒子7選じる。円礫 50選じる。しまり中、粘性中。
- 2 表土層 : にぶい黄褐色粘土 10YR4 3に黄褐色粘土 10YR5 8粒子2選じる。しまり中、粘性中。
- 3 表土層 : 褐色粘質土 10YR4 4に円礫 20選じる。炭化物粒子3選じる。しまり中、粘性中。

土層土層注記

- 1 土層厚土 : にぶい黄褐色粘土 10YR5 4ににぶい黄褐色粘土 10YR7 4粒子・小一様大ブロック、にぶい黄褐色粘土 10YR7 2粒子・小一様大ブロックの混土。しまり強、粘性強。
- 2 土層厚土 : にぶい黄褐色粘土 10YR5 3ににぶい黄褐色粘土 10YR7 2粒子・小一様大ブロック20選じる。しまり強、粘性強。
- 3 土層厚土 : 暗褐色粘土 10YR3 4に黄褐色粘土 10YR5 8粒子・小ブロック25選じる。しまり強、粘性強。
- 4 土層厚土 : 褐色粘土 10YR4 4に黄褐色粘土 10YR5 8粒子・小ブロック30、にぶい黄褐色粘土 10YR7 2粒子・小ブロック30選じる。しまり強、粘性強。
- 5 土層厚土 : にぶい黄褐色粘土 10YR5 4ににぶい黄褐色粘土 10YR7 4粒子・小一様大ブロック、にぶい黄褐色粘土 10YR7 2粒子・小一様大ブロックの混土。しまり強、粘性強。

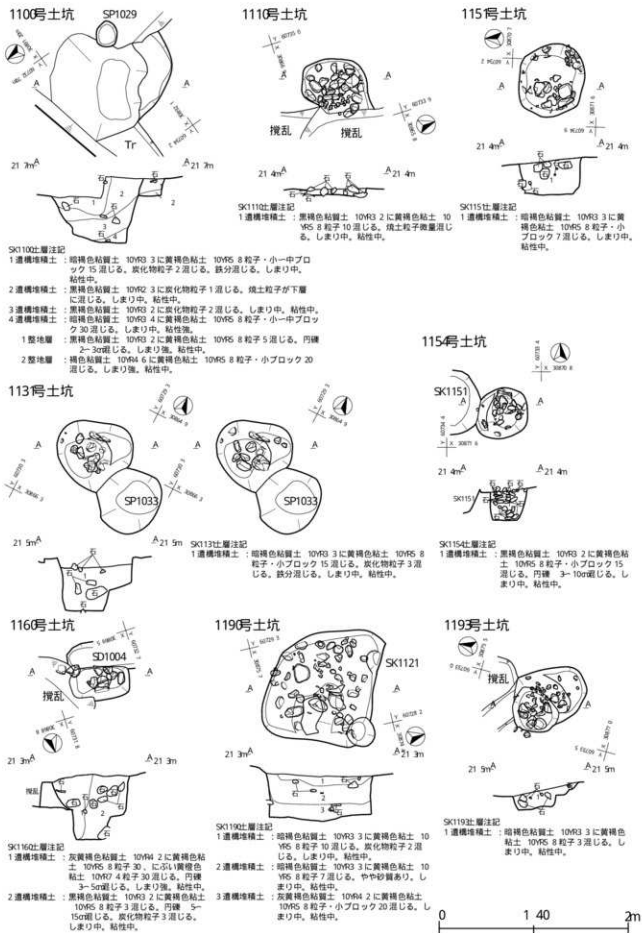
SK1072土層注記

- 1 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10YR4 4に黄褐色粘土 10YR5 8粒子・小ブロック10、にぶい黄褐色粘土 10YR7 2粒子・小ブロック10選じる。しまり強、粘性中。最終の埋立土。
- 2 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10YR4 4に黄褐色粘土 10YR5 8粒子・小ブロック7、にぶい黄褐色粘土 10YR7 2粒子・小ブロック7選じる。しまり強、粘性強。最終の埋立土。
- 3 遺構堆積土 : にぶい黄褐色粘土 10YR4 3に黄褐色粘土 10YR5 8粒子5選じる。円礫 5→100選じる。炭化物粒子2選じる。しまり強、粘性中。最終の埋立土。
- 4 遺構堆積土 : 暗褐色粘土 10YR3 3に円礫 3→200選じる。炭化物粒子3選じる。鉄分選じる。しまり中、粘性中。
- 5 遺構堆積土 : 暗褐色粘土 10YR3 4に黄褐色粘土 10YR5 8粒子・小一様大ブロック5選じる。円礫 5→200選じる。炭化物粒子30選じる。しまり中、粘性中。主に遺物を含む層。
- 6 遺構堆積土 : にぶい黄褐色粘土 10YR4 3に黄褐色粘土 10YR5 8粒子3選じる。炭化物粒子・焼土粒子1選じる。しまり中、粘性中。
- 7 遺構堆積土 : 黄褐色粘土 10YR3 2に円礫 100選じる。炭化物粒子15選じる。しまり中、粘性中。
- 8 遺構堆積土 : 黄褐色粘土 10YR3 2に円礫 5→150選じる。炭化物粒子15選じる。しまり中、粘性中。
- 9 遺構堆積土 : 暗褐色粘土 10YR3 3ににぶい黄褐色粘土 10YR7 4粒子・小ブロック5選じる。円礫 5→100選じる。炭化物粒子5選じる。しまり中、粘性中。

攪乱土層注記

- 1 攪乱 : 暗褐色粘土 10YR3 4に黄褐色粘土 10YR5 8粒子5、にぶい黄褐色粘土 10YR7 4粒子5選じる。円礫 1→30選じる。しまり中、粘性中。
- 2 攪乱 : 暗褐色粘土 10YR3 4に黄褐色粘土 10YR5 8粒子3選じる。円礫 1→20選じる。しまり中、粘性中。
- 3 攪乱 : 暗褐色粘土 10YR3 4に黄褐色粘土 10YR5 8粒子・小ブロック30、にぶい黄褐色粘土 10YR7 4粒子・小ブロック30、明赤褐色粘土 5YR5 8粒子30選じる。しまり中、粘性中。
- 4 攪乱 : 暗褐色粘土 10YR3 4に黄褐色粘土 10YR5 8粒子・小ブロック10、にぶい黄褐色粘土 10YR7 4粒子・小ブロック10、明赤褐色粘土 5YR5 8粒子・小ブロック10選じる。しまり中、粘性中。
- 5 攪乱 : 暗褐色粘土 10YR3 4に黄褐色粘土 10YR5 8粒子・小ブロック5選じる。円礫 5→100選じる。しまり中、粘性中。
- 6 攪乱 : 褐色粘質土 10YR4 4ににぶい黄褐色粘土 10YR7 4粒子・小一様大ブロック30選じる。円礫 2→100選じる。しまり中、粘性中。

第35図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(土坑2)



第36図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(土坑3)

N 18 Bに偏する楕円形、断面形状は血状、底面は平坦である。111号土坑より新しい。東側は攪乱により消失する。径3～13mの垂円礫が廃棄される。遺物は出土していない。

112号土坑（SK1124（第16・17図））

A区のLV47グリッドにおいて検出された。長軸0.28m、短軸0.23m以上、深さ0.15mを測る。平面は楕円形、断面形状は血状。北側は調査区外である。重複はない。遺物は陶器皿が出土しておりこれを図示した（第96図153）。

112号土坑（SK1127（第17図））

A区追加調査区のLV46・LV47グリッドにおいて検出された。長軸0.26m以上、短軸0.27m、深さ0.17mを測る。平面はN 47 Bに偏する楕円形、断面形状は箱型。112号土坑より新しく113号土坑より古い。遺物は陶器皿が出土しておりこれを図示した（第96図154）。

113号土坑（SK1131（第36図））

A区のLV46グリッドにおいて検出された。長軸0.8m、短軸0.78m、深さ0.59mを測る。平面はN 62 Bに偏する楕円形、断面形状は箱型。底面は階段状で西側に深くなる。103号ビットより古い。径4～18mの垂円礫が廃棄される。遺物は出土していない。

114号土坑（SK1140（第17図））

A区のLV46グリッドにおいて検出された。長軸0.37m以上、短軸0.36m、深さ0.08mを測る。平面はN 40 WCに偏する楕円形、断面形状は箱型、底面は平坦である。重複はない。東側は調査区外。径6～11mの垂円礫が廃棄される。遺物は磁器、燧瓦が出土しており、このうち磁器皿・蓋を図示した（第96図155・156）。

114号土坑（SK1141（第17図））

A区のLV45・LV46グリッドにおいて検出された。長軸1.03m以上、短軸0.48m、深さ0.15mを測る。平面はN 159 WCに偏する楕円形、断面形状は逆台形、底面は平坦である。1002・1003号溝跡の堆積土上に作られる。遺物は磁器皿が出土しており、これを図示した（第96図157）。

115号土坑（SK1151（第36図））

A区のLV45グリッドにおいて検出された。長軸0.8m、短軸0.69m、深さ0.37mを測る。平面はN 71 WCに偏する楕円形、断面形状は箱型。底面は東に向かって浅くなる。1152・1153・1154号土坑より新しい。径3～15mの垂円礫が廃棄される。遺物は陶磁器片が僅かに出土するのみで図示するものはない。

115号土坑（SK1154（第36図））

A区のLV45グリッドにおいて検出された。長軸0.58m、短軸0.51m、深さ0.34mを測る。平面はN 66 Bに偏する楕円形、断面形状は箱型。底面は平坦である。115号土坑より古い。径2～15mの垂円礫が廃棄される。遺物は出土していない。

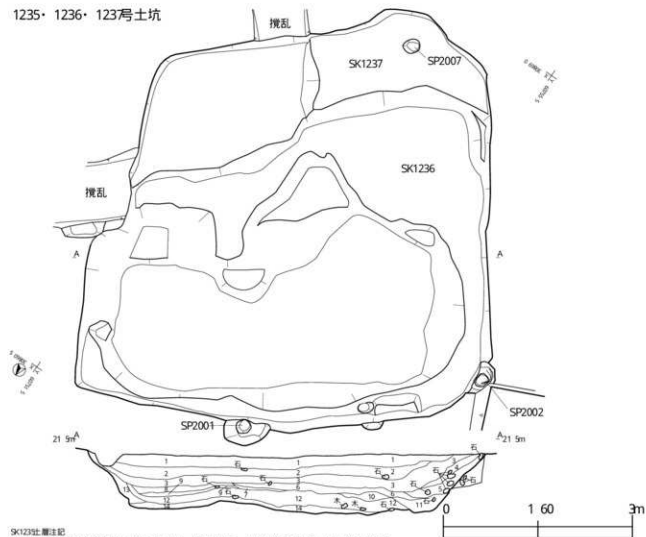
116号土坑（SK1160（第36図））

A区のLV45・LV45グリッドにおいて検出された。長軸0.63m、短軸0.35m、深さ0.73mを測る。平面はN 78 WCに偏する隅丸長方形、断面形状は逆台形。底面は平坦である。1004号溝跡より古い。東側の一部は攪乱により上部を削平される。径10～13mの垂円礫が廃棄される。遺物は瓦質土器片が僅かに出土するのみで図示するものはない。

116号土坑（SK1162（第17図））

A区のLV45・LV46グリッドにおいて検出された。長軸0.58m、短軸0.52m、深さ0.27mを測る。平面は

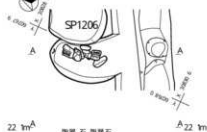
1235・1236・123号土坑



SK1235土層注記

- 1 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10VR3 3に円礫 2~3cm混じる。炭化物粒子5混じる。しまり中、粘性中。
- 2 遺構堆積土 : 黄褐色粘質土 10VR3 2に黄褐色粘土 10VR5 8粒子5混じる。円礫 2~3cm混じる。炭化物粒子3混じる。鉄分混じる。しまり中、粘性中。
- 3 遺構堆積土 : 黄褐色粘質土 10VR4 2にふい黄褐色粘土 10VR7 4粒子5混じる。炭化物粒子3混じる。鉄分混じる。しまり中、粘性中。
- 4 遺構堆積土 : におい黄褐色粘質土 10VR4 3にふい黄褐色粘土 10VR7 2粒子・小一平ブロック20、におい黄褐色粘土 10VR7 4粒子・小ブロック20混じる。しまり中、粘性。
- 5 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10VR3 4にふい黄褐色粘土 10VR7 2粒子・小ブロック5、黄褐色粘土 10VR5 8粒子5混じる。円礫 5~10cm混じる。しまり中、粘性中。
- 6 遺構堆積土 : 黄褐色粘質土 10VR4 2にふい黄褐色粘土 10VR7 4粒子・小ブロック10混じる。円礫 3~5cm混じる。鉄分混じる。グライ化する。しまり中、粘性中。
- 7 遺構堆積土 : 黄褐色粘質土 10VR4 2にふい黄褐色粘土 10VR7 4粒子・小一平ブロック15混じる。鉄分混じる。グライ化する。しまり中、粘性中。
- 8 遺構堆積土 : 黄褐色粘質土 10VR4 2にふい黄褐色粘土 10VR7 4粒子・小ブロック5混じる。鉄分混じる。グライ化する。しまり中、粘性中。
- 9 遺構堆積土 : におい黄褐色粘土 10VR7 2にふい黄褐色粘土 10VR7 4粒子・小一平ブロック主体。しまり強、粘性強。
- 10 遺構堆積土 : におい黄褐色粘土 10VR6 3にふい黄褐色粘土 10VR7 4主体。鉄分混じる。しまり強、粘性強。
- 11 遺構堆積土 : 黄褐色粘土 10VR4 2にふい黄褐色粘土 10VR7 4粒子・小一平ブロック5混じる。鉄分混じる。しまり強、粘性中。
- 12 遺構堆積土 : 黄褐色粘土 10VR1 7に木片多く混じる。ピート層状。しまり中、粘性中。
- 13 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10VR3 4に黄褐色粘土 10VR5 8粒子・小一平ブロック10混じる。鉄分混じる。しまり中、粘性中。
- 14 遺構堆積土 : 黄褐色粘質土 10VR2 2にふい黄褐色粘土 10VR7 4粒子・小一平ブロック10混じる。粗粒砂混じる。しまり強、粘性中。

124号土坑



SK1245土層注記

- 1 遺構堆積土 : 黄褐色粘土 10VR3 2に黄褐色粘土 10VR5 8小ブロック30、におい黄褐色粘土 10VR7 4粒子・小ブロック20混じる。円礫 7~10cm混じる。しまり中、粘性。

125号土坑



SK125土層注記

- 1 遺構堆積土 : におい黄褐色粘土 10VR6 4にふい黄褐色粘土 10VR7 4主体。鉄分混じる。しまり強、粘性中。
- 2 遺構堆積土 : におい黄褐色粘質土 10VR5 3にふい黄褐色粘土 10VR7 4粒子10混じる。炭化物粒子5混じる。しまり中、粘性中。
- 3 遺構堆積土 : におい黄褐色粘質土 10VR6 3にふい黄褐色粘土 10VR7 4粒子・小一平ブロック20混じる。しまり中、粘性中。

第3図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(土坑4)

N 18 Wに偏する楕円形、断面形状は逆台形、底面は平坦である。南半部は攪乱により上部削平。遺物は磁器等が出土しており、このうち磁器皿を図示した(第9図158)。

1190号土坑(SK1190(第36図))

A区のLV44グリッドにおいて検出された。長辺1.25m、短辺1.12m、深さ0.33mを測る。平面はN 62 Eに偏する不正隅丸方形、断面形状は箱型。底面は中央部がやや窪む。118号土坑より新しく、118号土坑、1044・104号ピットより古い。2層を中心に径3～20cmの亜円礫が廃棄される。遺物は陶磁器、かわらけが出土しており、このうち磁器皿・碗・鉢、陶器壺、かわらけを図示した(第9図159～164)。

1193号土坑(SK1193(第36図))

A区のLV43・LV44グリッドにおいて検出された。長軸0.49m、短軸0.47m、深さ0.29mを測る。平面はN 57 Eに偏する楕円形、断面形状は箱型、底面は北に向かって低くなる。1194号土坑より新しく、1192号土坑より古い。径2～10cmの亜円礫が廃棄される。遺物は陶磁器が出土しており、このうち陶器鉢を図示した(第9図165)。

1217号土坑(SK1217(第19図))

A区のLV41グリッドにおいて検出された。長軸0.5m、短軸0.44m、深さ0.07mを測る。平面はN 48 Wに偏する楕円形、断面形状は皿状、底面は平坦である。1218号土坑より新しい。遺物は磁器片、鉄釘が出土しており、このうち鉄釘を図示した(第9図166)。

1235号土坑(SK1235(第37図))

A区のMA47・MB46・MB47・MC46・MC47グリッドにおいて検出された。調査の都合上第2遺構面において掘削を行った。長軸0.67m、短軸2.96m、深さ1.05mを測る。平面はN 58 Eに偏する隅丸長方形で南東側に階段状に張り出部をもつ。断面形状は逆台形、底面は凹凸が確認される。1236号土坑より新しい。底面からは掘削工具痕跡と思われる半月状の痕跡が多く確認された。堆積土は1層に細別されるが上～中層である1～10層が人的埋立土、下層の1層から14層が有機質で自然堆積土である。上層からは陶磁器類が、下層からは有機物が多く出土している。底面は地山であるにふい黄橙色粘土層を掘り込んでおり、この粘土層を目的とする探土坑の可能性が考えられる。遺物は陶磁器、かわらけ、燻瓦、砥石、須恵器が出土しており、このうち磁器碗、陶器皿・鉢、瓦質土器、燻瓦(平瓦)等を図示した(第9図167～173 第9図174～192)。

1236号土坑(SK1236(第37図))

A区のMA47・MB46・MB47・MC46・MC47グリッドにおいて検出された。長軸0.67m、短軸2.96m、深さ1.05mを測る。平面はN 58 Eに偏する隅丸長方形、断面形状は逆台形、底面は比較的平坦である。1235号土坑同様に調査の都合上第2遺構面において掘削を行った。検出段階においては1235号土坑との区別がつかなかったが、掘削時において1235号土坑より古い土坑として認識した。1237号土坑より新しく、1235号土坑より古い。形状から1235号土坑同様、探土坑と考えられる。堆積土は人為的埋立状況である。遺物は出土していない。

1237号土坑(SK1237(第37図))

A区のMB45・MB46グリッドにおいて検出された。長軸5.49m、短軸2.07m、深さ0.34mを測る。平面はN 50 Eに偏する隅丸長方形、断面形状は逆台形、底面は東側が1段掘り下がる。1235・1236号土坑同様に調査の都合上第2遺構面において掘削を行った。検出段階においては1235・1236号土坑との区別がつかなかったが、掘削時において1236号土坑より古い土坑として認識した。1236号土坑より古い。形状から1235号土坑同様、探土坑と考えられる。堆積土は人為的埋立状況である。遺物は陶器片、燻瓦が出土し

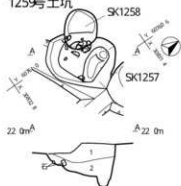
125号土坑



SK125土層注記

1 遺構堆積土：褐色粘質土 10F44 にぶい(黄褐色粘土 10F7 4 粒子・小一大ブロック 15 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中、粘性中。

125号土坑



SK125土層注記

1 遺構堆積土：黒褐色粘質土 10F63 2 にぶい(黄褐色粘土 10F7 2 粒子・小ブロック 20 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中、粘性中。
2 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10F63 3 にぶい(黄褐色粘土 10F7 2 粒子 5、にぶい(黄褐色粘土 10F7 4 粒子 5 混じる。しまり中、粘性中。

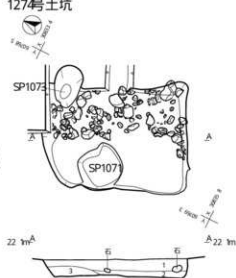
126号土坑



SK126土層注記

1 遺構堆積土：褐色粘土 10F44 4 に黄褐色粘土 10Y6 8 粒子・小ブロック 20、にぶい(黄褐色粘土 10F7 2 粒子・小ブロック 20 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中、粘性強。

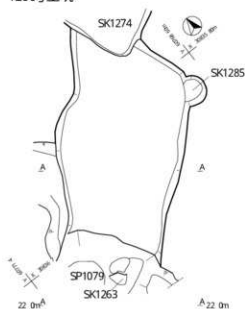
127号土坑



SK127土層注記

1 遺構堆積土：黒褐色粘質土 10F63 2 に黄褐色粘土 10F6 6 粒子 15 混じる。円礫 5-7mm 混じる。しまり中、粘性中。
2 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10F63 3 にぶい(黄褐色粘土 10F7 2 粒子・小一中ブロック 10、黄褐色粘土 10F6 8 粒子 10 混じる。しまり中、粘性中。
3 遺構堆積土：灰黄褐色粘土 10F44 2 にぶい(黄褐色粘土 10F7 2 中一大ブロック主体。しまり強、粘性強。

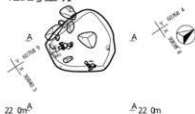
128号土坑



SK128土層注記

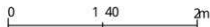
1 遺構堆積土：黒褐色粘質土 10F63 2 にぶい(黄褐色粘土 10F7 4 小一中ブロック 15% 混じる。鉄分混じる。しまり中、粘性中。
2 遺構堆積土：にぶい(黄褐色粘土 10F63 3 にぶい(黄褐色粘土 10F7 4 粒子主体。しまり中、粘性強。

129号土坑



SK129土層注記

1 遺構堆積土：黒褐色粘土 10F63 2 に黄褐色粘土 10F6 6 粒子 3 混じる。炭化物粒子・粘土粒子 2 混じる。しまり中、粘性中。
2 遺構堆積土：にぶい(黄褐色粘土 10F44 3 に黄褐色粘土 10F6 8 粒子・小ブロック 40 混じる。しまり中、粘性強。



第38図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(土坑5)

ており、このうち燻瓦（平瓦）を図示した（第98図193）。

124号土坑（SK1245（第3図））

B区のME55・MF55グリッドにおいて検出された。長軸0.76m、短軸0.46m、深さ0.26mを測る。平面はN23区に偏する楕円形、断面形状は箱型、底面は平坦である。106号ピットより古い。南側は攪乱により消失。遺物は陶器が出土しており、これを図示した（第98図194）。

124号土坑（SK1247（第10図））

B区のME55グリッドにおいて検出された。長軸0.91m、短軸0.75m、深さ0.17mを測る。平面はN13区に偏する楕円形、断面形状は箱型である。北西側が1段低くなる。重複はない。遺物は陶磁器、かわらけが出土しており、このうち磁器皿、陶器茶入れ、かわらけを図示した（第98図195～197）。

125号土坑（SK1251（第10図））

B区のME55グリッドにおいて検出された。長軸0.65m、短軸0.54m、深さ0.15mを測る。平面はN62区に偏する楕円形、断面形状は逆台形である。北東側が僅かに窪む。重複はない。遺物は陶磁器が出土しており、このうち磁器碗を図示した（第98図198）。

125号土坑（SK1253（第3図））

B区のMD55グリッドにおいて検出された。長軸0.48m、短軸0.45m、深さ0.18mを測る。平面はN18区に偏する楕円形、断面形状は逆台形である。西側は調査時に掘り過ぎている。1254・1259号土坑より新しい。遺物は陶磁器、鉄釘が出土しており、このうち鉄釘を図示した（第98図199）。

125号土坑（SK1257（第38図））

B区のMC55・MD54・MD55グリッドにおいて検出された。長軸0.7m、短軸0.58m、深さ0.17mを測る。平面はN3区に偏する楕円形、断面形状は逆台形である。1259号土坑より新しい。西西部は攪乱により上部削平される。1層に載る状態で、底部を北側にして倒れる状態の肥前系陶器甕が出土している。甕の直下には漆碗の漆膜のみが遺存して出土している。また、この甕の東側には径2～8cmの垂円礫がまとめて出土している。遺物はその他に鉄釘が出土しており、このうち陶器甕を図示した（第98図200）。

125号土坑（SK1259（第38図））

B区のMD54・MD55グリッドにおいて検出された。長軸0.73m、短軸0.53m、深さ0.4mを測る。平面はN37区に偏する楕円形、断面形状は逆台形である。底面は北西側が1段低くなる。1258号土坑より古い。南側は攪乱により上部削平される。堆積は2層に細別されるがいずれも自然堆積状況である。遺物は1層中より陶器皿が出土しており、これを図示した（第98図201）。

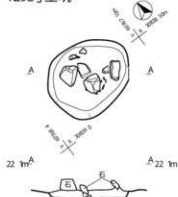
126号土坑（SK1260（第10図））

B区のMC55グリッドにおいて検出された。径1.08m、深さ0.49mを測る。平面は円形、断面形状は逆台形である。底面は北東側が1段低くなる。重複はない。遺物は陶磁器、かわらけ、銅銭が出土しており、このうち陶器皿、かわらけ、銅銭を図示した（第98図202～204）。

126号土坑（SK1262（第38図））

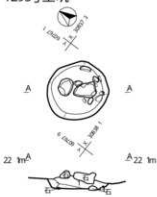
B区のMC55グリッドにおいて検出された。長軸0.62m、短軸0.59m、深さ0.04mを測る。平面はN58区に偏する楕円形、断面形状は逆台形である。底面は北西側が1段低くなる。1258号土坑より古い。南側は攪乱により上部削平される。堆積は2層に細別されるがいずれも自然堆積状況である。遺物はかわらけ、鉄釘が出土しているが、図示するものはない。

129号土坑



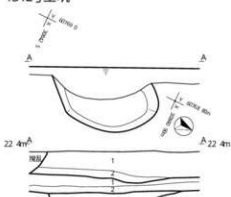
SK129土層注記
1 遺構堆積土 : 黒褐色粘質土 10R62 に灰褐色粘土 10YR5 8 粒子・小ブロック 3 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中、粘性中。

129号土坑



SK129土層注記
1 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10R63 に黄褐色粘土 10R65 8 粒子 15、にぶい黄褐色粘土 10R67 2 粒子 15 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり強、粘性中。
2 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10R63 4 に黄褐色粘土 10R65 8 粒子・小ブロック 30 混じる。しまり強、粘性中。

131号土坑



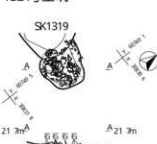
SK131土層注記
1 表土層 : 灰褐色粘質土 10R62 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子 5、にぶい黄褐色粘土 10R67 4 粒子 5 混じる。円礫 2-5mm 混じる。しまり強、粘性中。
2 表土層 : 灰褐色粘質土 10R62 3 ににぶい黄褐色粘土 10YR 4 粒子・小ブロック 3 混じる。しまり強、粘性中。

131号土坑



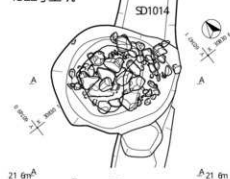
SK131土層注記
1 遺構堆積土 : 黒褐色粘質土 10R62 3 ににぶい黄褐色粘土 10R67 4 粒子 7 混じる。円礫 3-4mm 混じる。しまり中、粘性強。

132号土坑



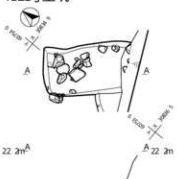
SK132土層注記
1 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10R64 4 ににぶい黄褐色粘土 10R67 4 粒子・小ブロック 15 混じる。炭化物粒子 2 混じる。混分混じる。しまり中、粘性強。

132号土坑



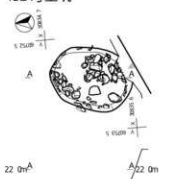
SK132土層注記
1 遺構堆積土 : 灰褐色粘質土 10R62 3 ににぶい黄褐色粘土 10R 7 4 粒子・小ブロック 3 混じる。円礫 10-15mm 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中、粘性強。
2 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10R63 3 ににぶい黄褐色粘土 10R67 7 4 粒子・小ブロック 7 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中、粘性強。
3 遺構堆積土 : 灰褐色粘質土 10R64 1 に混分混じる。グライ化する。しまり中、粘性強。
4 遺構堆積土 : にぶい黄褐色粘質土 10R64 3 ににぶい黄褐色粘土 10R67 4 粒子・小ブロック 15 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中、粘性強。

132号土坑



SK132土層注記
1 遺構堆積土 : 灰褐色粘質土 10R63 1 ににぶい黄褐色粘土 10R67 4 粒子 7 混じる。円礫 5-10mm 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中、粘性中。

132号土坑



SK132土層注記
1 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10R64 1 ににぶい黄褐色粘土 10R67 4 粒子・小ブロック 10 混じる。円礫 3-10mm 混じる。しまり中、粘性強。

第39図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(土坑6)

1274号土坑 (SK1274(第38図))

B区のMF54グリッドにおいて検出された。径1.08m、深さ0.49mを測る。平面は円形、断面形状は逆台形である。底面は北東側が1段低くなる。重複はない。堆積は2層に細別されるがいずれも自然堆積状況である。1層を中心に径3〜20cmの垂円礫や遺物が廃棄される。遺物は陶磁器、かわらけ、燻瓦等が出土しており、このうち陶器皿、かわらけを図示した(第98図205〜209、第99図210〜212)。

1280号土坑 (SK1280(第1図))

B区のM65・M64・ME53・ME54グリッドにおいて検出された。一辺0.97m、深さ0.92mを測る。平面はN73Eに偏する不整隅丸方形、断面形状は箱型である。重複はない。遺物は陶磁器、かわらけ等が出土しており、このうち陶器火鉢、鍋を図示した(第99図213・214)。

1286号土坑 (SK1286(第38図))

B区のMF53・MF54グリッドにおいて検出された。長辺2.11m、短辺1.39m、深さ0.18mを測る。平面は長方形、断面形状は箱型で、底面は平坦である。1273・1274・1285号土坑より古い。西側と北側は攪乱によって消滅する。遺物は陶磁器が出土しており、このうち磁器碗、陶器皿を図示した(第99図215・216)。

1292号土坑 (SK1292(第38図))

B区のMF53グリッドにおいて検出された。長軸0.7m、短軸0.66m、深さ0.07mを測る。平面はN5Eに偏する楕円形、断面形状は逆台形で、底面は比較的平坦である。1010号溝跡より新しい。径4〜15cmの垂円礫や遺物が廃棄される。遺物は陶磁器、かわらけが出土しており、このうち磁器碗、陶器皿、かわらけを図示した(第99図217〜220)。

1293号土坑 (SK1293(第39図))

B区のME53・MF53グリッドにおいて検出された。長軸0.86m、短軸0.83m、深さ0.07mを測る。平面はN60Wに偏する楕円形、断面形状は皿状で、底面はやや平坦である。1010号溝跡より新しい。径2〜21cmの垂円礫や遺物が廃棄される。遺物は陶磁器、土風炉、かわらけ(墨書)、銅銭等が出土しており、このうち磁器杯・碗、かわらけ(墨書)、土風炉、銅銭を図示した(第99図221〜227)。

1294号土坑 (SK1294(第1図))

B区のME53・MF53グリッドにおいて検出された。長軸0.63m、短軸0.53m、深さ0.11mを測る。平面はN25Wに偏する楕円形、断面形状は箱型で、底面は平坦である。重複はない。遺物は陶器碗が出土しており、これを図示した(第99図228)。

1295号土坑 (SK1295(第39図))

B区のME53グリッドにおいて検出された。径0.65m、深さ0.07mを測る。平面は円形、断面形状は逆台形である。1010号溝跡より新しい。径7〜23cmの垂円礫や遺物が廃棄される。遺物はかわらけが出土しており、これを図示した(第99図229・230)。

131号土坑 (SK1311(第1図))

B区のMC53・MC54グリッドにおいて検出された。長軸1.28m、短軸0.94m、深さ0.3mを測る。平面はN37Eに偏する楕円形、断面形状は逆台形である。108号ピット、1012号遺構より古い。1012号溝跡との新旧は不明である。遺物は青磁瓶類が出土しており、これを図示した(第99図231)。

1312号土坑 (SK1312(第39図))

B区のMF52グリッドにおいて検出された。長軸1.16m、短軸0.63m以上、深さ0.38mを測る。平面はN10Wに偏する楕円形、断面形状は箱型である。西側は調査区外である。堆積は5層に細分されるがいず

れも自然堆積状況である。遺物は陶磁器、播鉢、かわらけが出土しており、磁器碗を図示した(第9図232)。

131号土坑(SK1316(第1図)

B区のLZ55・LZ56グリッドにおいて検出された。一辺0.6m、深さ0.53mを測る。平面はN70°Wに偏する隅丸方形、断面形状は箱型である。101号溝跡より古い。中に径4~8cmの垂円礫が廃棄される。遺物は礫に混じって燻瓦片が出土しているが図示できるものはない。

131号土坑(SK1318(第1図)

B区のMA55・MB55グリッドにおいて検出された。長軸0.72m、短軸0.46m、深さ0.1mを測る。平面はN99°Wに偏する楕円形、断面形状は逆台形である。110号ピットより古い。径5~10cm大の垂円礫が廃棄される。遺物は磁器片が出土しており、このうち青磁皿を図示した(第9図233)。

131号土坑(SK1319(第3図)

B区のMA55グリッドにおいて検出された。長辺0.8m、短辺0.58m以上、深さ0.18mを測る。平面はN24°Wに偏する隅丸長方形、断面形状は逆台形である。1320・132号土坑より新しい。1~1cm大の垂円礫が多量に詰め込まれている。遺物は陶磁器、皮革製品が出土しており、不明皮革製品を図示した(第9図234)。

132号土坑(SK1321(第3図)

B区のMA55グリッドにおいて検出された。長軸0.42m以上、短軸0.46m以上、深さ0.12mを測る。平面はN75°Wに偏する楕円形、断面形状は逆台形である。北側底面は掘削時に掘り過ぎている。131号土坑より古い。131号土坑同様2~13cm大の垂円礫が多量に詰め込まれている。遺物は出土していない。

132号土坑(SK1322(第3図)

B区のLZ55・MA55グリッドにおいて検出された。長軸1.33m、短軸1.11m、深さ0.36mを測る。平面はN46°Wに偏する楕円形、断面形状は逆台形である。101号溝跡、109号ピットより新しい。堆積は4層に細分されるがいずれも自然堆積状況である。1・2層を中心に径2~28mm大の垂円礫が廃棄される。遺物は陶磁器、瓦、石造物、黒曜石剥片等が出土しており、このうち陶器花生、不明石造物を図示した(第9図235、第10図236)。

132号土坑(SK1323(第3図)

B区のMB54グリッドにおいて検出された。長軸0.83m以上、短軸0.53m以上、深さ0.25mを測る。平面はN45°Wに偏する長方形、断面形状は箱型である。西側は攪乱により上部削平、南側は調査区外である。3~14cm大の垂円礫が廃棄される。遺物は陶磁器、播鉢、赤瓦、硯、鉄釘が出土しており、このうち播鉢を図示した(第10図237)。

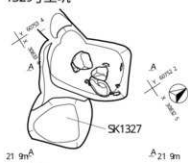
132号土坑(SK1324(第3図)

B区のMB54グリッドにおいて検出された。長軸0.88m、短軸0.65m、深さ0.06mを測る。平面はN10°Eに偏する楕円形、断面形状は箱型である。南側の一部は調査区外である。径2~12mm大の垂円礫が詰め込まれる。遺物は磁器片、鉄釘、青銅製品が出土しており、このうち不明青銅製品を図示した(第10図238)。

132号土坑(SK1329(第4図)

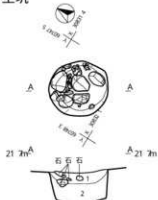
B区のMB54グリッドにおいて検出された。長辺0.87m、短辺0.61m、深さ0.26mを測る。平面はN42°Wに偏する隅丸長方形、断面形状は箱型である。132号土坑より新しく、132号土坑より古い。径3~

1329号土坑



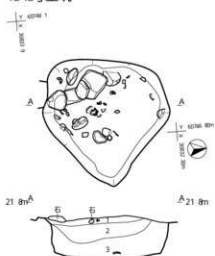
- SK1329土層注記
 1 遺構堆積土：にぶい黄褐色粘質土 10R4 3 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一大ブロック 15 混じる。円礫 5-15φ混じる。しまり中。粘性強。
 2 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10R3 2 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。

134号土坑



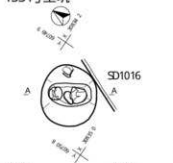
- SK1342土層注記
 1 遺構堆積土：褐色粘質土 10YR4 6 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小一大ブロック 40 混じる。しまり中。粘性強。
 2 遺構堆積土：灰黄褐色粘質土 10R4 2 に炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。

134号土坑



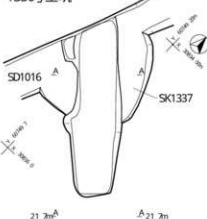
- SK134土層注記
 1 遺構堆積土：黄褐色粘土 2 5Y3 1 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 20 混じる。炭化物粒子 2 混じる。グライ化する。しまり中。粘性強。
 2 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10R3 2 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 20 混じる。しまり中。粘性中。
 3 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10R3 2 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 粒子 15 混じる。しまり中。粘性中。

133号土坑



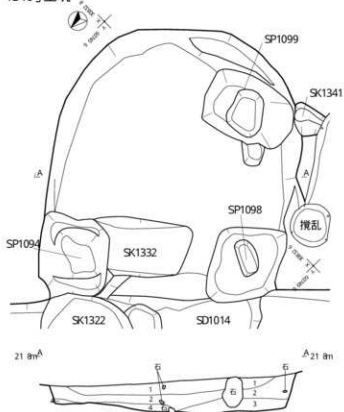
- SK133土層注記
 1 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10R3 1 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 粒子 15 混じる。円礫 3-7φ混じる。しまり中。粘性中。

133号土坑

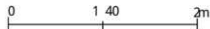


- SK133土層注記
 1 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10R3 2 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 15 混じる。炭化物粒子・灰土粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
 2 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10R2 2 ににぶい黄褐色粘土 10R7 2 粒子 5 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
 3 遺構堆積土：にぶい黄褐色粘質土 10R4 3 ににぶい黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック 10 混じる。しまり中。粘性中。

134号土坑



- SK134土層注記
 1 遺構堆積土：灰黄褐色粘質土 10R4 2 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
 2 遺構堆積土：にぶい黄褐色粘質土 10R4 3 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 10 混じる。しまり中。粘性中。
 3 遺構堆積土：灰黄褐色粘土 10R5 2 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一大ブロック 40 混じる。しまり強。粘性強。
 4 遺構堆積土：灰黄褐色粘質土 10R5 2 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 40 混じる。しまり強。粘性強。



第4図 第1遺構面検出遺構面・断面図(土坑7)

27m大の垂円礫が廃棄される。遺物は陶磁器、播鉢が出土しているが、図示できるものはない。

133号土坑（SK1330(第1図)）

B区のMA54・MB54グリッドにおいて検出された。長軸0.7m以上、短軸0.33m以上、深さ0.13mを測る。平面はN53 Bに偏する楕円形、断面形状は箱型である。底面は中央部が窪む。133号土坑より新しい。南側は調査区外である。遺物は陶磁器片が出土しており、このうち青磁皿を図示した(第10図239)。

133号土坑（SK1334(第4図)）

B区のMA54グリッドにおいて検出された。長軸0.65m以上、短軸0.59m、深さ0.32mを測る。平面はN55 Bに偏する楕円形、断面形状は逆台形である。底面は長軸0.45m、短軸0.24mの楕円形に掘り窪められており、その中に径13~14cmの垂円礫が詰められていた。重複はない。遺物は出土していない。

133号土坑（SK1336(第4図)）

B区のMA54グリッドにおいて検出された。長軸1.85m、短軸0.55m、深さ0.42mを測る。平面はN42 WCに偏する溝状の隅丸長方形で、断面形状は箱型で、底面は平坦である。133号土坑より新しい、101号溝跡より古い。堆積は3層に細別され自然堆積状況である。遺物は陶磁器が出土しており、このうち磁器碗を図示した(第10図240・241)。

133号土坑（SK1337(第1図)）

B区のMA54グリッドにおいて検出された。長軸1.09m以上、短軸1.14m以上、深さ0.14mを測る。平面はN40 WCに偏する楕円形で、断面形状は逆台形で、底面は平坦である。131号溝跡、133号土坑より古い。遺物は陶磁器、かわらけが出土しており、このうち磁器皿、陶器碗、かわらけを図示した(第10図242~244)。

134号土坑（SK1342(第4図)）

B区のLZ54・LZ55・MA54・MA55グリッドにおいて検出された。長軸0.63m、短軸0.57m、深さ0.34mを測る。平面はN31 WCに偏する楕円形で、断面形状は箱型で、底面は中央部がやや窪む。134号土坑より新しい。3~22mの垂円礫が詰め込まれる。遺物は陶磁器、燻瓦が出土しており、このうち磁器碗を図示した(第10図245・246)。

134号土坑（SK1343(第4図)）

B区のLZ54グリッドにおいて検出された。長軸1.41m、短軸1.23m、深さ0.41mを測る。平面はN32 WCに偏する隅丸台形で、断面形状は箱型である。134号土坑より新しい。1099・111号ピットより古い。1層中に径6~30mの垂円礫が廃棄される。遺物は陶磁器、かわらけ、焼塩壺が出土しており、このうち青磁瓶類、磁器碗を図示した(第10図247~251)。

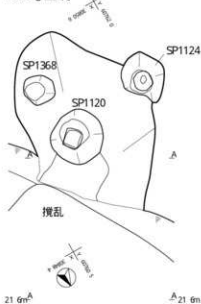
134号土坑（SK1344(第1図)）

B区のLZ54グリッドにおいて検出された。長辺1.29m以上、短辺0.39m以上、深さ0.04mを測る。平面はN9 Bに偏する溝状の長方形で、断面形状は逆台形で、底面は平坦である。134号土坑より新しく、1099号ピットより古い。遺物はかわらけが出土しており、これを図示した(第10図252)。

134号土坑（SK1346(第4図)）

B区のLZ54・LZ55・MA54・MA55グリッドにおいて検出された。長軸2.68m、短軸2.59m、深さ0.4mを測る。平面はN34 WCに偏する楕円形で、断面形状は逆台形で、底面はやや中央に窪む。134号土坑より新しく、1343・1344号土坑、1096・1098・1099・111号ピットより古い。遺物は陶磁器、播鉢、かわらけ、燻瓦等が出土しており、このうち磁器碗、陶器皿、瓦質土器鉢、かわらけを図示した(第10図253~256 第10図257~259)。

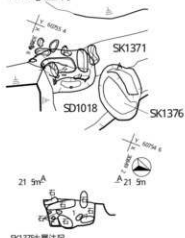
136号土坑



SK136E土層注記

- 1 遺構増補土： にごい黄褐色粘土 10F64 3 ににごい黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小一中ブロック 30 混じる。円礫 2-4cm 混じる。しまり中。粘性強。
- 2 遺構増補土： にごい黄褐色粘土 10F65 4 ににごい黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小一中ブロック 20、にごい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一中ブロック 20 混じる。円礫 10cm 混じる。しまり強。粘性強。
- 3 遺構増補土： にごい黄褐色粘土 10F64 3 ににごい黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小一中ブロック 20 混じる。円礫 3cm 混じる。しまり強。粘性強。
- 4 遺構増補土： 褐色粘土 10F64 4 ににごい黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小一中ブロック 20 混じる。円礫 2cm 混じる。しまり強。粘性強。
- 5 遺構増補土： にごい黄褐色粘土 10F65 4 ににごい黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小一中ブロック 15 混じる。しまり強。粘性強。
- 6 遺構増補土： にごい黄褐色粘土 10F64 3 ににごい黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小一中ブロック 30 混じる。しまり強。粘性強。

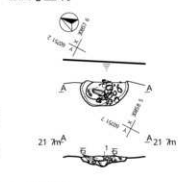
137号土坑



SK137土層注記

- 1 遺構増補土： にごい黄褐色粘土 10F64 3 ににごい黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小一中ブロック 15 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり強。粘性中。

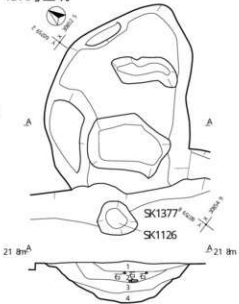
139号土坑



SK139土層注記

- 1 遺構増補土： 褐色粘土 10F64 6 ににごい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一中ブロック 20、にごい黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小一中ブロック 20 混じる。円礫 3-7cm 混じる。しまり強。粘性中。

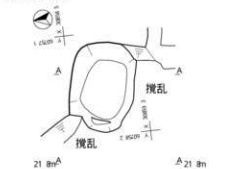
137号土坑



SK137土層注記

- 1 遺構増補土： 暗褐色粘土 10R3 3 に炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 遺構増補土： にごい黄褐色粘土 10F64 3 に円礫 2-7cm 混じる。細砂混じる。しまり中。粘性中。
- 3 遺構増補土： 黄褐色粘土 10R3 2 ににごい黄褐色粘土 10Y67 4 粒子・小ブロック 3 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
- 4 遺構増補土： にごい黄褐色粘土 10F64 3 ににごい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一中ブロック 20 混じる。しまり中。粘性中。

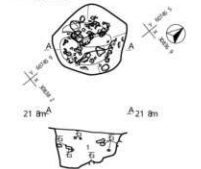
139号土坑



SK139土層注記

- 1 遺構増補土： 暗褐色粘土 10R3 4 に黄褐色粘土 10R 5 8 粒子・小一中ブロック 15、にごい黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック 15 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 遺構増補土： 黄褐色粘土 10R3 2 ににごい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一中ブロック 10 混じる。しまり中。粘性中。
- 3 遺構増補土： 黄褐色粘土 10R3 2 ににごい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一中ブロック 10、にごい黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小一中ブロック 10 混じる。しまり中。粘性中。

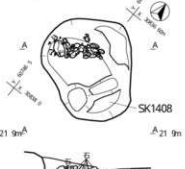
140号土坑



SK140土層注記

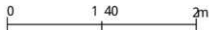
- 1 遺構増補土： 黒褐色粘土 10R2 3 ににごい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 10 混じる。円礫 3-10cm 混じる。炭化物粒子・炭土粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。

141号土坑



SK141土層注記

- 1 遺構増補土： 黄褐色粘土 10R3 2 ににごい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一中ブロック 7 混じる。円礫 3-7cm 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。



第24図 第1遺構面検出遺構面・断面図(土坑8)

136号土坑 (SK1369(第4図))

C区のM50グリッドにおいて検出された。長軸1.5m、短軸1.5m、深さ0.45mを測る。平面はN37°Eに偏する楕円形で、断面形状は逆台形である。北東側は攪乱により消失する。136号土坑、1120・112号ピットより古い。全体に径3～10cm程度の垂円礫を含む。遺物は陶磁器、鉄釘が出土しているが図示するものはない。

137号土坑 (SK1375(第4図))

C区のM50グリッドにおいて検出された。長軸0.7m以上、短軸0.46m、深さ0.33mを測る。平面はN23°Wに偏する楕円形で、断面形状は箱型である。底面は凹凸が見られる。南側は調査区外である。1018号溝跡、137号土坑より古い。径7～36cmの垂円礫が廃棄される。遺物は陶磁器片が出土しているが図示するものはない。

137号土坑 (SK1377(第4図))

C区のMC48・MC49・MD48・MD49グリッドにおいて検出された。長軸4.73m、短軸3.41m、深さ0.4mを測る。平面はN41°Wに偏する隅丸長方形で、断面形状は逆台形で、底面は平坦である。1126・112号土坑より新しく、137号土坑、102号礎石跡(100号堀跡)より古い。堆積は4層に細別され1～3層は遺物を多く含み人為的埋立層、4層が自然堆積状況である。1～3層は炭化物や一部炭化した木片を含んでいることから、火災等の片付け行為に伴う廃棄土坑と思われる。遺物は陶磁器、かわらけ、焼塩壺、燻瓦、鉄釘、銅銭、少量であるが巻貝が出土しており、このうち青磁碗、磁器碗・皿、陶器碗・皿・徳利、かわらけ、焼塩壺、鉄釘、煙管、銅銭を図示した(第10図262～277、第10図278～308)。

137号土坑 (SK1378(第4図))

C区のMC49・MD49グリッドにおいて検出された。長軸1.99m以上、短軸1.55m、深さ0.37mを測る。平面はN72°Eに偏する楕円形で、断面形状は逆台形である。底面は凹凸が見られる。1126号ピットより新しく、137号土坑より古い。遺物は陶磁器、鉄釘が出土しており、このうち鉄釘を図示した(第10図309)。

139号土坑 (SK1391(第4図))

C区のMC48グリッドにおいて検出された。長軸0.94m、短軸0.68m、深さ0.67mを測る。平面はN74°Wに偏する楕円形で、断面形状は箱型である。底面は平坦である。重複はない。南側は攪乱により上部が削平される。遺物は磁器片、燻瓦が出土しているが、図示するものはない。

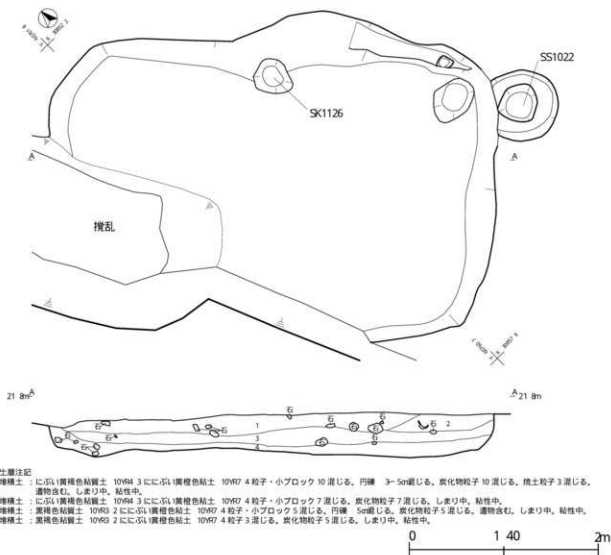
139号土坑 (SK1396(第4図))

C区のMA48グリッドにおいて検出された。長軸0.5m、短軸0.25m以上、深さ0.07mを測る。平面はN27°Wに偏する楕円形で、断面形状は皿状である。底面は凹凸が見られる。東側は調査区外である。径2～13cmの垂円礫が廃棄される。重複はない。遺物は出土していない。

140号土坑 (SK1408(第4図))

C区のL253グリッドにおいて検出された。長軸0.71m、短軸0.57m、深さ0.45mを測る。平面はN29°Wに偏する不整形円で、断面形状は箱型で、底面は南側に深くなる。径2～15cmの垂円礫が廃棄される。1410・141号土坑より新しい。遺物は陶磁器、鉄釘、銅銭が出土しており、このうち磁器碗、陶器鉢、銅銭を図示した(第10図310～312)。

137号土坑



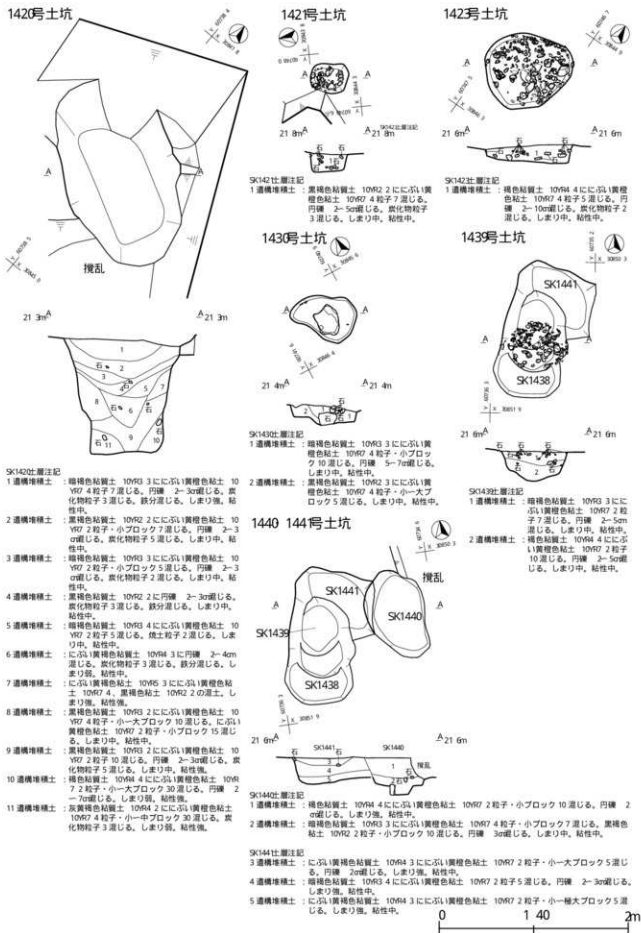
第4図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(土坑9)

141号土坑 (SK1410 (第4図))

C区のLZ53グリッドにおいて検出された。長軸0.72m以上、短軸0.96m、深さ0.33mを測る。平面はN54°Wに偏する不整形円形で、断面形状は箱型で、底面は平坦である。径1~16cmの亜円礫が廃棄される。141号土坑より新しく、140号土坑より古い。遺物は鉄釘、煙管、銅銭が出土しており、このうち煙管、銅銭を図示した(第10図313~314)。

142号土坑 (SK1420 (第4図))

C区のLX51・LY52グリッドにおいて検出された。長軸2.02m以上、短軸1.2m、深さ1.22mを測る。平面はN58°Wに偏する楕円形で、断面形状は箱型で、底面は平坦である。堆積は1層に細別されるがいずれも自然堆積状況である。攪乱により上部を削平される。北側の一部は調査区外である。重複はない。遺物は陶磁器、播鉢、燻瓦、鉄釘、少量ではあるが巻貝が出土しており、このうち陶器皿、鉢を図示した(第103図315~317)。



第4図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(土坑10)

142号土坑 (SK1421(第43図))

C区のMA51・MA52グリッドにおいて検出された。長軸0.39m以上、短軸0.31m、深さ0.2mを測る。平面はN7 Bに偏する楕円形で、断面形状は箱型である。重複はない。径1~8cmの垂円礫が廃棄される。遺物の出土はない。

142号土坑 (SK1423(第43図))

C区のLZ51グリッドにおいて検出された。長軸0.92m、短軸0.79m、深さ0.13mを測る。平面はN49 Bに偏する楕円形で、断面形状は逆台形である。径3~15cmの垂円礫が廃棄される。重複はない。遺物の出土はない。

143号土坑 (SK1430(第43図))

C区のLY51グリッドにおいて検出された。長軸0.92m、短軸0.79m、深さ0.13mを測る。平面はN49 Bに偏する楕円形で、断面形状は逆台形である。中央底面に23cm×33cmの砂岩が据え置かれる。遺物の出土はない。

143号土坑 (SK1439(第43図))

C区のLV60・LX50グリッドにおいて検出された。長軸0.86m、短軸0.7m、深さ0.34mを測る。平面はN1 Bに偏する楕円形で、断面形状は逆台形で、底面は北側が1段深くなる。径2~8cmの垂円礫が廃棄される。144号土坑より新しく、143号土坑より古い。遺物は鉄釘が出土しており、これを図示した(第103図318)。

144号土坑 (SK1440(第43図))

C区のLV60グリッドにおいて検出された。長軸0.98m、短軸0.61m、深さ0.31mを測る。平面はN13 WCに偏する楕円形で、断面形状は逆台形である。144号土坑より新しい。遺物の出土はない。

144号土坑 (SK1441(第43図))

C区のLV60・LX50グリッドにおいて検出された。長軸0.99m、短軸0.66m以上、深さ0.24mを測る。平面はN43 WCに偏する楕円形で、断面形状は逆台形である。1439・1440号土坑より古い。遺物はかわらけ、鉄釘が出土するが、図示するものはない。

144号土坑 (SK1445(第44図))

C区のLY49グリッドにおいて検出された。長軸0.83m、短軸0.57m以上、深さ0.12mを測る。平面はN43 Bに偏する楕円形で、断面形状は箱型である。北側底面には0.18m×0.11m、深さ0.1mの楕円形の掘込が認められる。3~20cmの垂円礫が廃棄される。1156号土坑より新しく、144号土坑より古い。攪乱により南側は消滅。遺物の出土はない。

146号土坑 (SK1460(第14図))

C区のLV49グリッドにおいて検出された。長軸0.6m以上、短軸0.42m以上、深さ0.23mを測る。平面はN42 WCに偏する溝状の長方形で、断面形状は箱型である。底面は平坦である。146号土坑より新しく、1459号土坑、1159号ピットより古い。攪乱により南側は消滅。遺物は磁器が出土しており、このうち磁器碗を図示した(第103図319)。

146号土坑 (SK1463(第14図))

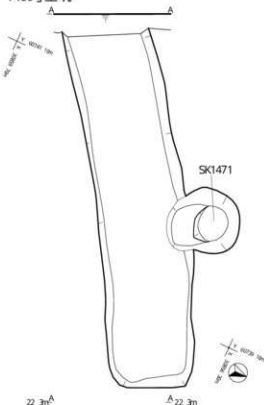
C区のLV49グリッドにおいて検出された。長軸0.93m、短軸0.59m、深さ0.53mを測る。平面はN65 WCに偏する不正楕円形で、断面形状は逆台形である。底面は中央部が1段低くなる。遺物は磁器、かわらけ、鉄釘が出土しており、このうち磁器碗を図示した(第103図320)。

144号土坑



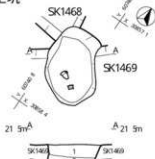
- SK1445土層注記
- 1 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10YR3 3 に 5% 1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小一ブロック 5 混じる。しまり中。粘性中。円礫 7~10mm 混じる。しまり中。粘性中。
 - 2 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10YR4 4 に 5% 1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小一ブロック 7 混じる。円礫 2~3mm 混じる。しまり中。粘性中。

146号土坑



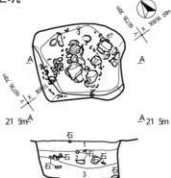
- SK1469土層注記
- 1 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10YR3 4 に 5% 1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子 10 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
 - 2 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10YR3 4 に 5% 1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子 3 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
 - 3 遺構堆積土：褐色粘質土 10YR4 4 に 5% 1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小一ブロック 7 混じる。しまり中。粘性中。
 - 4 遺構堆積土：褐色粘質土 10YR4 4 に 5% 1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小一ブロック 15 混じる。しまり中。粘性中。
 - 5 遺構堆積土：5% 1 黄褐色粘土 10YR4 3 に 5% 1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
- 1 表土層：灰黄褐色粘質土 10YR4 2 に円礫 2~5mm 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 表土層：5% 1 黄褐色粘土 10YR4 4 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小一ブロック 50 混じる。しまり強。粘性強。
- 1 整地層：5% 1 黄褐色粘土 10YR4 3 に 5% 1 黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小一ブロック 2 混じる。円礫 3~5mm 混じる。しまり強。粘性強。
- 2 整地層：暗褐色粘質土 10YR3 3 に 5% 1 黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小一ブロック 3 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
- 3 整地層：暗褐色粘質土 10YR3 3 に炭化物粒子 30 混じる。しまり中。粘性中。
- 整地層：褐色粘質土 10YR4 4 に炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。

147号土坑



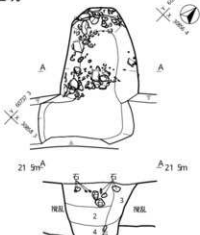
- SK147土層注記
- 1 遺構堆積土：5% 1 黄褐色粘質土 10YR4 3 に 5% 1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小一ブロック 5 混じる。炭化物粒子 7 混じる。しまり中。粘性中。
 - 2 遺構堆積土：灰黄褐色粘質土 10YR4 2 に 5% 1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小ブロック 10 混じる。しまり中。粘性中。
 - 3 遺構堆積土：褐色粘質土 10YR4 4 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子 10 混じる。しまり中。粘性中。

147号土坑

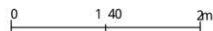


- SK147土層注記
- 1 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10YR2 2 に 5% 1 黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小一ブロック 大ブロック 10 混じる。円礫 3mm 混じる。しまり中。粘性中。
 - 2 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10YR3 3 に 5% 1 黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 7 混じる。円礫 3~15mm 混じる。しまり中。粘性中。
 - 3 遺構堆積土：灰黄褐色粘質土 10YR4 2 に 5% 1 黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 10 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。

147号土坑

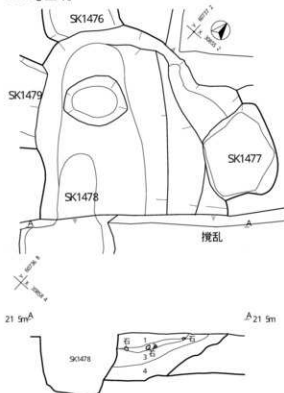


- SK147土層注記
- 1 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10YR3 4 に円礫 3~10mm 混じる。炭化物粒子 5 混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性中。
 - 2 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10YR3 2 に円礫 2~5mm 混じる。炭化物粒子 10 混じる。しまり中。粘性中。
 - 3 遺構堆積土：5% 1 黄褐色粘土 10YR4 3 に 5% 1 黄褐色粘土 10YR7 2 粒子 10 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
 - 4 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10YR3 2 に円礫 3~5mm 混じる。炭化物粒子 3 混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性中。



第4図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(土坑 11)

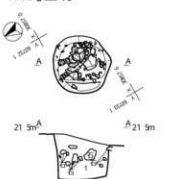
148号土坑



SK148土層注記

- 1 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10YR4 4 にぶい黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 5 混じる。にぶい黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・中一次ブロック 3 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 遺構堆積土 : 褐色粘土 10YR4 4 にぶい黄褐色粘土 10YR7 4 主体。円礫 2-3mm 混じる。しまり強。粘性強。
- 3 遺構堆積土 : にぶい黄褐色粘質土 10YR4 3 にぶい黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 15 混じる。しまり強。粘性中。
- 4 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10YR3 4 にぶい黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 5 混じる。炭化物粒子 10 混じる。しまり中。粘性中。

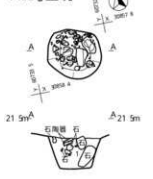
148号土坑



SK148土層注記

- 1 遺構堆積土 : 黄褐色粘質土 10YR3 2 にぶい黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 7 混じる。円礫 3-10mm 混じる。しまり中。粘性中。

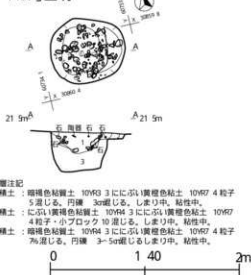
148号土坑



SK148土層注記

- 1 遺構堆積土 : 黄褐色粘質土 10YR2 3 にぶい黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 10 混じる。円礫 3-15mm 混じる。しまり中。粘性中。

148号土坑



SK148土層注記

- 1 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10YR3 3 にぶい黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 5 混じる。円礫 3mm 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 遺構堆積土 : にぶい黄褐色粘質土 10YR4 3 にぶい黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 10 混じる。しまり中。粘性中。
- 3 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10YR4 3 にぶい黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 7 混じる。円礫 3-5mm 混じる。しまり中。粘性中。

第45図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(土坑12)

1469号土坑 (SK1469(第44図))

C区のLX48・LY48グリッドにおいて検出された。長軸376m以上、短軸095m以上、深さ021mを測る。平面はN58°Eに偏する溝状の長方形で、断面形状は箱型である。底面は平坦である。147号土坑より新しく、1470・147号土坑、116号ピットより古い。西側は調査区外。遺物は陶磁器、かわらけ、燻瓦、鉄釘等が出土しており、このうち磁器瓶、陶器皿を図示した(第10図321・322)。

147号土坑 (SK1470(第44図))

C区のLY48グリッドにおいて検出された。長軸083m、短軸053m、深さ026mを測る。平面はN32°Wに偏する楕円形で、断面形状は箱型である。底面は平坦である。1468号土坑より新しく、1469号土坑より古い。遺物は陶器、かわらけ、鉄釘が出土しており、このうちかわらけを図示した(第10図323)。

147号土坑 (SK1477(第44図))

C区のW48・W49・LX48・LY48グリッドにおいて検出された。長辺09m、短辺079m、深さ046mを測る。平面はN52°Wに偏する隅丸方形で、断面形状は箱型である。底面は中央がやや窪む。径3-20mmの

亜円礫が廃棄される。1479・1480号土坑より新しい。遺物は磁器、鉄釘、砥石が出土しており、このうち砥石を図示した(第10図324)。

147号土坑(SK1478(第4図))

C区のLX48グリッドにおいて検出された。長軸1.39m以上、短軸0.77m、深さ0.57mを測る。平面はN36°Wに偏する楕円形で、断面形状は逆台形である。底面は平坦である。1層を中心に径2〜1cmの亜円礫が廃棄される。1479・1480号土坑より新しい。南側は攪乱により削平。遺物は陶磁器、鉄釘、石造物が出土しており、このうち陶器碗、不明石造物を図示した(第10図325・326)。

147号土坑(SK1479(第14・16図))

C区のLX48・LX49グリッドにおいて検出された。長辺2.57m以上、短辺0.96m、深さ0.21mを測る。平面はN57°Eに偏する溝状の長方形で、断面形状は逆台形である。底面は凹凸が認められる。堆積は4層に細別されるが4層を中心に径3〜7cmの亜円礫が廃棄される。1449・1452・147号土坑より古い。遺物は磁器、かわらけ、鉄釘が出土しているが、図示するものはない。

148号土坑(SK1480(第4図))

C区のLV48・LX48・LX49グリッドにおいて検出された。長軸1.96m以上、短軸1.38m、深さ0.68mを測る。平面はN40°Wに偏する楕円形で、断面形状は逆台形である。堆積は4層に細別されるが自然堆積状態である。102号溝跡より新しい。1443・1446・1449・1450・1452号土坑、115号ピットより古い。遺物は陶磁器、かわらけ、燻瓦、漆器碗、鉄釘が出土しており、このうち磁器皿・碗、陶器碗・天目碗・鉢を図示した(第10図327〜331)。

148号土坑(SK1483(第4図))

C区のLV48グリッドにおいて検出された。径0.61m、深さ0.36mを測る。平面は円形で断面形状は箱型である。中位に径2〜15cm大の亜円礫を廃棄する。102号溝跡より古い。遺物は陶磁器、棧瓦(赤瓦)等が出土しているが、図示するものはない。

148号土坑(SK1485(第4図))

C区のLV48グリッドにおいて検出された。径0.61m、深さ0.36mを測る。平面は円形で断面形状は箱型である。径1〜18cm大の亜円礫を廃棄する。重複はない。遺物は磁器片等が出土しているが、図示するものはない。

148号土坑(SK1487(第4図))

C区のLV47・LV48グリッドにおいて検出された。径0.61m、深さ0.36mを測る。平面は円形で断面形状は箱型である。堆積は3層に細分されるが自然堆積状況である。1層に径1〜9cm大の亜円礫を廃棄する。121号土坑より新しい。遺物は陶磁器、かわらけ、鉄釘が出土しているが、図示するものはない。

148号土坑(SK1488(第4図))

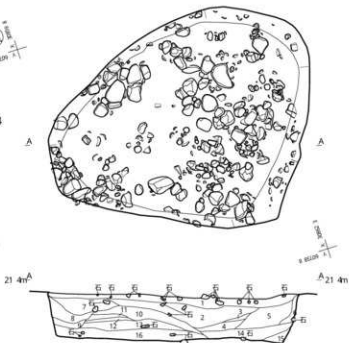
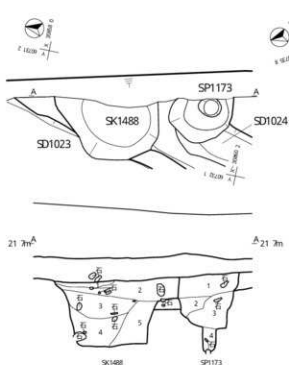
C区のLV47・LV48グリッドにおいて検出された。長軸1.17m、短軸0.61m以上、深さ0.57mを測る。平面はN12°Eに偏する楕円形で断面形状は逆台形である。底面は平坦である。堆積は5層に細分されるが自然堆積状況である。102号溝跡より新しい。遺物は陶器片が出土しているが、図示するものはない。

148号土坑(SK1489(第16図))

C区のLX4グリッドにおいて検出された。長軸0.56m以上、短軸0.59m、深さ0.58mを測る。平面はN2°Wに偏する不整楕円形で断面形状は逆台形である。底面は凹凸が著しい。149号土坑より新しい。遺物は陶器、鉄釘が出土しており、このうち陶器蓋を図示した(第10図332)。

148号土坑・117号ピット

149号土坑



SK1488土層注記

- 表土層 : 黒褐色粘質土 10YR3 1に黄褐色粘土 10YR5 8粒子・小一大ブロック10混じる。円礫 2~3cm混じる。しまり強。粘性中。
- 整地層 : 黒褐色粘質土 10YR3 2に円礫 3~7cm混じる。炭化物粒子3混じる。しまり中。粘性中。
- 整地層 : 暗褐色粘質土 10YR3 3に5Y1黄褐色粘土 10YR7 4粒子5混じる。炭化物粒子5混じる。しまり中。粘性中。
- 整地層 : 黄褐色粘土 10YR5 8主体。しまり強。粘性強。
- 5遺構堆積土 : 暗褐色粘土 10YR6 6に5Y1黄褐色粘土 10YR7 4の純層。しまり強。粘性強。
- 6遺構堆積土 : 黒褐色粘質土 10YR3 2に円礫 2~10cm混じる。炭化物粒子3混じる。しまり中。粘性中。
- 7遺構堆積土 : 5Y1黄褐色粘質土 10YR4 3に5Y1黄褐色粘土 10YR7 2粒子・小ブロック30混じる。5Y1黄褐色粘土 10YR7 4粒子・小ブロック7混じる。しまり強。粘性中。
- 8遺構堆積土 : 灰黄褐色粘質土 10YR4 2に5Y1黄褐色粘土 10YR7 4粒子・小中ブロック15混じる。しまり強。粘性中。
- 9遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10YR3 4に5Y1黄褐色粘土 10YR7 4粒子・小中ブロック30混じる。5Y1黄褐色粘土 10YR7 2粒子・小ブロック15混じる。しまり強。粘性中。

SPI17土層注記

- 1遺構堆積土 : 黒褐色粘質土 10YR3 2に5Y1黄褐色粘土 10YR7 4粒子・小ブロック7混じる。円礫 5cm混じる。しまり中。粘性中。
- 2遺構堆積土 : 褐色粘土 10YR4 4に5Y1黄褐色粘土 10YR7 4粒子5混じる。しまり中。粘性中。
- 3遺構堆積土 : 褐色粘土 10YR4 4に5Y1黄褐色粘土 10YR7 4粒子5混じる。しまり中。粘性中。
- 4柱礎 : 黒褐色粘質土 10YR3 3に5Y1黄褐色粘土 10YR7 4粒子7混じる。円礫 3~5cm混じる。しまり中。粘性中。

SK1492土層注記

- 1遺構堆積土 : 褐色粘質土 10YR4 4に円礫 3~10cm混じる。炭化物粒子2混じる。しまり中。粘性中。
- 2遺構堆積土 : 5Y1黄褐色粘質土 10YR5 4に5Y1黄褐色粘土 10YR7 4粒子・小中ブロック、5Y1黄褐色粘土 10YR7 2粒子・小中ブロック、黒褐色粘土 10YR2 2粒子・小ブロックの混土。円礫 3~10cm混じる。しまり強。粘性強。
- 3遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10YR3 4に5Y1黄褐色粘土 10YR7 4粒子・小ブロック7混じる。しまり中。粘性中。
- 4遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10YR3 3に5Y1黄褐色粘土 10YR7 4粒子・小ブロック7混じる。しまり中。粘性中。
- 5遺構堆積土 : 褐色粘質土 10YR4 6に5Y1黄褐色粘土 10YR7 2粒子・小ブロック3混じる。しまり中。粘性中。
- 6遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10YR3 4に5Y1黄褐色粘土 10YR7 4粒子3混じる。しまり中。粘性中。
- 7遺構堆積土 : 褐色粘質土 10YR4 4に5Y1黄褐色粘土 10YR7 4粒子・小一大ブロック40混じる。円礫 3~5cm混じる。しまり中。粘性中。
- 8遺構堆積土 : 褐色粘質土 10YR4 4に5Y1黄褐色粘土 10YR7 4粒子・小ブロック40混じる。しまり強。粘性中。
- 9遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10YR3 3に5Y1黄褐色粘土 10YR7 4粒子・小中ブロック40混じる。黒褐色粘土 10YR2 2粒子・小一大ブロック30混じる。しまり中。粘性中。
- 10遺構堆積土 : 黒色粘質土 10YR2 1に5Y1黄褐色粘土 10YR7 4粒子・小一大ブロック5混じる。しまり中。粘性中。
- 11遺構堆積土 : 5Y1黄褐色粘質土 10YR5 4主体。しまり中。粘性強。
- 12遺構堆積土 : 黒褐色粘質土 10YR3 3に5Y1黄褐色粘土 10YR7 4粒子5混じる。しまり中。粘性中。
- 13遺構堆積土 : 褐色粘土 10YR4 6に5Y1黄褐色粘土 10YR7 4粒子・小中ブロック40混じる。しまり中。粘性強。
- 14遺構堆積土 : 5Y1黄褐色粘質土 10YR4 3に5Y1黄褐色粘土 10YR7 2粒子・小ブロック10混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性中。
- 15遺構堆積土 : 黒褐色粘質土 10YR3 2に5Y1黄褐色粘土 10YR7 2粒子・小中ブロック10混じる。しまり中。粘性強。

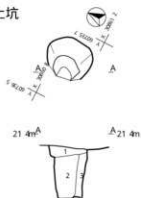
SK1492土層注記

- 16遺構堆積土 : 5Y1黄褐色粘質土 10YR5 4に5Y1黄褐色粘土 10YR7 2粒子・小一大ブロック、5Y1黄褐色粘土 10YR7 4粒子・小一大ブロックの混土。しまり中。粘性強。

0 1 40 2m

第24図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(土坑13)

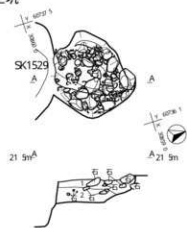
149号土坑



SK1478土層注記

- 1 遺構堆積土：赤褐色粘質土 10FR 2 にふい1黄褐色粘土 10FR 4 粒子・小ブロック 7 混じる。円礫 30 混じる。炭化物粒子 5 混じる。鉄分混じる。しまり中、粘性中。
- 2 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10FR 3 に炭化物粒子 10 混じる。しまり中、粘性中。
- 3 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10FR 4 にふい1黄褐色粘土 10FR 4 粒子・小ブロック 10 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり強、粘性中。

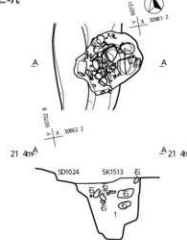
149号土坑



SK1498土層注記

- 1 遺構堆積土：褐色粘質土 10FR 4 にふい1黄褐色粘土 10FR 7 4 粒子 5 混じる。円礫 2~15cm 混じる。しまり中、粘性中。
- 2 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10FR 4 にふい1黄褐色粘土 10FR 7 4 粒子 10 混じる。円礫 2~15cm 混じる。しまり中、粘性中。

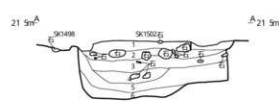
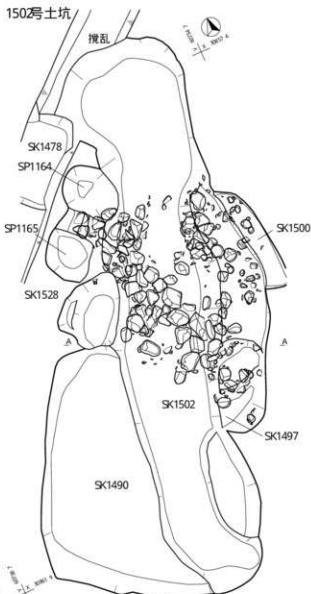
151号土坑



SK1512土層注記

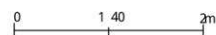
- 1 遺構堆積土：赤褐色粘質土 10FR 2 にふい1黄褐色粘土 10FR 7 4 粒子 10 混じる。円礫 3~13cm 混じる。しまり中、粘性中。

150号土坑



SK1502土層注記

- 1 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10FR 3 にふい1黄褐色粘土 10FR 7 4 粒子 3 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中、粘性中。
- 2 遺構堆積土：赤褐色粘質土 10FR 2 にふい1黄褐色粘土 10FR 7 4 粒子 3 混じる。円礫 5~15cm 混じる。しまり中、粘性中。
- 3 遺構堆積土：褐色粘質土 10FR 4 にふい1黄褐色粘土 10FR 7 2 粒子 3 混じる。円礫 2cm 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中、粘性中。
- 4 遺構堆積土：褐色粘質土 10FR 4 にふい1黄褐色粘土 10FR 7 2 粒子・小ブロック 10 混じる。円礫 2~3cm 混じる。しまり中、粘性中。
- 5 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10FR 4 にふい1黄褐色粘土 10FR 7 4 粒子・小ブロック 15 混じる。円礫 2~3cm 混じる。しまり中、粘性中。
- 6 遺構堆積土：赤褐色粘質土 10FR 2 にふい1黄褐色粘土 10FR 7 2 粒子 2 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中、粘性中。



第4図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(土坑14)

1490号土坑 (SK1490(第48図))

C区のLV47・LV48グリッドにおいて検出された。長軸2.67m以上、短軸2.3m、深さ0.52mを測る。平面はN21 Bに偏する不整形台形で断面形状は箱型である。底面は平坦である。102号溝跡、1492・1495・1496・1497・1498号土坑より新しく、148号土坑より古い。堆積は1層に細分されるが自然堆積状況である。1層を中心に径3〜22m大の亜円礫が廃棄される。遺物はこれら亜円礫と共に陶磁器、搦鉢、燻瓦、鉄釘が出土しており、このうち磁器皿、陶器皿・碗を図示した(第104図333〜335)。

1497号土坑 (SK1497(第47図))

C区のLV47・LV48グリッドにおいて検出された。長軸0.44m以上、短軸0.48m、深さ0.55mを測る。平面はN77 Bに偏する楕円形で断面形状は逆台形である。1490号土坑より古い。遺物は磁器片が出土しているが、図示するものはない。

1498号土坑 (SK1498(第47図))

C区のLV48グリッドにおいて検出された。長軸0.91m以上、短軸0.87m、深さ0.2mを測る。平面はN39 Bに偏する不整形楕円形で断面形状は逆台形である。150号土坑より新しく、1490号土坑より古い。遺物は陶器片が出土しているが、図示するものはない。

150号土坑 (SK1502(第47図))

C区のLV47・LV48・LV47・LV48グリッドにおいて検出された。長軸2.61m以上、短軸1.97m、深さ0.66mを測る。平面はN17 Bに偏する楕円形で断面形状は箱型である。底面は平坦である。1490・1498・1499・1500・150号土坑、1164・1165号ピットより新しい。堆積は6層に細分されるが自然堆積状況である。1・2層を中心に径2〜25m大の亜円礫が廃棄される。遺物はこれら亜円礫と共に陶磁器、燻瓦、鉄釘が出土しており、このうち陶器碗、鉄釘を図示した(第104図336・337)。

150号土坑 (SK1504(第16図))

C区のLV47グリッドにおいて検出された。長軸0.33m、短軸0.27m、深さ0.1mを測る。平面はN77 VCに偏する楕円形で断面形状は箱型である。底面は平坦である。重複はない。遺物は磁器が出土しており、このうち白磁香炉を図示した(第104図338)。

151号土坑 (SK1513(第47図))

C区のLV47・LV47グリッドにおいて検出された。長軸0.67m、短軸0.56m、深さ0.65mを測る。平面はN60 Bに偏する楕円形で断面形状は箱型である。底面は中央部が1段深くなる。102号溝跡、1175・1176・1177号ピットより新しい。中に径1〜15m大の亜円礫が廃棄される。遺物は陶磁器片が出土しているが、図示するものはない。

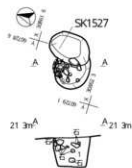
152号土坑 (SK1528(第48図))

C区のLV47グリッドにおいて検出された。径0.37m、深さ0.33mを測る。平面円形で、断面形状は箱型である。1527・153号土坑より新しい。径1〜13m大の亜円礫が廃棄される。遺物は出土しない。

153号土坑 (SK1530(第48図))

C区のLV47・LV47グリッドにおいて検出された。長軸1.03m、短軸0.71m、深さ0.2mを測る。平面はN70 VCに偏する楕円形で断面形状は箱型である。底面は平坦である。153号土坑より新しく152号土坑より古い。径1〜24m大の亜円礫が廃棄される。遺物は陶磁器片、鉄釘が出土しているが、図示するものはない。

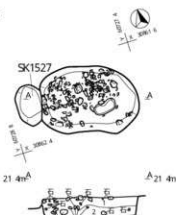
152号土坑



SK1528土層注記

1 遺構堆積土 : 黒褐色粘質土 10FR 2 に 5:1 黄褐色粘土 10FR 2 粒子・小一大ブロック 15 道じる。円礫 2~5cm 道じる。炭化物粒子・焼土ブロック 3 道じる。しまり中、粘性中。

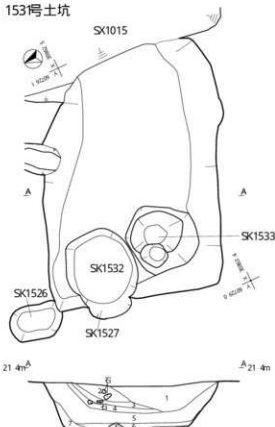
153号土坑



SK1530土層注記

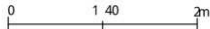
1 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10NR 4 に 5:1 黄褐色粘土 10FR 4 粒子・小一中ブロック 15 道じる。円礫 2~20cm 道じる。しまり強、粘性強。
2 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10NR 3 に 5:1 黄褐色粘土 10FR 4 粒子 10 道じる。円礫 3~5cm 道じる。しまり中、粘性中。

153号土坑



SK1531土層注記

1 遺構堆積土 : 黒褐色粘質土 10NR 2 に 5:1 黄褐色粘土 10FR 4 粒子・小一中ブロック 10 道じる。炭化物粒子 3 道じる。しまり中、粘性中。
2 遺構堆積土 : 5:1 黄褐色粘質土 10NR 4 に 5:1 黄褐色粘土 10FR 4 粒子・小一中ブロック 20 道じる。円礫 5cm 道じる。しまり強、粘性中。
3 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10NR 4 に 炭化物粒子 3 道じる。しまり強、粘性中。
4 遺構堆積土 : 5:1 黄褐色粘質土 10NR 3 に 5:1 黄褐色粘土 10FR 2 粒子・小一中ブロック 10 道じる。円礫 3cm 道じる。しまり強、粘性中。
5 遺構堆積土 : 黒褐色粘質土 10NR 2 に 5:1 黄褐色粘土 10FR 2 粒子 3 道じる。炭化物粒子 3 道じる。しまり中、粘性中。
6 遺構堆積土 : 灰黄褐色粘質土 10NR 2 に 5:1 黄褐色粘土 10FR 4 粒子・小一大ブロック 40 道じる。しまり強、粘性強。
7 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10NR 3 に 5:1 黄褐色粘土 10FR 4 粒子・小一中ブロック 40 道じる。5:1 黄褐色粘土 10FR 2 粒子・小一中ブロック 15 道じる。しまり強、粘性中。



第4図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(土坑15)

153号土坑 (SK1531(第4図))

C区のL47・L4グリッドにおいて検出された。長辺2.41m、短辺1.84m、深さ0.46mを測る。平面はN71°Wに偏する隅丸長方形で、断面形状は逆台形である。底面は平坦である。1532・1533号土坑より新しく1499・1525・1526・1527・1530号土坑、117号ピットより古い。東側は101号遺構により壊される。堆積土は7層に細分されるが、下層の5~7層は人為的埋立土である。遺物は陶磁器、燻瓦、鉄釘、漆器が出土しており、磁器皿・碗、陶器碗・鉢、温石を図示した(第104図339~347)。

153号土坑 (SK1535(第1図))

C区のLT47・LT48・L47・L4グリッドにおいて検出された。長軸1.45m以上、短軸0.83m以上、深さ0.36mを測る。平面はN21°Wに偏する隅丸長方形で断面形状は逆台形である。底面は平坦である。118号ピットより新しく118号ピットより古い。北側は調査区外、西側は101号遺構により壊される。遺物は陶磁器が出土しており、このうち陶器襖を図示した(第104図348)。

153号土坑 (SK1538(第1図))

C区のLT47グリッドにおいて検出された。一辺0.56m、深さ0.36mを測る。平面は隅丸方形で断面形状は箱型である。底面は東側が1段低くなる。100号溝跡より新しく153号土坑より古い。遺物は陶磁器、播鉢が出土しており、播鉢を図示した(第104図349)。

ビット(SP)

100号ビット(SP1001(第4図))

A区のMB47グリッドにおいて検出された。長軸0.41m以上、短軸0.39m、深さ0.21mを測る。平面は楕円形で断面形状は箱型である。底面は平坦である。上面に28cm 17cmの扁平亜円礫が設置される。北側は調査区外である。重複はない。遺物は出土していない。

100号ビット(SP1002(第4図))

A区のMA47・MA48グリッドにおいて検出された。径0.46m、深さ0.63mを測る。平面は円形で断面形状は逆台形である。底面は平坦である。上面に径2~8cmの亜円礫がまともて認められる。北側は調査区外である。重複はない。遺物は陶磁器片が出土しており、このうち磁器碗を図示した(第108図413)。

100号ビット(SP1006(第4図))

A区のMA47グリッドにおいて検出された。長軸0.66m以上、短軸0.4m、深さ0.44mを測る。平面は楕円で断面形状は箱型である。底面は南西側が1段深くなる。堆積土は3層に細別され、2・3層が人為的埋立土である。2層上に27cm 14cmの亜円礫が出土している。西西部攪乱により消滅。重複はない。遺物は出土していない。

101号ビット(SP1013(第1図))

A区のMB45・MC45グリッドにおいて検出された。径0.3m、深さ0.21mを測る。平面は円形で断面形状は箱型である。底面は平坦である。重複はない。遺物は磁器片が出土しており、このうち磁器碗を図示した(第108図414)。

101号ビット(SP1014(第4図))

A区のMB45グリッドにおいて検出された。長軸0.54m以上、短軸0.39m、深さ0.22mを測る。平面は楕円形で断面形状は皿状である。底面は凹凸がある。底面に34cm 27cmの扁平亜円礫が設置される。101号土坑より新しい。102号土坑より古い。遺物の出土はない。

101号ビット(SP1015(第1図))

A区のMA46グリッドにおいて検出された。径0.33m、深さ0.36mを測る。平面は円形で断面形状は逆台形である。底面は北側が1段深くなる。101号土坑より新しい。遺物は陶製人形、土人形、鉄釘が出土しており、このうち陶製人形を図示した(第108図415)。

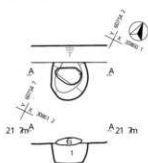
102号ビット(SP1022(第4図))

A区のMB45・MC45グリッドにおいて検出された。長軸0.85m、短軸0.78m、深さ0.32mを測る。平面は楕円形で断面形状は逆台形である。3cm 16cmの亜円礫が廃棄される。200号礎石跡より新しい。遺物は磁器片が出土しているが、図示するものはない。

102号ビット(SP1024(第4図))

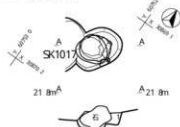
A区のL243グリッドにおいて検出された。長軸0.55m以上、短軸0.45m、深さ0.21mを測る。平面は楕円形で断面形状は箱型である。ビット底面には42cm 34cmの亜円礫が設置され礎石と思われる。106号土

100号ビット



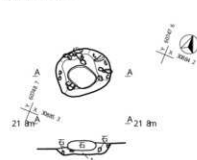
SP100土層注記
1 遺構種類土：暗褐色粘質土 10YR5 4 に近い黄褐色粘土 10R7 4 粒子 10 混じる。炭化物粒子 1 混じる。しまり強。粘性中。

101号ビット



SP101土層注記
1 遺構種類土：に近い黄褐色粘質土 10YR4 3 に近い黄褐色粘土 10R7 4 粒子 3 混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性中。

102号ビット



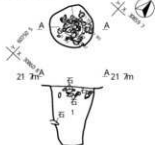
SP102土層注記
1 遺構種類土：黄褐色粘質土 10YR2 3 に近い黄褐色粘土 10R7 4 粒子 5。黄褐色粘土 10YR5 8 粒子 5 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。

102号ビット



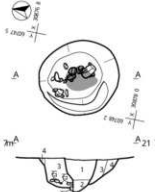
SP102土層注記
1 遺構種類土：暗褐色粘質土 10R3 3 に炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。

100号ビット



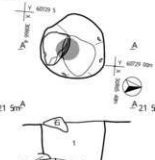
SP100土層注記
1 遺構種類土：暗褐色粘質土 10YR3 3 に円礫 3-10mm 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。

102号ビット



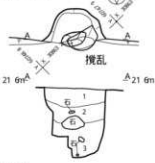
SP102土層注記
1 柱頭：褐色粘質土 10YR4 4 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
2 柱頭：暗褐色粘質土 10R3 3 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小ブロック 10 混じる。しまり中。粘性中。
3 壁方：黄褐色粘質土 10R5 6 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小ブロック 10 混じる。円礫 3mm 混じる。炭化物粒子 1 混じる。しまり強。粘性中。
4 壁方：に近い黄褐色粘質土 10YR5 4 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小ブロック。に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子。明赤褐色粘土 5YR5 8 粒子・小ブロックの混土。しまり中。粘性強。

103号ビット



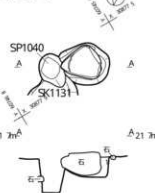
SP103土層注記
1 柱頭取柄：黄褐色粘質土 10YR2 2 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子 5 混じる。炭化物粒子・小ブロック 3。黄土粒子・小ブロック 3 混じる。しまり強。粘性中。
2 柱頭：黄褐色粘質土 10YR2 2 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子 10 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
3 壁方：に近い黄褐色粘質土 10YR4 3 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小ブロック 3 混じる。黄褐色粘土 10R2 2 中ブロック 2 混じる。しまり強。粘性強。

100号ビット



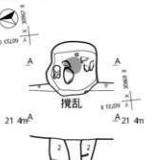
SP100土層注記
1 遺構種類土：褐色粘質土 10YR4 4 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子 3 混じる。黄土粒子少量混じる。しまり中。粘性中。
2 遺構種類土：に近い黄褐色粘質土 10YR5 3 に近い黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 30。黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小ブロック 30 混じる。しまり中。粘性中。
3 遺構種類土：に近い黄褐色粘質土 10YR5 4 に近い黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 15。黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小ブロック 15 混じる。しまり中。粘性中。

102号ビット

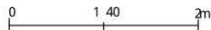


SP102土層注記
1 遺構種類土：暗褐色粘質土 10R3 3 に炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。

103号ビット



SP103土層注記
1 柱頭：黄褐色粘質土 10R3 2 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子 3 混じる。鉄分混じる。しまり強。粘性中。
2 壁方：に近い黄褐色粘質土 10YR4 3 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子 10。黄褐色粘土 10R2 2 粒子 10 混じる。炭化物粒子少量混じる。しまり強。粘性中。
3 壁方：灰褐色粘質土 10YR4 2 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子 5 混じる。しまり強。粘性中。



第4図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(ビット1)

坑、102号ピットより古い。遺物は陶器片が出土しているが、図示するものはない。

102号ピット（SP1028（第4図））

A区のM44グリッドにおいて検出された。長軸0.58m、短軸0.47m、深さ0.11mを測る。平面は楕円形で断面形状は皿状である。ピット底面には5cmほど浮いて29cm×24cmの亜円礫が設置され礎石と思われる。1075・1077号土坑より新しい。遺物は磁器片、不明金属片が出土しているが、図示するものはない。

102号ピット（SP1029（第1図））

A区のW89・W40グリッドにおいて検出された。長軸0.27m、短軸0.21m、深さ0.07mを測る。平面は楕円形で断面形状は箱型である。110号土坑、100号石敷より新しい。遺物は白磁碗が出土しており、これを図示した（第108図416）。

103号ピット（SP1033（第4図））

A区のLV46グリッドにおいて検出された。径0.68m、深さ1.01mを測る。平面は円形で断面形状は箱型である。堆積は3層に細分され、2層が柱痕、3層が掘方埋土である。層は自然堆積層とみられ、柱は抜き取られたものと思われる。上面には35cm×28cmの亜円礫が廃棄される。1130号土坑より新しい。遺物は陶磁器、播鉢が出土しており、このうち白磁小坏を図示した（第108図417）。

103号ピット（SP1036（第1図））

A区のLV45グリッドにおいて検出された。径0.29m、深さ0.21mを測る。平面は円形で断面形状は逆台形である。重複はない。遺物は陶磁器片、鉄釘が出土しており、このうち鉄釘を図示した（第108図418）。

103号ピット（SP1038（第4図））

A区のW45グリッドにおいて検出された。長辺0.57m以上、短辺0.54m、深さ0.63mを測る。平面は隅丸長方形で断面形状は箱型である。堆積は3層に細分され、1層が柱痕、2・3層が掘方埋土である。3層中には径3cm×17cmの亜円礫が詰められる。西側は攪乱により削平。遺物は陶磁器、燗瓦が出土しており、このうち陶器壺を図示した（第108図419）。

103号ピット（SP1039（第5図））

A区のLV45グリッドにおいて検出された。長軸0.47m、短軸0.43m、深さ0.64mを測る。平面は楕円形で断面形状は箱型である。堆積は2層に細分され、1層が柱痕、2層が掘方埋土である。南側上面は攪乱により削平。遺物は陶磁器が出土しており、このうち陶器瓶を図示した（第108図420）。

104号ピット（SP1048（第5図））

A区のW43グリッドにおいて検出された。長辺0.43m以上、短辺0.4m、深さ0.58mを測る。平面は隅丸長方形で断面形状は箱型である。堆積は2層に細分され、1層が柱痕、2層が掘方埋土である。2層中には径5～10cmの亜円礫が含まれる。100号遺構より古い。遺物は磁器片が出土しているが、図示するものはない。

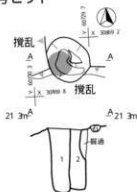
105号ピット（SP1058（第2図））

A区のLV40・LV41グリッドにおいて検出された。長軸0.27m、短軸0.28m、深さ0.05mを測る。平面は楕円形で断面形状は箱型である。105号ピットより古い。遺物は陶器、播鉢が出土しており、このうち播鉢を図示した（第108図421）。

106号ピット（SP1064（第1図））

A区のM55グリッドにおいて検出された。長軸0.37m、短軸0.34m、深さ0.29mを測る。平面は楕円形で断面形状は箱型である。重複はない。遺物は磁器が出土しており、このうち磁器碗を図示した（第108図

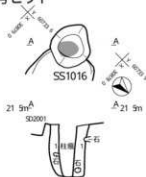
103号ビット



SP103土層注記

- 1 柱層：灰黄褐色粘質土 10R4 2 に黄褐色粘土 10R 5 8 粒子 2 混じる。鉄分混じる。砂粒微量混じる。しまり中。粘性弱。
- 2 錐方：にぶい黄褐色粘質土 10R4 3 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小一中ブロック 10 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり強。粘性中。

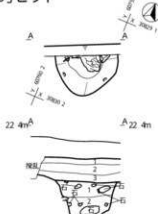
104号ビット



SP104土層注記

- 1 錐方：暗褐色粘質土 10R3 3 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 10、にぶい黄褐色粘土 10R7 2 粒子 10 混じる。しまり強。粘性中。

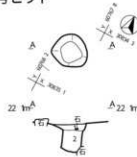
107号ビット



SP107土層注記

- 表土層：黄褐色粘質土 10R3 2 に黄褐色粘土 10 YR5 8 粒子 5、にぶい黄褐色粘土 10R7 4 粒子 5 混じる。円礫 2-50mm 混じる。しまり強。粘性中。
- 1 整地層：にぶい黄褐色粘土 10R7 4 主体。しまり強。粘性強。
- 2 整地層：にぶい黄褐色粘土 10R7 2 主体。しまり強。粘性強。
- 3 整地層：黄褐色粘質土 10R3 1 に黄褐色粘土 10 YR5 8 粒子・小一中ブロック 20 混じる。円礫 10mm 混じる。しまり中。粘性高。
- 1 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10R3 4 に黄褐色粘土 10 YR5 8 粒子 5 混じる。円礫 3-100mm 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10R3 2 に炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。

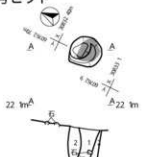
107号ビット



SP107土層注記

- 1 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10R3 2 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 5 混じる。円礫 3mm 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 遺構堆積土：にぶい黄褐色粘質土 10R4 3 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小一中ブロック 30 混じる。しまり中。粘性強。

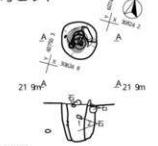
107号ビット



SP107土層注記

- 1 柱状取層：黄褐色粘質土 10R2 2 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一中ブロック 15 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 錐方：にぶい黄褐色粘質土 10R5 3 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 主体。しまり強。粘性強。

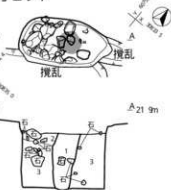
110号ビット



SP110土層注記

- 1 柱層：黄褐色粘質土 10R3 2 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 10、にぶい黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック 10 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 錐方：褐色粘質土 10R4 4 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小ブロック 15 混じる。しまり中。粘性中。

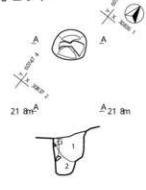
110号ビット



SP110土層注記

- 1 柱層：灰黄褐色粘質土 10R4 2 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 15、にぶい黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック 15 混じる。円礫 5-100mm 混じる。しまり中。粘性強。
- 2 錐方：にぶい黄褐色粘土 10R5 3 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一中ブロック 25 混じる。しまり強。粘性強。
- 3 錐方：にぶい黄褐色粘土 10R4 3 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 粒子 10 混じる。しまり中。粘性強。

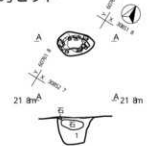
111号ビット



SP111土層注記

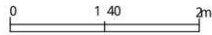
- 1 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10R3 2 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 10、にぶい黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック 10 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 遺構堆積土：にぶい黄褐色粘土 10R4 3 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 粒子 7 混じる。円礫 70mm 混じる。しまり中。粘性中。

113号ビット



SP113土層注記

- 1 遺構堆積土：にぶい黄褐色粘質土 10R4 3 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 粒子 2 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。



第5図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(ビット2)

422)。

106号ピット (SP1065(第 10図))

A 区の ME55グリッドにおいて検出された。長軸 0.32m、短軸 0.26m、深さ 0.34m を測る。平面は楕円形で断面形状は逆凸字状である。106号ピットより新しい。遺物は陶磁器が出土しており、このうち磁器花生を図示した (第 108図 423)。

107号ピット (SP1070(第 50図))

A 区の MC55・MD5グリッドにおいて検出された。長辺 0.58m 以上、短辺 0.49m 以上、深さ 0.38m を測る。平面は楕円形で断面形状は逆台形である。底面には 18cm 16cm の石造物が設置され礎石と思われる。北側は調査区外。遺物は磁器片、鉄釘、不明石製物が出土しており、このうち不明石造物、不明鉄製品、鉄釘を図示した (第 108図 424～426)。

107号ピット (SP1071(第 12図))

A 区の MF54グリッドにおいて検出された。長辺 0.54m、短辺 0.51m、深さ 0.36m を測る。平面は隅丸方形で断面形状は箱型である。底面は平坦である。127号土坑より新しい。遺物は陶磁器が出土しており、このうち陶器皿を図示した (第 108図 427)。

107号ピット (SP1074(第 50図))

A 区の ME54・MF54グリッドにおいて検出された。長軸 0.38m、短軸 0.35m、深さ 0.29m を測る。平面は不整形で断面形状は箱型である。北側は調査区外。遺物は陶器片、鉄釘が出土しており、このうち鉄釘を図示した (第 108図 428)。

107号ピット (SP1077(第 50図))

A 区の MD54グリッドにおいて検出された。長軸 0.34m、短軸 0.31m、深さ 0.43m を測る。平面は楕円形で断面形状は箱型である。堆積は 2 層に細分され、1 層が柱痕、2 層が掘方埋土である。重複はない。遺物は出土しない。

108号ピット (SP1089(第 13図))

B 区の MC53グリッドにおいて検出された。長辺 0.69m、短辺 0.59m、深さ 0.75m を測る。平面は隅丸方形で断面形状は箱型で、底面は平坦である。1012・101号溝跡より古い。遺物は陶器、鉄釘、鋳が出土しており、このうち鋳を図示した (第 108図 429)。

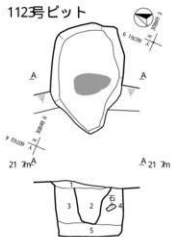
110号ピット (SP1101(第 50図))

B 区の MA56グリッドにおいて検出された。長辺 0.4m、短辺 0.37m、深さ 0.38m を測る。平面は楕円形で断面形状は逆台形である。堆積は 2 層に細分され、1 層が柱痕、2 層が掘方埋土である。上面には径 3～17cm の垂円礫が検出された。重複はない。遺物は陶器、赤瓦が出土しており、このうち赤瓦を図示した (第 108図 430)。

110号ピット (SP1105(第 50図))

B 区の MB54グリッドにおいて検出された。長軸 0.99m、短軸 0.51m、深さ 0.72m を測る。平面は楕円形で断面形状は箱型である。底面は平坦である。堆積は 3 層に細分され、1 層が柱痕、3 層が掘方埋土である。柱痕は掘方中央部に確認される。掘方内には径 2～22cm の垂円礫が含まれる。形状は 100号掘立柱建物のピットに類似する。132号土坑より新しい。遺物は陶磁器、播鉢、鉄釘が出土しており、このうち磁器碗を図示した (第 109図 431)。

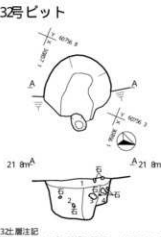
112号ビット



SP112社 層注記

- 1 遺構堆積土 : 栗褐色粘質土 10R63 2 に 5% 黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック 3 混じる。しまり強。粘性中。
- 2 柱礎 : 暗褐色粘質土 10R63 4 に 5% 黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小一大ブロック 40 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり強。粘性中。
- 3 堀方埋土 : に 5% 黄褐色粘土 10R6 4 に 5% 黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック、に 5% 黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロックの混土。しまり強。粘性強。
- 4 堀方埋土 : に 5% 黄褐色粘土 10R6 4 に 5% 黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック、に 5% 黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロックの混土。円礫 10φ 混じる。しまり強。粘性強。
- 5 堀方埋土 : に 5% 黄褐色粘土 10R6 3 に 5% 黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック、に 5% 黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロックの混土。しまり強。粘性強。

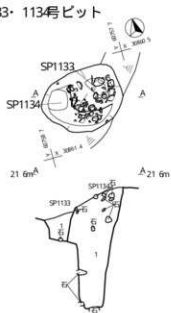
113号ビット



SP113社 層注記

- 1 遺構堆積土 : に 5% 黄褐色粘質土 10R64 3 に 黄褐色粘土 10R65 3 粒子・小ブロック 15、に 5% 黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック 15 混じる。円礫 5-10φ 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり強。粘性中。
- 2 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10R63 3 に 5% 黄褐色粘土 10R7 2 粒子 3 混じる。円礫 3-4φ 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
- 3 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10R63 4 に 5% 黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一中ブロック 40 混じる。円礫 2-10φ 混じる。しまり強。粘性強。
- 4 遺構堆積土 : に 5% 黄褐色粘質土 10R64 3 に 5% 黄褐色粘土 10R7 4 粒子 5 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。

1133・1134号ビット



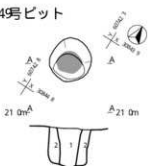
SP1133社 層注記

- 1 遺構堆積土 : 栗褐色粘質土 10R63 2 に 5% 黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一大ブロック 3 混じる。炭化物粒子・焼土粒子 5 混じる。しまり弱。粘性中。

SP1134社 層注記

- 1 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10R63 3 に 5% 黄褐色粘土 10R7 2 粒子 5 混じる。円礫 2-7φ 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。

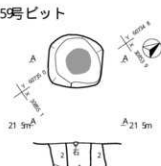
114号ビット



SP114社 層注記

- 1 柱礎 : に 5% 黄褐色粘質土 10R64 3 に 5% 黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック 7 混じる。に 5% 黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 5 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 堀方 : 褐色粘質土 10R64 4 に 5% 黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 30、に 5% 黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック 30 混じる。しまり強。粘性中。

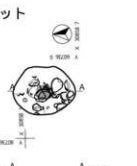
115号ビット



SP115社 層注記

- 1 柱礎 : 栗褐色粘質土 10R63 2 に 5% 黄褐色粘土 10R7 4 粒子 5 混じる。円礫 3-4φ 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり強。粘性中。
- 2 堀方 : に 5% 黄褐色粘質土 10R64 3 に 5% 黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 7 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり強。粘性中。
- 3 堀方 : 暗褐色粘質土 10R63 3 に 5% 黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一大ブロック 10 混じる。しまり強。粘性中。

116号ビット



SP116社 層注記

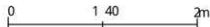
- 1 柱礎 : 暗褐色粘質土 10R63 3 に 炭化物粒子 7 混じる。しまり強。粘性中。
- 2 堀方 : 褐色粘質土 10R64 4 に 5% 黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック 10 混じる。しまり中。粘性中。
- 3 堀方 : に 5% 黄褐色粘質土 10R64 3 に 炭化物粒子 2 混じる。焼分混じる。しまり中。粘性中。
- 4 堀方 : 褐色粘質土 10R64 4 に 5% 黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一大ブロック 30 混じる。円礫 4φ 混じる。しまり強。粘性強。
- 5 堀方 : 褐色粘質土 10R64 4 に 円礫 3-7φ 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり強。粘性中。
- 6 堀方 : 暗褐色粘質土 10R63 3 に 5% 黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一中ブロック 10 混じる。しまり中。粘性中。
- 7 堀方 : 栗褐色粘質土 10R62 3 に 5% 黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 5 混じる。しまり中。粘性中。

116号ビット



SP116社 層注記

- 1 柱礎 : 暗褐色粘質土 10R63 3 に 5% 黄褐色粘土 10R7 2 粒子 3 混じる。円礫 3-7φ 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 堀方 : に 5% 黄褐色粘質土 10R64 3 に 5% 黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 7 混じる。しまり強。粘性中。
- 3 堀方 : 栗褐色粘質土 10R62 3 に 5% 黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小一大ブロック 5 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり強。粘性中。



第5図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(ビット3)

1114号ピット (SP1114(第5図))

B区のL25グリッドにおいて検出された。径0.34m、深さ0.44mを測る。平面は円形で断面形状は箱型である。底面は南側が1段低くなる。堆積は2層に細分され自然堆積状況である。重複はない。遺物は陶器、かわらけが出土しており、このうち陶器皿を図示した(第10図432)。

112号ピット (SP1123(第1図))

C区のMD5グリッドにおいて検出された。長辺1.16m、短辺0.76m、深さ0.72mを測る。平面は隅丸長方形で断面形状は箱型である。底面は平坦である。堆積は5層に細分され、1層が自然堆積土、2層が柱状取痕、3～5層が掘方埋土である。柱痕は掘方中央部に確認される。西側は攪乱により上部を削平される。遺物は鉄釘が出土しており、これを図示した(第8図1)。

113号ピット (SP1130(第5図))

C区のMD9グリッドにおいて検出された。長軸0.39m、短軸0.25m、深さ0.29mを測る。平面は楕円形で断面形状は逆台形である。底面は平坦である。上部に22m×14m大の扁平亜円礫を含み礎石の可能性はある。重複はない。遺物は陶器片が出土するが、図示するものはない。

113号ピット (SP1132(第5図))

C区のMC48グリッドにおいて検出された。長軸0.8m、短軸0.71m、深さ0.42mを測る。平面は楕円形で断面形状は箱型である。堆積は4層に細分され、1層が自然堆積、2層が柱状取痕、3・4層が掘方埋土である。掘方内には径3～10cm大の亜円礫を含む。重複はない。東側上部は攪乱により削平される。遺物は磁器片が出土するが、図示するものはない。

113号ピット (SP1134(第5図))

C区のMC4グリッドにおいて検出された。長軸0.78m、短軸0.64m、深さ1.29mを測る。平面は楕円形で断面形状は箱型である。堆積は4層に細分され、1層が自然堆積、2層が柱状取痕、3・4層が掘方埋土である。掘方内には径2～18cm大の亜円礫を含む。113号ピットより古い。遺物は磁器片、燻瓦が出土するが、図示するものはない。

114号ピット (SP1149(第5図))

C区のLY5グリッドにおいて検出された。長軸0.47m、短軸0.44m、深さ0.3mを測る。平面は楕円形で断面形状は箱型である。底面は中央部が窪む。堆積は2層に細分され、1層が柱痕、2層が掘方埋土である。重複はない。遺物は出土しない。

115号ピット (SP1159(第5図))

C区のWA9グリッドにおいて検出された。一辺0.57m、深さ0.52mを測る。平面は隅丸方形で断面形状は箱型である。堆積は3層に細分され、1層が柱痕、2・3層が掘方埋土である。柱痕は掘方内中央にある。146号土坑より新しい。遺物は磁器、かわらけ、鉄釘が出土しており、このうち磁器皿を図示した(第10図433)。

116号ピット (SP1164(第5図))

C区のLX48グリッドにおいて検出された。長軸0.59m、短軸0.53m、深さ0.53mを測る。平面は楕円形で断面形状は逆台形である。堆積は7層に細分され、1層が柱痕、6～7層が掘方埋土である。掘方内には径2～14cm大の亜円礫を含む。柱痕上には16m×13m大の扁平亜円礫が置かれる。150号土坑より新しい。遺物は磁器片が出土するが、図示するものはない。

116号ピット (SP1165(第5図))

C区のLV48グリッドにおいて検出された。一辺0.58m、深さ0.47mを測る。平面は隅丸方形で断面形状は箱型である。堆積は3層に細分され、1層が柱痕、2・3層が掘方埋土である。柱痕上には径23cm大の扁平垂円礫が置かれる。150号土坑より新しい。遺物は陶磁器、鉄釘、不明鉄製品が出土するが、このうち磁器皿を図示した(第109図434)。

116号ピット (SP1169(第5図))

C区のLV4グリッドにおいて検出された。長辺0.63m、短辺0.57m、深さ0.36mを測る。平面は隅丸方形で断面形状は箱型である。堆積は3層に細分され、1層が柱痕、2・3層が掘方埋土である。掘方内には1〜9cm大の垂円礫を含む。重複はない。遺物は陶磁器が出土するが、図示するものはない。

117号ピット (SP1173(第1図))

C区のLV47・LV48グリッドにおいて検出された。長軸0.72m、短軸0.46m以上、深さ0.49mを測る。平面は楕円形で断面形状は逆台形である。中央部に径0.24m、深さ0.26mの柱痕が確認される。102号溝跡より新しい。遺物は出土していない。

117号ピット (SP1175(第5図))

C区のLV4グリッドにおいて検出された。長辺0.65m、短辺0.58m、深さ0.57mを測る。平面は隅丸方形で断面形状は箱型である。堆積は2層に細分され、1層が柱抜取痕、2層が掘方埋土である。掘方内には1〜9cm大の垂円礫を含む。117号ピットより新しい。遺物は磁器片、鉄釘が出土するが、このうち鉄釘を図示した(第109図435)。

117号ピット (SP1176(第5図))

C区のLV47・LV4グリッドにおいて検出された。長辺0.56m以上、短辺0.56m、深さ0.22mを測る。平面は隅丸長方形で断面形状は箱型である。堆積は3層に細分され、1層が柱痕、2・3層が掘方埋土である。117号ピットより新しく、151号土坑より古い。遺物は陶器碗が出土するが、これを図示した(第109図436)。

117号ピット (SP1177(第5図))

C区のLV47・LV4グリッドにおいて検出された。長辺0.73m、短辺0.39m以上、深さ0.41mを測る。平面は隅丸長方形で断面形状は箱型である。堆積は2層に細分され、1層が柱痕、2層が掘方埋土である。102号溝跡、151号土坑、117号ピットより古い。遺物は出土しない。

117号ピット (SP1179(第5図))

C区のLV47・LV4グリッドにおいて検出された。長軸0.38m以上、短軸0.37m、深さ0.27mを測る。平面は楕円形で断面形状は逆凸字状である。中央部に19cm×17cmの垂円礫が含まれる。153号土坑より古い。遺物は鉄釘が出土するが、図示するものはない。

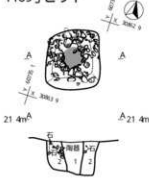
118号ピット (SP1184(第5図))

C区のLV47・LV4グリッドにおいて検出された。長軸0.31m、短軸0.24m以上、深さ0.63mを測る。平面は楕円形で断面形状は箱型である。堆積は2層に細分される。153号土坑より新しい。遺物はかわらけ片、鉄釘が出土するが、図示するものはない。

礎石跡 (SS)

1016号礎石跡 (SS1016(第5図))

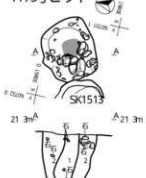
116号ビット



SP116土層注記

- 1 柱層 : 黒褐色粘質土 10YR2 2 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 3 混じる。円礫 3-5mm 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
2 層方 : 暗褐色粘質土 10YR3 4 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 10 混じる。円礫 2-5mm 混じる。しまり強。粘性中。

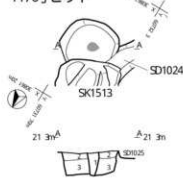
117号ビット



SP117土層注記

- 1 柱層 : 黄褐色粘質土 10YR3 2 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 15 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
2 層方 : 灰黄褐色粘質土 10YR4 2 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 15 混じる。しまり強。粘性中。

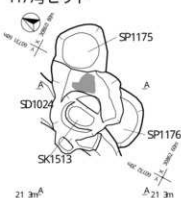
117号ビット



SP117土層注記

- 1 柱層 : 黄褐色粘質土 10YR3 2 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
2 遺構堆積土 : 黄褐色粘質土 10YR2 3 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 7 混じる。しまり強。粘性強。
3 遺構堆積土 : 褐色粘土 10YR4 6 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 50 混じる。しまり強。粘性強。

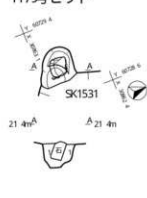
117号ビット



SP117土層注記

- 1 柱層 : 灰黄褐色粘質土 10YR4 2 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小中ブロック 15 混じる。しまり中。粘性中。
2 層方 : 近い黄褐色粘質土 10YR4 3 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小大ブロック 30 混じる。円礫 5mm 混じる。しまり強。粘性強。

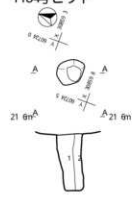
117号ビット



P117土層注記

- 1 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10YR3 4 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 5 混じる。円礫 2-5mm 混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性中。

118号ビット

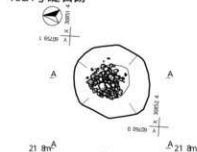


SP118土層注記

- 1 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10YR3 3 に炭化物粒子 3 混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性中。
2 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10YR4 4 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 20 混じる。しまり強。粘性中。

第5図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(ビット4)

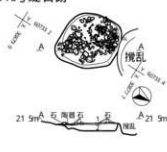
102号礎石跡



SS102土層注記

- 1 層面 : 暗褐色粘質土 10YR3 3 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子 5 混じる。円礫 2-13mm 多く混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
2 層方 : 褐色粘質土 10YR4 4 に近い黄褐色粘土 10YR7 2 粒子 7 混じる。しまり中。粘性中。

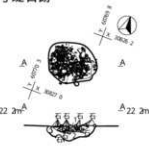
101号礎石跡



SS101土層注記

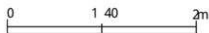
- 1 層面 : 近い黄褐色粘土 10YR4 4 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 主体。しまり強。粘性強。
2 層方 : 暗褐色粘質土 10YR3 3 に炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。

101号礎石跡



SS101土層注記

- 1 層面 : 黄褐色粘質土 10YR3 2 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小中ブロック 15 混じる。円礫 2-5mm 混じる。しまり強。粘性強。
2 層方 : 近い黄褐色粘質土 10YR4 3 に近い黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 5 混じる。しまり強。粘性中。



第5図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(礎石跡1)

A区のW43グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.7m、短軸0.58m、深さ0.08mを測る。平面は楕円形で断面形状は血状である。中央部に径1〜6cmの垂円礫が密に入れられており、礎石根固である。104号ビットより新しい。遺物は出土していない。

101号礎石跡(SS1017(第5図))

B区のMF56グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.51m、短軸0.43m、深さ0.17mを測る。平面は楕円形で断面形状は血状である。中央部に径1〜7cmの垂円礫が密に入れられており、礎石根固である。重複はない。遺物は出土していない。

101号礎石跡(SS1019(第5図))

B区のMA54グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.43m、短軸0.35m、深さ0.08mを測る。平面は楕円形で断面形状は血状である。中央部に径1〜9cmの垂円礫が密に入れられており、礎石根固である。重複はない。遺物は出土していない。

102号礎石跡(SS1020(第5図))

B区のMA54グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.39m、短軸0.38m、深さ0.1mを測る。平面は楕円形で断面形状は血状である。中央部に径1〜5cmの垂円礫が密に入れられており、礎石根固である。重複はない。遺物は根固に混じって赤瓦片が出土しているが、図示するものはない。

102号礎石跡(SS1021(第5図))

C区のMC49・MC50グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.8m、短軸0.76m、深さ0.22mを測る。平面は楕円形で断面形状は血状である。中央の径0.42mの範囲に径1〜9cmの垂円礫が密に入れられており、礎石根固である。重複はない。遺物は根固に混じって陶磁器片が出土するが、このうち磁器皿を図示した(第105図440)。

102号礎石跡(SS1022(第5図))

C区のMC48・MC49グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.8m、短軸0.75m、深さ0.24mを測る。平面は楕円形で断面形状は箱型である。底面は緩やかに窪む。中央の径0.43mの範囲に径1〜7cmの垂円礫が密に入れられており、礎石根固である。重複はない。遺物は出土していない。

102号礎石跡(SS1023(第5図))

C区のMC49・MC50グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.56m、短軸0.67m、深さ0.21mを測る。平面は楕円形で断面形状は逆凸字状である。中央の0.39m〜0.43mの範囲に径1〜7cmの垂円礫が密に入れられており、礎石根固である。139号土坑より古い。南側は攪乱により上部が削平される。遺物は出土していない。

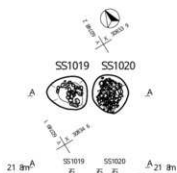
102号礎石跡(SS1024(第5図))

C区のMB48・MC48グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.55m、短軸0.49m、深さ0.54mを測る。平面は楕円形で断面形状は箱型である。中央部に径1〜5cmの垂円礫が密に入れられており、礎石根固である。重複はない。遺物は根固に混じって陶磁器片、鉄釘が出土するが、このうち鉄釘を図示した(第105図441・442)。

102号礎石跡(SS1025(第5図))

C区のLZ53グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.57m、短軸0.55m、深さ0.37mを測る。平面は円形で断面形状は逆台形である。北側底面がビット状に深くなる。中央部に径1〜8cmの垂円礫が密に入れられており、礎石根固である。重複はない。遺物は根固に混じって磁器片が出土するが、図示するものはない。

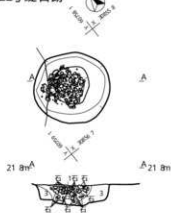
1019 1020号礎石跡



SS1019土層注記
1 概図：黒褐色粘質土 10YR3 2 に円礫 2~5cm 混じる。粗粒砂混じる。しまり中、粘性弱。

SS1020土層注記
1 概図：黒褐色粘質土 10YR3 1 に黄褐色粘土 10YR6 8 粒子・小ブロック 10 混じる。円礫 2~4cm 混じる。しまり中、粘性強。

102号礎石跡



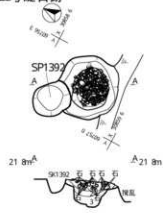
SS1021土層注記

1 概図：灰黄色粘質土 10YR4 2 に β 1黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 5 混じる。円礫 2~10cm 多く混じる。鉄分混じる。しまり中、粘性中。

2 概図：暗褐色粘質土 10YR3 4 に炭化物粒子 3 混じる。鉄分混じる。しまり中、粘性中。

3 概図：暗褐色粘質土 10YR3 3 に β 1黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小ブロック 10、 β 1黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 10 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中、粘性中。

102号礎石跡



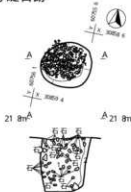
SS1022土層注記

1 概図：褐色粘質土 10YR4 4 に円礫 2~7cm 多く混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中、粘性中。

2 概図：暗褐色粘質土 10YR3 3 に β 1黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 3 混じる。円礫 2~3cm 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中、粘性中。

3 概図： β 1黄褐色粘質土 10YR7 2 に粗粒砂混じる。礫との境界部に鉄分混じる。しまり中、粘性強。

102号礎石跡

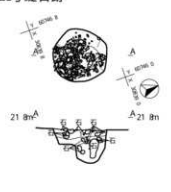


SS1023土層注記

1 遺構堆積土：褐色粘質土 10YR4 4 に円礫 2~7cm 多く混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中、粘性中。

2 遺構堆積土：褐色粘土 10YR4 4 に β 1黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 15 混じる。しまり強、粘性強。

102号礎石跡

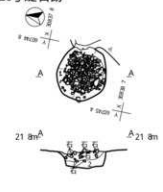


SS1024土層注記

1 概図：灰黄色粘質土 10YR4 2 に円礫 2~7cm 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中、粘性中。

2 概図：灰黄色砂質土 10YR2 2 に円礫 3~7cm 混じる。粗粒砂混じる。しまり中、粘性弱。

102号礎石跡

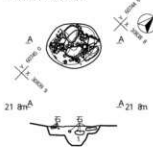


SS1025土層注記

1 概図：暗褐色粘質土 10YR3 4 に円礫 2~5cm 混じる。しまり中、粘性中。

2 概図： β 1黄褐色粘土 10YR4 3 に黒褐色粘土 10YR2 2 粒子・小ブロック 10 混じる。しまり強、粘性強。

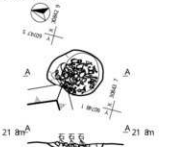
102号礎石跡



SS1027土層注記

1 概図：暗褐色粘質土 10YR3 3 に円礫 1~15cm 混じる。しまり中、粘性中。

102号礎石跡

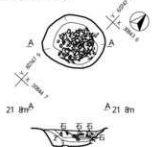


SS1028土層注記

1 概図：暗褐色粘質土 10YR3 3 に β 1黄褐色粘土 10YR7 4 粒子 10 混じる。円礫 2~3cm 混じる。しまり中、粘性中。

2 概図： β 1黄褐色粘質土 10YR6 4 に β 1黄褐色粘土 10YR7 4 主体。しまり強、粘性強。

102号礎石跡

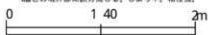


SS1029土層注記

1 概図：暗褐色砂質土 10YR3 4 に円礫 2~4cm 混じる。しまり中、粘性中。

2 概図： β 1黄褐色粘土 10YR7 4 主体。しまり強、粘性強。

3 概図： β 1黄褐色砂質土 10YR2 2 に粗粒砂混じる。礫との境界部に鉄分混じる。しまり中、粘性強。



第54図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(礎石跡2)

102号礎石跡 (SS1026(第5図))

C区のLZ5グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.57m、短軸0.54m、深さ0.2mを測る。平面は楕円形で断面形状は箱型である。北側底面がピット状に深くなる。中央部に径1～10cmの垂円礫が密に入れられており、礎石根固である。重複はない。西側は攪乱により上部が削平される。遺物は根固に混じって瓦質土器、鉄釘が出土するが、図示するものはない。

102号礎石跡 (SS1027(第5図))

C区のLZ5グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.58m、短軸0.47m、深さ0.2mを測る。平面は楕円形で断面形状は逆凸字状である。中央部に径1～18cmの垂円礫が密に入れられており、礎石根固である。重複はない。遺物は出土しない。

102号礎石跡 (SS1028(第5図))

C区のLZ52・MA5グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.59m、短軸0.48m、深さ0.09mを測る。平面は楕円形で断面形状は皿状である。北西側は調査区外である。中央部に径1～8cmの垂円礫が密に入れられており、礎石根固である。重複はない。遺物は出土しない。

102号礎石跡 (SS1029(第5図))

C区のLZ51・LZ52・MA51・MA5グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.67m、短軸0.57m、深さ0.15mを測る。平面は楕円形で断面形状は逆台形である。中央の0.4m×0.37mの範囲に径1～7cmの垂円礫が密に入れられており、礎石根固である。101号土坑より新しい。南側は攪乱により上部が削平される。遺物は出土していない。

土塁

土塁1 (第16・17・19・20・55～58図)

調査区東側において確認された土塁である。調査前において調査区東側には低い高まりが確認されていたが、裾部に軽部ブロックを含む石積が認められることから、新しい時代の盛土の可能性も考えられたが、佐竹史料館建物の南東から東側にかけては黒門跡西側の塼形部へと続く土塁が遺存しており、土塁の名残をとどめる可能性もあったため、該当箇所において現況図を作成し、調査区南東側の高まりについては計画建物影響範囲に及ぶため調査を行うと共に、北東側通路部の法面を精査し土層状況の確認を行った。調査の結果、明瞭な盛土が確認されたこと、盛土内には近・現代の遺物をはじめとして近世の遺物も確認されなかったことから、築城時の土塁であると判断した。南東部の土塁については全体に削平を受けており、実際の郭側の土塁立ち上がりはLグリッドラインで確認されることから、土塁の基底部の幅は10.6m程になると思われる。土塁盛土は地山層由来の黄褐色粘土ブロックを主体とし、盛土の厚さは7～37cm程となり、盛土1層あたりの厚さは比較的厚い。盛土自体は比較的締まっているものの、硬盤に突き固めている様子はない。土塁の構築に当たっては、まず郭東側の縁辺に1.3m程の高さの小堤を築き、西側から盛土を追加して幅を増していく状態で作られている。この状況は北東側通路部の法面の盛土も同様な状況を示している。土塁の構築面については、南東部の土塁では、基盤となる整地層が厚いため、整地層面からの構築であるが、北東側通路部の土塁においては基底面が地山層であり、地山層から直接盛土された状況が確認されている。地山層上に旧表土層が確認されないことから、土塁の構築に当たっては基盤面の整形を行った後に行われたことが考えられる。北東側通路部において土塁に直交する形で小堤状の高まりが残されていたが、土層状況の確認を行ったところ、近代以降に盛土されたものであることが明らかとなった。土塁に伴う杭や欄干などの構造は確認されない。



第55図 土壘1調査前平面図

土塁2 (第15・18・19図)

調査区西側に沿って検出された土塁である。調査前は平坦であり土塁の存在は確認されなかったが、表土除去を行ったところ、第1遺構面である層検出面より高い位置で盛土層が確認されたため土塁とした。なお、表土除去時には近代の整地層と誤認したため上面を削平している。検出された土塁裾部と西側の現況の崖線の端部までの幅は10.3m程あり土塁1の基底部の幅とほぼ同様である。土塁の土層状況については調査区南壁において確認されている。盛土は高さ0.34m程が確認されたが、土塁1の南東部と同様に整地層面に直接盛土されている。佐竹史料館建物西側においては土塁上の低い高まりが存在しており、土塁2の残存部の可能性も考えられたため、建物解体後に南側端部の状況を確認したところ、盛土中に近・現代の遺物が確認されたため、この部分においては、近代以降に構築されたものと思われる。

その他の遺構 (SX)

100号遺構 (SX1001 (第59図))

A区のM47・M46・M47・M46・M47グリッドにおいて検出された。掘方は長辺5.59m、短辺1.86m、深さ0.2mを測る。平面はN55°Eに偏する隅丸長方形で、断面形状は箱型である。上一中位にかけて径2～13cmの垂円礫が密に入れられている。掘方を掘削したところ長辺に沿って各4基、計6基のピットが検出された。ピットは径0.37～0.63mの円形ないしは楕円形で、深さは0.06～0.68mとばらつきがあるが、西辺側の2基が特に浅い。ピットについては柱痕跡は確認されていない。101号礎石跡より新しい。遺構の性格は不明である。遺物は陶磁器、播鉢、鉄釘が出土しているが、このうち青磁香炉、磁器碗を図示した(第109図444・445)。

100号遺構 (SX1002 (第59図))

A区のL24グリッドにおいて検出された。長軸1.71m、短軸1.15m、深さ0.15mを測る。平面はN59°Wに偏する不整楕円形で、断面形状は箱型である。上面に径2～18cmの垂円礫が入れられている。礫敷ないしは集石状の遺構である。重複はない。遺物は陶磁器、播鉢、かわらけ、煙瓦、硯、髪飾等が出土しているが、このうち磁器碗、硯、鉄釘を図示した(第109図446～448)。

100号遺構 (SX1004 (第60図))

A区のL42・L43グリッドにおいて検出された。100号遺構上において陶器甕の破片が2.68m×0.65mの範囲に散乱している状況で検出された。甕の破片は北西から南西方向に広がるように出土していて、いずれも同一個体である。埋設されている様子もなかったことから、100号遺構上に据え置かれたものが転倒したと思われる。出土した甕の破片は体部破片がほとんどで、底部や口縁部の破片は確認できなかった。甕体部破片および磁器輪花皿について図示した(第110図449～451)。

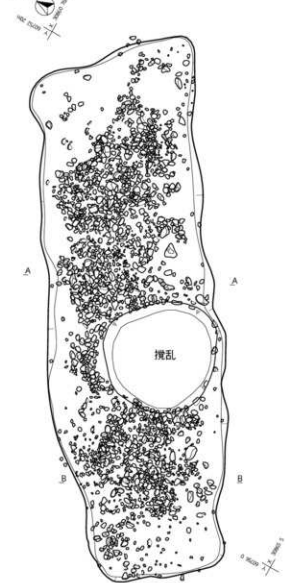
100号遺構 (SX1005 (第60図))

A区のL42・L43グリッドにおいて検出された。掘方は長軸4.15m以上、短軸1.54m、深さ0.08mを測る。平面はN20°Eに偏する隅丸長方形で、断面形状は箱型である。掘方内に径2～11cmの垂円礫が敷かれている。礫敷状の遺構であるが、小規模な池の可能性もある。礫敷上には100号遺構である陶器甕が据え置かれていた。南西側は調査区外である。119号土坑より古い。遺物は出土していない。

100号遺構 (SX1006 (第60図))

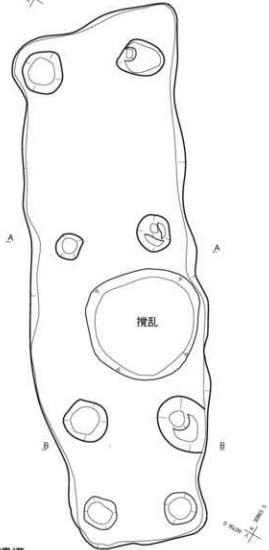
A区のL42・L43グリッドにおいて検出された。掘方は長軸1.09m、短軸0.93m、深さ0.06mを測る。平面はN51°Eに偏する楕円形で、断面形状は皿状である。上面には径5～20cmの被熱した垂円礫が確認されて

100号遺構

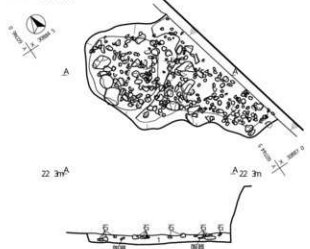


SK001 土層注記

- 敷地層 : 暗褐色粘質土 10R3 4 に炭化物粒子 2 混じる。焼土粒子混じる。しまり中。粘性中。
 1 攪乱 : 褐色粘質土 10R4 4 に明赤褐色粘土 5R5 8 粒子 3 混じる。円礫 2~15cm 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
 2 遺構埋積土 : にぶい黄褐色粘土 10R5 4 ににぶい黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロツク 30。黄褐色粘土 10R5 6 粒子 30 混じる。円礫 3~10cm 混じる。しまり強。粘性強。

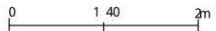


100号遺構



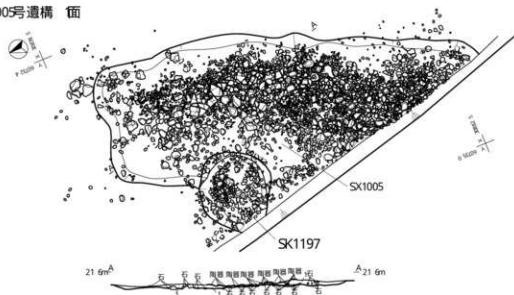
SK002 土層注記

- 1 遺構埋積土 : 黄褐色粘質土 10R3 2 に黄褐色粘土 10R5 6 粒子 5 混じる。円礫 2~15cm 多く混じる。しまり強。粘性中。



第59図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(遺構1)

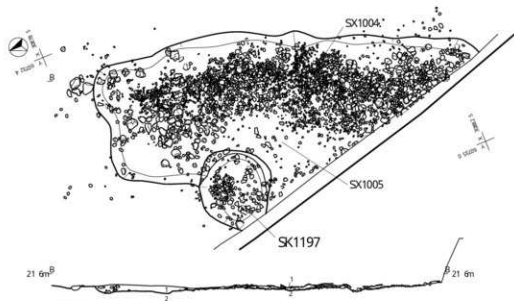
1004 1005号遺構 面



面



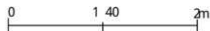
最終面



SX1005土層注記

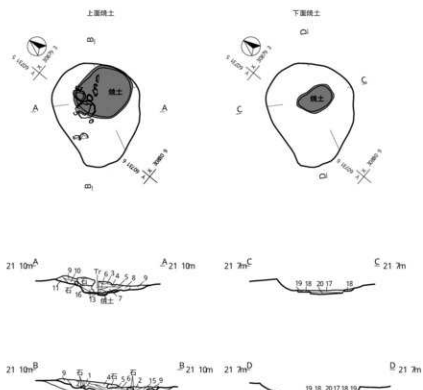
1 遺構堆積土：にぶい黄褐色粘質土 10/R4 3に円礫 2-7cmのせる。炭化物粒子2混じる。しまり強。粘性強。

2 遺構堆積土：黄褐色粘土 10/R5 8主体。にぶい黄褐色粘土 10/R7 2粒子・小一大ブロック混じる。しまり強。粘性強。



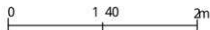
第6図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(遺構2)

100号遺構



50100土層注記

- 1 遺構堆積土 : 灰黄褐色粘土 10M4 2 に近い黄褐色粘土 10M7 4 粒子・小一大ブロック 10 混じる。焼土粒子 10 混じる。しまり強。粘性強。
- 2 遺構堆積土 : 褐色粘土 7 5M4 4 に近い黄褐色粘土 10M7 4 粒子・小一中ブロック 15 混じる。炭化物粒子 3 混じる。焼土粒子・小一中ブロック 5 混じる。しまり強。粘性強。
- 3 遺構堆積土 : 近い黄褐色粘土 10M5 3 に近い黄褐色粘土 10M7 4 主体。焼土粒子 10 混じる。しまり強。粘性強。
- 4 遺構堆積土 : 暗褐色粘土 10M3 4 に焼土粒子・小ブロックが多く混じる。しまり強。粘性中。
- 5 遺構堆積土 : 近い褐色粘土 7 5M5 4 に焼土粒子主体。近い黄褐色粘土 10M7 4 粒子 5 混じる。しまり強。粘性強。
- 6 遺構堆積土 : 暗褐色粘土 10M3 4 に焼土粒子 3 混じる。しまり強。粘性中。
- 7 遺構堆積土 : 近い褐色粘土 7 5M5 4。焼土混。しまり強。粘性中。
- 8 遺構堆積土 : 暗褐色粘土 10M3 3 に近い黄褐色粘土 10M7 4 粒子・小ブロック 15 混じる。炭化物粒子・焼土粒子 5 混じる。しまり強。粘性強。
- 9 遺構堆積土 : 灰黄褐色粘土 10M5 2 に近い黄褐色粘土 10M7 4 粒子 5 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり強。粘性中。 層4-2
- 10 遺構堆積土 : 暗褐色粘土 7 5M3 3 に近い黄褐色粘土 10M7 4 粒子・小一中ブロック 10 混じる。焼土粒子 3 混じる。しまり中。粘性強。
- 11 遺構堆積土 : 近い黄褐色粘土 10M4 3 に近い黄褐色粘土 10M7 4 粒子・小一中ブロック 7 混じる。しまり中。粘性中。
- 12 遺構堆積土 : 暗褐色粘土 10M3 3 に黄褐色粘土 10M5 8 粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
- 13 遺構堆積土 : 暗褐色粘土 10M3 4 に黄褐色粘土 10M5 8 粒子 7 混じる。しまり中。粘性中。
- 14 遺構堆積土 : 近い黄褐色粘土 10M4 3 に近い黄褐色粘土 10M7 4 粒子 5 混じる。しまり中。粘性強。
- 15 遺構堆積土 : 黒色粘土 7 5M1 7 1 に炭化物主体。しまり中。粘性中。
- 16 遺構堆積土 : 暗褐色粘土 10M3 2 に黄褐色粘土 10M5 8 粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
- 17 遺構堆積土 : 灰黄褐色粘土 10M5 2 に近い黄褐色粘土 10M7 3 40 混じる。炭化物 30 混じる。焼土粒子 15 混じる。しまり強。粘性中。
- 18 遺構堆積土 : 近い黄褐色粘土 5M4 4 に焼土主体。しまり強。粘性中。
- 19 遺構堆積土 : 暗褐色粘土 5M2 2 に炭化物・焼土粒子含む。しまり中。粘性中。
- 20 遺構堆積土 : 暗赤褐色粘土 5M3 6。焼土混。しまり強。粘性弱。



第6図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(遺構3)

おり、石組の可能性もある。底面からは2面の被熱面が確認されており、特に下面の被熱面については強く熱を受けていた。上面の被熱面は61m² 55m、下面の被熱面は39m² 25mである。石組炉状の遺構の可能性もある。遺物は磁器、鐺鉢、かわらけ、鉄釘が出土しているが、図示するものはない。

100号遺構 (SX1007(第6図))

A区のLV40グリッドにおいて検出された。木桶の埋設遺構で、掘方は長軸0.91m、短軸0.83m、深さ0.2mを測る。平面は楕円形で、中央部に径52m、厚さ1cmの木桶を埋設する。桶の埋設面は掘方埋立土である2層面上で掘方底面より10cm程浮いている。桶は埋設部より上部は失われていた。掘方は土壁1の裾部を掘り込むように作られている。なお、掘方底面には20cm² 17cmの亜円礫が据え置かれていた。100号溝より古い。遺物は出土していない。

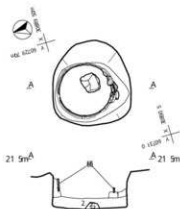
1008号遺構 (SX1008(第6図))

A区のLV44・LV45グリッドにおいて検出された。長軸0.54m、短軸0.48m、深さ0.18mを測る。平面はN7°Wに偏する楕円形で、断面形状は逆凸字状である。底面は長辺0.43m、短辺0.22m、深さ0.06mの長方形に掘り窪められている。100号遺構と同様である。117号土坑より古い。遺物は陶磁器、磁石が出土しているが、このうち磁石を図示した(第11図452)。

1009号遺構 (SX1009(第6図))

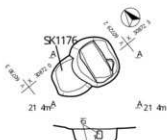
A区のLV44グリッドにおいて検出された。長軸0.5m、短軸0.49m、深さ0.14mを測る。平面はN23°Eに偏する楕円形で、断面形状は逆凸字状である。底面は長辺0.48m、短辺0.19m、深さ0.07mの長方形に掘り窪められている。100号遺構と同様である。118号土坑より古い。遺物は磁器片が出土しているが、図示できるものはない。

100号遺構



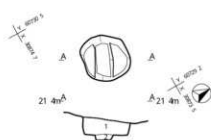
SX1007土層注記
 1 掘方：にぶい黄褐色粘土・10VR4 3に黄褐色粘土・10RS 8粒子・小ブロック40混じる。しまり中、粘性強。
 2 掘方：暗褐色粘土・10VR3 3に黄褐色粘土・10RS 8粒子・小一中ブロック、にぶい黄褐色粘土・10WR 2粒子・小一中ブロックの混土。しまり強、粘性強。

1008号遺構



SX1176土層注記
 1 遺構埋積土：黄褐色粘質土・10VR2 2に黄褐色粘土・10RS 8粒子・小ブロック10混じる。しまり中、粘性中。
 2 遺構埋積土：黄褐色粘質土・10VR2 1に鉄分混じる。しまり弱、粘性強。

1009号遺構

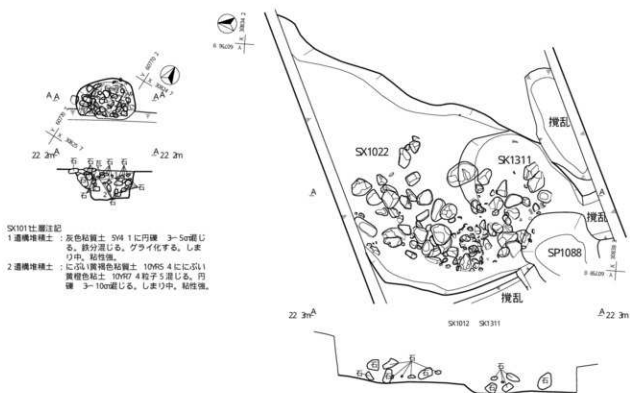


SX1009土層注記
 1 遺構埋積土：暗褐色粘質土・10VR3 3に黄褐色粘土・10RS 8粒子10混じる。しまり中、粘性中。
 2 遺構埋積土：黄褐色粘質土・10VR2 2に鉄分混じる。しまり弱、粘性強。

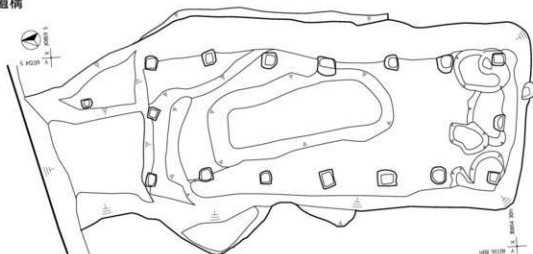
第6.2図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(遺構4)

101号遺構

101号遺構・131号土坑



1015号遺構



第6図 第1遺構面検出遺構平面・断面図(遺構5)

101号遺構 (SX1011(第6図))

B区のMF56グリッドにおいて検出された。長軸0.63m、短軸0.43m、深さ0.3mを測る。平面はN60°Eに偏する楕円形で、断面形状は逆台形である。内部には径2~10cmの亜円礫が詰められていた。集石状の遺構である。重複はない。南側は攪乱により消滅。遺物は出土していない。

101号遺構 (SX1012(第6図))

B区のMC53・MC54グリッドにおいて検出された。長軸2.74m、短軸1.94m、深さ0.12mを測る。平面はN22°Eに偏する楕円形で、断面形状は逆台形である。内部には径3~33cmの亜円礫が廃棄される。1311・1365号土坑、1088号ピットより新しい。1009号溝跡と並走することから同時代の可能性がある。遺物は陶磁器、播鉢、かわらけ、赤瓦(棧瓦)、鉄釘が出土しており、このうち磁器碗、陶器蓋・鉢、花生、赤瓦を図示した(第11図454~459)。

101号遺構 (SX1015(第6図))

C区のL46・L47・L48において検出された。調査当初は攪乱の扱いで掘削したが、底面に方形ピットが連続して確認されるなどの状況が確認されたため、性格不明遺構として扱った。検出されたのは本体部と入口部と思われる構造である。本体部は長軸4.03m、短軸2.24m、深さ0.93mを測る。平面はN4°Eに偏する長方形で断面形状は逆台形である。底面は中央部が緩く掘窪められる掘方をもち、地山掘削土で埋め戻されていた。本体部の壁に沿って18cm×13cm程度の方形のピットが長軸方向に7基、短軸方向に3基(長軸と重複2基)の計16基確認されており何かしらの柱穴と思われる。北側は入口と思われる構造が取りつくため、階段状に段残り残されている。入口部は長軸0.93m、幅1.66m、深さ0.82mで北側の調査区外に延びていく。本体と軸は同一である。以上の状況から半地下式の構造を持つ遺構であると思われる。入口部については調査区外であるため全容は不明である。遺物は近世から近代にかけての陶磁器類が出土しているがいずれも混入状況である(第11図460~468)。

(2) 第2遺構面検出遺構

溝(SD)

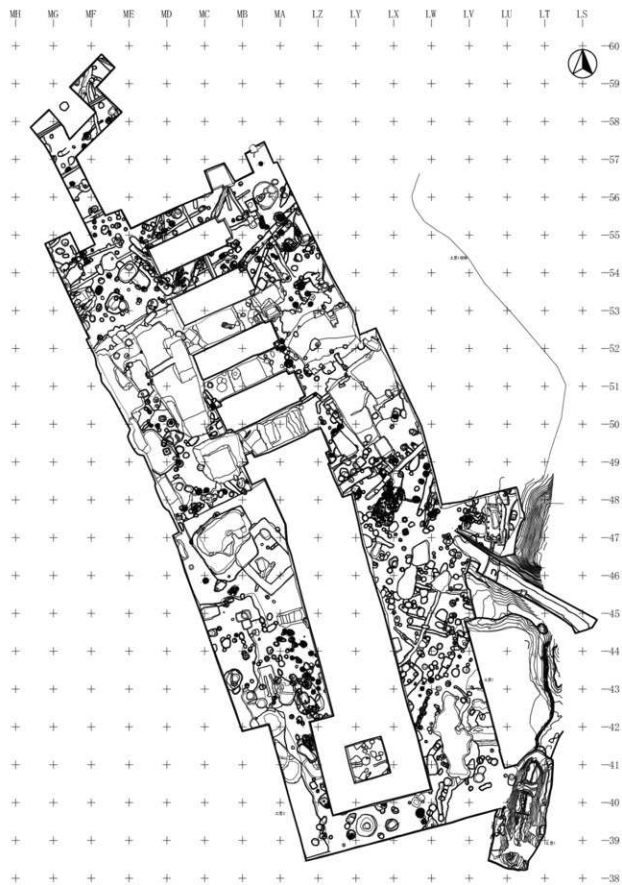
200号溝跡(SD2001(第7図))

A区とC区にまたがりL42・L43グリッドにおいて検出された溝状遺構で、L字状に北西に屈曲する。東側は検出長2.74m、最大幅0.96mを測り、軸はN38°Eに偏する。北側の溝は検出長2.14m、最大幅0.5mを測り、軸はN49°Wに偏する。断面形状は箱型で底面は平坦である。北側は攪乱により消失、南側は調査区外で全容は不明である。底面は南端と西端では4cmほどの比高をもち、北側に低くなる。堆積は3層に細別されるがいずれも自然堆積である。113号土坑より古い。遺物は1層中より陶磁器、鉄釘、砥石が出土しており、このうち磁器小瓶、砥石を図示した(第9図72・73)。

土坑(SK)

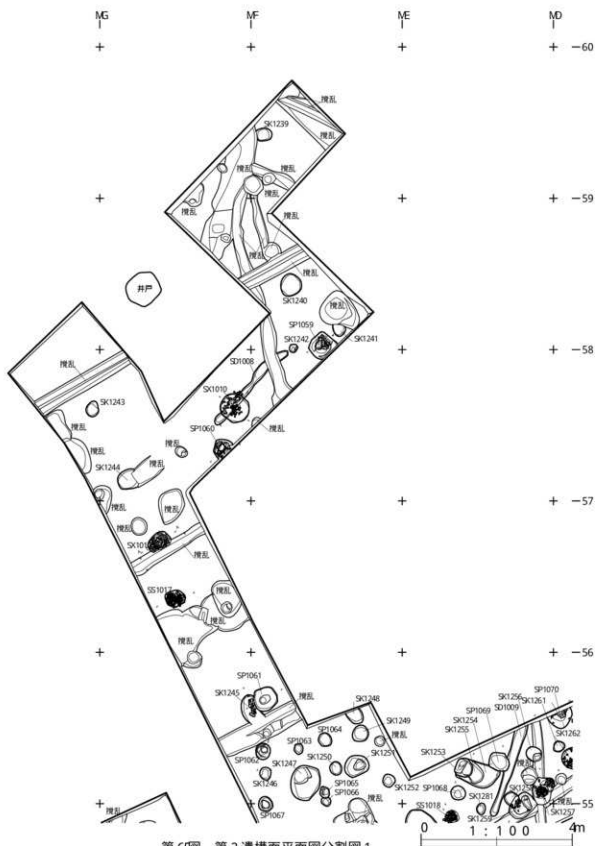
200号土坑(SK2001(第7図))

A区のMA46グリッドにおいて検出された。長辺0.94m以上、短辺0.27m、深さ0.22mを測る。平面はN51°Eに偏する隅丸長方形で、断面形状は箱型、西側が1段低くなる。重複はない。北東側は攪乱により消失する。遺物は陶器皿が出土しており、これを図示した(第10図350)。

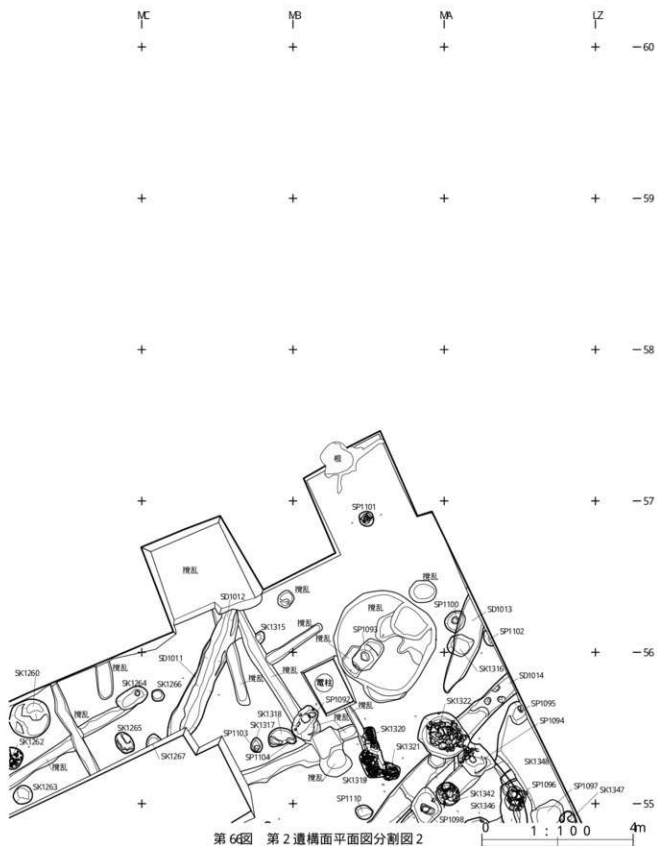


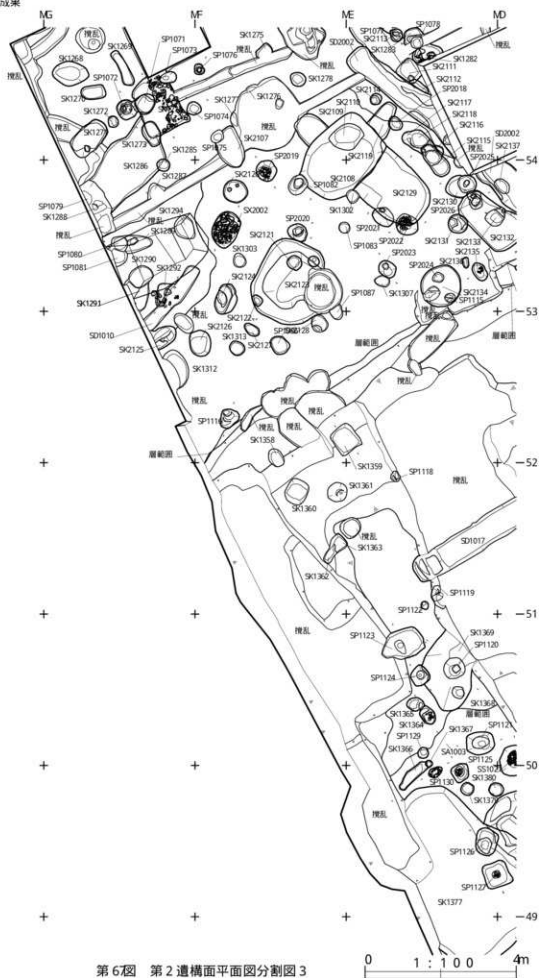
第64図 第2遺構面平面図全体図

0 1:400 8m



第69図 第2遺構面平面図分割図1





第6図 第2遺構面平面図分割図3

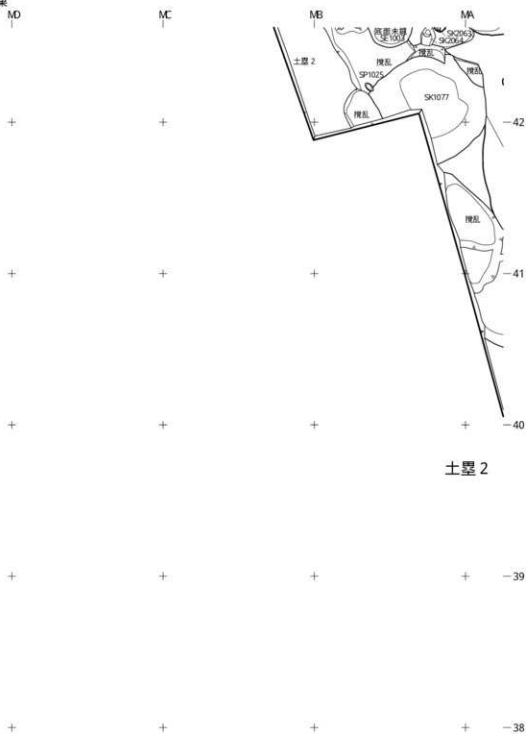


第69図 第2遺構面平面図分割図5



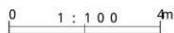
第7図 第2遺構面平面図分割図7

第3章 調査の方法と成果

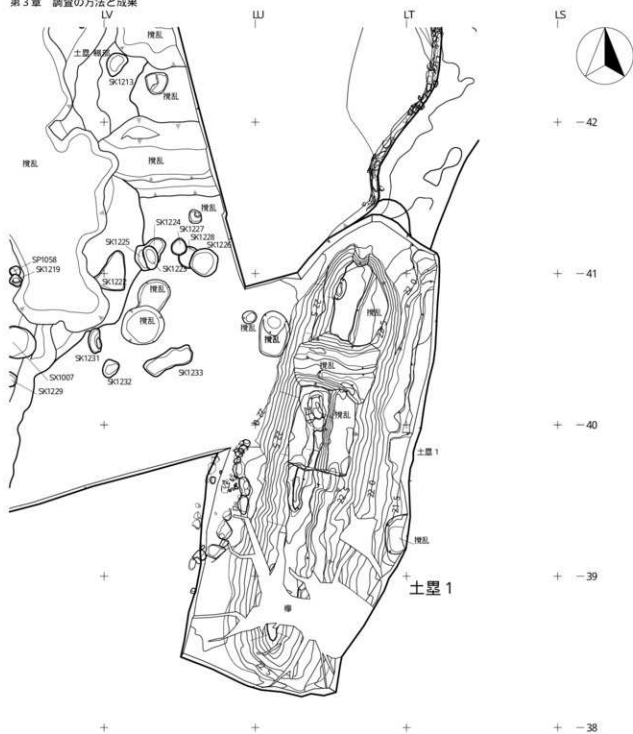


土層 2

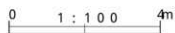
第7図 第2遺構面平面図分割図9



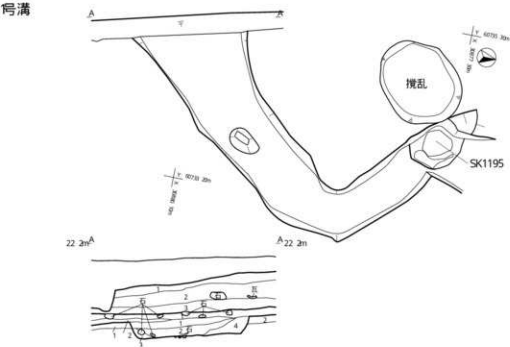
第3章 調査の方法と成果



第75図 第2遺構面平面図分割図11

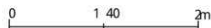


200号溝



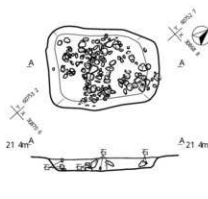
SK200土層注記

- 表土層 : 灰黄褐色粘質土 10F94 2にコンクリート混じる。円礫 5-10㎝混じる。しまり中、粘性中。
 1 堅地層 : にぶい黄褐色粘土 2 5V6 3に黄褐色粘土 10R6 8粒子。にぶい黄褐色粘土 10R7 4粒子の混土。しまり強、粘性強。
 2 堅地層 : 灰黄褐色粘質土 10F94 2に黄褐色粘土 10R6 8粒子 5混じる。円礫 5-20㎝混じる。炭化物粒子 3混じる。しまり弱、粘性中。
 3 堅地層 : 灰黄褐色粘土 2 5V7 4ににぶい黄褐色粘土 10R7 4の混り硬層。しまり強、粘性強。
 1 堅地層 : 暗褐色粘質土 10R3 3ににぶい黄褐色粘土 10R7 4粒子・小ブロック 3混じる。炭化物粒子 3混じる。しまり中、粘性中。
 2 堅地層 : 暗褐色粘質土 10R3 4に黄褐色粘土 10R5 8粒子 15混じる。炭化物粒子 3混じる。しまり強、粘性中。
 1 堅地層 : 褐色粘質土 7 5V6 6ににぶい黄褐色粘土 10R7 2粒子・小中ブロック、黄褐色粘土 10R6 8粒子の混土。しまり強、粘性中。層状。
 2 堅地層 : にぶい黄褐色粘質土 10F94 3に黄褐色粘土 10R5 8粒子・小ブロック 15混じる。しまり強、粘性強。層状。
 1 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10R3 4に黄褐色粘土 10R5 8粒子・小ブロック 5混じる。炭化物粒子・粘土粒子 2混じる。しまり中、粘性中。
 2 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10R3 3に黄褐色粘土 10R5 8粒子・小ブロック 3混じる。炭化物粒子 2混じる。しまり中、粘性中。
 3 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10F94 4に黄褐色粘土 10R5 8粒子・小ブロック 20混じる。しまり中、粘性中。
 4 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10F94 4に黄褐色粘土 10R5 8粒子・小大ブロック 10混じる。炭化物粒子 2混じる。しまり中、粘性中。



第7図 第2遺構面検出遺構平面図・断面図(溝)

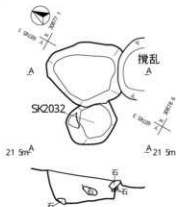
200号土坑



SK200土層注記

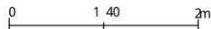
- 1 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10R3 3に黄褐色粘土 10R5 8粒子・小中ブロック 15。にぶい黄褐色粘土 10R7 4粒子・小中ブロック 15混じる。円礫 2-7㎝混じる。炭化物粒子 3混じる。粘土粒子 2混じる。しまり中、粘性中。

203号土坑



SK203土層注記

- 1 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10R3 3に黄褐色粘土 10R5 8粒子・小ブロック 15。にぶい黄褐色粘土 10R7 4粒子・小ブロック 15混じる。円礫 5-15㎝混じる。炭化物粒子 3混じる。しまり中、粘性強。



第7図 第2遺構面検出遺構平面図・断面図(土坑1)

200号土坑 (SK2004(第7図))

A区のNB45グリッドにおいて検出された。長辺1.8m、短辺0.77m、深さ0.22mを測る。平面はN42°Eに偏する隅丸長方形で、断面形状は箱型、底面は平坦である。200号土坑より新しく、200号土坑より古い。遺物は陶磁器片が出土しており、このうち磁器碗を図示した(第105図351)。

200号土坑 (SK2005(第7図))

A区のNB45グリッドにおいて検出された。長辺1.17m、短辺0.89m、深さ0.14mを測る。平面はN42°Eに偏する隅丸長方形で、断面形状は逆台形である。径1~10cmの亜円礫が廃棄される。重複はない。遺物は燻瓦、鉄釘が出土しており、このうち平瓦を図示した(第105図352)。

202号土坑 (SK2022(第7図))

A区のLZ44グリッドにおいて検出された。長軸0.58m、短軸0.56m、深さ0.08mを測る。平面はN54°Eに偏する不整楕円形で、断面形状は皿状、底面は平坦である。径1~6cmの亜円礫が廃棄される。重複はない。遺物は磁器片が出土しており、このうち磁器瓶類を図示した(第105図353)。

203号土坑 (SK2033(第7図))

A区のLZ43・LZ44グリッドにおいて検出された。長軸0.78m、短軸0.65m、深さ0.37mを測る。平面はN26°Wに偏する不整楕円形で、断面形状は逆台形、底面は平坦である。重複はない。堆積は1層で自然堆積である。遺物は陶磁器、鉄釘が出土しており、このうち磁器碗・蓋物を図示した(第105図354・355)。

203号土坑 (SK2037(第7図))

A区のLY43・LZ43グリッドにおいて検出された。長軸0.74m、短軸0.34m以上、深さ0.27mを測る。平面はN14°Wに偏する楕円形で、断面形状は箱型、底面は南側が1段下がる。重複はない。東側は調査区外である。遺物は磁器碗片が出土しており、これを図示した(第105図356)。

203号土坑 (SK2038(第7図))

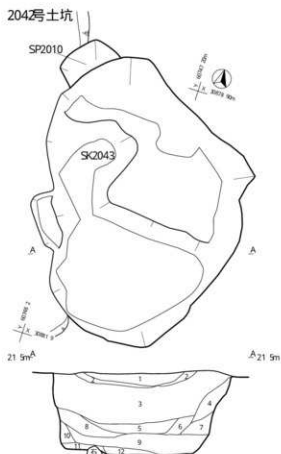
A区のLZ43グリッドにおいて検出された。長辺0.79m、短辺0.62m、深さ0.41mを測る。平面はN45°Wに偏する隅丸長方形で、断面形状は箱型、底面は北西側に0.27m×0.24mのビット状の掘込が認められる。堆積は2層に細別されるが、自然堆積である。206号ビットより新しい。遺物は陶磁器片が出土しており、このうち磁器蓋物を図示した(第105図357)。

204号土坑 (SK2042(第7図))

A区のLZ42・MA42グリッドにおいて検出された。長軸1.76m、短軸1.35m、深さ0.86mを測る。平面はN80°Eに偏する楕円形で、断面形状は箱型、底面は平坦である。堆積は12層に細別されるが、総じて地山のブロック土が多く人為的埋立である。各埋立土からは遺物が多く出土しており廃棄と考えられる。2043・205号土坑より新しく、204号土坑より古い。遺物は陶磁器、播鉢、かわらけ、燻瓦、砥石、鉄釘、不明鉄製品が出土しており、このうち磁器碗、陶器鉢、かわらけ、砥石、鉄釘を図示した(第105図358~368)。

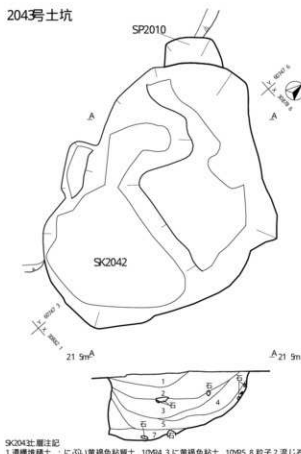
204号土坑 (SK2043(第7図))

A区のLZ42・LZ43グリッドにおいて検出された。長軸2m、短軸1.66m、深さ0.74mを測る。平面はN60°Wに偏する楕円形で、断面形状は逆台形である。堆積は7層に細別されるが、4~7層は地山のブロック土が多く人為的埋立である。1~3層を中心に遺物が多く出土しており廃棄と考えられる。204号土坑、201号ビットより新しい。遺物は陶磁器、播鉢、かわらけ、燻瓦、石製品、鉄釘が出土しており、このうち磁器皿、かわらけ、石製盤、鉄釘を図示した(第105図369~373)。



SK2043土層注記

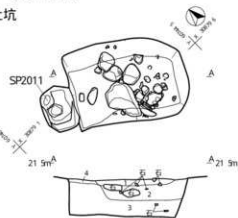
- 1 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10F64 4 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 10 混じる。炭化物粒子・焼土粒子 3 混じる。しまり強。粘性中。
- 2 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10F64 6 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小ブロック 2 5、に赤い黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 25 混じる。しまり強。粘性強。
- 3 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10F64 4 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 10 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
- 4 遺構堆積土 : に赤い黄褐色粘質土 10F64 3 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小ブロック 20 混じる。しまり中。粘性中。
- 5 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10F64 6 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小ブロック 3 0、に赤い黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 30 混じる。しまり強。粘性強。
- 6 遺構堆積土 : 灰黄褐色粘質土 10F64 2 に炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
- 7 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10F64 4 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小ブロック 2 0 混じる。しまり中。粘性強。
- 8 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10F64 4 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 15、に赤い黄褐色粘土 10R7 4 粒子 15 混じる。しまり中。粘性中。
- 9 遺構堆積土 : 黄褐色粘質土 10R3 2 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 10 混じる。炭化物粒子 10 混じる。しまり中。粘性中。
- 10 遺構堆積土 : に赤い黄褐色粘質土 10F64 3 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小ブロック、に赤い黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック、黄褐色粘土 10R2 2 小ブロックの混土。しまり中。粘性強。
- 11 遺構堆積土 : 灰黄褐色粘質土 10F64 2 に赤い黄褐色粘土 10R7 4 粒子 10 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性強。
- 12 遺構堆積土 : 灰黄褐色粘質土 10F64 2 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。



SK2042土層注記

- 1 遺構堆積土 : に赤い黄褐色粘質土 10F64 3 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 2 混じる。内臓 1~20 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 遺構堆積土 : 黄褐色粘質土 10R3 4 に赤い黄褐色粘土 10R7 4 粒子 3 混じる。内臓 1~20 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
- 3 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10F64 4 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 3 混じる。に赤い黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一中ブロック 5 混じる。内臓 2~30 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
- 4 遺構堆積土 : 黄褐色粘質土 10R3 4 に赤い黄褐色粘土 10R7 4 粒子 2 混じる。炭化物粒子 5 混じる。焼土粒子 1 混じる。しまり中。粘性中。
- 5 遺構堆積土 : 黄褐色粘質土 10R2 3 に炭化物粒子 10 混じる。しまり中。粘性中。
- 6 遺構堆積土 : 灰黄褐色粘質土 10F64 6 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小一中ブロック 5 混じる。しまり中。粘性強。
- 7 遺構堆積土 : 黄褐色粘質土 10R2 2 に炭化物粒子 10 混じる。焼土粒子 2 混じる。しまり弱。粘性中。

204号土坑



SK2042土層注記

- 1 遺構堆積土 : に赤い黄褐色粘質土 10R5 4 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小ブロック 30、に赤い黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 30 混じる。しまり強。粘性強。
- 2 遺構堆積土 : 黄褐色粘質土 10R3 4 に赤い黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 10 混じる。炭化物粒子 10 混じる。しまり中。粘性中。
- 3 遺構堆積土 : 黄褐色粘質土 10R3 3 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小ブロック 5 混じる。しまり中。粘性中。
- 4 遺構堆積土 : 黄褐色粘質土 10R2 3 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 10 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。



第78図 第2遺構面検出遺構平面図・断面図(土坑2)

2046号土坑 (SK2046(第79図))

A区のLZ42グリッドにおいて検出された。長軸1.34m、短軸1.3m、深さ0.63mを測る。平面はN33°Wに偏する楕円形で、断面形状は逆台形である。堆積は2層に細別されるが自然堆積である。2059号土坑より新しく、2045号土坑より古い。遺物は陶磁器が出土しており、このうち磁器皿、陶器皿・甕を図示した(第106図374~377)。

2047号土坑 (SK2047(第78図))

A区のLZ42・LZ43グリッドにおいて検出された。長辺1.24m、短辺0.9m、深さ0.4mを測る。平面はN55°Wに偏する隅丸長方形で、断面形状は逆台形である。堆積は3層に細別されるが比較的地の山のブロック土を多く含むことから人為的埋立土の可能性はある。2003号ピットより新しく、2059号土坑より古い。遺物は主に1層から、陶磁器、かわらけ、鉄釘が出土しているが、図示するものはない。

2050号土坑 (SK2050(第79図))

A区のLZ42グリッドにおいて検出された。長軸0.64m以上、短軸0.56m、深さ0.26mを測る。平面はN73°Eに偏する楕円形で、断面形状は箱型である。2056・2059号土坑より新しく、2054号土坑より古い。遺物は磁器皿が出土しており、これを図示した(第106図380)。

2051号土坑 (SK2051(第74図))

A区のLY42・LZ42グリッドにおいて検出された。長軸0.72m以上、短軸0.56m、深さ0.26mを測る。平面はN83°Eに偏する楕円形で、断面形状は逆台形である。2053・2055・2056号土坑より新しい。遺物は陶器皿が出土しており、これを図示した(第106図381)。

2054号土坑 (SK2054(第74図))

A区のLY42・LZ42グリッドにおいて検出された。長軸0.68m、短軸0.56m、深さ0.51mを測る。平面はN60°Eに偏する不整楕円形で、断面形状は逆台形である。2055・2059号土坑より新しい。遺物は磁器片、鉄釘が出土しているが、図示するものはない。

2055号土坑 (SK2055(第74図))

A区のLZ42グリッドにおいて検出された。長軸0.8m、短軸0.78m、深さ0.24mを測る。平面はN41°Eに偏する不整楕円形で、断面形状は逆台形である。2056号土坑より新しく、2054号土坑より古い。遺物は磁器が出土しているが、図示するものはない。

2056号土坑 (SK2056(第74図))

A区のLZ42グリッドにおいて検出された。長軸0.67m以上、短軸0.56m、深さ0.43mを測る。平面はN68°Wに偏する不整楕円形で、断面形状は箱型である。2059号土坑より古い。遺物は鉄釘が出土しているが、図示するものはない。

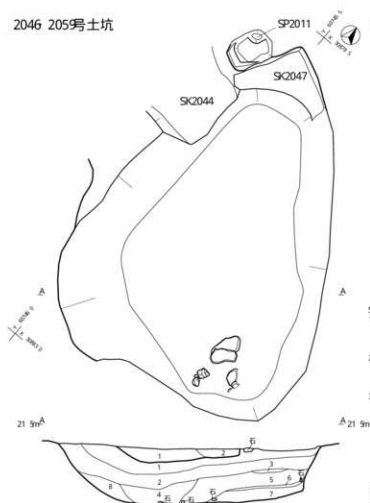
2059号土坑 (SK2059(第79図))

A区のLY42・LZ42・LZ43グリッドにおいて検出された。長軸2m、短軸1.66m、深さ0.74mを測る。平面はN60°Wに偏する楕円形、断面形状は逆台形である。堆積は8層に細別されるが、4~8層は地の山のブロック土が多く人為的埋立である。各層より多く出土しており廃棄と考えられる。重複遺構すべてより古い。遺物は陶磁器、煙瓦、鉄釘が出土しており、このうち磁器碗、陶器鉢・皿を図示した(第106図382~385)。

2061号土坑 (SK2061(第74図))

A区のLZ42グリッドにおいて検出された。長辺0.56m、短辺0.51m、深さ0.2mを測る。平面はN

2046 205号土坑



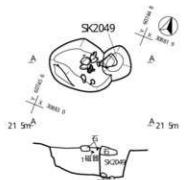
SK2046土層注記

- 1 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10R3 4 に5R1 1黄褐色粘土 10R7 2 粒子7 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中、粘性中。
- 2 遺構堆積土：紫色粘質土 7 5R1 7 1 に炭化物がペースト状に混じる。しまり中、粘性強。

SK205土層注記

- 1 遺構堆積土：褐色粘質土 7 5R4 3 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 15、5R1 1黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小ブロック 15 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり強、粘性強。
- 2 遺構堆積土：5R1 1黄褐色粘土 10R4 3 に5R1 1黄褐色粘土 10R7 2 粒子 10 混じる。炭化物粒子 2 混じる。鉄分混じる。しまり中、粘性中。
- 3 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10R2 3 に5R1 1黄褐色粘土 10R7 4 粒子 2 混じる。鉄分混じる。しまり中、粘性中。
- 4 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10R3 4 に5R1 1黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小ブロック 5 混じる。鉄分混じる。しまり中、粘性強。
- 5 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10R3 2 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 5、5R1 1黄褐色粘土 10R7 4 粒子 5 混じる。炭化物粒子 2 混じる。鉄分混じる。しまり中、粘性中。
- 6 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10R2 3 に5R1 1黄褐色粘土 10R7 4 粒子 3 混じる。しまり中、粘性中。
- 7 遺構堆積土：灰黄褐色粘質土 10R4 2 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 3 混じる。鉄分混じる。しまり中、粘性中。
- 8 遺構堆積土：褐色粘質土 10R4 4 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 15、5R1 1黄褐色粘土 10R7 2 粒子 15 混じる。しまり中、粘性強。

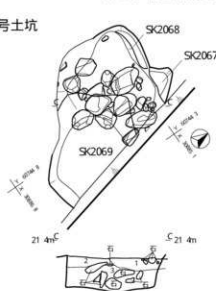
205号土坑



SK205土層注記

- 1 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10R3 3 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 3 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中、粘性中。

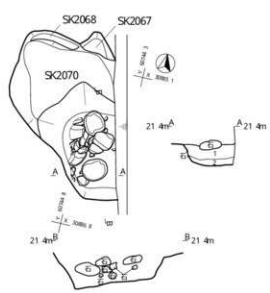
206号土坑



SK206土層注記

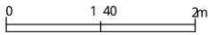
- 1 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10R3 3 に5R1 1黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小一ブロック 15、黄褐色粘土 10R5 8 粒子 15 混じる。内縁 5~7m混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり強、粘性強。
- 2 遺構堆積土：5R1 1黄褐色粘土 10R5 4 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小一ブロック、5R1 1黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小一ブロックの混土。内縁 5m混じる。しまり強、粘性強。
- 3 遺構堆積土：5R1 1黄褐色粘土 10R4 3 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 10 混じる。内縁 5~30m混じる。しまり中、粘性中。

207号土坑



SK207土層注記

- 1 遺構堆積土：褐色粘質土 10R4 4 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 3 混じる。炭化物粒子 混じる。しまり中、粘性中。
- 2 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10R2 3 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小ブロック 20 混じる。しまり中、粘性中。



第79図 第2遺構面検出遺構平面図・断面図(土坑3)

44 VC偏する隅丸方形、断面形状は箱型である。底面には径1m程の円形のビット状の掘込みをもつ。206号土坑より古い。遺物は陶磁片が出土しており、このうち磁器皿を図示した(第10図386)。206号土坑(SK2069(第7図))

A区のLZ4グリッドにおいて検出された。長軸1.26m、短軸0.82m以上、深さ0.28mを測る。平面はN21 VC偏する楕円形、断面形状は逆台形である。堆積は2層に細別されるが、いずれも地山のブロック土が多く人為的埋立である。径2~2.2mの垂円礫が廃棄される。207号土坑、200号礎石跡より新しく、207号土坑より古い。遺物は陶磁器、燻瓦が出土しており、このうち磁器杯を図示した(第10図387)。207号土坑(SK2070(第7図))

A区のLZ4グリッドにおいて検出された。長軸1.04m以上、短軸0.93m、深さ0.38mを測る。平面はN86 Bに偏する楕円形、断面形状は箱型である。堆積は3層に細別されるが、いずれも地山のブロック土が多く人為的埋立である。径8~35mの垂円礫が廃棄される。207号土坑、200号礎石跡より新しい。遺物は出土していない。207号土坑(SK2071(第8図))

A区のLZ4グリッドにおいて検出された。長辺2.35m、短辺0.99m、深さ0.38mを測る。平面はN45 VC偏するやや不整な隅丸長方形、断面形状は逆台形である。堆積は4層に細別されるが、自然堆積である。2072・2074・207号土坑より新しく、2012・207号土坑より古い。遺物は陶磁器、播鉢、土風炉、燻瓦、鉄釘が出土しており、このうち磁器小杯、土風炉を図示した(第10図388・389)。207号土坑(SK2074(第8図))

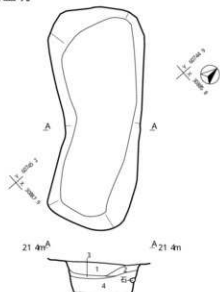
A区のLY40・LZ40・LZ4グリッドにおいて検出された。長辺2.5m、短辺0.89m、深さ0.89mを測る。平面はN89 VC偏する隅丸長方形、断面形状は箱型である。堆積は1層に細別されるが、1~3層は自然堆積、4~1層は地山ブロック土を多く含み人為的埋立である。207号土坑より新しく、2071・207号土坑より古い。遺物は陶磁器等が出土しており、このうち磁器仏飯器・碗、陶器香炉・鉢を図示した(第10図390~395)。207号土坑(SK2075(第8図))

A区のLY40・LY41・LZ40・LZ4グリッドにおいて検出された。長辺1.2m、短辺0.62m、深さ0.96mを測る。平面はN20 VC偏する隅丸長方形、断面形状は箱型である。堆積は9層に細別されるが、1~4層は自然堆積、5~9層は地山ブロック土を多く含み人為的埋立である。なお、3層はペースト状の炭化物である。2071・207号土坑より古い。遺物は出土していない。207号土坑(SK2078(第8図))

A区のLY39・LY40グリッドにおいて検出された。長軸1.37m、短軸0.83m、深さ0.84mを測る。平面はN48 VC偏する不整楕円形、断面形状は逆台形である。底面北西側には径0.2m、深さ0.43mのビット状の掘込が認められる。径3~16mの円礫が廃棄される。207号土坑より新しい。遺物は陶磁器片が出土しており、このうち磁器碗・水滴を図示した(第10図396・397)。207号土坑(SK2079(第8図))

A区のLY39・LY40グリッドにおいて検出された。長軸0.82m以上、短軸0.67m以上、深さ0.14mを測る。平面はN58 Bに偏する楕円形、断面形状は逆台形である。207号土坑より古い。遺物は出土していない。

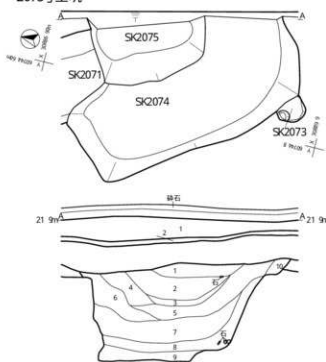
207号土坑



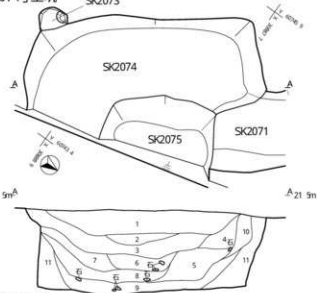
SK207土層注記

- 1 遺構堆積土 : 灰黄褐色粘質土 10F94 2 に \pm 0.1黄褐色粘土 10F97 4 粒子・小一中ブロック 10 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり強。粘性中。
- 2 遺構堆積土 : 灰黄褐色粘質土 10F94 2 に \pm 0.1黄褐色粘土 10F97 4 粒子 3 混じる。しまり強。粘性中。
- 3 遺構堆積土 : \pm 0.1黄褐色粘質土 10F94 3 に黄褐色粘土 10F95 8 粒子 5。に \pm 0.1黄褐色粘土 10F97 4 粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
- 4 遺構堆積土 : \pm 0.1黄褐色粘質土 10F94 3 に \pm 0.1黄褐色粘土 10F97 4 粒子・小ブロック 3 混じる。炭化物粒子 1 混じる。しまり強。粘性中。

207号土坑



207号土坑



SK207土層注記

- 1 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10R93 4 に \pm 0.1黄褐色粘土 10F97 4 粒子 2 混じる。炭化物粒子 5 混じる。焼土粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 遺構堆積土 : 暗褐色粘土 10R93 3 に炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
- 3 遺構堆積土 : 灰黄褐色粘質土 10F94 2 に炭化物粒子 20 混じる。焼土粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
- 4 遺構堆積土 : \pm 0.1黄褐色粘質土 10F95 3 に \pm 0.1黄褐色粘土 10R97 4 粒子・小一中ブロック 15 混じる。炭化物粒子 10 混じる。しまり中。粘性強。
- 5 遺構堆積土 : \pm 0.1黄褐色粘質土 10R95 3 に \pm 0.1黄褐色粘土 10R97 4 粒子・小一大ブロック・黄褐色粘土 10F95 8 粒子・小一中ブロックの混土。しまり中。粘性強。
- 6 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10F94 4 に \pm 0.1黄褐色粘土 10R97 4 粒子・小一大ブロック・黄褐色粘土 10F95 8 粒子・小一中ブロック・明赤褐色粘土 5F95 8 粒子の混土。円礫 5-7 ϕ 混じる。しまり中。粘性強。
- 7 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10R93 4 に \pm 0.1黄褐色粘土 10R97 4 粒子・小一中ブロック 20・明赤褐色粘土 5F95 8 粒子・小一中ブロック 20・黄褐色粘土 10F95 8 粒子・小ブロック 20 混じる。しまり中。粘性強。
- 8 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10F94 4 に黄褐色粘土 10F95 8 粒子 10 混じる。円礫 10 ϕ 混じる。しまり中。粘性中。
- 9 遺構堆積土 : 黄褐色粘質土 7 5F93 1 に炭化物粒子 30 混じる。焼土粒子 20 混じる。しまり強。粘性中。
- 10 遺構堆積土 : \pm 0.1黄褐色粘質土 10F94 3 に黄褐色粘土 10F95 8 粒子 25。に \pm 0.1黄褐色粘土 10F97 2 粒子 25 混じる。しまり中。粘性強。
- 11 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10R93 3 に \pm 0.1黄褐色粘土 10R97 2 粒子・小一中ブロック 15 混じる。しまり中。粘性強。

SK207土層注記

- 表土層 : 灰黄褐色粘質土 10F94 2 に円礫 5-10 ϕ 混じる。しまり中。粘性中。
- 1 整地層 : 灰黄褐色粘質土 10F94 2 に黄褐色粘土 10F95 8 粒子 5 混じる。円礫 2-3 ϕ 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 旧表土層 : 黒色粘質土 10F92 1 に黄褐色粘土 10F95 8 粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
- 整地層 : 暗褐色粘質土 10R93 3 に \pm 0.1黄褐色粘土 10R97 4 粒子・小ブロック 3 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
- 整地層 : 暗褐色粘土 10R93 3 に炭化物粒子 10F95 8 粒子・小一中ブロック。に \pm 0.1黄褐色粘土 10R97 2 粒子・小一中ブロックの混土。しまり中。粘性強。
- 1 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10R93 4 に黄褐色粘土 10F95 8 粒子・小ブロック 7 混じる。円礫 3 ϕ 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
 - 2 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10R93 3 に黄褐色粘土 10F95 8 粒子・ \pm 0.1黄褐色粘土 10R97 2 粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
 - 3 遺構堆積土 : 黒色粘質土 7 5F91 7 に炭化物主体的に混じる。ベスト状。しまり強。粘性中。
 - 4 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 7 5F93 4 に黄褐色粘土 10F95 8 粒子 2 混じる。炭化物粒子 5 混じる。焼土粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
 - 5 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 7 5F93 3 に炭化物粒子・焼土粒子 10 混じる。しまり中。粘性中。
 - 6 遺構堆積土 : 褐色粘土 7 5F94 4 に黄褐色粘土 10F95 8 粒子・小一大ブロック 30。に \pm 0.1黄褐色粘土 10R97 2 粒子・小一大ブロック 30 混じる。しまり中。粘性強。
 - 7 遺構堆積土 : 明赤褐色粘土 7 5F95 6 に \pm 0.1黄褐色粘土 10R97 2 粒子・小一大ブロック・明赤褐色粘土 5F95 8 粒子・小一中ブロック・黄褐色粘土 10F95 8 粒子の混土。しまり強。粘性強。
 - 8 自然堆積土 : 黄褐色粘土 7 5F93 2 に黄褐色粘土 10F95 8 粒子 3 混じる。円礫 5-7 ϕ 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり強。粘性中。
 - 9 前部崩落土 : 褐色粘土 7 5F94 4 に黄褐色粘土 10F95 8 粒子・小一大ブロック。に \pm 0.1黄褐色粘土 10R97 2 粒子・小一大ブロックの混土。しまり中。粘性強。

0 1 40 2m

第8図 第2遺構面検出遺構平面図・断面図(土坑4)

2080号土坑 (SK2080(第8図))

A区のLY39グリッドにおいて検出された。長辺0.99m、短辺0.59m、深さ0.37mを測る。平面はN31°Eに偏する不整形楕円形、断面形状は逆台形である。堆積は4層に細別されるが、いずれも自然堆積である。北側は1079号土坑により削平される。遺物は磁器片が出土しており、このうち磁器色絵蓋物を図示した(第10図398)。

2083号土坑 (SK2083(第8図))

A区のLX39・LY39グリッドにおいて検出された。長辺1.2m、短辺0.74m、深さ1.26m以上を測る。平面はN39°Eに偏する隅丸長方形、断面形状は逆台形である。中央部は1段深くなるが、安全を考慮し底面まで掘削していない。堆積は2層に細別されるが、いずれも地山ブロック土を多く含み人為的埋立である。重複はない。遺物は陶器片が出土しているが、図示するものはない。

2086号土坑 (SK2086(第8図))

A区のWB9・LX39グリッドにおいて検出された。長軸1.37m、短軸1.22m、深さ1.59mを測る。平面はN74°Eに偏する楕円形、断面形状は箱型である。堆積は4層に細別されるが、いずれも地山ブロック土を比較的多く含み人為的埋立である。重複はない。遺物は出土していない。

2088号土坑 (SK2088(第8図))

A区のLX39グリッドにおいて検出された。長軸1.27m、短軸0.68m以上、深さ1.27mを測る。平面はN86°Eに偏する楕円形、断面形状は箱型である。底面は西側が1段深くなるが、安全を考慮し底面まで掘削していない。堆積は3層に細別されるが、いずれも地山のブロック土を比較的多く含み人為的埋立と思われる。2層下面に径1~12mの亜円礫が廃棄される。2088号土坑より新しい。遺物は燻瓦片が出土しているが、図示するものはない。

2090号土坑 (SK2090(第8図))

A区のWB9グリッドにおいて検出された。長軸0.54m、短軸0.5m、深さ0.03mを測る。平面はN38°Eに偏する楕円形、断面形状は皿状である。中央部底面に径1~10mの亜円礫が廃棄される。礎石根固にも見えるが、礫の入り方が他の根固とは異なるため土坑と判断した。重複はない。遺物は出土していない。

2108号土坑 (SK2108(第8図))

B区のM053・M054・ME53・ME54グリッドにおいて検出された。長辺2.3m、短辺1.64m、深さ0.26mを測る。平面はN40°Eに偏する隅丸長方形、断面形状は逆台形である。底面は凹凸が認められる。堆積は4層に細別されるが、自然堆積と思われる。2109・2110号土坑より新しい。遺物は陶磁器、かわらけ、燻瓦、磁石が出土しているが、このうち磁器碗、陶器皿、平瓦(燻瓦)、磁石を図示した(第10図399~402)。

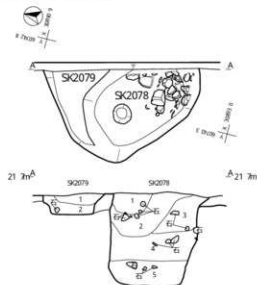
2111号土坑 (SK2111(第6図))

B区のM054グリッドにおいて検出された。長辺0.61m、短辺0.56m、深さ0.32mを測る。平面はN54°Wに偏する隅丸長方形、断面形状は逆台形である。2113・2115号土坑より新しい。遺物は播鉢が出土しているが、これを図示した(第10図403)。

2112号土坑 (SK2112(第6図))

B区のM054グリッドにおいて検出された。長軸0.5m以上、短軸0.19m以上、深さ0.11mを測る。平面はN61°Wに偏する楕円形、断面形状は逆台形である。200号溝跡、2111・2113号土坑より新しい。遺物は陶磁器が出土しているが、これを図示した(第10図404)。

2078・2079号土坑



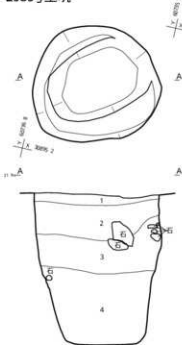
SK2078土層注記

- 1 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10YR6 4 にぶい黄褐色粘土 10YR7 4、黄褐色粘土 10YR5 8 の混土。しまり中、粘性中。
- 2 遺構堆積土 : にぶい黄褐色粘質土 10YR4 3 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小ブロック 3 選じる。混土粒子 2 選じる。しまり中、粘性中。
- 3 遺構堆積土 : 灰黄褐色粘質土 10YR4 2 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小ブロック 3 選じる。円礫 5~7φ 選じる。しまり中、粘性中。
- 4 遺構堆積土 : にぶい黄褐色粘質土 10YR4 3 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小一中ブロック 10 選じる。円礫 10φ 選じる。しまり中、粘性中。
- 5 遺構堆積土 : にぶい黄褐色粘質土 10YR4 3 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小一中ブロック 20、明赤褐色粘土 5YR5 8 粒子・小一中ブロック 20、にぶい黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 20 選じる。しまり中、粘性強。
- 6 遺構堆積土 : 灰黄褐色粘質土 10YR4 2 にぶい黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・極大ブロック 5φ、黄褐色粘土 10YR5 8 粒子 50 選じる。円礫 5~20φ 選じる。しまり中、粘性強。

SK2079土層注記

- 1 遺構堆積土 : にぶい黄褐色粘質土 10YR5 3 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小ブロック 15 選じる。炭化物粒子 3 選じる。混土粒子 5 選じる。しまり中、粘性中。
- 2 遺構堆積土 : にぶい黄褐色粘質土 10YR4 3 にぶい黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小ブロック 5、黄褐色粘土 10YR5 8 粒子 5 選じる。しまり中、粘性中。

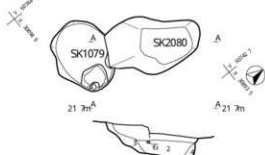
208号土坑



SK208土層注記

- 1 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10YR3 4 にぶい黄褐色粘土 10YR7 2 小一中大ブロック 40、にぶい黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小一中ブロック 40 選じる。しまり強、粘性中。
- 2 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 7 5YR3 3 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小ブロック 30、にぶい黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小ブロック 30 選じる。礫 10~20φ 選じる。しまり中、粘性強。
- 3 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10YR3 3 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小ブロック 20、にぶい黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小ブロック 20 選じる。礫 20φ 選じる。しまり弱、粘性強。
- 4 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10YR3 3 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小ブロック 10、にぶい黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小ブロック 10 選じる。しまり弱、粘性強。

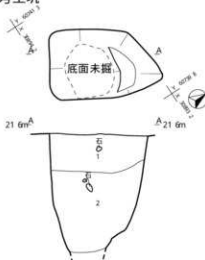
208号土坑



SK208土層注記

- 1 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10YR3 4 にぶい黄褐色粘土 10YR7 2 粒子 10 選じる。円礫 3~5φ 選じる。炭化物粒子 5 選じる。しまり中、粘性中。
- 2 遺構堆積土 : 暗褐色粘質土 10YR3 3 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子 3 選じる。炭化物粒子 2 選じる。しまり中、粘性中。
- 3 遺構堆積土 : にぶい黄褐色粘質土 10YR4 3 にぶい黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 5 選じる。しまり中、粘性中。
- 4 遺構堆積土 : 灰黄褐色粘質土 10YR4 2 にぶい黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小一中ブロック 10 選じる。しまり中、粘性中。

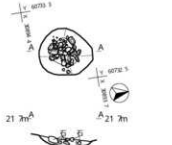
208号土坑



SK208土層注記

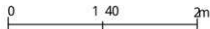
- 1 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10YR4 4 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小一中ブロック、にぶい黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小一中ブロック、にぶい黄褐色粘土 10YR7 2 粒子・小一中ブロックの混土。円礫 5~10cm 選じる。しまり中、粘性強。
- 2 遺構堆積土 : 褐色粘質土 10YR4 4 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小ブロック 25、にぶい黄褐色粘土 10YR7 4 粒子・小ブロック 25 選じる。しまり弱、粘性強。

209号土坑



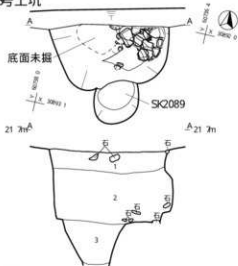
SK209土層注記

- 1 遺構堆積土 : にぶい黄褐色粘質土 10YR4 3 に黄褐色粘土 10YR5 8 粒子・小ブロック 15 選じる。円礫 3~10φ 選じる。しまり中、粘性中。



第8図 第2遺構面検出遺構平面図・断面図(土坑5)

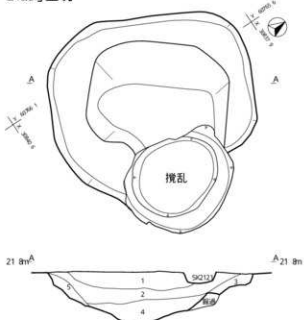
208号土坑



SK2089土層注記

- 1 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10VR3 4 にぶい黄褐色粘土 10VR5 8 粒子・小ブロック 10 混じる。しまり強。粘性強。
- 2 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10VR3 3 に黄褐色粘土 10VR5 8 粒子・小ブロック 15。にぶい黄褐色粘土 10VR7 2 粒子・小ブロック 15 混じる。しまり中。粘性強。
- 3 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10VR3 4 に黄褐色粘土 10VR5 8 粒子・小ブロック 20 混じる。しまり中。粘性強。

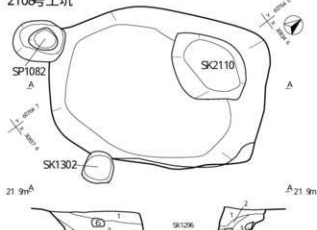
212号土坑



SK212土層注記

- 1 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10VR3 4 にぶい黄褐色粘土 10VR7 2 粒子 7 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10VR3 4 にぶい黄褐色粘土 10VR7 2 粒子・小ブロック 5 混じる。円礫 2~3mm 混じる。しまり中。粘性中。
- 3 遺構堆積土：褐色粘質土 10VR4 4 にぶい黄褐色粘土 10VR7 2 粒子・小ブロック 10 混じる。しまり中。粘性中。
- 4 遺構堆積土：にぶい黄褐色粘質土 10VR4 3 にぶい黄褐色粘土 10VR7 2 粒子・小ブロック 20。にぶい黄褐色粘土 10VR7 4 粒子・小ブロック 20 混じる。炭化物粒子 1 混じる。しまり中。粘性中。
- 5 遺構堆積土：にぶい黄褐色粘質土 10VR5 3 にぶい黄褐色粘土 10VR7 2 粒子・小ブロック 20。にぶい黄褐色粘土 10VR7 4 粒子・小ブロック 20 混じる。しまり中。粘性中。

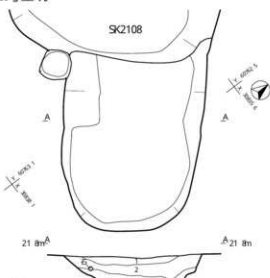
2108号土坑



SK1082土層注記

- 1 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10VR3 4 にぶい黄褐色粘土 10VR7 2 粒子・小中ブロック 5 混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性中。
- 2 遺構堆積土：灰黄褐色粘質土 10VR5 2 にぶい黄褐色粘土 10VR7 4 粒子・小ブロック 30 混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性強。
- 3 遺構堆積土：褐色粘質土 10VR4 4 に炭化物粒子 5 混じる。鉄分混じる。粗粒砂混じる。しまり中。粘性中。
- 4 遺構堆積土：灰黄褐色粘質土 10VR5 2 にぶい黄褐色粘土 10VR7 2 粒子 3 混じる。鉄分混じる。しまり中。粘性中。

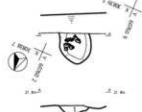
2129号土坑



SK2129土層注記

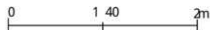
- 1 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10VR3 3 にぶい黄褐色粘土 10VR7 2 粒子 10 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 遺構堆積土：褐色粘質土 10VR4 4 にぶい黄褐色粘土 10VR7 4 粒子・小ブロック 30 混じる。しまり中。粘性強。
- 3 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10VR3 4 にぶい黄褐色粘土 10VR7 2 粒子・小中ブロック 3 混じる。炭化物粒子 5 混じる。しまり中。粘性中。

213号土坑



SK213土層注記

- 1 遺構堆積土：褐色粘質土 10VR4 6 にぶい黄褐色粘土 10VR7 2 粒子 5 混じる。しまり中。粘性強。



第8図 第2遺構面検出遺構平面図・断面図(土坑6)

212号土坑 (SK2123(第8図))

B区のME52・ME53グリッドにおいて検出された。長辺2.16m、短辺1.99m、深さ0.59mを測る。平面はN29°Eに偏する隅丸長方形、断面形状は逆台形である。底面は中央部が播鉢状に窪む。堆積は5層に細別されるが、1・2層は自然堆積、3～5層は地山ブロック土を比較的多く含み人為的埋立である。2121・2122号土坑より古い。東側は攪乱により消失する。遺物は陶磁器、かわらけ、燻瓦、鉄釘が出土しているが、このうち陶器皿を図示した(第10図405)。

212号土坑 (SK2125(第6図))

B区のMF5グリッドにおいて検出された。長軸0.63m以上、短軸0.51m、深さ0.51mを測る。平面はN60°Eに偏する楕円形、断面形状は箱型である。底面は不定形の凹凸が認められ、植栽痕の可能性はある。西側は調査区外である。重複はない。遺物は陶磁器片、播鉢、かわらけが出土しているが、このうち播鉢を図示した(第10図406)。

212号土坑 (SK2126(第6図))

B区のME52・MF5グリッドにおいて検出された。長軸0.68m、短軸0.59m、深さ0.39mを測る。平面はN14°Wに偏する楕円形、断面形状は箱型である。重複はない。遺物は陶磁器片が出土しているが、陶器皿を図示した(第10図407)。

212号土坑 (SK2129(第8図))

B区のMD53・MD54グリッドにおいて検出された。長辺1.8m、短辺1.49m、深さ0.34mを測る。平面はN55°Wに偏する隅丸長方形、断面形状は逆台形である。堆積は3層に細別されるが、1・3層は自然堆積、2層は地山ブロック土を多く含み人為的埋立である。2001・202号ビットより新しく、210号土坑より古い。遺物は陶磁器、かわらけ、燻瓦、煙管、鉄釘、不明鉄製品が出土しているが、このうち磁器碗・色絵油壺、陶器鉢、かわらけ、鉄釘を図示した(第10図408～412)。

213号土坑 (SK2135(第8図))

B区のMD6グリッドにおいて検出された。長軸0.32m以上、短軸0.33m、深さ0.08mを測る。平面はN25°Wに偏する楕円形、断面形状は皿状である。南側は調査区外である。検出面上で蛤の殻が5片以上出土した。重複はない。遺物は陶磁器、かわらけが出土しているが、図示するものはない。

ビット (SP)

200号ビット (SP2001(第8図))

A区のMB4グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.71m、短軸0.4m以上、深さ0.4mを測る。平面は楕円形で断面形状は逆凸字状である。堆積は3層に細分され、1層が柱痕、2・3層が掘方埋土である。3層上面には24cm×17cmの亜円礫が置かれ、柱痕直下にあたることから礎石と考えられる。南側は123号土坑により消失する。1130号土坑より新しい。遺物は出土していない。

200号ビット (SP2002(第8図))

A区のMC46グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.57m、短軸0.29m以上、深さ0.39mを測る。平面は楕円形で断面形状は逆凸字状である。堆積は3層に細分され、1層が柱抜取痕、2・3層が掘方埋土である。2層上面には径25cmの亜円礫が置かれ、柱痕直下にあたることから礎石と考えられる。南側は1235号土坑により消失、北西側は調査区外である。遺物は出土していない。

200号ビット



21.5m^A Δ21.5m



SP200仕層注記

- 1柱様：黄褐色粘質土 10V93 2に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子 2混じる。系分混じる。しまり中、粘性中。
- 2層方：灰黄褐色粘質土 10V94 2に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子・小ブロック7混じる。炭化物粒子5混じる。鉄分混じる。しまり強、粘性中。
- 3層方：黄褐色粘土 10V95 6に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子・小ブロック、にぶい黄褐色粘土 10VR 4 4粒子・小ブロックの混土。しまり強、粘性強。

200号ビット



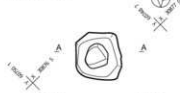
21.6m^A Δ21.6m



SP200仕層注記

- 1柱採取：にぶい黄褐色粘質土 10V94 3に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子・小ブロック2混じる。しまり強、粘性中。
- 2層方：暗褐色粘質土 10VR 3 4に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子5混じる。炭化物粒子3混じる。しまり中、粘性中。
- 2層方：褐色粘土 10V94 4に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子・小ブロック25、にぶい黄褐色粘土 10VR 4 4粒子・小ブロック25混じる。
- 3層方：褐色粘土 10V94 4に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子・小ブロック15、にぶい黄褐色粘土 10VR 2 2粒子・小ブロック15混じる。しまり強、粘性中。

200号ビット



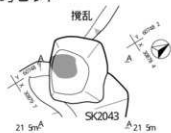
21.5m^A Δ21.5m



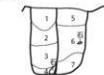
SP200仕層注記

- 1柱様：褐色粘土 10V94 4に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子・小ブロック10混じる。しまり強、粘性中。
- 2層方：暗褐色粘土 10VR 3 4ににぶい黄褐色粘土 10VR 7 2粒子・小大ブロック40、にぶい黄褐色粘土 10VR 4 4粒子・小中ブロック20混じる。しまり強、粘性強。
- 3層方：褐色粘土 10V94 4に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子・小中ブロック15混じる。しまり強、粘性強。
- 4層方：褐色粘土 10V94 6に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子・小ブロック30、にぶい黄褐色粘土 10VR 2 2粒子・小ブロック30混じる。しまり強、粘性強。

201号ビット



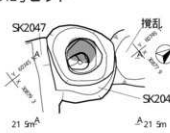
21.5m^A Δ21.5m



SP201仕層注記

- 1柱採取：褐色粘土 10V94 4に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子・小ブロック20、にぶい黄褐色粘土 10VR 2 2粒子・小ブロック20混じる。円礫 5mm混じる。しまり強、粘性強。
- 2柱採取：にぶい黄褐色粘土 10VR 3 3に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子・小ブロック30、にぶい黄褐色粘土 10VR 2 2粒子・小ブロック30混じる。しまり強、粘性強。
- 3柱採取：褐色粘土 10V94 4ににぶい黄褐色粘土 10VR 2 2粒子・小ブロック7混じる。しまり強、粘性中。
- 4層方：褐色粘土 10V94 6ににぶい黄褐色粘土 10VR 4 4粒子・小ブロック、にぶい黄褐色粘土 10VR 2 2粒子・小ブロックの混土。鉄分混じる。しまり強、粘性強、柱立ちり
- 5層方：褐色粘土 10V94 4ににぶい黄褐色粘土 10VR 7 2粒子 10、明赤褐色粘土 5VR 5 8粒子 10混じる。円礫 2mm混じる。しまり強、粘性強。
- 6層方：褐色粘土 10V94 4に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子・小ブロック、にぶい黄褐色粘土 10VR 2 2粒子・小ブロックの混土。円礫 2~5mm混じる。しまり強、粘性強。
- 7層方：にぶい黄褐色粘土 10V94 3に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子・小ブロック15、にぶい黄褐色粘土 10VR 2 2粒子・小ブロック15混じる。しまり強、粘性強。

201号ビット



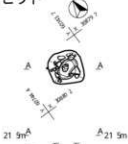
21.5m^A Δ21.5m



SP201仕層注記

- 1層方：暗褐色粘質土 10VR 3 3に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子・小ブロック20、にぶい黄褐色粘土 10VR 7 2 2粒子・小ブロック20混じる。しまり強、粘性強。
- 2層方：暗褐色粘土 10VR 3 4に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子・小ブロック30、にぶい黄褐色粘土 10VR 2 2粒子・小ブロック30混じる。鉄分混じる。しまり強、粘性強。
- 3層方：褐色粘土 10V94 4ににぶい黄褐色粘土 10VR 2 2粒子・小ブロック20混じる。鉄分混じる。しまり強、粘性強。

201号ビット



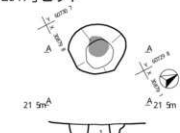
21.9m^A Δ21.9m



SP201仕層注記

- 1層方：暗褐色粘土 10VR 3 3に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子・小中ブロック15混じる。鉄分混じる。しまり中、粘性中。

201号ビット



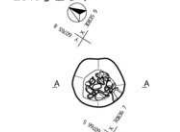
21.5m^A Δ21.5m



SP201仕層注記

- 1柱様：褐色粘土 10V94 4に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子 10混じる。炭化物粒子2混じる。しまり中、粘性中。
- 2層方：褐色粘土 10V94 4に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子・小ブロック7混じる。しまり強、粘性中。
- 3層方：灰黄褐色粘土 10V94 2に黄褐色粘土 10VR 5 8粒子・小ブロック20、にぶい黄褐色粘土 10VR 2 2粒子 20混じる。しまり強、粘性強。

201号ビット

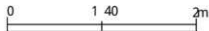


21.9m^A Δ21.9m



SP201仕層注記

- 1層方：暗褐色粘質土 10VR 3 4ににぶい黄褐色粘土 10VR 4 4粒子・小ブロック15混じる。しまり強、粘性強。



第8図 第2 遺構面検出遺構平面図・断面図(ビット1)

200号ピット(SP2009(第8図)

A区のMA43グリッドにおいて検出された。掘方は長辺0.51m、短辺0.47m、深さ0.48mを測る。平面は隅丸方形で断面形状は逆凸字状である。堆積は4層に細分され、1層が柱痕、2〜4層が掘方埋土である。重複はない。遺物は出土していない。

201号ピット(SP2010(第8図)

A区のLZ43・MA43グリッドにおいて検出された。掘方は長辺0.69m、短辺0.61m、深さ0.79mを測る。平面は隅丸長方形で断面形状は箱型である。堆積は7層に細分され、1〜4層が柱抜取痕、5〜7層が掘方埋土である。204号土坑より新しい。遺物は出土していない。

201号ピット(SP2011(第7図)

A区のLZ43グリッドにおいて検出された。掘方は長辺0.49m、短辺0.34m、深さ0.33mを測る。平面は隅丸長方形で断面形状は逆台形である。堆積は3層に細分され、1層が柱抜取痕、2・3層が掘方埋土である。掘方埋土には径2〜7mmの亜円礫が含まれる。204号土坑より新しい。遺物は陶磁器片、赤瓦片が出土しているが、このうち陶器鍋を図示した(第10図437)。

201号ピット(SP2012(第8図)

A区のLZ43・MA43グリッドにおいて検出された。掘方は長辺0.82m、短辺0.67m、深さ0.96mを測る。平面はやや不整な隅丸長方形で断面形状は箱型である。堆積は3層に細分され、いずれも掘方埋土である。掘方中央部には22m²17mの扁平亜円礫がおかれ、柱痕直下にあたることから礎石と考えられる。204号土坑より古い。遺物は磁器片が出土しているが、図示できるものはない。

201号ピット(SP2013(第8図)

A区のLY42・LY43・LZ42・LZ43グリッドにおいて検出された。掘方は長辺0.36m、短辺0.34m、深さ0.25mを測る。平面は隅丸方形で断面形状は箱型である。柱は抜き取られていたため確認できなかったが、掘方中央部には25m²12mの扁平亜円礫がおかれ礎石と考えられる。掘方内には径2〜8mmの亜円礫が認められる。重複はない。遺物は陶磁器片が出土しているが、図示できるものはない。

201号ピット(SP2017(第8図)

A区のLV43グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.61m、短辺0.52m、深さ0.65mを測る。平面は円形で断面形状は箱型である。堆積は3層に細分され、1・2層が柱痕、3層が掘方埋土である。重複はない。遺物は出土していない。

2018号ピット(SP2018(第6図)

B区のMD54グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.4m、短辺0.34m、深さ0.41mを測る。平面は円形で断面形状は箱型である。柱痕は検出されない。211号土坑より新しい。遺物は陶器皿が出土しているが、これを図示した(第10図438)。

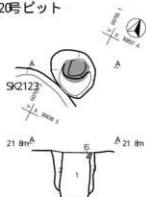
2019号ピット(SP2019(第8図)

A区のME53グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.55m、短軸0.52m、深さ0.64mを測る。平面は円形で断面形状は箱型である。中央には柱痕跡をもち、1層は掘方埋土である。底面には径1〜15mmの円礫が敷かれていた。重複はない。遺物は出土していない。

202号ピット(SP2020(第8図)

A区のME53グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.51m、短軸0.47m、深さ0.5mを測る。平面は楕円形で断面形状は逆凸字状である。堆積は2層に細分され、1層が柱痕、2層が掘方埋土である。212号土

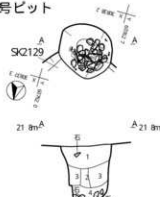
202号ピット



SP202土層注記

- 1 柱状：暗褐色粘質土 10R3 4 に灰1黄褐色粘土 10R7 2 粒子 5 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中、粘性中。
2 竪方：褐色粘質土 10R4 4 に灰1黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小・中ブロック 15 混じる。炭化物粒子 3 混じる。鉄分混じる。しまり中、粘性強。

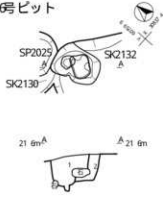
202号ピット



SP202土層注記

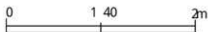
- 1 遺構埋積土：黄褐色粘質土 10R3 2 に灰1黄褐色粘土 10R7 2 粒子 7 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中、粘性中。
2 遺構埋積土：灰黄褐色粘質土 10R5 2 に灰1黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小・中ブロック 30 混じる。しまり強、粘性中。
3 竪方：暗褐色粘質土 10R3 3 に灰1黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小・中ブロック 30 混じる。しまり強、粘性強。
4 竪方：褐色粘質土 10R4 4 に灰1黄褐色粘土 10R7 2 粒子・小・中ブロック 7 混じる。しまり強、粘性強。

202号ピット



SP202土層注記

- 1 柱状：に灰1黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小・中ブロック 10 混じる。潮よりやや細かい。しまり中、粘性強。
2 竪方：に灰1黄褐色粘土 10R5 4 に灰1黄褐色粘土 10R7 4 粒子・小・中ブロック 30 混じる。しまり強、粘性強。



第84図 第2遺構面検出遺構平面図・断面図(ピット2)

200号礎石跡



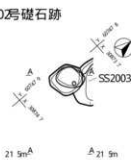
SS200土層注記

- 1 遺構埋積土：暗褐色粘質土 10R3 4 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・小・中ブロック 20 混じる。内蔵 2-5cm 混じる。しまり中、粘性強。

SK201土層注記

- 1 遺構埋積土：暗褐色粘質土 10R3 3 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 5 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中、粘性中。

200号礎石跡



SS200土層注記

- 1 根固：に灰1黄褐色粘質土 10R4 3 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 30、に灰1黄褐色粘土 10R7 2 粒子 30 混じる。しまり中、粘性強。

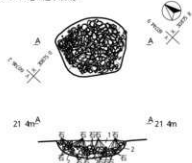
200号礎石跡



SS200土層注記

- 1 根固：褐色粘質土 10R4 4 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子 7 混じる。内蔵 2-10cm 混じる。しまり中、粘性中。

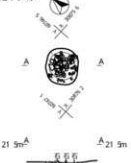
200号礎石跡



SS200土層注記

- 1 根固：に灰1黄褐色粘質土 10R6 4 に黄褐色粘土 10R5 8 粒子・ブロック 主体。炭化物粒子 2 混じる。しまり強、粘性強。
2 竪方：灰黄褐色粘質土 10R4 2 に内蔵 3-7cm 混じる。鉄分混じる。しまり弱、粘性中。

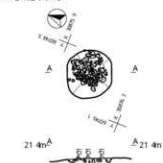
200号礎石跡



SS200土層注記

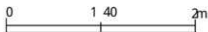
- 1 根固：暗褐色粘質土 10R3 4 に内蔵 2-7cm 混じる。鉄分混じる。しまり中、粘性中。

200号礎石跡



SS200土層注記

- 1 根固：に灰1黄褐色粘質土 10R4 3 に内蔵 3-5cm 混じる。炭化物粒子 2 混じる。鉄分混じる。しまり中、粘性中。



第85図 第2遺構面検出遺構平面図・断面図(礎石跡1)

坑より新しい。遺物は出土していない。

202号ピット（SP2022(第84図)）

A区のMD5グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.58m、短軸0.56m、深さ0.63mを測る。平面は楕円形で断面形状は箱型である。柱は抜取られたものと思われるが、底面には径2～12mの円礫が敷かれていた。212号土坑より古い。遺物は出土していない。

202号ピット（SP2026(第84図)）

A区のME5グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.9m、短軸0.34m、深さ0.9mを測る。平面は不整形楕円形で断面形状は逆凸字状である。底面中央には柱痕跡をもち、1層は掘方埋土である。底面には24m×19mの扁平垂円礫が置かれ礎石と思われる。213号土坑より古い。遺物は磁器碗が出土しており、これを図示した（第10図439）。

礎石跡（SS）

200号礎石跡（SS2001(第85図)）

A区のLZ44・MA44グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.59m、短軸0.47m、深さ0.08mを測る。平面は楕円形で断面形状は血状である。中央部に径1～8cmの垂円礫が密に入れられており、礎石根固の可能性はある。201号土坑より新しい。遺物は磁器片が出土しているが、図示できるものはない。

200号礎石跡（SS2002(第85図)）

A区のLZ44グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.35m、短軸0.33m、深さ0.09mを測る。平面は不整形楕円形で断面形状は血状である。中央部に30cm×22cmの垂円礫が据えられており、礎石と思われる。200号礎石跡より新しい。遺物は出土しない。

200号礎石跡（SS2003(第85図)）

A区のLZ44・MA44グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.61m、短軸0.49m、深さ0.03mを測る。平面は楕円形で断面形状は血状である。掘方内に径1～13cmの垂円礫が密に入れられており、礎石根固である。200号礎石跡より古い。遺物は出土しない。

200号礎石跡（SS2004(第85図)）

A区のLZ44グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.75m、短軸0.61m、深さ0.17mを測る。平面は楕円形で断面形状は血状である。掘方内に径1～10cmの垂円礫が極めて密に入れられており、礎石根固である。根固中央部は窪んでおり礎石抜取痕と思われる。重複はない。遺物は出土しない。

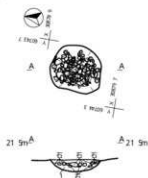
200号礎石跡（SS2005(第85図)）

A区のLZ43・LZ44グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.38m、短軸0.34m、深さ0.07mを測る。平面は楕円形で断面形状は血状である。掘方内に径1～7cmの垂円礫が密に入れられており、礎石根固である。重複はない。遺物は出土しない。

200号礎石跡（SS2006(第85図)）

A区のLZ43・LZ44グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.5m、短軸0.47m、深さ0.08mを測る。平面は楕円形で断面形状は血状である。掘方内のやや東寄りに径1～7cmの垂円礫が密に入れられており、礎石根固である。重複はない。遺物は磁器片が出土しているが、図示できるものはない。

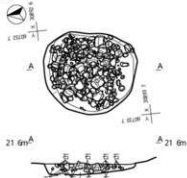
200号礎石跡



SS200土層注記

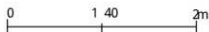
1 層図：暗褐色粘質土 10VR3 4に黄褐色粘土 10VR5 8粒子・小ブロック 20 混じる。円礫 3-10cm 混じる。しまり中。粘性強。

200号礎石跡



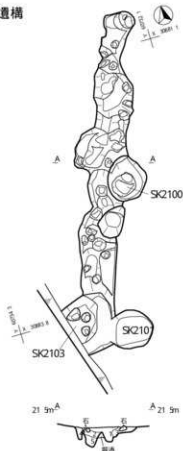
SS200土層注記

1 層図：暗褐色粘質土 10VR3 4に黄褐色粘土 10VR5 8粒子・小一中ブロック 5 混じる。炭化物粒子 2 混じる。しまり中。粘性強。



第8図 第2遺構面検出遺構平面図・断面図(礎石跡2)

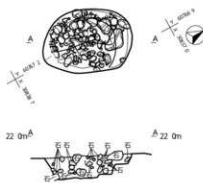
200号遺構



SK200土層注記

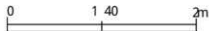
- 1 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10VR3 3に黄褐色粘土 10VR5 8粒子 10 混じる。炭化物粒子 3 混じる。しまり中。粘性中。
- 2 遺構堆積土：褐色粘質土 10VR4 4に黄褐色粘土 10VR5 8粒子 15 混じる。しまり中。粘性強。
- 3 遺構堆積土：暗褐色粘質土 10VR3 4に黄褐色粘土 10VR5 8粒子 15 混じる。しまり中。粘性強。
- 4 遺構堆積土：にぶい黄褐色粘質土 10VR5 3 ににぶい黄褐色粘土 10VR7 4 粒子・小一中ブロック 25、黄褐色粘土 10VR5 8 粒子 25 混じる。しまり中。粘性強。
- 5 遺構堆積土：明黄褐色粘土 10VR6 6 に黄褐色粘土 10VR5 8 主体。しまり中。粘性強。

200号遺構



SK200土層注記

1 遺構堆積土：黄褐色粘質土 10VR3 2に黄褐色粘土 10VR5 8粒子・小ブロック 15、にぶい黄褐色粘土 10VR7 4 粒子・小ブロック 15 混じる。しまり強。粘性強。



第8図 第2遺構面検出遺構平面図・断面図(遺構)

200号礎石跡(SS2007(第8図)

A区のLV43・LZ43グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.53m、短軸0.52m、深さ0.09mを測る。平面は不整形楕円形で断面形状は皿状である。掘方内に径1～10cmの亜円礫が密に入れられており、礎石根固である。根固中央部は窪んでおり礎石採取痕と思われる。重複はない。遺物は出土しない。

200号礎石跡(SS2008(第8図)

A区のLV39グリッドにおいて検出された。掘方は長軸0.97m、短軸0.86m、深さ0.12mを測る。平面は楕円形で断面形状は皿状である。掘方内に径1～13cmの亜円礫が極めて密に入れられており、礎石根固である。根固中央部は窪んでおり礎石採取痕と思われる。重複はない。遺物は磁器片、銅銭が出土しているが、このうち銅銭を図示した(第10図443)。

その他の遺構(SX)

200号遺構(SX2001(第8図)

A区のLV4グリッドにおいて検出された溝状の遺構である。長軸2.98m、短軸0.17～0.58m、深さ0.06mを測る。平面はN20 日に偏する不定形な溝状で、断面形状は皿状である。底面にはピット状の窪みが多く確認されている。遺構形状の特徴から植栽痕跡と考えられる。近接して存在する2001・2003・2014号土坑についても同様に植栽痕跡と考えられる。遺物は陶器片が出土しているが、図示できるものはない。

200号遺構(SX2002(第8図)

B区のME53グリッドにおいて検出された。長軸0.92m、短軸0.67m、深さ0.33mを測る。平面はN29 日に偏する楕円形、断面形状は逆台形状である。堆積は1層であるが径1～10cmの亜円礫が多く入れられていた。遺構の性格は不明である。遺物は出土しない。

第4節 遺物(第88～12図、第7～3表)

出土遺物の実測図を第88～12図に示し、遺物属性表を第7～3表に示した。

(1) 第1遺構面検出遺構出土遺物(第88～104、108～111図)

塀(第88図)

100号塀跡(第88図)

112号ピット

2は平瓦である。灰色・黒色を呈するいぶし瓦で、外面縦方向のナデ調整後、横方向のナデ調整を施す。胎土は緻密で焼成堅緻である。

100号塀跡(第88図)

105号ピット

3は大塚相馬系陶器土瓶である。容器本体部に灰釉を施し、鉄絵を描く。内面と外面口縁端部は無釉である。

4は瓦質土器火鉢である。外面は刷毛状工具による調整後、唐草・菊花文の印花を押印する。

5は「寛永通寶」である。銅製である。外縁部を欠損する。

106号ピット

6は礎板である。樹種はクリ材で、板状に加工を施している。法量は長さ227cm 幅177cm 厚さは29cmである。

建物跡出土遺物（第88図）

100号礎石建物跡（第88図）

建物内

7は石造物基部の一部と思われる凝灰岩製の石材である。底面と側面は鑿状工具で面取りが施される。上面は上部構築物と組み合わせるために段状の加工が施されている。

100号礎石跡

8は肥前系（唐津系）鉄釉陶器鉢である。内外面に鉄釉を施す。外面胴部下半は無釉である。

100号礎石跡

9は肥前系灰釉陶器碗である。内外面に藁灰釉を施す。外面体部下半から高台内は無釉である。

100号石敷

13は肥前系磁器仏飯器である。高台内外面は無釉である。

100号掘立柱建物跡（第88図）

109号ビット

10は肥前系陶器碗である。外面に長石釉を施し、外面体部下半から高台内は無釉である。高台を削り出して作り出している。11は陶器播鉢である。外面口縁部に平行沈線を二条施す。

12は瓦質土器鉢である。内面体部下半に指頭圧痕後に指ナデ調整を施す。外面体部上半に渦状の印判が認められる。

溝出土遺物（第89～9図）

100号溝跡（第89図）

14は陶器甕である。内面口縁部から首部に横方向のナデ調整を施す。

100号溝跡（第89～9図）

15・16は肥前系白磁である。17・20・23・25・29は肥前系磁器染付である。18・19は肥前系（波佐見系）磁器染付である。24・30・31は肥前系磁器である。19は白磁蕎麦猪口である。断面に漆継ぎの痕跡が認められる。16は白磁坏である。畳付は無釉で、高台内に兜巾が認められる。17は皿である。内面にコンニャク印判の七宝つなぎ文、見込みにコンニャク印判の五弁花文、外面に唐草文を染め付ける。高台内に砂が付着し、畳付は無釉である。18～24は碗である。25を除き畳付は無釉である。18は外面に家屋・帆掛け舟・折枝花・山水文を染め付ける。19は外面に松文、20は口縁端部に錆釉による口紅を施す。外面にコンニャク印判の雨降り・花散らし・唐草文を染め付ける。21は外面にコンニャク印判の楓葉文を染め付ける。18～21は高台内に簡略化した「大明年製」の銘を染め付ける。22は外面に梅枝文を染め付け、畳付に砂が付着する。23は外面に松文を染め付ける。29は輪花鉢である。内面に草花文、外面に花唐草文を染め付ける。26～28は蕎麦猪口である。いずれも外面に草・五葉若葉重文を染め付ける。29は坏である。内面口縁端部に口紅を染め付ける。30は花生である。内面と高台は無釉であり、高台内に兜巾が認められる。31は合子である。内面口縁部は無釉である。

32・34・39は肥前系陶器である。33は肥前系（唐津系）陶器である。32は鉄釉陶器折縁皿である。見込みに蛇の目釉剥ぎし、内外面に鉄釉を施す。外面体部下半から高台内は無釉である。高台外面を削り出して作り出している。33は鉄釉陶器片口鉢である。内外面に鉄釉を施す。外面下半から高台は削りを施し無釉である。口縁部下に注ぎ口を貼り付ける。34・39は銅緑釉火鉢である。いずれも銅緑釉を施す。34は刷毛目後に波状

文を外面に描く。33は内面に軸垂れが認められる。外面下半に削りを施し、豊付は無軸である。

36・37は素焼き土師質の土風炉である。36は外面に削りを施す。37は内面に煤が付着する。

38は肥前系磁器染付皿である。内面に流水文、見込みに梅花・流水文を染め付ける。1002・1003号溝間で接合する。

100号溝跡(第9図)

39・41は肥前系白磁である。40・43・44~48は肥前系磁器染付、42は肥前系磁器である。39は白磁皿である。外面に線彫りによる牡丹唐草の陰刻文を施す。豊付は無軸である。41は碗である。豊付が無軸である。断面に漆継ぎの痕跡が認められる。40は皿である。内面に草花文を染め付ける。豊付は無軸である。43は輪花皿である。見込みに草花文、外面に唐草文を染め付ける。豊付は無軸である。42・44~48は碗である。46を除き豊付は無軸である。44は外面に岩・梅枝文、高台内に簡略化した「大明年製」の銘を染め付ける。43は外面に遠山・梅・太湖石文、高台内に「明」と思われる銘を染め付ける。高台内に有機物が付着し、断面に漆継ぎの痕跡が認められる。48は口縁端部に錆輪による口紅、外面に型紙摺の雨降り文を染め付ける。47は坏である。外面に鉄線文を染め付ける。豊付は無軸である。48は梅花文香炉である。器形は楕円形の筒型で、外面に梅花を貼り付け、三菱文を染め付ける。断面に漆継ぎの痕跡が認められる。

49~53は肥前系陶器である。49は灰釉陶器折縁皿である。内外面口縁部に灰釉を施す。見込みに砂目痕が認められる。外面下半から高台は削りを施し無軸である。50は碗である。内外面に透明釉を施す。51は灰釉陶器碗の底部を円盤状に加工を施している。51は高台内は無軸である。52・53は香炉である。52は外面体部に鉄釉を施し、内面と外面下半から高台内は無軸である。焼成後に高台内に人為的な穿孔を施す。53は外面に灰釉を施す。内面から高台内は無軸である。簡略化された獣脚を貼り付ける。

54・59は型打ち成形のかわらけである。いずれも内外面に煤が付着する。54は外面下半を削り、体部に穿孔が認められる。59は焼成後に底部穿孔を施す。56は煙炉である。口縁端部を内側に折り返す。体部に風口と思われる円孔が認められる。

57は凝灰岩製の砥石である。四面に使用時の擦痕が認められる。

58は鉄釘である。基部上端を折り曲げる。

101号溝跡(第9図)

59は肥前系染付磁器碗である。外面にコンニャク印判の菊花文を染め付ける。高台は無軸である。

101号溝跡(第9図)

60は京・信楽系陶器皿である。内外面に透明釉を施す。見込みに山水文を鉄絵で描く。豊付は無軸である。高台を削り出して作り出している。61は肥前系鉄釉陶器鍋である。内外面に鉄釉を施す。外面下半から底部は削りを施し無軸である。底部側面に足を貼り付ける。

101号溝跡(第9図)

62・63は肥前系磁器染付碗である。62は外面に草花文を染め付ける。豊付は無軸である。63は外面に丸にねじ花文・桐葉文を染め付ける。

64は瓦質土器風炉である。外面下半に回転ヘラ削りを施す。三足を貼り付ける。

65は型打ち成形のかわらけである。内外面口縁部に煤が付着する。

66は丸瓦である。灰色・黒色を呈するいぶし瓦で、外面縦方向のナデ調整、玉縁は横方向のナデ調整を施す。内面にコビキB、側縁に削りを施し、胎土は緻密で焼成堅緻である。

67は鉄釘である。

1016号溝跡(第9図)

68は肥前系磁器染付碗である。外面に遠山文を染め付ける。

69は明石・堺系(堺系)鉄釉陶器擂鉢である。外面下半から高台内に鉄釉を施し、体部下半に高台を貼り付ける。

102号溝跡(第9図)

70は肥前系磁器染付瓶である。外面腰部に二重圓線を染め付ける。高台内に砂が付着し、内面と畳付は無釉である。

1024号溝跡(第9図)

71は肥前系陶器乗燵である。底部は無釉である。回転系切り後に底部内面に削りを施す。

井戸出土遺物(第91・92図)

100号井戸(第91・92図)

74は肥前系青磁である。75・76は肥前系磁器染付である。77は磁器染付である。74は青磁鉢である。75-77は碗である。いずれも畳付は無釉である。79は見込みに蛇の目釉剥ぎをし、高台内に砂が付着する。78は外面に丸に格子文を染め付ける。77は外面に草文を染め付ける。高台内に砂が付着する。

78・79は肥前系陶器鉢である。78は内外面口縁部に鉄釉、内面体部に白化粧土の刷毛目文を描く。79は内外面に藁灰釉、外面下半は削りが施され無釉である。

80-84はいずれも灰色・銀色を呈するいぶし瓦である。胎土は緻密で焼成堅緻である。80は丸瓦である。外面縦方向のナデ調整、内面に棒状圧痕、側縁に削りを施す。

81は平瓦である。82-84は軒棧瓦である。いずれも瓦当は子葉付きの唐草文をモチーフとする。83は堀瓦である。外面横方向のナデ調整を施す。釘穴が一箇所認められる。84は面戸瓦である。外面端部に削りによる面取りが認められる。

土坑出土遺物(第92-107図)

1008号土坑(第92図)

87は肥前系磁器碗である。

1015号土坑(第92図)

88は京・信楽系陶器皿である。内外面に透明釉を施す。断面に漆継ぎの痕跡が認められる。

89は方形の不透明土製品である。中央部に方形の段差を設け、円孔を空ける。内面は指頭圧痕による調整を施す。側縁部に削りを施し平坦に面を整える。

1028号土坑(第92図)

90は肥前系青磁香炉である。内面と底部は無釉である。

1059号土坑(第92図)

91は型打ち成形のかわらけである。内外面に煤が付着する。

106号土坑(第92図)

92は瀬戸美濃系鉄釉陶器徳利である。外面に鉄釉を施す。底部に削りを施し内面と底部は無釉である。

1068号土坑(第92図)

93は肥前系磁器染付碗である。外面に雲文を染め付ける。畳付は無釉である。

107号土坑（第92図）

94は陶器片である。小片のため器種は不明である。底部外面に判読不明の墨書が認められる。

95は素焼き土師質の土風炉である。

96は高梨台遺跡産と思われる棧瓦である。暗赤褐色を呈する赤瓦で、外面縦方向のナデ調整、側面横方向のナデ調整を施す。胎土は緻密で焼成堅緻である。

107号土坑（第92図）

97は鉄胎陶器播鉢である。外面に鉄釉を施す。体部下半に高台を貼り付ける。播目は浅くなっており、使用により摩耗していると考えられる。

107号土坑（第93図）

98は肥前系磁器染付碗である。外面に格子文を染め付ける。

99は高梨台遺跡産と思われる棧瓦である。暗赤褐色を呈する赤瓦で、外面縦方向のナデ調整後、横方向のナデ調整を施す。釘穴が二箇所認められる。胎土は緻密で焼成堅緻である。

107号土坑（第93～95図）

100は肥前系白磁である。102～111・113～121・123は肥前系磁器染付である。101・112・122・128は肥前系磁器である。124・125・127は肥前系磁器色絵である。100は白磁皿である。外面下半から高台は無釉である。101～110は皿である。101・103～108は畳付が無釉である。102は見込みに草花文を染め付ける。103は見込みに笹葉文を染め付ける。104は内面に梅枝文、外面に帆掛け舟・流水文を染め付ける。105は内面に梅文、外面に帆掛け舟・流水文を染め付ける。断面に漆継ぎの痕跡が認められる。106は内面に雲芝文、見込みに手描き五弁花文を染め付ける。高台に砂が付着し、高台内にハリ支えの痕跡が認められる。107は見込みの圏線区画内に格子文を染め付ける。高台に砂が付着する。108は見込みに蛇の目釉剥ぎし、蛇の目部分に鉄糞を塗る。内面に草文を染め付ける。見込みと高台に砂が付着する。109は見込みに蛇の目釉剥ぎし、蛇の目部分に鉄糞を塗る。見込みに簡略化した五弁花文を染め付ける。見込みと高台に砂が付着する。110は内面に葉文を染め付ける。111は輪花皿である。型打ち成形で、内面の染付区画内に水鳥・渦・草花文、見込みに軍配文、外面に折枝文を染め付ける。高台に砂が付着し、畳付は無釉である。112は瓜皿である。型押し成形で、内面に葉脈状の陽刻を施す。高台は付け高台である。113～120は碗である。いずれも畳付は無釉である。113は内外面に草花文、高台内に「太明」の銘を染め付ける。114は外面に葉文を染め付ける。115・116は外面に蔓草文を染め付ける。117は外面に梅花散らし文を染め付ける。118は外面にコンニャク印判の折枝桜文を染め付ける。119は外面に柳文を染め付ける。120は碗の底部である。形状から円盤状に加工を施していると思われる。121・122は坏である。いずれも畳付は無釉で、高台内に兜巾が認められる。121は外面にコンニャク印判の草文を染め付ける。122は高台内に砂が付着する。高台を削り出して作り出している。口縁部は輪花状を呈する。123は花生である。首部の破片で、内面に絞り痕、外面に一重網目文・二重圏線区画内に葉文を染め付ける。内面は無釉である。124・129は瓶である。124は外面肩部に三重圏線・丸・一重網目文を赤・緑・黒の顔料で絵付けする。内面は無釉である。129は外面胴部に一重圏線・一重網目文、高台に一重圏線を赤の顔料で絵付けする。高台に砂が付着し、内面は無釉である。128は油壺である。底部外面は糸切り後にナデ調整を施す。内面と底部は無釉で、内面に墨が付着する。墨壺として使われていた可能性がある。127は水滴である。型押し成形で、外面口縁部赤・緑の顔料で絵付けする。内面に型押し成形時の布目痕が認められる。

128・129・132～134・137は肥前系陶器である。136は明石・堺系陶器である。135・138は陶器である。130・131は焼締め陶器である。128は銅釉皿である。見込みに蛇の目釉剥ぎし、内面に銅釉を施す。外面体部下

半から高台内は無釉である。高台を削り出して作り出している。129は褐釉蓋である。外面に褐釉を施し、内面は無釉である。内面糸切り後にナデ調整を施す。重ね焼き時の融着痕が認められる。

131は壺である。口縁部形状が「逆し字形」を呈する。130・132・133は甕である。132・133は内外面に鉄釉を施し、口縁部形状が「丁字形」を呈する。内面肩部に格子目叩き後にナデ調整、外面肩部にカキ目を施す。134は鉄釉陶器刷毛目文火鉢である。内外面に鉄釉を施す。外面体部に白化粧土による波状文を描く。

135～138は播鉢である。135・136は内外面が無釉である。136は外面口縁部に平行沈線を二条施す。137・138は内外面口縁部に鉄釉を施す。

139は瓦質土器火鉢である。外面口縁部に粗い磨きを施す。

140～142は型打ち成形のかわらけである。いずれも横方向のナデ調整を施し、内外面口縁部に煤が付着する。141は見込み部分を人為的に削り抜いている。143・144は素焼き土師質の土風炉である。いずれも三足を貼り付ける。144は見込みに煤が付着する。149は素焼き土師質の焔炉である。外面に吹きこぼれによる焦げ目が認められる。

146～149は鉄釘である。

109号土坑（第9図）

150は丸瓦である。灰色を呈するいぶし瓦で、内面に棒状の圧痕と側縁に削りを施す。胎土は粗く焼成堅緻である。

110号土坑（第9図）

151は肥前系磁器染付碗である。外面に家屋文を染め付ける。畳付は無釉である。

152は素焼き土師質の土錘である。半分欠損している。

112号土坑（第9図）

153は瀬戸美濃系（美濃系）灰釉陶器皿である。内面に藁灰釉を施し、見込みに鉄絵を描く。見込みに胎土目痕が認められ、外面は無釉である。

112号土坑（第9図）

154は肥前系（唐津系）陶器折縁皿である。畳付に砂が付着し、外面体部下半から高台は無釉である。高台を削り出して作り出している。

114号土坑（第9図）

155・156は肥前系磁器染付である。155は皿である。見込みに椿文、外面に唐草文を染め付ける。畳付は無釉である。156は鉢蓋である。外面に墨弾きによる白抜き青海波・梅花文を染め付ける。合せ目は無釉である。

114号土坑（第9図）

157は肥前系磁器染付皿である。内面に墨弾きによる白抜き波瀾文、外面に唐草文を染め付ける。畳付は無釉である。

116号土坑（第9図）

158は肥前系磁器染付皿である。見込みに手描き五弁花文、内面に墨弾きによる白抜き波瀾文、外面に唐草文を染め付ける。畳付は無釉で、高台内にハリ支えの痕跡が認められる。

119号土坑（第9図）

159・161は肥前系磁器染付である。162は肥前系（波佐見系）磁器染付である。160は肥前系磁器である。

160は皿である。159は輪花皿である。見込みに鳥文を染め付ける。高台内に砂が付着し、畳付は無釉である。

161は碗である。外面に磁文、高台内に「明」の銘を染め付ける。高台内に砂が付着し、畳付は無釉である。

162は鉢である。内面口縁部の圏線区画内に唐草文、体部に氷裂文、外面に唐草文を染め付ける。

163は肥前系鉄釉陶器壺である。内外面に鉄釉を施す。

164は型打ち成形のかわらけである。内外面に煤が付着する。

119号土坑（第96図）

165は京・信楽系陶器鉢である。内外面体部に透明釉を施す。口縁端部は無釉である。

121号土坑（第96図）

166は鉄釘である。

123号土坑（第96・97図）

167・169～174は肥前系磁器染付である。168は肥前系（唐津系）磁器染付である。167・168は皿である。いずれも高台内に砂が付着し、畳付は無釉である。167は見込みに笹文を染め付ける。168は見込みに蝶・葡萄文を染め付ける。高台内に兜巾が認められる。169～172は碗である。169・170は外面に蔓草文を染め付ける。171は外面に帆掛け舟文を染め付ける。172は外面に草文を染め付ける。畳付は無釉である。173は坏である。外面に秋草文を染め付ける。174は花生である。外面に松文を染め付ける。内面は無釉で部分的に釉垂れが認められる。

175～179・183は肥前系陶器である。185・186は肥前系（唐津系）陶器である。180～182は肥前系染付陶器である。184は大堀相馬系陶器である。175～177は灰釉陶器折縁皿である。いずれも内外面に藁灰釉を施す。175は見込みに胎土目痕が認められる。外面下半から高台内は無釉で、高台を削り出して作り出している。

178は外面体部が無釉である。178は外面体部下半に煤が付着する。178は鉄釉陶器段皿である。内外面口縁部に鉄釉を施す。見込みに砂目痕が認められる。外面下半から高台内は無釉である。179～182は皿である。179は内面から外面上半に灰釉を施す。見込みに砂目痕が認められる。外面下半から高台内は無釉で、高台を削り出して作り出している。高台内に兜巾が認められる。180～182は内面に圏線を染め付ける。

181・182は見込みに砂目痕が認められ、高台内外に砂が付着する。畳付は無釉で、高台を削り出して作り出している。183は碗である。高台内外は無釉で、高台を削り出して作り出している。184・185は鉢である。184は内外面に灰釉を施す。内面に鉄絵を描く。185は内外面に長石釉を施す。外面下半に削りを施す。186は鉄釉陶器茶入である。内外面に鉄釉を施す。

187は瓦質土器羽釜である。内面体部に五条の刷毛目を施す。外面体部に安帯を貼り付ける。外面体部上半に円形の印判、外面体部下半に削りを施す。

188・189は平瓦である。いずれも胎土は緻密で焼成堅緻である。188は灰色・銀色を呈するいぶし瓦で、外面横方向のナデ調整を施す。189は灰色・黒色を呈するいぶし瓦で、外面横方向のナデ調整後、縦方向のナデ調整を施す。

190・191は凝灰岩製の砥石である。190は三面に使用時の擦痕が認められる。191は下半部が欠損している。裏・表の二面に使用時の擦痕、側面に成形時の擦痕が認められる。

192は炉壁である。混和剤として粘土・スサが胎土内に混ざる。表面にガラス質の融着物が認められる。

123号土坑（第98図）

193は平瓦である。黒色を呈するいぶし瓦で、外面横方向のナデ調整を施す。胎土は緻密で焼成軟質である。

124号土坑（第98図）

194は器種不明の焼締め陶器である。口縁部内面に櫛目が八本施される。

124号土坑（第98図）

199は大堀相馬系灰釉陶器皿である。内外面に灰釉を施す。内面口縁端部に錆釉による口紅を染め付ける。外面下半に削りを施す。199は肥前系鉄釉陶器茶入である。内外面に鉄釉を施す。外面口縁部は無釉である。197は型打ち成形のかわらけである。内外面に横方向のナデ調整を施す。

125号土坑（第98図）

198は磁器染付碗である。外面に笹葉文を染め付ける。畳付は無釉である。

125号土坑（第98図）

199は鉄釘である。

125号土坑（第98図）

200は肥前系鉄釉陶器甕である。外面に鉄釉を施す。内面肩部から胴部下半には格子目叩き後ナデ調整、底部内面に刷毛目状工具による放射状のナデ調整、外面は格子目叩き後ナデ消す。底部付近に格子目叩き痕が残る。

125号土坑（第98図）

201は京・信楽系陶器と思われる瓜皿である。型押し成形で、内外面に透明釉を施す。釉の剥落が著しく素地が露出している。高台部が欠損する。内面見込みに櫛目描きによる青海波文を施す。高台内にハリ支えの痕跡が認められる。高台は付け高台である。

126号土坑（第98図）

202は京・信楽系陶器碗である。見込みに山水文を鉄絵で描く。高台を削り出して作り出している。

203は型打ち成形のかわらけである。内外面に横方向のナデ調整を施す。器壁は厚手な作りをしている。

204は「寛永通寶」である。銅製で「寶」の書体から古寛永銭であると判断される。

127号土坑（第98・99図）

206・207・209は肥前系陶器である。205・208は肥前系（唐津系）陶器である。205・206は灰釉陶器皿である。いずれも内外面に灰釉を施す。206は見込みに砂目痕が認められ、外面下半に削りを施す。207は灰釉陶器折縁皿である。外面下半は無釉である。208・209は灰釉陶器碗である。内外面に灰釉を施す。いずれも見込みに胎土目痕が認められる。209は高台内に砂が付着する。外面下半から高台内は無釉で、高台を削り出して作り出している。

210～212はかわらけである。210・212は型打ち成形で、内外面に横方向のナデ調整を施す。211は口口口成形で、内外面に横方向のナデ調整を施す。底部に回転糸切り痕が認められる。外面体部に煤が付着する。

128号土坑（第99図）

213・214は肥前系陶器である。213は銅緑釉火鉢である。内外面に銅緑釉を施す。内面に刷毛目文、外面上半に白化粧土による櫛描き波状文、下半に青海波文を描く。体部側面に獅子頭を貼り付ける。断面に漆継ぎの痕跡が認められる。214は鉄釉陶器三足鍋である。内面と外面下半に鉄釉を施す。外面底部付近に煤が付着する。外面から底部は無釉で、三角錐状の足を貼り付ける。

128号土坑（第99図）

215は肥前系磁器染付碗である。外面に紫陽花文を染め付ける。

216は肥前系灰釉陶器折縁皿である。内外面に灰釉を施す。

129号土坑（第99図）

217は肥前系磁器染付坏である。外面に雪輪・秋草文を染め付ける。畳付は無釉である。

218は京・信楽系陶器の皿である。見込みに山水文を鉄絵で描く。高台内に「木」の銘が認められる。「木下弥」の銘の一部であると思われる。高台内外は無釉で、高台を削り出して作り出している。

219・220はかわらけである。いずれも型打ち成形で、内外面に横方向のナデ調整を施す。220は外面口縁部に油煙による被熱の痕跡が認められる。

129号土坑（第99図）

221は肥前系磁器染付坏である。外面口縁部に一重圏線を染め付ける。

222は京・信楽系陶器碗である。内外面に透明釉を施す。

223～224はかわらけである。223・224は型打ち成形で、内外面に横方向のナデ調整を施す。223は底部内面に判読不明の墨書が認められる。224は素焼き土師質の土風炉である。体部に風口と思われる円孔が空けられる。口縁端部に炭化物が付着し、外面体部に円形の墨書が認められる。

227は「寛永通寶」である。銅製である。外面の錆が著しいが、「寛永通寶」の銘が認められる。

129号土坑（第99図）

228は大堀相馬系陶器碗である。内外面に透明釉を施す。

129号土坑（第99図）

229・230はかわらけである。いずれも型打ち成形で、内外面に横方向のナデ調整を施す。

131号土坑（第99図）

231は肥前系青磁仏花瓶である。外面と高台内に青磁釉を施し、内面は無釉である。畳付に鉄漿を塗り、チャツから取り外した際の痕跡が残る。

131号土坑（第99図）

232は肥前系磁器染付碗である。蛇の目凹型高台である。高台内にハリ支えの痕跡が認められる。

1318号土坑（第99図）

233は肥前系（波佐見系）青磁皿である。内面に菊花・流水文の線彫りを施す。

1319号土坑（第99図）

234は不明皮革製品である。表面に紐を通すために空けられた小孔が九箇所認められる。

132号土坑（第99・100図）

235は肥前系陶器花生である。外面腰部に三条の沈線、内外面裾部に削りを施す。

236は凝灰岩製の石造物基部と思われる石材である。側面と底面は鬚状工具で面取りが施される。

132号土坑（第100図）

237は明石・堺系（明石系）陶器の鉄釉陶器播鉢である。内外面に鉄釉を施し、畳付は無釉である。体部下半に高台を貼り付ける。

132号土坑（第100図）

238は不明青銅製品である。基部下端に覆いが付き、内部は中空である。

133号土坑（第100図）

239は肥前系（波佐見系）青磁皿である。見込みに蛇の目軸割し、外面下半に削りを施す。高台内に砂が付着し、高台内外は無釉である。

1336号土坑（第100図）

240・241は肥前系磁器染付碗である。いずれも畳付は無軸である。240は外面に虫籠・梅枝文を染め付ける。241は外面に山文を染め付ける。

1337号土坑（第100図）

242は肥前系磁器染付皿である。

243は肥前系（唐津系）灰釉陶器碗である。内外面に藁灰釉を施す。外面下半から高台は無軸で、高台を削り出して作り出している。

244は型打ち成形のかわらけである。内外面に横方向のナデ調整を施す。

134号土坑（第100図）

245・246は肥前系磁器染付碗である。245は外面に山水文を染め付ける。246は外面に太湖石・秋草文、高台内に「大」の銘を染め付ける。高台内に砂が付着し、畳付は無軸である。

134号土坑（第100図）

247は肥前系青磁である。248は肥前系白磁である。249・250は肥前系磁器染付である。247は青磁油壺である。内面腰部に軸垂れが認められる。高台内に砂が付着し、内面と畳付は無軸である。248は白磁碗である。

249・250は碗である。249は外面に葉文を染め付ける。250は外面に草文を染め付ける。畳付は無軸である。

251は京・信楽系陶器碗である。内外面に透明釉を施す。見込みに山水文を鉄絵で描く。畳付は無軸である。

134号土坑（第100図）

252は型打ち成形のかわらけである。外面に横方向のナデ調整を施す。

1346号土坑（第100・101図）

253・254は肥前系磁器染付碗である。いずれも畳付は無軸である。253は外面に草文を染め付ける。

254は外面に菊花文を染め付ける。

255は肥前系灰釉陶器皿である。内面と外面上半に灰釉を刷毛塗りし、外面下半から高台は無軸である。

256は肥前系（唐津系）陶器皿である。見込みに蛇の目軸剥ぎし、高台外面から高台内は無軸である。いずれも高台を削り出して作り出している。

257は瓦質土器鉢である。内外面の調整は摩耗のため不明である。

258・259はかわらけである。いずれも型打ち成形である。内外面に横方向のナデ調整を施す。259は内外面に煤が付着する。

1366号土坑（第101図）

260は肥前系鉄釉陶器碗である。外面に鉄釉を施す。高台内外は無軸で、高台を削り出して作り出している。

1376号土坑（第101図）

261は陶器搗鉢である。内外面は無軸である。

137号土坑（第101・102図）

262は肥前系青磁である。263は肥前系白磁である。264～269・271は肥前系磁器染付である。270は肥前系磁器である。262は青磁碗である。畳付に砂が付着し無軸である。高台を削り出して作り出している。263は白磁碗である。畳付は無軸である。264～267は皿である。いずれも畳付は無軸である。264・269は見込みに薄文を染め付ける。264は口縁端部に錆釉による口紅を染め付ける。268は見込みに草文を染め付ける。畳付に砂が付着し、高台を削り出して作り出している。265は見込みに墨弾きによる白抜き丸内に格子・向日葵文を染め付ける。高台内にハリ支えの痕跡が認められる。268・269は碗である。いずれも畳付は無軸である。

268は外面に草花文、高台内に「大宣化製」の銘を染め付ける。269は外面に牡丹唐草文、高台内に判読不明の銘を染め付ける。壘付に砂が付着する。270は瓶の口縁部片である。271は先付け鉢である。外面に薄文を染め付ける。器形は八角形状を呈する。

272・273・278は肥前系陶器である。279は肥前系（唐津系）陶器である。277は瀬戸美濃系陶器である。274は大塚相馬系陶器である。278・279は陶器である。277は灰釉陶器折縁皿である。内外面に灰釉を施す。見込みに胎土目痕が認められる。外面下半は無釉である。273は灰釉陶器皿である。内外面に灰釉を施す。外面下半は無釉である。274～278は碗である。いずれも壘付は無釉である。274・278は内外面に灰釉を施す。278は高台内に砂が付着し、外面下半から高台に削りを施す。279は内外面に透明釉を施し、高台内を削り出している。277は鉄釉陶器徳利である。外面に鉄釉を施し、内面首部から肩部にかけて釉垂れが認められる。内面肩部から胴部は無釉である。278・279は鉄釉陶器搦鉢である。口縁部内外面に鉄釉を施す。

280～290はかわらけである。いずれも型打ち成形である。283・284・286・290は内外面に煤が付着する。291・292は焼塩壺である。いずれも型押し成形で、焼成が堅緻で陶器質に近い。291は内面に型押し成形時の布目痕が認められる。外面体部の「天下一堺」の刻印から泉州麻生製であると推測される。

293～298は鉄釘である。293・298は基部上端を折り曲げる。299は煙管の火皿である。青銅製である。

300～308は「寛永通寶」である。銅製である。304～306・308は、「寶」の書体から古寛永銭であると判断される。304は裏面に木質が付着する。

137号土坑（第10図）

309は鉄釘である。基部上端を折り曲げる。

140号土坑（第10図）

310は肥前系磁器染付碗である。外面に草花文を染め付ける。

311は肥前系灰釉陶器鉢である。内面口縁部と外面に灰釉を施す。内面に釉垂れが認められる。内面肩部は無釉である。

312は「寛永通寶」である。銅製で「寶」の書体から古寛永銭であると判断される。

141号土坑（第10図）

313は煙管の火皿である。青銅製である。

314は「寛永通寶」である。銅製である。半分欠損し、「寛」「寶」の文字のみ確認できる。「寶」の書体から古寛永銭であると判断される。

142号土坑（第10図）

315・316は肥前系陶器である。317は肥前系（波佐見系）陶器である。319は灰釉陶器折縁皿である。内面と外面上半にかけて灰釉を施す。見込みに胎土目痕が認められる。外面下半から高台に削りを施す。外面下半に煤が付着する。316は碗の底部を円盤状に加工を施している。高台内外は無釉である。高台内に「大」の墨書が認められる。317は灰釉陶器鉢である。内外面に灰釉を施す。見込みに胎土目痕が認められる。外面下半から高台内は無釉である。高台を削り出して作り出し、壘付に回転糸切り痕とゲタ状の切込みが認められる。

143号土坑（第10図）

318は鉄釘である。基部上端を折り曲げる。

146号土坑（第10図）

319は肥前系磁器染付碗である。外面に草文を染め付ける。

1463号土坑（第103図）

32Qは肥前系磁器染付碗である。外面に花卉・格子文を染め付ける。

1469号土坑（第103図）

32は磁器染付瓶である。外面に菊花文を染め付ける。

32Zは肥前系灰釉陶器皿である。内外面に藁灰釉を施す。

1470号土坑（第103図）

32Zはかわらけである。ロクロ成形で、内外面に横方向のナデ調整を施す。底部に回転系切り痕が認められる。

1477号土坑（第103図）

324は砂岩製の砥石である。砥面に使用時の擦痕は認められない。

1478号土坑（第103図）

32Zは肥前系陶器碗である。内外面に透明釉を施す。

32Bは凝灰岩製の石造物である。側面と底面は鑿状工具で面取りが施されている。

1480号土坑（第104図）

32Zは肥前系磁器染付皿である。見込みに花唐草文を染め付ける。高台内に砂が付着し、畳付は無釉である。

32Bは肥前系磁器染付碗である。外面に草花文を染め付ける。

329・33Qは肥前系陶器である。32Zは鉄釉陶器天目茶碗である。内外面に鉄釉を施す。高台内外は無釉で、外面下半から高台内に削りを施す。33Qは碗である。内外面に灰釉を刷毛塗りする。33Iは肥前系（唐津系）陶器鉢である。内外面に透明釉を施す。

1489号土坑（第104図）

33Zは大堀相馬系灰釉陶器の土瓶蓋である。外面に灰釉を施し、内面は無釉である。宝珠状の摘みが付く。

1490号土坑（第104図）

333は肥前系磁器染付皿である。見込みに蔓草文を染め付ける。

334は肥前系陶器折縁皿である。内外面に透明釉を施す。外面下半は削りを施し無釉である。33Zは肥前系（唐津系）灰釉陶器碗である。内外面に藁灰釉を施す。畳付は無釉で、高台を削り出して作り出している。

1502号土坑（第104図）

33Bは肥前系鉄釉陶器天目茶碗である。内外面に鉄釉を施す。高台内に砂が付着し、高台を削り出して作り出している。畳付は無釉である。高台内に兜巾が認められる。

337は鉄釘である。

1504号土坑（第104図）

33Bは肥前系白磁香炉である。内面体部は無釉である。

153号土坑（第104図）

339～343は肥前系磁器染付である。339・34Qは皿である。いずれも高台内に砂が付着する。33Zは見込みに鶴・水草文を染め付ける。34Qは見込みに渦文を染め付ける。畳付は無釉である。341～343は碗である。

341は外面に竹垣・草花文を染め付ける。342は内面に草花文、外面に花唐草文を染め付ける。343は外面に唐草文を染め付ける。高台内外は無釉である。

344は肥前系陶器である。34Zは肥前系（唐津系）陶器である。34Bは大堀相馬系陶器染付である。344は灰釉陶器折縁皿である。内外面に灰釉を施す。見込みに胎土目痕が認められ、高台外面に砂が付着する。畳付は

無釉で高台を削り出して作出す。345・346は鉢である。349は外面上半に白泥を塗る。外面下半から高台に削りを施し、高台に工具による切込みを三方向入れる。外面体部下半から高台は無釉である。見込みに重ね焼き痕が認められる。346は内外面に灰釉を施す。内面体部に唐草文を染め付ける。高台内は無釉で高台を削り出して作り出している。高台内に「違い鷹の羽文」と判読不明の銘を方形枠内に押印する。

347は粘板岩製の温石である。半分が欠損している。表面に穿孔が認められる。

153号土坑（第104図）

348は鉄軸陶器甕である。内外面に鉄釉を施す。内外面口縁部に削りを施す。

153号土坑（第104図）

349は肥前系陶器の鉄軸陶器播鉢である。内外面口縁部に鉄釉を施す。口縁端部が内側に突出する。

ビット出土遺物（第108・109図）

100号ビット（第108図）

413は肥前系磁器染付碗である。内面に雷文、外面に斜め格子文を染め付ける。

101号ビット（第108図）

414は肥前系磁器染付碗である。外面にコンニャク印判の桐葉文を染め付ける。断面に漆継ぎの痕跡が認められる。

101号ビット（第108図）

419は肥前系陶人形である。型押し成形で、外面に青色釉を施す。人形の下半身裾部のみ残存する。内面は中空である。

102号ビット（第108図）

416は肥前系磁器碗である。高台内に砂が付着し、畳付は無釉である。

103号ビット（第108図）

417は肥前系磁器杯である。外面下半に削りを施し、外面下半から高台は無釉である。

103号ビット（第108図）

418は鉄釘である。

103号ビット（第108図）

419は肥前系（唐津系）鉄軸陶器壺である。内外面に鉄釉を施し、内面上半は無釉である。口縁端部に融着痕が認められる。

103号ビット（第108図）

420は肥前系鉄軸陶器瓶である。外面に鉄釉を施し、内面は無釉である。内面胴部に鉄錆が付着する。外面腰部に削りを施す。

105号ビット（第108図）

421は明石・堺系鉄軸陶器播鉢である。内外面に鉄釉を施す。

106号ビット（第108図）

422は磁器染付碗である。外面に蔓草文を染め付ける。畳付は無釉である。

106号ビット（第108図）

423は肥前系白磁花生である。内面腰部に絞り痕、外面裾部に削りを施す。内面と外面裾部から底部は無釉である。

1070号ビット (第108図)

424は石造物の基部と思われる石材である。凝灰岩製である。側面と底面は鑿状工具で面取りを施す。

425は鉄釘である。426は板状の金属製品である。鉄製で用途は不明である。

1079号ビット (第108図)

427は肥前系灰釉陶器皿である。内外面に灰釉を施す。高台内に削りを施し、外面下半と高台内に砂が付着する。外面下半から高台内は無釉である。高台内に兜巾が認められる。

1074号ビット (第108図)

428は鉄釘である。

1089号ビット (第108図)

429は鋸である。鉄製で渡り部分に木質が残存する。

110号ビット (第108図)

430は高梨台遺跡産と思われる軒丸瓦である。暗赤褐色を呈する赤瓦で、胎土は緻密で焼成堅緻である。焼成前に釘穴を二箇所穿孔する。瓦当は巴連珠文をモチーフとする。

1105号ビット (第108図)

431は肥前系磁器染付碗である。見込みに葡萄文、外面に朝顔文を染め付ける。畳付は砂が付着し、無釉である。

1114号ビット (第108図)

432は肥前系陶器皿である。内外面に透明釉を施し、垂れた釉薬が高台に厚く付着する。外面に重ね焼きの痕跡が認められる。

1129号ビット (第88図)

1は鉄釘である。別個体の釘と融着している。

1159号ビット (第109図)

433は肥前系磁器染付皿である。内面に墨弾きによる白抜き波瀾文を染め付ける。畳付は無釉である。

1169号ビット (第109図)

434は肥前系磁器染付皿である。見込みは草・流水文を染め付ける。畳付は無釉である。

1179号ビット (第109図)

435は鉄釘である。基部上端を折り曲げる。

1176号ビット (第109図)

436は肥前系(唐津系)鉄釉陶器碗である。内外面に鉄釉を施す。外面体部下半から高台内は無釉である。高台を削り出して作り出している。高台内に兜巾が認められる。

礎石跡出土遺物 (第109図)

102号礎石跡 (第109図)

440は肥前系磁器染付皿である。見込みに雲芝文を染め付ける。畳付は砂が付着し、無釉である。ふき取りが甘い釉薬が畳付に残る。

102号礎石跡 (第109図)

441・442は鉄釘である。441は基部上端を折り曲げる。木質が残存する。

土壘出土遺物（第112図）

土壘1（第112図）

いずれも攪乱・表土中より出土したものである。469・472は肥前系磁器染付である。470・471・473～476は磁器染付である。469～471は皿である。いずれも豊付は無釉である。469は見込みに向い兔・流水文を染め付ける。高台内に砂が付着する。470は銅板転写により見込みに銀杏文を西洋コバルトで染め付ける。口縁端部に錆蝋による口紅を施す。471は見込みに唐獅子文を染め付ける。472は碗である。見込みに菊花・一重網目文、外面に二重網目文、高台内に「寿」の銘を方形枠内に染め付ける。豊付は無釉である。473～476は杯である。いずれも西洋コバルトで染め付け、豊付は無釉である。473は見込みに桜葉のトレードマーク内に「A」・「爛漫」の銘、高台内に「秋田銘顔株式会社」の銘を染め付ける。474は外面に「太平山」の銘を枠内に染め付ける。475は外面に分銅・小槌文を染め付ける。高台内にヘラ状工具痕が認められる。476は外面に一重網目文を染め付ける。

477はビール瓶である。瓶の規格は大瓶で、自動製瓶機による機械成形である。底部側面に「TRACE・MARK DAINIPPON BREWERY CO LTD」、底部内に「」のエンボスが認められる。

その他の遺構（第109～111図）

100号遺構（第109図）

444は肥前系青磁香炉である。内面下半は無釉である。口縁端部は内側に屈曲する。器形は六角形状を呈すると思われる。445は肥前系磁器染付碗である。外面に一重網目文、高台内に「福av」の銘を染め付け、高台内に砂が付着し、豊付は無釉である。

100号遺構（第109図）

446は肥前系磁器染付碗である。内面に花唐草文、外面に唐草文を染め付ける。

447は砂岩製の硯である。下半部が欠損している。全体に墨が付着する。

448は鉄釘である。

100号遺構（第110図）

449は肥前系磁器輪花皿である。型打ち成形である。

450は越前系陶器甕である。口縁部は内側に突出する「T字形」を呈する。451は越前系陶器甕である。胴部片3点を図示した。いずれも内外面に横方向のナデ調整を施す。

100号遺構（第110図）

452は流紋岩製の砥石である。下半部が欠損している。二面に使用時の擦痕が認められる。

101号遺構（第110図）

453は高梨台遺跡産と思われる棧瓦である。暗赤褐色を呈する赤瓦で、外面縦方向のナデ調整後、横方向のナデ調整を施す。胎土は緻密で焼成堅緻である。

101号遺構（第110図）

454・459は肥前系磁器染付碗である。いずれも豊付は無釉である。454は外面に唐草文を染め付ける。455は見込みに梵字文を染め付ける。

456は肥前系鉄釉陶器鉢蓋である。内外面に鉄釉を施す。外面天井部に飛び鉋技法が施される。457は白岩焼陶器の鉄釉陶器鉢である。内面はなまこ釉、外面上半になまこ釉、下半に鉄釉を掛け分けている。458は肥前系鉄釉陶器花生である。内外面に鉄釉を施し、裾部外面に軸垂れが認められる。裾部外面に削りを施し、

裾部から底部は無釉である。

459は高梨台遺跡産と思われる平瓦である。暗赤褐色を呈する赤瓦で、外面縦方向のナデ調整を施す。胎土は緻密で焼成堅緻である。

1015号遺構（第11図）

460は肥前系白磁である。462は肥前系磁器染付である。463は肥前系（波佐見系）磁器染付である。461は磁器染付である。460は白磁坏である。畳付が無釉である。461～464は碗である。464を除き畳付は無釉である。461は外面に秋草文、高台内に判読不明の銘を染め付ける。462は高台内に「宣徳年製」の銘を染め付ける。463は外面に岩文、高台内に判読不明の銘を染め付ける。464は外面に松文を染め付ける。

465は肥前系陶器染付碗である。内面口縁部と外面に鉄釉を施す。見込みに草文を染め付ける。高台内は無釉で、兜巾が認められる。釉葉を二度掛けする。

466は瓦質土器火消壺蓋である。内面に煤が付着し、宝珠状の摘みが付く。

467・468は椀瓦である。いずれも胎土は緻密で焼成堅緻である。467は灰色・黒色を呈するいぶし瓦で、外面横方向のナデ調整後、縦方向のナデ調整を施す。468は高梨台遺跡産と思われる暗赤褐色を呈する赤瓦で、内外面にガラス質の鉄釉を施す。

（2）第2遺構面遺構内出土遺物（第91・105～107・109図）

溝跡出土遺物（第9図）

200号溝跡（第9図）

72は肥前系磁器染付瓶である。外面胴部に草文を染め付け、裾部に削りを施す。内面と底部は無釉である。底部に回転系切り痕が認められる。

73は凝灰岩製の磁石である。下半部が欠損している。三面に使用時の擦痕、裏面に「」の線刻が認められる。

土坑出土遺物（第105～107図）

200号土坑（第105図）

350は肥前系灰釉陶器折縁皿である。内外面に灰釉を施し、外面体部から高台内は無釉である。高台は削り出して作り出している。見込みに煤が付着する。

200号土坑（第105図）

351は肥前系磁器染付碗である。外面に草花・太湖石文を染め付ける。畳付は無釉である。

200号土坑（第105図）

352は道具瓦である。黒色を呈するいぶし瓦で、外面横方向のナデ調整を施す。胎土は緻密で焼成軟質である。外面に剥離痕が認められる。

202号土坑（第105図）

353は肥前系磁器染付瓶である。外面に秋草文を染め付ける。内面に袖垂れが認められる。内面は無釉である。

203号土坑（第105図）

354は肥前系磁器染付碗である。外面に草花文を染め付ける。

355は肥前系灰釉陶器合子である。外面に灰釉、外面下半に削りを施す。内面と底部は無釉である。

203号土坑（第10図）

35dは肥前系磁器染付碗である。

203号土坑（第10図）

35fは肥前系磁器染付鉢蓋である。外面に桃文を染め付ける。

204号土坑（第10図）

358～36dは肥前系磁器染付である。361は肥前系磁器色絵である。362は肥前系（伊万里系）磁器である。358～361は碗である。358は外面に松文を染め付ける。畳付は無軸である。359は外面に草花・斜め格子文を染め付ける。36dは畳付が無軸である。361は外面に草花文を赤・緑・黒の顔料で絵付けする。362は瓶である。高台内に砂が付着し、内面は無軸である。

363・364は肥前系陶器である。363は皿である。内面と外面下半に鉄軸、外面上半に銅緑軸を施す。鉄軸と銅緑軸を掛け分ける。外面下半に削りを施し、高台内外は無軸である。364は灰釉陶器皿である。内外面に灰釉を施す。見込みに胎土目痕が認められる。外面下半から高台内は無軸である。高台外面は削り出して作り出している。

369はかわらけである。ロク口成形で、内外面に横方向のナデ調整、外面下半に削りを施す。口縁部内外面に煤が付着する。底部に回転系切り痕が認められる。

36dは土鈴と思われる土製品である。下半部は欠損し、内部は中空である。

367は凝灰岩製の磁石である。上部が欠損し、四面に使用時の擦痕が認められる。

368は鉄釘である。基部上端を折り曲げる。

204号土坑（第10図）

369・37dは肥前系磁器染付皿である。いずれも高台に砂が付着する。369は見込みに桃折枝文を染め付ける。37dは見込みに草花文を染め付ける。高台内にハリ支えの痕跡が認められる。

371は型打ち成形のかわらけである。内外面に横方向のナデ調整を施す。内外面口縁部に煤が付着する。

372は凝灰岩製の脚付盤である。内外面にヘラ削りを施す。足を削り出して作り出している。

373は鉄釘である。

204号土坑（第10図）

374は肥前系磁器染付坏である。見込みに草花文を染め付ける。胎土目痕が認められる。畳付は無軸である。

379は肥前系（唐津系）灰釉陶器皿である。内外面に藁灰釉を施す。見込みに胎土目痕が認められる。外面下半から高台内は無軸である。高台を削り出して作り出し、畳付に回転系切り痕が認められる。376は肥前系（唐津系）陶器碗である。高台を削り出して作り出している。高台内は無軸である。377は肥前系鉄釉陶器鉢である。外面に鉄軸を施す。内面胴部に粗い格子目叩き後にナデ調整を施す。内面底部に押圧に伴う爪痕が認められる。

204号土坑（第10図）

378は肥前系鉄釉陶器輪花皿である。型押し成形で、見込みに蛇の目刺ぎし、内外面に鉄軸を施す。外面に型押し成形時の布目痕が認められる。379は肥前系（唐津系）鉄釉陶器鉢である。外面口縁部に被熱で劣化した鉄軸がかかる。外面は鉄軸を波状に塗っている。内面は無軸である。

205号土坑（第10図）

38dは肥前系磁器染付輪花皿である。型打ち成形で、見込みに鳥文を染め付ける。高台内に砂が付着し、畳付は無軸である。高台内に兜巾が認められる。

205号土坑（第10図）

381は肥前系灰釉陶器皿である。内外面に藁灰釉を施す。

2059号土坑（第10図）

382は肥前系磁器染付皿である。見込みに魚文を染め付ける。383は肥前系磁器染付鉢である。外面に水草文を染め付ける。体部下半に削りを施す。畳付は無釉である。

384は肥前系灰釉陶器折縁皿である。内外面に灰釉を施す。見込みに砂目痕が認められる。外面体部から高台は無釉である。高台は削り出して作り出している。389は肥前系鉄釉陶器甕である。外面胴部上半に鉄釉を施し、内面は無釉である。

206号土坑（第10図）

386は肥前系磁器染付皿である。内面に格子文を染め付ける。

2069号土坑（第10図）

387は肥前系磁器杯である。

207号土坑（第10図）

388は肥前系磁器染付皿である。見込みに手描き五弁花文を染め付ける。外面下半から高台は無釉である。

389は素焼き土師質の土風炉である。側面にヘラ削り、底部から脚部に削りを施す。三足を貼り付ける。

2074号土坑（第10図）

390は肥前系青磁である。391～393は肥前系磁器染付である。390は青磁仏飯器である。脚部から底部は無釉である。391・392は碗である。391は外面に梅枝花文、高台の圏線区画内に粗い山形文を染め付ける。高台内に砂が付着し、畳付は無釉である。392は外面に山文を染め付ける。393は瓶である。外面に草文を染め付ける。高台内に砂が付着する。

394は肥前系（唐津系）陶器である。395は肥前系陶器である。394は鉄釉陶器刷毛目文鉢である。内面口縁部と外面に鉄釉、外面体部に刷毛目文を施す。外面体部下半にヘラによる刻みが入る。外面体部は無釉で、内面口縁部に釉垂れが認められる。395は鉄釉陶器香炉である。器形は内湾型で内外面に鉄釉を施し、外面下半から高台内は無釉である。高台は削り出して作り出している。畳付に回転系切り痕が認められる。

2078号土坑（第10図）

396は肥前系磁器染付碗である。外面に松文を染め付ける。畳付は無釉である。397は肥前系磁器染付水滴である。型押し成形で、外面注ぎ口部に染付を施す。内面は無釉である。

2080号土坑（第10図）

398は肥前系磁器色絵壺蓋である。外面上半に渦・草花・雲気文、下半に二重圏線を赤・青・緑の顔料で絵付けする。内面から合せ目は無釉である。摘みが付く。

2108号土坑（第10図）

399は肥前系磁器染付碗である。外面に松・若葉文を染め付ける。畳付は無釉である。

400は肥前系灰釉陶器折縁皿である。内外面に灰釉を施す。外面下半から高台内は無釉である。高台を削り出して作り出している。畳付に回転系切り痕が認められる。

401は平瓦である。灰色・黒色を呈するいぶし瓦で、外面縦方向のナデ調整後、横方向のナデ調整を施す。胎土は緻密で焼成堅緻である。

402は凝灰岩製の砥石である。上部が欠損する。二面に使用時の擦痕が認められる。

211号土坑（第10図）

403は備前系陶器擂鉢である。底部に削りを施す。

211号土坑（第10図）

404は肥前系灰釉陶器碗である。内外面上半に灰釉を施し、外面下半から高台内は無釉である。高台を削り出して作り出している。

212号土坑（第10図）

405は肥前系（唐津系）灰釉陶器皿である。内面から外面上半にかけて灰釉を施し、外面下半から底部にかけて無釉である。底部に回転系切り痕が認められる。

212号土坑（第10図）

406は鉄釉陶器擂鉢である。内外面に鉄釉を施す。底部に砂が付着する。内面は使用により摩耗する。

212号土坑（第10図）

407は肥前系灰釉陶器皿である。外面に灰釉を施す。外面体部下半に煤が付着する。

212号土坑（第10図）

408は肥前系磁器染付碗である。外面に菊花・花散らし文、見込みに花散らし文、高台内に簡略化した「宣明年製」の銘を染め付ける。畳付は無釉である。409は肥前系磁器色絵油壺である。外面肩部に一重圏線・丸文、丸に雷・巴文、外面胴部に二重圏線、高台に一重圏線を赤・緑・黄の顔料で絵付けする。内面と畳付は無釉である。

410は肥前系（唐津系）陶器鉢である。内外面口縁部に長石釉を施し、内面下半と外面下半から高台内は無釉である。

411は型打ち成形のかわらけである。内外面に横方向のナデ調整を施す。

412は鉄釘である。

ビット出土遺物（第10図）

201号ビット（第10図）

437は瀬戸美濃系鉄釉陶器把手付鍋である。内面口縁部と外面に鉄釉を施す。外面下半に削りを施す。

201号ビット（第10図）

438は肥前系（唐津系）灰釉陶器皿である。内面に灰釉を施し、外面下半から高台内にかけて無釉である。高台を削り出して作り出している。高台内に兜巾が認められる。

202号ビット（第10図）

439は肥前系磁器染付碗である。外面に遠山・家屋・松文を染め付ける。

礎石跡出土遺物（第10図）

200号礎石跡（第10図）

443は「寛永通寶」である。銅製である。裏面に「文」の文字が認められることから文銭と判断される。

（3）基本層・攪乱出土遺物（第112～12図）

層出土遺物（第112・113図）

478・479・481・482・484は肥前系磁器染付である。480は肥前系（波佐見系）磁器染付である。483・485

は磁器染付である。478・479は皿である。いずれも畳付は無釉である。478は見込みに瓜文を染め付ける。479は見込みに月・山水文を染め付ける。481～484は碗である。いずれも畳付は無釉である。481は外面に花唐草文を染め付ける。482は外面に蝶文を染め付ける。483は外面に家屋・松文を染め付ける。口縁部が波状を呈する。484は高台内に簡略化した「大明年製」の銘を染め付ける。480は輪花碗である。内面に扇文、外面に唐草文を染め付ける。畳付は砂が付着し、無釉である。489は徳利である。銅板転写により西洋コバルトで外面口縁部に輪宝文、体部下半に牡丹唐草文、高台内に判読不明の銘を染め付ける。

486は肥前系鉄釉陶器壺である。内外面に鉄釉を施す。外面は鉄釉を二度掛けする。外面下半に削りを施し、底部に回転系切り痕が認められる。

・ 層出土遺物（第113図）

487は肥前系磁器染付坏である。外面口縁部に二重圈線を染め付ける。

488は丹波系鉄釉陶器搦鉢である。内外面に鉄釉を施す。

層出土遺物（第113・114図）

489は肥前系白磁である。490～494は肥前系磁器染付である。493は磁器染付である。489は白磁輪花皿である。型打ち成形で、畳付は無釉である。490・491は皿である。490は内面見込みに流水・花散らし文、外面に折松葉文を染め付ける。畳付は無釉である。高台内にハリ支えの痕跡が認められる。491は内面に月・松・山水文、外面に笹文を染め付ける。492～494は碗である。いずれも畳付は無釉である。492は見込みに桐葉文、外面に笹文、高台内に「宣明年製」の銘を染め付ける。493は外面上半に折枝花文、下半に若草文を染め付ける。494は外面に型紙摺の秋草文を染め付ける。493は徳利である。外面に野菜文を描く。高台内に「之」の銘を染め付ける。

496・497は肥前系陶器である。496は鉄釉陶器土瓶蓋である。外面に鉄釉を施す。釉薬により穿孔が塞がっている。内面は無釉である。宝珠状の握みが付く。497は鉄釉陶器鍋である。内外面に鉄釉を施し、外面下半は無釉である。

498～501はかわらけである。いずれも型打ち成形である。

502は高梨台遺跡産と思われる丸瓦である。暗赤褐色を呈する赤瓦で、外面縦方向のナデ調整を施す。釘穴が一面所認められる。胎土は緻密で焼成堅緻である。

503は鉢である。鉄製である。

504は「寛永通寶」である。銅製である。「寶」の書体から古寛永銭であると判断される。505は「寛永通寶」と思われる銅銭である。請が著しく「通寶」の銘がわずかに認められる。

・ 層出土遺物（第114図）

506は肥前系磁器染付碗である。外面に太鼓石・草文を染め付ける。高台内に砂が付着し、畳付は無釉である。

507～509はかわらけである。いずれも型打ち成形である。509は内外面に煤が付着する。

層上面出土遺物（第114・115図）

510は肥前系白磁である。511～517は肥前系磁器染付である。510は白磁坏である。511～513は皿である。511は見込みに手描き五弁花文、内面に墨弾きによる白抜き波瀾文を染め付ける。畳付は無釉である。512は見込みに葡萄文、外面に唐草文を染め付ける。畳付は無釉である。513は内面の染付区画内に流水文を染め付ける。514～517は碗である。いずれも畳付は無釉である。514は外面に菊文を染め付ける。515は外面に草花文を染め付ける。516は見込みに渦巻文、外面に渦巻繁文を染め付ける。517は蛇の目凹型高台である。見込

みに梵字文、内面に格子文、外面に氷裂・花文を染め付ける。

52は肥前系陶器である。518は肥前系（唐津系）陶器である。520は越前系陶器である。521は備前系陶器である。519は焼締め陶器である。518は皿である。見込みに蛇の目釉剥ぎし、高台内外は無釉である。高台を削り出して作り出している。高台内に兜巾が認められる。外面下半にハリ支えの痕跡が認められる。519は壺である。内面首部に指頭圧痕が残る。520は甕の肩部片である。内面に指頭圧痕が残る。口縁端部が玉縁状を呈する。521は鉄釉陶器播鉢である。外面口縁部に鉄釉、平行沈線を二条施す。52は鉄釉陶器乗燭である。内外面に鉄釉を施す。内面に灯芯を通す小孔が認められる。

523は素焼き土師質の土風炉である。外面に削りを施し、内面に煤が付着する。

524は丸瓦である。灰色を呈するいぶし瓦で、内面の布目痕を棒状工具で叩き消す。側縁に削りを施す。釘穴が二箇所認められる。胎土は緻密で焼成堅緻である。529は高梨台遺跡産と思われる軒椀瓦である。暗赤褐色を呈する赤瓦で、外面横方向のナデ調整を施す。胎土は緻密で焼成堅緻である。瓦当面がわずかに残存する。

528は凝灰岩製の磁石である。上半部が欠損している。三面に使用時の擦痕が認められる。

529は鉄釘である。基部上端を折り曲げる。528は鋸である。鉄製である。529は戸車である。青銅製で直径6mmの孔内に木製管が残存する。

530は「寛永通寶」と思われる銅銭である。錆が著しく裏表の銘は判読不明である。531は「寛永通寶」である。銅製である。錆が著しいが、裏面に「文」の文字が認められることから文銭であると判断される。

層出土遺物（第115・116図）

532は肥前系青磁である。533～537は肥前系磁器染付である。538は磁器染付である。532は青磁瓶である。高台内に砂が付着し、内面と壘付は無釉である。533・535・536は皿である。533は型紙摺により、見込みに葡萄文、外面に唐草文を染め付ける。壘付は無釉である。539は内面に格子文を染め付ける。534は見込みに菊花文を染め付ける。高台内に砂が付着し、壘付は無釉である。534は輪花皿である。型打ち成形で、見込みに鳥文を染め付ける。壘付は無釉である。537・538は碗である。いずれも壘付は無釉である。537は見込みに梅花文、外面に山文を染め付ける。高台内に砂が付着する。538は口縁端部に錆による口紅を染め付ける。

539は肥前系（唐津系）陶器である。540は肥前系陶器である。541は京・信楽系陶器碗である。542は越前系陶器である。543は陶器である。539は灰釉陶器皿である。内外面に灰釉を施し、体部下半から高台は無釉で削りを施す。高台内に判読不明の墨書が認められる。540・541は碗である。540は内外面に灰釉を施し、見込みに釉薬が融着する。内外面に白化粘土による刷毛目文を描く。壘付は無釉である。541は内外面に透明釉を施し、見込みに家屋・松文を鉄絵で描く。外面下半から高台内は無釉である。高台内に「清水」の銘が認められる。542は甕である。内面は無釉である。543は鉄釉陶器播鉢である。外面口縁部に鉄釉を施す。

544は丸瓦である。灰色・銀色を呈するいぶし瓦で、外面縦方向のナデ調整後、横方向のナデ調整を施す。内面にコビキBの痕跡が認められる。側縁に削りを施す。胎土緻密で焼成堅緻である。

549は鉄釘である。基部に木質が残存する。

攪乱出土遺物（第116～120図）

548は肥前系青磁である。547・548は肥前系白磁である。549・550・553～555・557～559・561・563・564・566～569・571は肥前系磁器染付である。551・552は肥前系（波佐見系）磁器染付である。556・560・562・565・570は磁器染付である。548は青磁香炉である。外面に筋目状の陽刻を施す。内面と壘付は無釉である。547は白磁皿である。外面体部から底部は無釉である。548は白磁碗である。高台内に砂が付着し、壘付は無

釉である。549～557は皿である。557を除き畳付は無釉である。549は見込みに桃文を染め付ける。高台内に砂が付着する。550は見込みに草文を染め付ける。畳付に砂が付着する。551は見込みに秋草文を染め付ける。552は内面口縁部に遠山・樹木文、見込みに帆掛け舟文を染め付ける。畳付に砂が付着する。553は内面に生垣・蔦草文、見込みにコンニャク印判の五弁花文、外面に唐草文、高台内に簡略化した「成化年製」と思われる銘を染め付ける。554は内面に雲芝文、見込みに葉文を染め付ける。畳付に砂が付着する。559は内面口縁部に宝珠文、見込みに家屋・舟・月文、外面に雲文を染め付ける。556・557はいずれも型紙摺である。556は西洋コバルトで見込みに桜花文を染め付ける。557は内面に宝・花唐草文、外面に唐草文を染め付ける。558～564は碗である。558～561は畳付が無釉である。558は外面に鳥・扇文、高台内に簡略化した「大明年製」と思われる銘を染め付ける。559は外面に牡丹唐草文、高台内に「大明成化年製」の銘を染め付ける。560は口縁端部に錆軸による口紅、見込みに岩波文、外面に鳥文を染め付ける。561は見込みに草文、外面に草花文を染め付ける。高台内は砂が付着する。562は型紙摺により西洋コバルトで見込みに環状松竹梅文、外面に竹文を染め付ける。563は外面に蔓草文を染め付ける。564は口縁端部に錆軸による口紅、型紙摺により外面に雨降り文を染め付ける。569は坏である。西洋コバルトで外面坏部に遠山・鳥文・「横江」の銘、脚部に太湖石・家屋・舟・柴垣・竹文・「旅館松風亭」の銘、脚台内に「仙水」の銘を染め付ける。畳付は無釉である。566・567は花生である。566は外面に折枝花文を染め付ける。内面と畳付は無釉である。567は外面に草花文を染め付け、首部に獣面を貼り付ける。内面は無釉である。568・569は鉢蓋である。568は型紙摺により外面に唐子遊び・輪宝文、内面に輪宝文を染め付ける。摘み端部は無釉である。569は外面に丸文を染め付ける。梨斗状の摘みが付く。570は統制食器碗蓋である。外面口縁部に二重圏線を染め付ける。摘み部は無釉である。571は仏飯器である。外面の圏線区画内に銘書文を染め付ける。底部内面に削りを施す。底部は無釉である。

572・573・577・578は肥前系陶器である。579は肥前系（唐津系）陶器である。576は大堀相馬系陶器である。574は陶器である。572は銅釉皿である。見込みに蛇の目釉剥ぎし、内外面に銅釉を施す。外面下半から高台内は無釉であり、高台を削り出して作り出している。畳付に回転系切り痕が認められる。573は灰釉陶器急須蓋である。外面に灰釉を施し、鉄絵で一重圏線・花文を描く。内面は無釉で、回転系切り痕が認められる。574は銅緑釉土瓶蓋である。外面に銅緑釉、内面は削りを施し無釉である。宝珠状の摘みが付く。579は灰釉陶器仏花瓶である。内面は鉄釉、外面は灰釉を施し、内外面に釉葉を掛け分ける。底部に回転系切り痕が認められる。576・577は土瓶である。576は灰釉陶器土瓶である。外面に灰釉を施す。容器本体および釣り手と注ぎ口部に鉄絵による山水文を描く。収納胴体部に削りを施し、内面と収納胴体部下半は無釉である。577は内外面の収納胴体部に鉄釉を施す。開口部は無釉である。578は挿鉢である。底部に回転系切り痕が認められる。

579・580は型打ち成形のかわらけである。いずれも内外面に横方向のナデ調整を施す。579は焼成後に底部穿孔を施している。内外面口縁部に煤が付着する。581は素焼き土師質の土風炉である。三足を貼り付ける。582は涼炉である。煎茶用の湯沸かし炉で、器形は立方体状を呈する。四隅に削りによる面取りを施す。底面に三足を貼り付ける。被熱による劣化が著しい。583は蓋である。外面に指頭圧痕が認められる。扁平の摘みが付く。

584～587は瓦である。いずれも胎土は緻密で焼成堅緻である。584は軒丸瓦である。灰色を呈するいぶし瓦で、瓦当は三巴文をモチーフとする。585・586は軒平瓦である。589は灰色・黒色を呈するいぶし瓦で、外面横方向のナデ調整後、縦方向のナデ調整を施す。瓦当は唐草文をモチーフとする。588は灰色を呈するいぶ

し瓦で、外面縦方向のナデ調整後、横方向のナデ調整を施す。瓦当は子葉の付いた唐草文をモチーフとする。587は高梨台遺跡産と思われる棧瓦である。暗赤褐色を呈する赤瓦で、外面縦方向のナデ調整を施す。水返しの部分に釘穴が一箇所認められる。

588-593はガラス瓶である。588は薬瓶である。水色の気泡ガラス製で目盛線が入る。589は資生堂製の化粧水用瓶である。外面肩部に面取りを施す。底部に資生堂の商標である「花椿」マークのエンボスが認められる。明治30年（1897年）に販売開始した「オイデルミン」の昭和初期の形式である。590はサイダー瓶である。淡い緑色の気泡ガラス製で底部側面に「日本麥酒醸造株式会社 登録三ツ矢マーク商標」、底部内に「1」のエンボスが認められる。591は牛乳瓶である。口縁部側面に栓用の吊穴が認められる。外面胴部に「全乳一合」、丸棹内に「いろは牛乳部」のエンボスが認められる。592・593はビール瓶で、いずれも規格が大瓶である。592は自動製瓶機による機械成形である。底部側面に「TRADE・MARK DAINIPPON BREWERY CO LTD」、底部内に「12 1」のエンボスが認められる。593は人工成形であり、底部側面に「大日本麥酒株式会社醸造 商標 登録」のエンボスが認められる。

594は石材である。凝灰岩製で表面に段状の加工を施す。

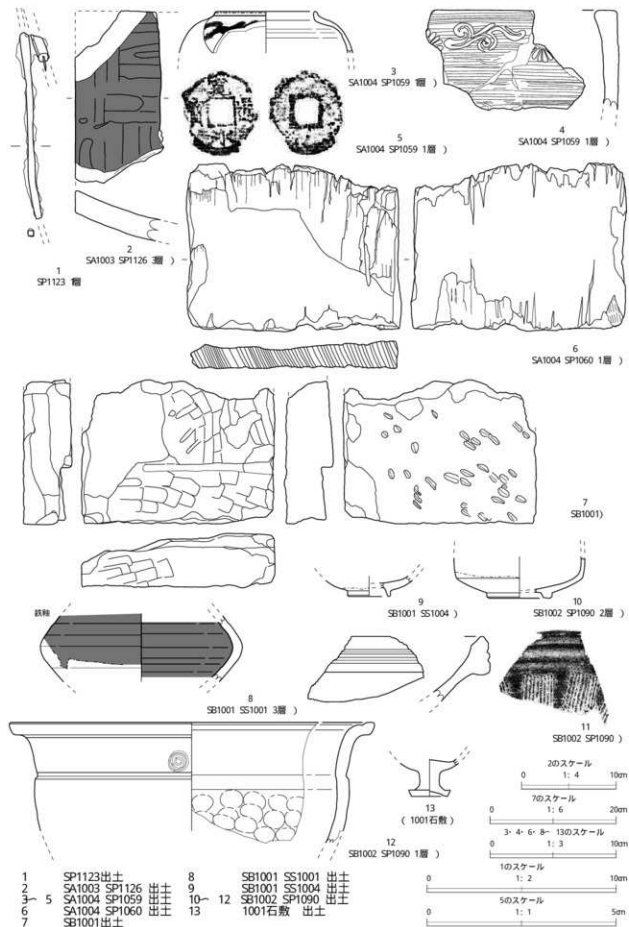
595・596は硯である。595は珪藻土製である。全体に墨が付着し、使用により摩耗する。内外面と側面に釘書きによる線刻や文字が認められる。右側面に「大」「市」「与」、裏面に「大和田弥八与」「小土氏」「小」、二重円内に「大」、二重六角形内に「小」が確認できる。596は粘板岩製である。陸部分が欠損し、海内在使用時の擦痕が認められる。597は珪質頁岩製の石匙である。右側縁に刃部を設ける。未成品である。

598は椀状製品である。鉄製である。599は青銅製の煙管の吸い口である。吸い口と羅字の境で折れ曲がる。内部に木質が残存する。

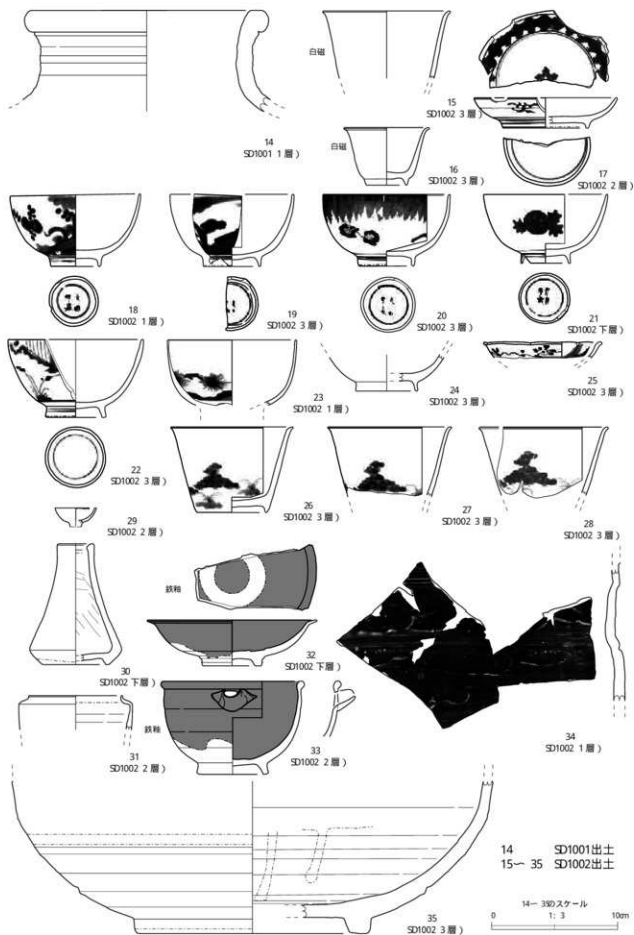
600は「寛永通寶」である。銅製である。601・602は「寛永通寶」と思われる銅銭である。601は外縁部欠損し、「通寶」の銘がわずかに認められる。602は半分欠損し、「寛通」の銘がわずかに認められる。排土出土遺物（第12図）

603は肥前系青磁碗である。豊付は無軸である。604は肥前系青磁香炉である。豊付に鉄奘を塗り、内面は無軸である。体部下半に簡略化した獣面と三足を貼り付ける。

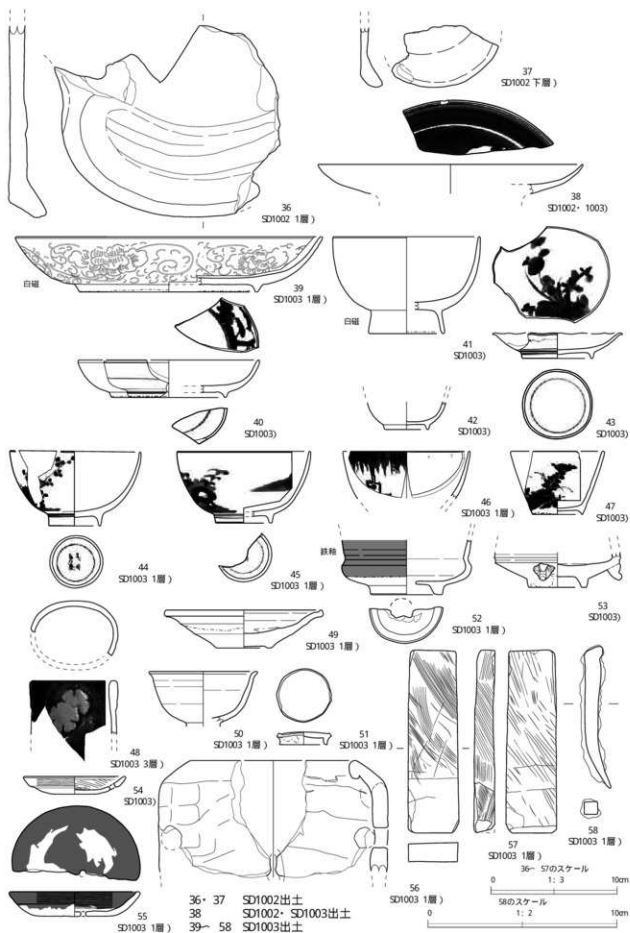
605は軒棧瓦である。灰色・銀色を呈するいぶし瓦で、瓦当内面にヘラ状工具による磨き調整を施す。胎土緻密で焼成堅緻である。瓦当は三巴文をモチーフとする。巴は右巻きである。



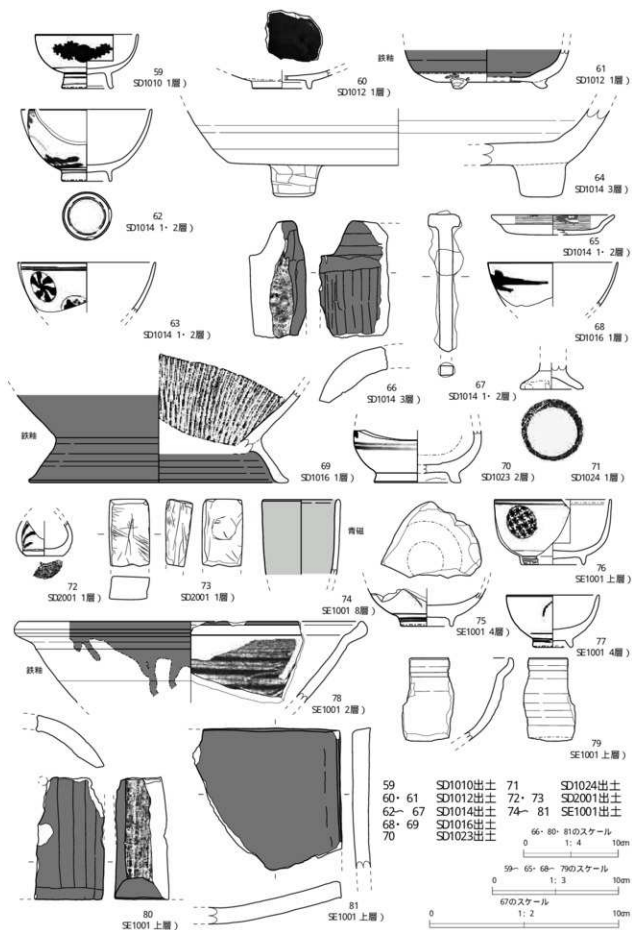
第88図 遺構出土遺物(磁器・陶器・瓦質土器・瓦・石造物・金属製品・銭貨・木製品)



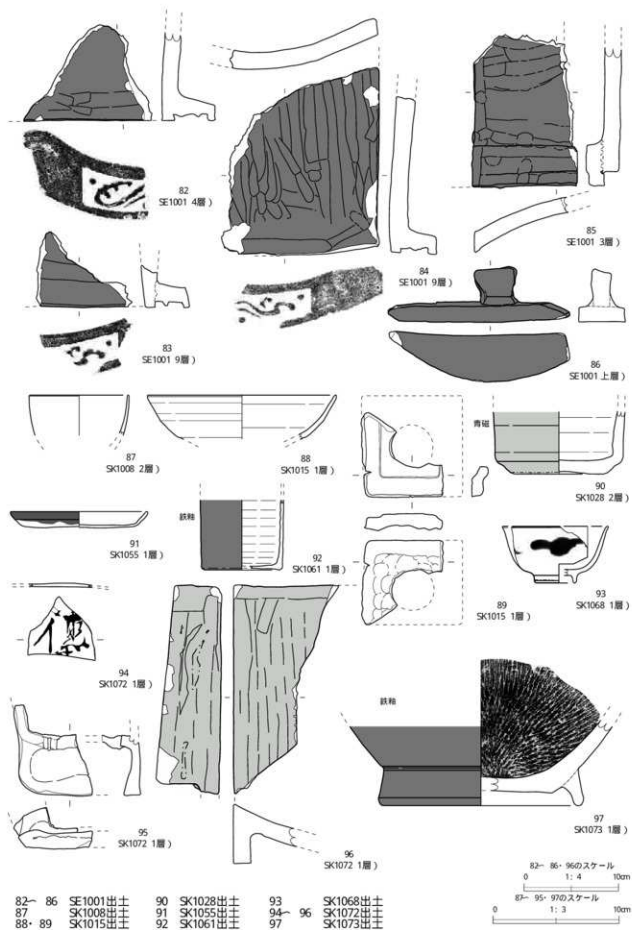
第89図 遺構出土遺物(磁器・陶器)



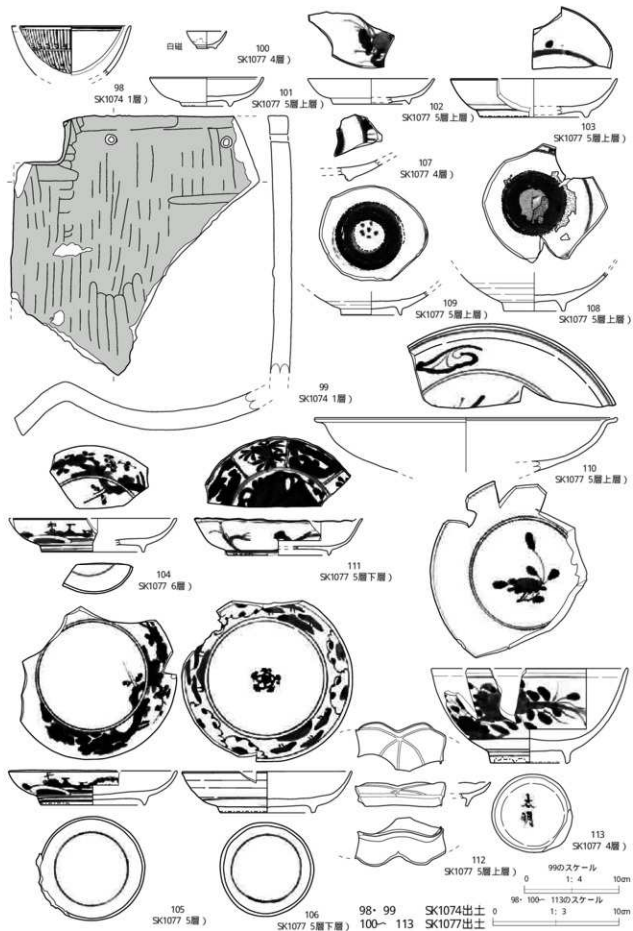
第9図 遺構出土遺物(磁器・陶器・土器・石製品・金属製品)



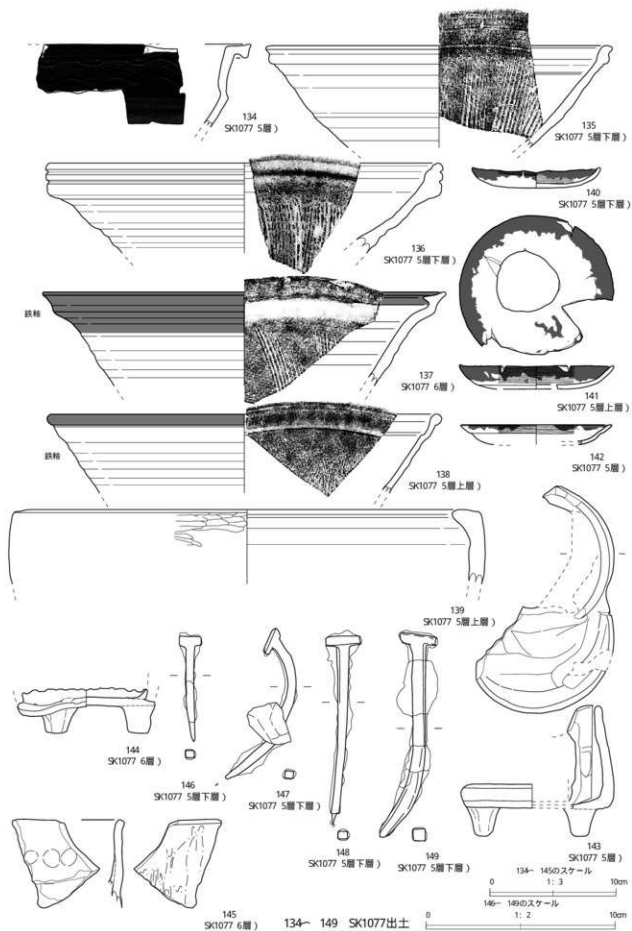
第9図 遺構出土遺物(磁器・陶器・瓦質土器・土器・瓦・石製品・金属製品)



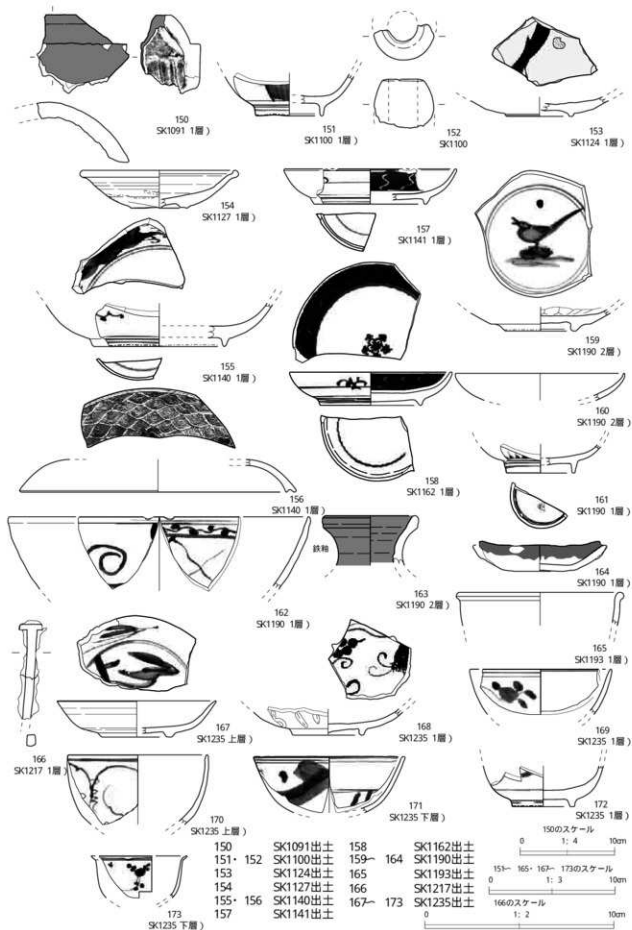
第9図 遺構出土遺物(磁器・陶器・土器・土製品・瓦)



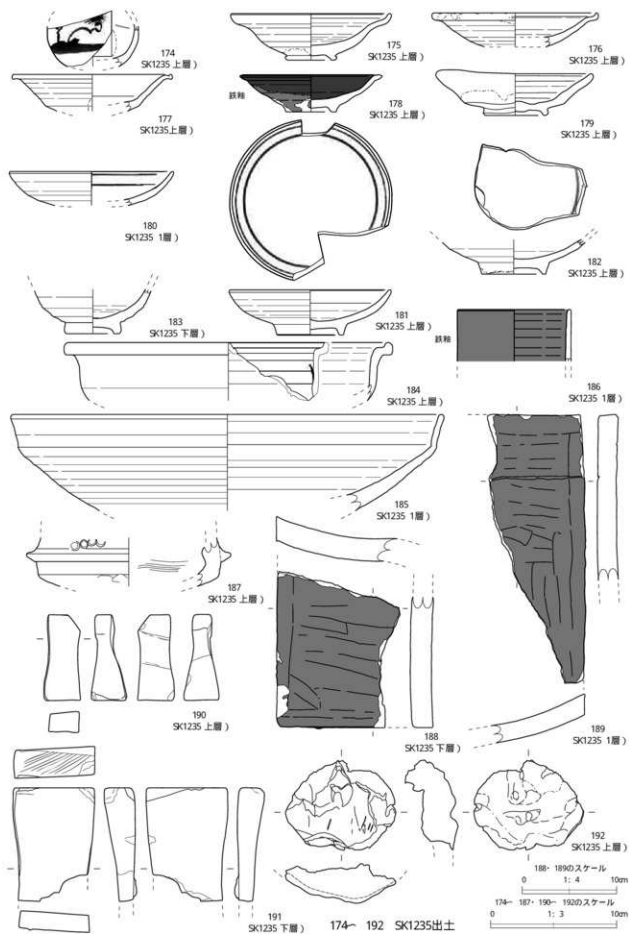
第9図 遺構出土遺物(磁器・瓦)



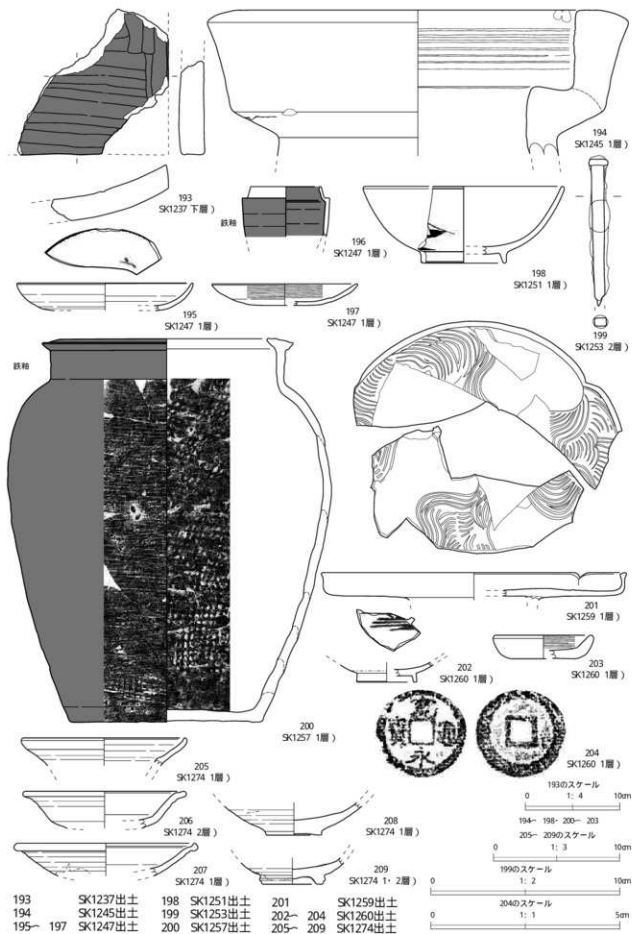
第9図 遺構出土遺物(陶器・瓦質土器・土器・金属製品)



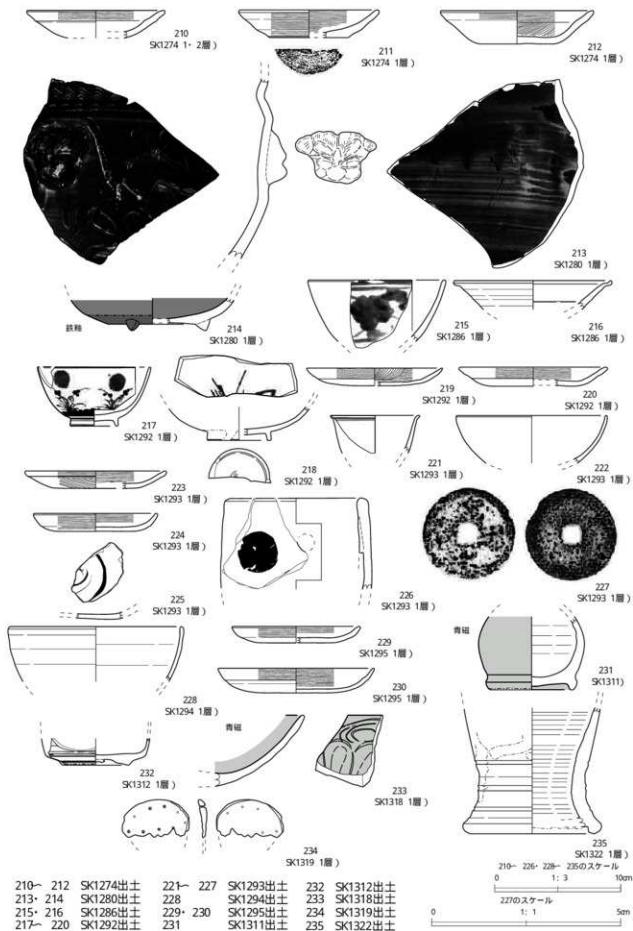
第9図 遺構出土遺物(磁器・陶器・土器・土製品・瓦・金属製品)



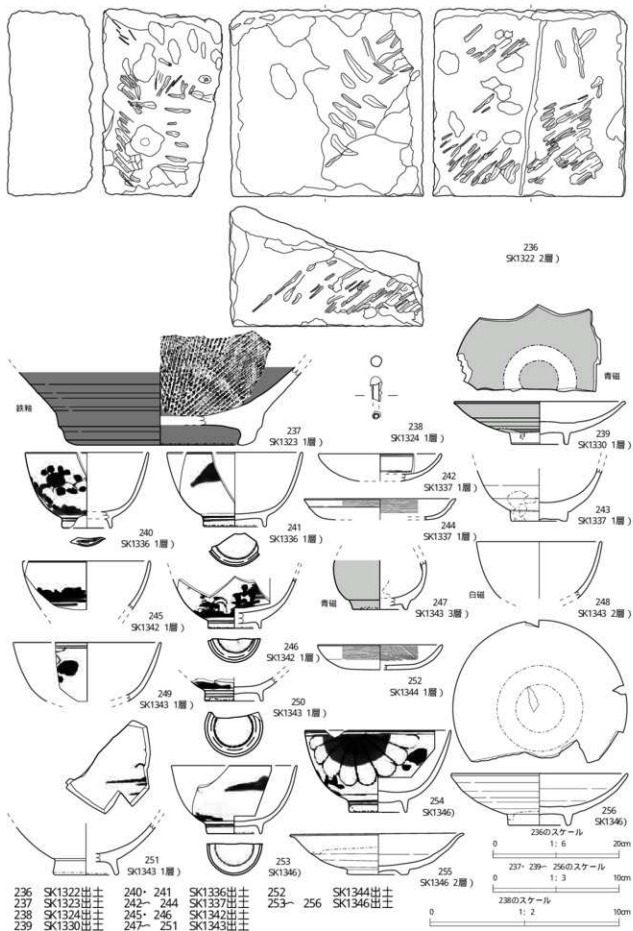
第9図 遺構出土遺物(磁器・陶器・瓦質土器・土製品・瓦・石製品)



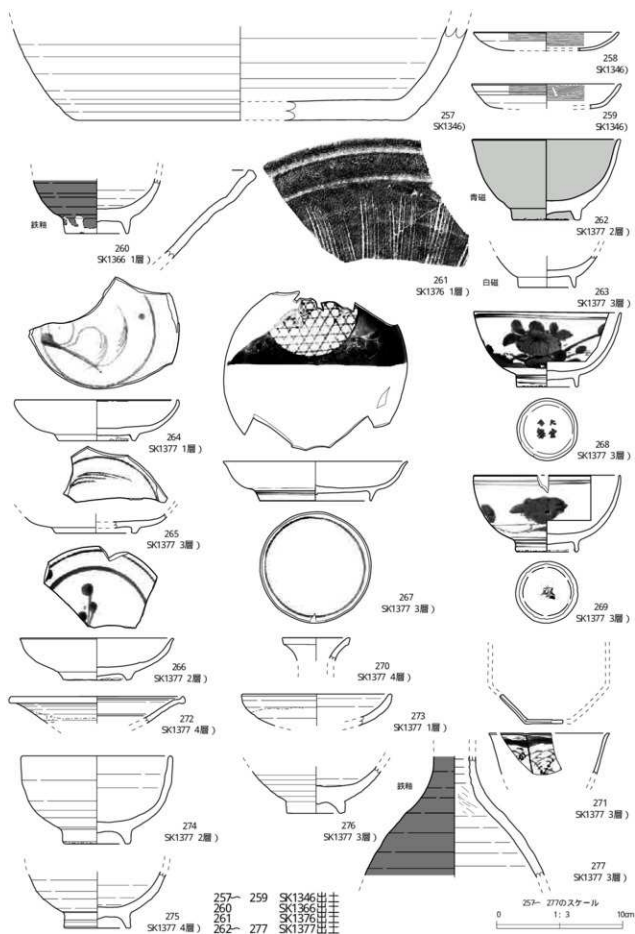
第98図 遺構出土遺物(磁器・陶器・土器・瓦・金属製品・銭貨)



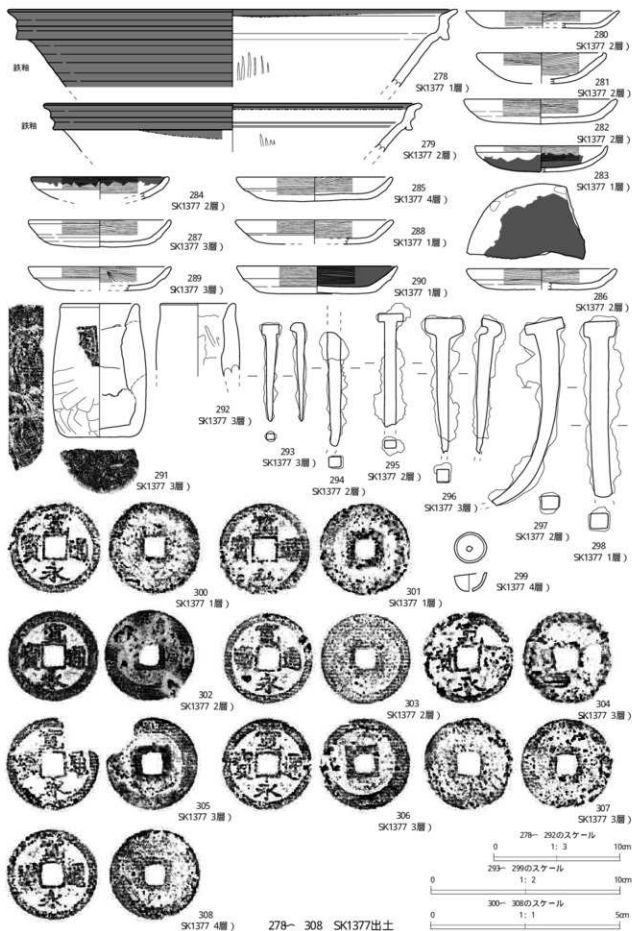
第 99図 遺構出土遺物(磁器・陶器・土器・銭貨・皮革製品)



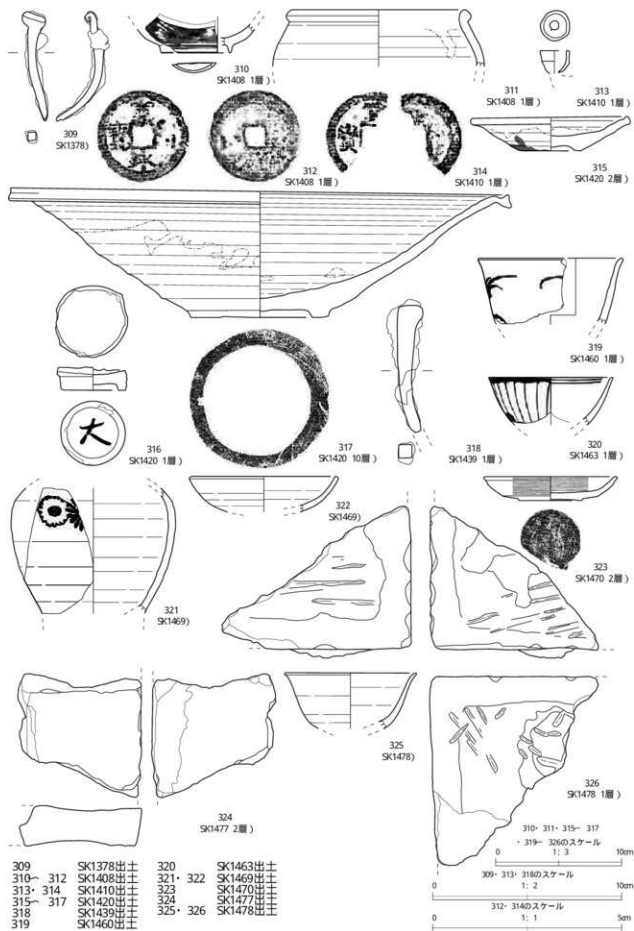
第10図 遺構出土遺物(磁器・陶器・土器・石造物・金属製品)



第10図 遺構出土遺物(磁器・陶器・瓦質土器・土器)

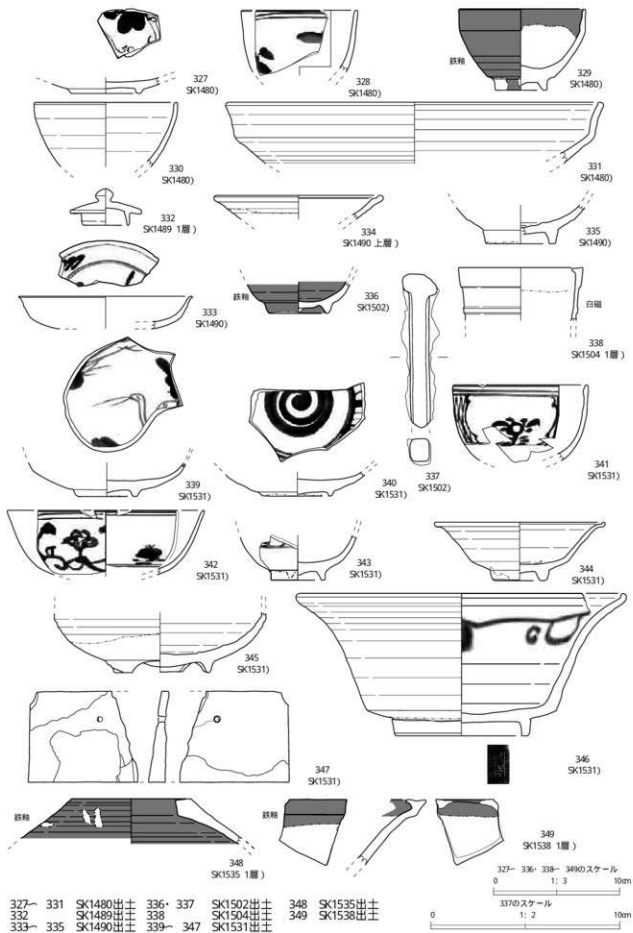


第10図 遺構出土遺物(陶器・土器・金属製品・銭貨)

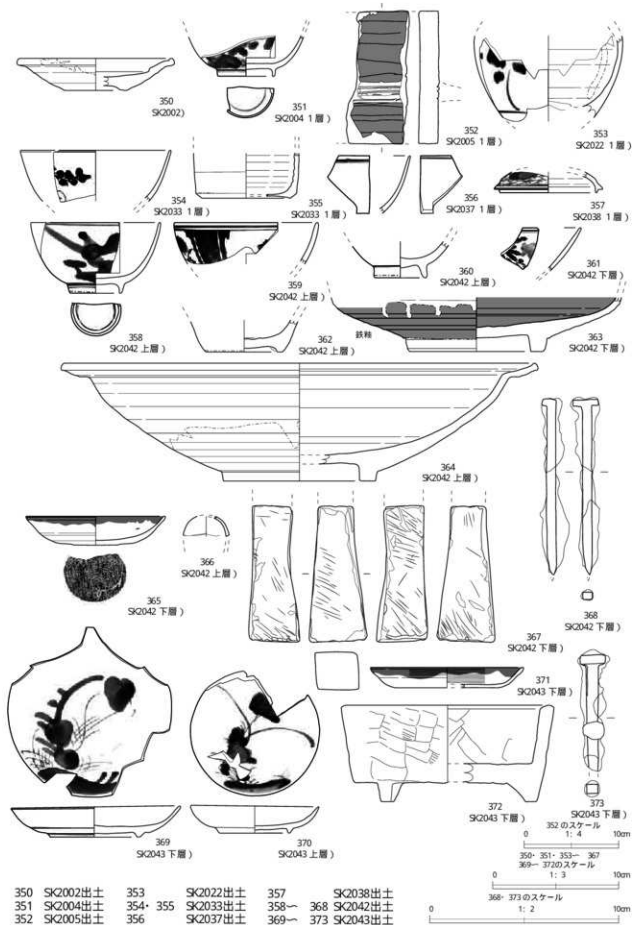


309	SK1378出土	320	SK1463出土
310~312	SK1408出土	321・322	SK1469出土
313・314	SK1410出土	323	SK1470出土
315~317	SK1420出土	324	SK1477出土
318	SK1439出土	325・326	SK1478出土
319	SK1460出土		

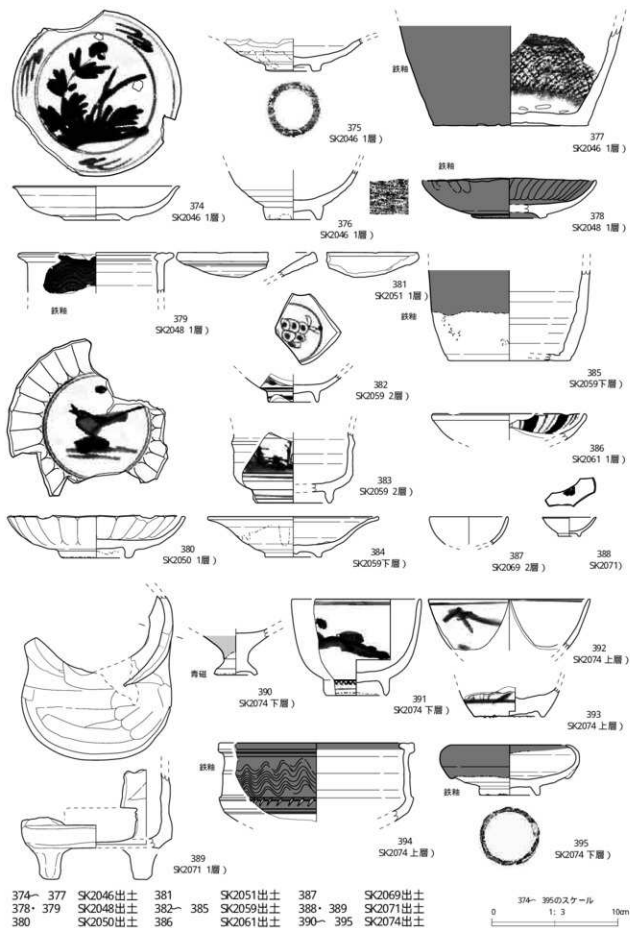
第10図 遺構出土遺物(磁器・陶器・土器・石製品・石造物・金属製品・銭貨)



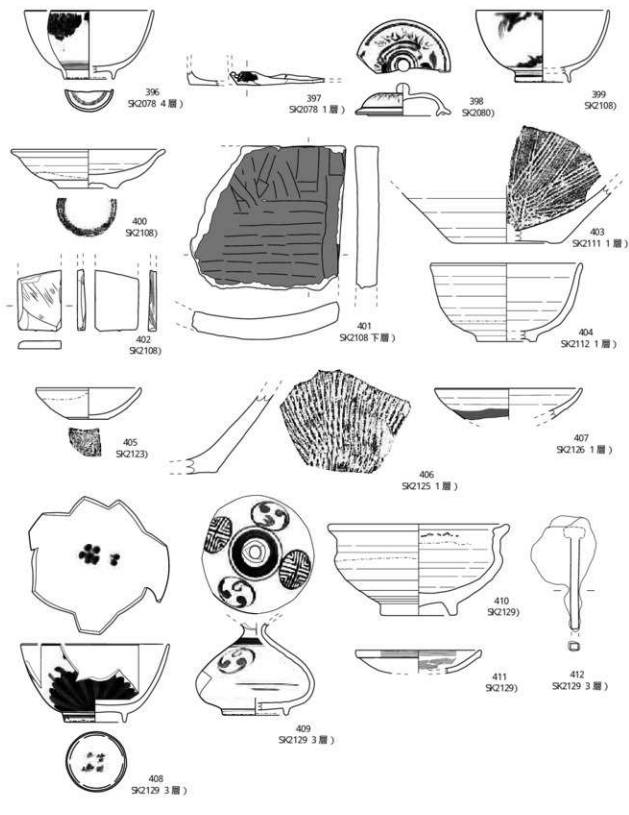
第10図 遺構出土遺物(磁器・陶器・石製品・金属製品)



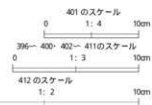
第10図 遺構出土遺物(磁器・陶器・土器・土製品・瓦・石製品・金属製品)



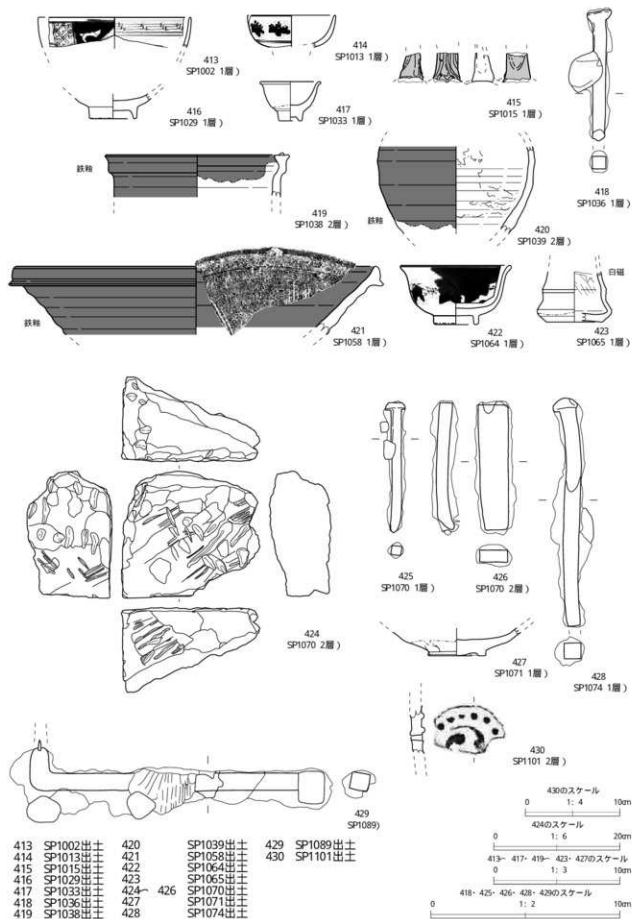
第106図 遺構出土遺物(磁器・陶器・土器)



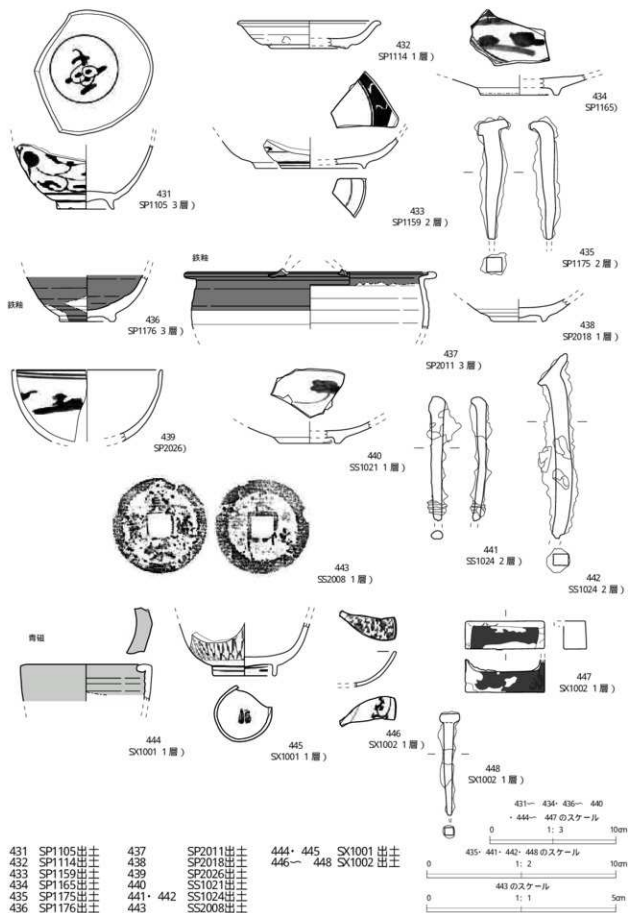
396・397 SK2078 出土 403 SK2111 出土 406 SK2125 出土
 398 SK2080 出土 404 SK2112 出土 407 SK2126 出土
 399～402 SK2108 出土 405 SK2123 出土 408～412 SK2129 出土



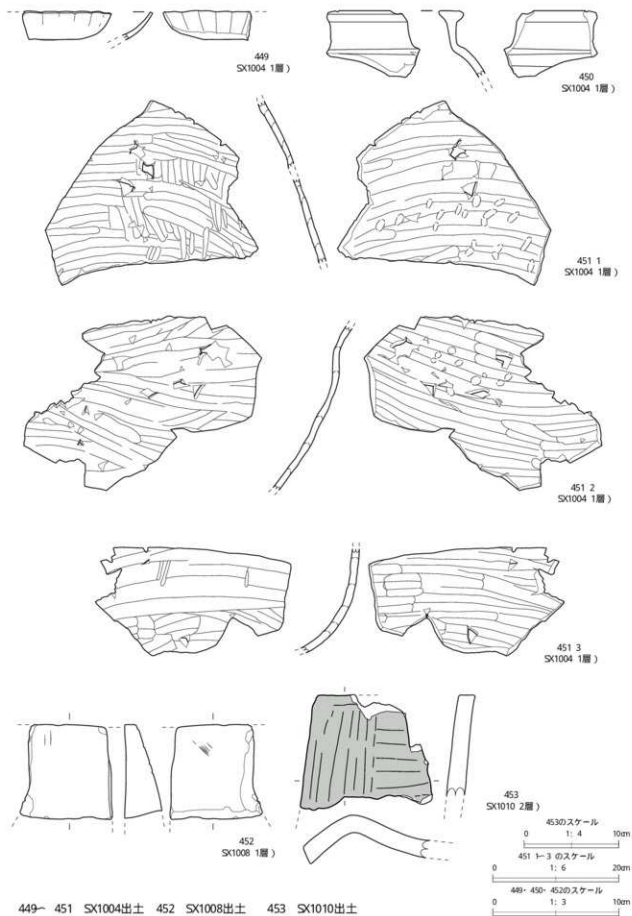
第10図 遺構出土遺物(磁器・陶器・土器・瓦・石製品・金属製品)



第108図 遺構出土遺物(磁器・陶器・瓦・石造物・金属製品)

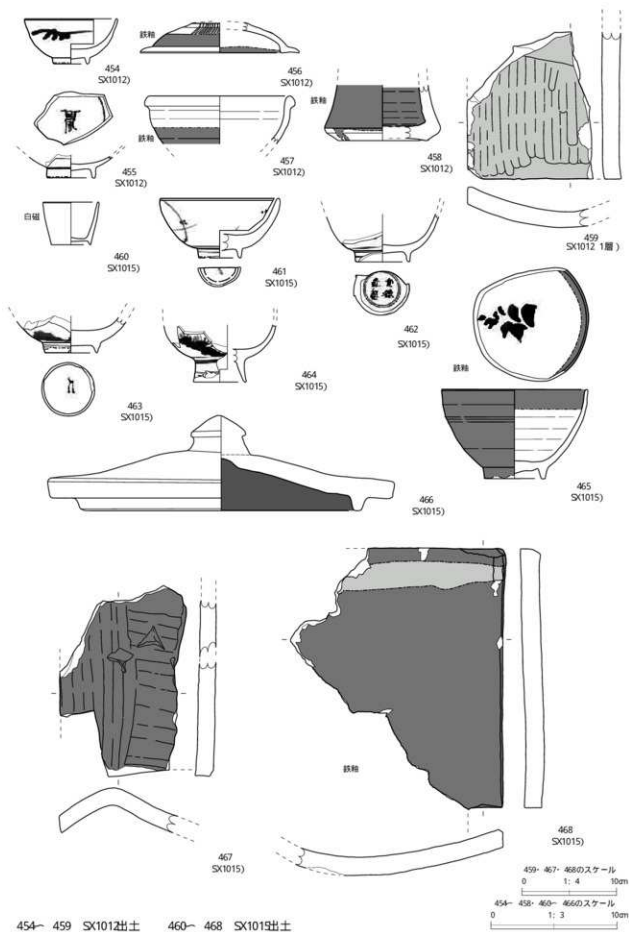


第10図 遺構出土遺物(磁器・陶器・石製品・金属製品・銭貨)

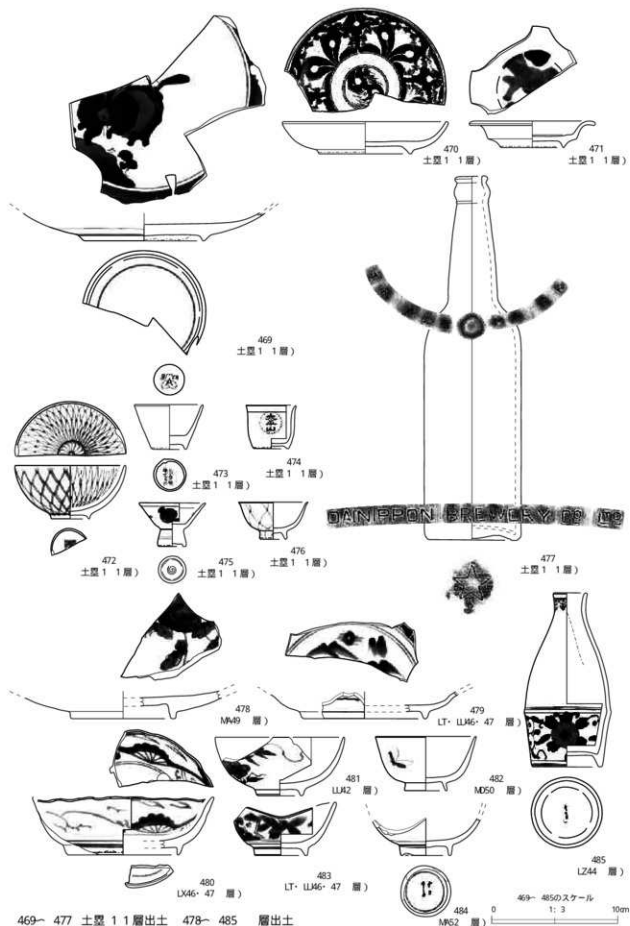


449~ 451 SX1004出土 452 SX1008出土 453 SX1010出土

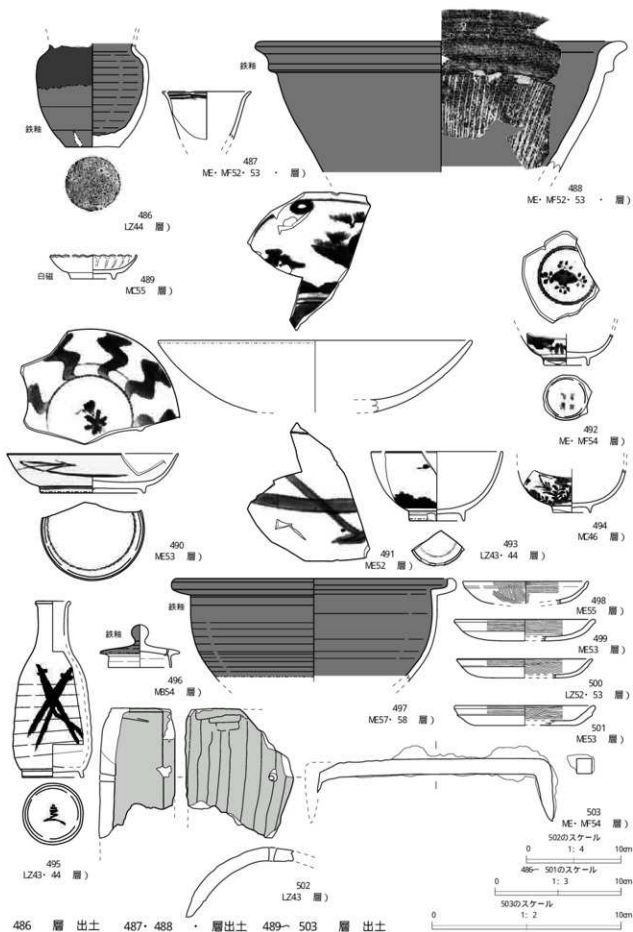
第11図 遺構出土遺物(磁器・陶器・瓦・石製品)



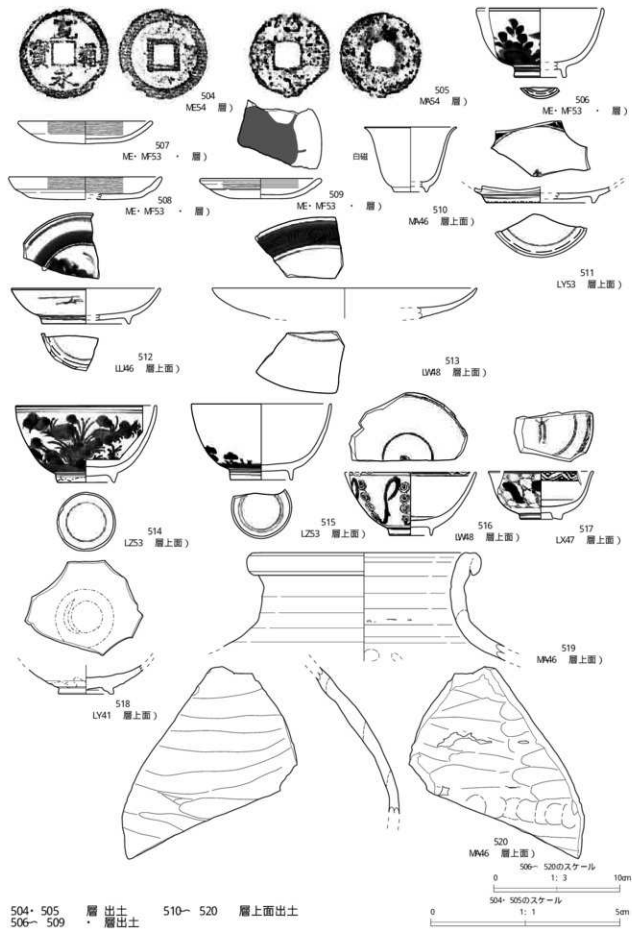
第11図 遺構出土遺物(磁器・陶器・瓦質土器・瓦)



第112図 遺構・基本土層出土遺物(磁器・陶器・ガラス製品)



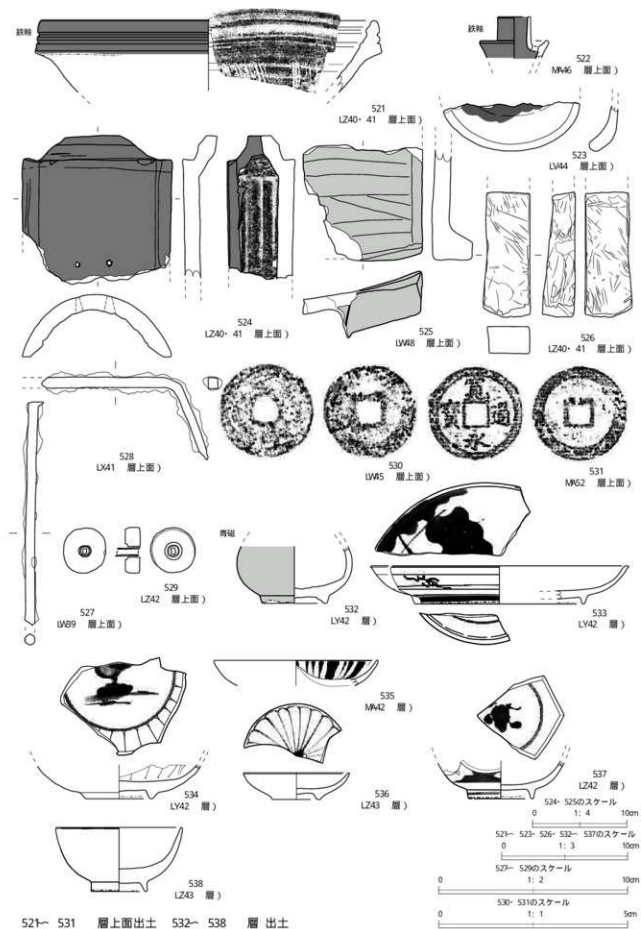
第11図 基本土層出土遺物(磁器・陶器・土器・瓦・金属製品)



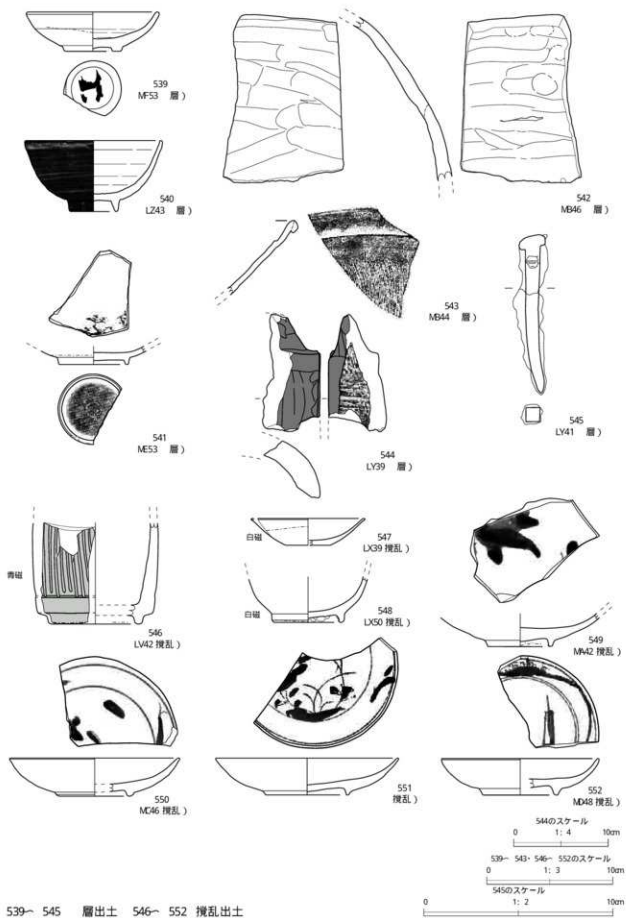
504・505 層出土
506～509 層出土

510～520 層上面出土

第114図 基本土層出土遺物(磁器・陶器・土器・銭貨)

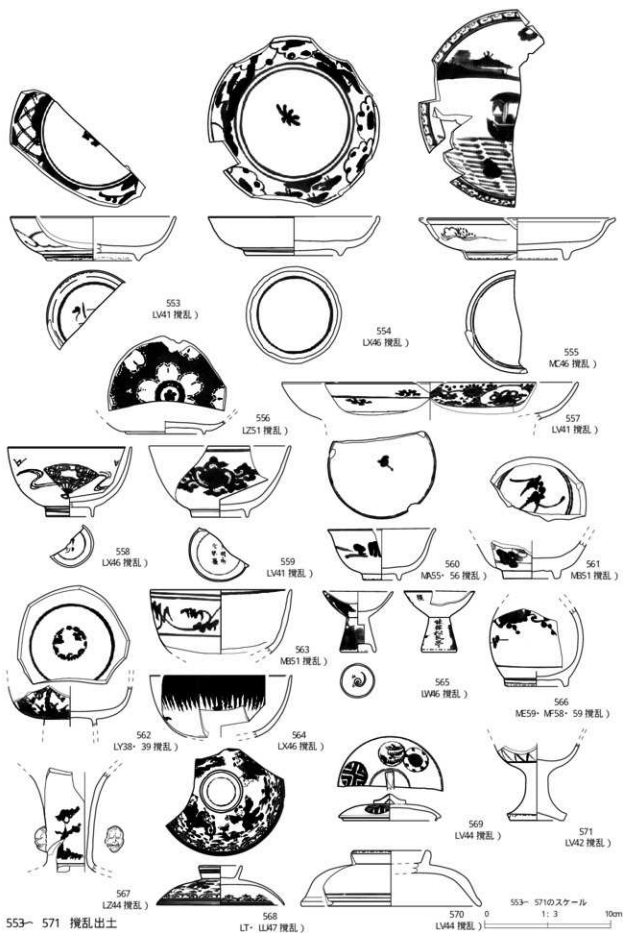


第119図 基本土層出土遺物(磁器・陶器・土器・瓦・石製品・金属製品・銭貨)



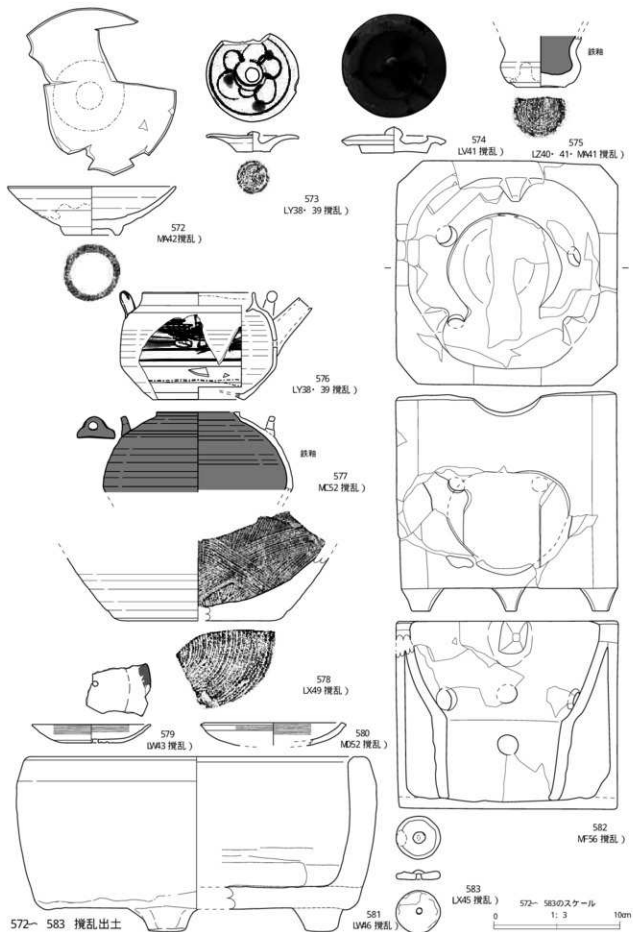
539- 545 層出土 546- 552 撿乱出土

第116図 基本土層・撿乱出土遺物(磁器・陶器・瓦・金属製品)

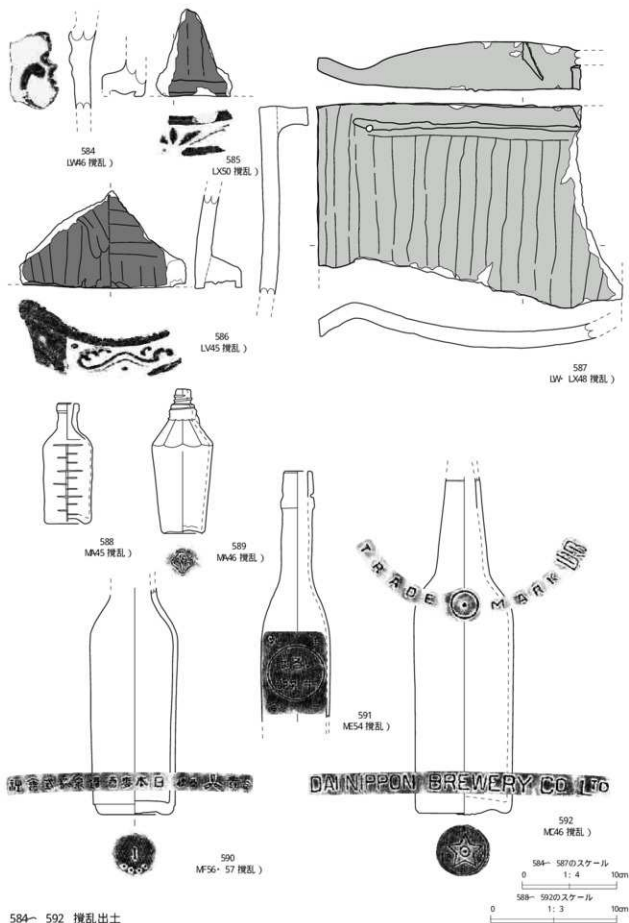


553～ 571 攪乱出土

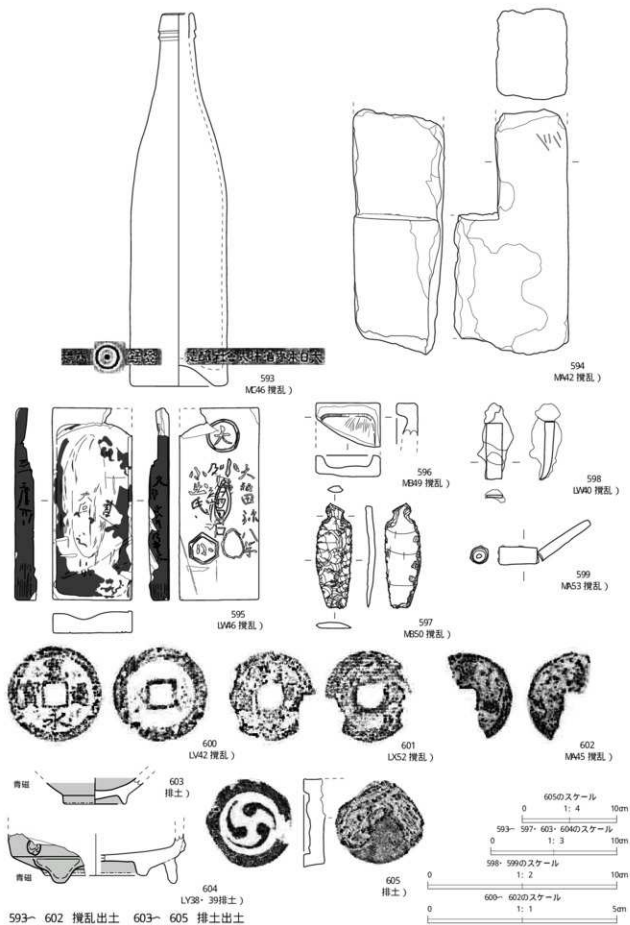
第11図 攪乱出土遺物(磁器)



第11B図 攪乱出土遺物(陶器・土器)



第11図 攪乱出土遺物(瓦・ガラス製品)



第12図 攪乱・排土出土遺物(磁器・瓦・ガラス製品・石製品・石造物・金属製品・銭貨)

第7表 遺物属性表(1)

遺物	図版 番号	調査区	グリッド	出土地点 ・層位	分類	器種	特徴	備考
1	88図	C区	MD50	SP1123 層	金属 製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。先端部欠損。別個体の釘と融着している。	
2	88図	C区	MD49	SA1003 (SP1126 層)	瓦	平瓦	灰色・黒色を呈するいぶし瓦。外面崖方向のナデ調整後、横方向のナデ調整。胎土緻密。焼成整齊。	
3	88図	B区	ME58	SA1004 (SP1059 層)	陶器	土瓶	大塚相馬系。灰釉陶器土瓶。容器本体部に灰釉。容器本体部に鉄絵を施す。内面と外面口縁部無釉。	18世紀後半～19世紀中葉。
4	88図	B区	ME58	SA1004 (SP1059 層)	瓦質 土器	火鉢	火鉢。外面は刷毛状工具による調整後、唐草・菊花文の印花を押し印す。	17世紀後半～18世紀前半。
5	88図	B区	ME57 ・58	SA1004 (SP1059 層)	銭貨	銭	寛永通寶。銅製。外縁部欠損。表「寛永通寶」。裏「無文」。	
6	88図	B区	MF57	SA1004 (SP1060 層)	木製品	礎板	礎板。クリ材。板状に加工。長さ22.7cm 幅17.7cm 厚さ2.9cm	
7	88図	A区	LZ42	SB1001	石造物		凝灰岩製。底面と側面に鑿状工具による面取りを施す。上面に段状の加工を施す。	
8	88図	A区	LY42	SB1001 (SS1001 層)	陶器	鉢	肥前系(唐津系)。鉄釉陶器鉢。内外面に鉄釉。外面胴部下半は無釉。	肥前 期。1650～1690年代。
9	88図	A区	LZ40 ・41	SB1001(SS1004)	陶器	碗	肥前系。灰釉陶器碗。内外面に黒灰釉。外面体部下半から高台内は無釉。	肥前 期。1650～1690年代。
10	88図	B区	MC54	SB1002 (SP1090 層)	陶器	碗	肥前系。碗。外面に長石釉。外面体部下半から高台内にかけて無釉。高台外面削り出し。	肥前 期。1650～1690年代。
11	88図	B区	MC53 ・54	SB1002(SP1090)	陶器	播鉢	播鉢。外面口縁部に二条の沈線。播目9x1単位。2cm幅。	18世紀か。
12	88図	B区	MC54	SB1002 (SP1090 層)	瓦質 土器	鉢	鉢。内面体部下半に指頭圧痕後に指ナデ。外面体部上半に渦状の印判が認められる。	17世紀中葉～17世紀後半。
13	88図	A区	LX- LY39	100石敷	磁器	仏飯器	肥前系。仏飯器。高台内外面は無釉。	肥前 期。1780～1860年代。
14	88図	A区	MM47 ・48	SD1001 層	陶器	襷	襷。内面口縁部から首部に横方向のナデ調整。	18世紀後半～17世紀前半。
15	88図	C区	LL46	SD1002 層	磁器	蕎麦猪口	肥前系。白磁蕎麦猪口。断面に漆継ぎの痕跡が認められる。	肥前 期。1650～1690年代。
16	88図	A区	LL45 ・46	SD1002 層	磁器	坏	肥前系。白磁坏。豊付無釉。高台内兜巾。	肥前 期。1690～1780年代。
17	88図	A区	LL45 ・46	SD1002 層	磁器	皿	肥前系。染付皿。内面にコンニャク印判の七宝つなぎ文。見込みにコンニャク印判の五弁花文。外面に唐草文を染め付ける。高台内に砂付着。豊付無釉。	肥前 期。1690～1780年代。
18	88図	A区	LL46	SD1002 層	磁器	碗	肥前系(波佐見系)。染付碗。外面に家屋・帆掛け舟・折枝花・山水文。高台内に「大明年製」の銘を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1690～1780年代。
19	88図	A区	LL45 ・46	SD1002 層	磁器	碗	肥前系(波佐見系)。染付碗。外面に松文。高台内に簡略化した「大明年製」の銘を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1690～1780年代。
20	88図	C区	LL46	SD1002 層	磁器	碗	肥前系。染付碗。口縁部に鑄輪による口紅。外面にコンニャク印判の雨降り・花散らし・唐草文。高台内に簡略化した「大明年製」の銘を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1690～1780年代。
21	88図	A区	LL46	SD1002 下層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面にコンニャク印判の楓葉文。高台内に簡略化した「大明年製」の銘を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期か。1690～1780年代か。SD1003出土の個体と接合。
22	88図	A区	LL45 ・46	SD1002 層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に梅枝文を染め付ける。豊付に砂付着。豊付無釉。	肥前 期。1610～1650年代。
23	88図	A区	LL46	SD1002 層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に松文を染め付ける。	肥前 期か。1690～1780年代か。

第8表 遺物属性表(2)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・ 層位	分類	器種	特徴	備考
24	89図	C区	LU46	SD1002 3層	磁器	碗	肥前系。碗。豊付無釉。	肥前 期。1690～1780
25	89図	C区	LU46	SD1002 3層	磁器	輪花鉢	肥前系。染付輪花鉢。内面に草花文、外面に花唐草文を染め付ける。	肥前 期。1680～ 1700年代。
26	89図	C区	LU46	SD1002 3層	磁器	蕎麦猪口	肥前系。染付蕎麦猪口。外面に草・五葉若葉重文を染め付ける。	肥前 期。1650～1690 年代。
27	89図	C区	LU46	SD1002 3層	磁器	蕎麦猪口	肥前系。染付蕎麦猪口。外面に草・五葉若葉重文を染め付ける。	肥前 期。1650～1690 年代。
28	89図	C区	LU46	SD1002 3層	磁器	蕎麦猪口	肥前系。染付蕎麦猪口。外面に草・五葉若葉重文を染め付ける。	肥前 期。1650～1690 年代。
29	89図	A区	LU45 ・ 46	SD1002 2層	磁器	環	肥前系。染付環。内面口縁部に口紅を染め付ける。	肥前 期。1650～1690 年代。
30	89図	A区	LU46	SD1002 下層	磁器	花生	肥前系。花生。内面と高台は無釉。高台内児巾。	肥前 期か。1690～ 1780年代か。
31	89図	A区	LU45 ・ 46	SD1002 2層	磁器	合子	肥前系。合子。内面口縁部無釉。	肥前 期か。1650～ 1690年代か。
32	89図	A区	LU46	SD1002 下層	陶器	折縁皿	肥前系。鉄釉陶器折縁皿。見込みに蛇の目釉割ぎ。内外面に鉄釉。外面体部下半から高台内は無釉。高台外面削り出し。 肥前系(唐津系)。鉄釉陶器片口鉢。内外面に鉄釉。外面体部下半から高台にかけて削り。外面体部下半から高台は無釉。注ぎ口貼付。	肥前 期。1650～1690 年代。
33	89図	A区	LU46	SD1002 2層	陶器	片口鉢	肥前系。鉄釉陶器片口鉢。内外面に鉄釉。外面体部下半から高台にかけて削り。外面体部下半から高台は無釉。注ぎ口貼付。	肥前 期。1650～1690 年代。
34	89図	A区	LU45 ・ 46	SD1002 3層	陶器	火鉢	肥前系。銅緑釉刷毛目文火鉢。内外面に銅緑釉。内外面体部に刷毛目文、外面体部に刷毛目後に波状文を描く。	肥前 期。1650～1690 年代。
35	89図	C区	LU46	SD1002 3層	陶器	火鉢	肥前系。銅緑釉火鉢。内外面体部上半に銅緑釉。内面に釉重ねが認められる。外面下半に削り。豊付無釉。	肥前 期。1650～1690 年代。
36	90図	A区	LU46	SD1002 3層	土器	土風炉	土風炉。外面に削り。内面横方向のナデ調整。	近世。
37	90図	A区	LU46	SD1002 下層	土器	土風炉	土風炉。外面に横方向のナデ調整後に削り。内面煤付着。	近世
38	90図	A区	LU46	SD1002・1003	磁器	皿	肥前系。染付皿。内面に流水文、見込みに梅花・流水文を染め付ける。	肥前 期。1650～1690 年代。
39	90図	C区	LT- LU 46- 47	SD1003 3層	磁器	皿	肥前系。白磁皿。外面に線彫りによる牡丹唐草の陰刻文を施す。豊付無釉。	肥前 期。1610～1650 年代。
40	90図	A区	LU45 ・ 46	SD1003	磁器	皿	肥前系。染付皿。内面に草花文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1650～1690 年代。
41	90図	A区	LU45 ・ 46	SD1003	磁器	碗	肥前系。白磁碗。豊付無釉。断面に漆継ぎの痕跡が認められる。	肥前 期。1690～1780 年代。
42	90図	A区	LU45 ・ 46	SD1003	磁器	碗	肥前系。碗。豊付無釉。	肥前 期。1690～1780 年代。
43	90図	A区	LU45 ・ 46	SD1003	磁器	輪花皿	肥前系。染付輪花皿。見込みに草花文、外面体部に唐草文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1650～1690 年代。
44	90図	C区	LT46	SD1003 1層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に岩・梅枝文、高台内に簡略化した「大明年製」の銘を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1650～1690 年代。
45	90図	C区	LT- LU 46- 47	SD1003 3層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に遠山・梅・太湖石文、高台内に「明」と思われる銘を染め付ける。豊付無釉。高台内に有機物付着。断面に漆継ぎの痕跡が認められる。	肥前 期。1690～1780 年代。
46	90図	C区	LT47 ・ 48	SD1003 3層	磁器	碗	肥前系。染付碗。型紙刷。口縁部に錆釉による口紅、外面に雨降り文を染め付ける。	肥前 期。1690～1780 年代。
47	90図	A区	LU45 ・ 46	SD1003	磁器	環	肥前系。染付環。外面に鉄線文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1690～1780 年代。

第9表 遺物属性表(3)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・層位	分類	器種	特徴	備考
48	9Q図	C区	LT47	SD1003 3層	磁器	香炉	肥前系。梅花文香炉。外面に梅花を貼付、三雲文を染め付ける。断面に漆掻きの痕跡が認められる。	肥前 年代。1650～1690 SD100出土の個体と接 合。
49	9Q図	C区	LT47	SD1003 3層	陶器	折縁皿	肥前系。灰釉陶器折縁皿。内外面口縁部に灰釉。外面下半から高台に削り。見込みに砂目痕。外面下半から高台は無釉。	肥前 年代。1650～1690 年代。
50	9Q図	C区	LT47	SD1003 3層	陶器	碗	肥前系。碗。内外面に透明釉。	肥前 年代。1690～1780 年代。
51	9Q図	C区	LT- 46 47	SD1003 3層	陶器	碗 (加工円盤)	肥前系。灰釉陶器碗(加工円盤)。内外面に灰釉。碗の底部を円盤状に加工を施している。豊付無釉。	
52	9Q図	C区	LT47	SD1003 3層	陶器	香炉	肥前系。鉄釉陶器香炉。外面体部に鉄釉。内面と外面体部下半から高台内は無釉。焼成後に高台内に穿孔。	肥前 年代。1650～1690 年代。
53	9Q図	A区	LL45 ・ 46	SD1003	陶器	香炉	肥前系。灰釉陶器香炉。外面に灰釉。内面と豊付から高台内は無釉。随略化した獣脚を貼付。	肥前 年代。1690～1780 年代。
54	9Q図	A区	LL45 ・ 46	SD1003	土器	かわらけ	型打ち成形の非口ウロ製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。外面下半に削り。内外面に煤付着。体部に穿孔。	近世。
55	9Q図	C区	LT- 46 47	SD1003 3層	土器	かわらけ	型打ち成形の非口ウロ製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。内外面に煤付着。焼成後に底部に穿孔。	17世紀～18世紀代。
56	9Q図	C区	LT47 ・ 48	SD1003 3層	土器	煙炉	煙炉。内外面口縁部に横方向のナデ調整。体部に風口と思われる円孔を空ける。	近世。
57	9Q図	C区	LT- 46 47	SD1003 3層	石製品	砥石	砥石。凝灰岩製。四面に擦痕が認められる。	
58	9Q図	C区	LT47	SD1003 3層	金属 製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。基部上端を折り曲げる。充存。	
59	9Q図	B区	MF52	SD1010 3層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面にコンニャク印判の菊花文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 年代。1690～1780 年代。
60	9Q図	B区	MB5 ・ 56	SD1012 3層	陶器	皿	京・信楽系。皿。内外面に透明釉。見込みに山水文を鉄絵で描く。豊付無釉。高台外面削り出し。	17世紀中葉～17世紀後 葉。
61	9Q図	B区	MCS4	SD1012 3層	陶器	鍋	肥前系。鉄釉陶器鍋。内外面に鉄釉。外面下半から底部にかけて削り。外面下半から底部にかけて無釉。底部側面に足を貼付。	肥前 年代。1780～1860 年代。
62	9Q図	B区	MA54	SD1014 1・2層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に草花文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 年代。1680～ 1700年代。
63	9Q図	B区	MB54	SD1014 1・2層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に丸にねじ・桐葉文を染め付ける。	肥前 年代。1690～1780 年代。
64	9Q図	B区	MA65	SD1014 3層	瓦質 土器	風炉	風炉。外面下半に回転ヘラ削り。三足を貼付。	近世。
65	9Q図	B区	MA65	SD1014 1・2層	土器	かわらけ	型打ち成形の非口ウロ製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。内外面口縁部に煤付着。	17世紀中葉～18世紀。
66	9Q図	B区	MA65	SD1014 3層	瓦	丸瓦	灰色・黒色を呈するいぶし瓦。外面縦方向のナデ調整。玉縁に横方向のナデ調整。内面にコビキB。側縁に削り。胎土緻密。焼成堅固。	
67	9Q図	B区	MB54	SD1014 1・2層	金属 製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。先端部欠損。	
68	9Q図	B区	MA63 ・ 54	SD1016 3層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に遠山文を染め付ける。	肥前 年代。1690～1780 年代。
69	9Q図	B区	MA63 ・ 54	SD1016 3層	陶器	擂鉢	明石・堺系(堺系)。鉄釉陶器擂鉢。外面体部下半から高台内に鉄釉。体部下半に高台を貼付。擂目単位不詳。	18世紀前半～19世紀。
70	9Q図	C区	UW47	SD1023 2層	磁器	瓶	肥前系。染付瓶。外面腰部に二重雲線を染め付ける。高台内に砂付着。内面と豊付は無釉。	肥前 年代。1650～1690 年代。

第10表 遺物属性表(4)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・ 層位	分類	器種	特徴	備考
71	9図	C区	W47	SD1024 層	陶器	乗燗	肥前系。乗燗。底部無釉。底部に回転系切り痕。底部内面削り。	肥前 年代。 1650～1690
72	9図	A区	W42 ・ 43	SD2001 層	磁器	瓶	肥前系。染付瓶。外面胴部に草文を染め付ける。裾部に削り。内面と底部無釉。底部に回転系切り痕。	肥前 年代。 1650～1690
73	9図	A区	W42 ・ 43	SD2001 層	石製品	磁石	磁石。凝灰岩製。下半部欠損。三面に擦痕が認められる。裏面に「〇」の線刻が認められる。	
74	9図	A区	LX39	SE1001 層	磁器	鉢	肥前系。青磁湯呑。	
75	9図	A区	LX39	SE1001 層	磁器	碗	肥前系。染付碗。見込みに笠の目輪割ぎ。高台内に砂付着。畳付無釉。	肥前 年代。 1650～1690
76	9図	A区	LX39	SE1001 上層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に丸に格子文を染め付ける。口縁端部と畳付は無釉。	肥前 年代。 1650～1690
77	9図	A区	LX39	SE1001 層	磁器	碗	染付碗。外面に草文を染め付ける。高台内に砂付着。畳付無釉。	18世紀後半～19世紀中葉。
78	9図	A区	LX39	SE1001 層	陶器	鉢	肥前系。鉄胎陶器刷毛目文鉢。内外面に鉄釉。内面に白化粘土の刷毛目文を描く。	肥前 年代。 1690～1780
79	9図	A区	LX39	SE1001 上層	陶器	鉢	肥前系。灰釉陶器鉢。内外面に薰灰釉。外面下半に削り。体部下半無釉。	肥前 年代。 1650～1690
80	9図	A区	LX39	SE1001 上層	瓦	丸瓦	灰色・緑色を呈するいび瓦。外面縦方向のナデ調整。内面に棒状圧痕。側縁に削り。胎土緻密。焼成堅緻。	
81	9図	A区	LX39	SE1001 上層	瓦	平瓦	灰色・緑色を呈するいび瓦。胎土緻密。焼成堅緻。	
82	9図	A区	LX39	SE1001 層	瓦	軒椽瓦	灰色・緑色を呈するいび瓦。外面横方向のナデ調整後、ナデ調整。胎土緻密。焼成堅緻。瓦当唐草文、子葉付。瓦当部5.1cm 内区高3.7cm	
83	9図	A区	LX39	SE1001 層	瓦	軒椽瓦	灰色・緑色を呈するいび瓦。外面横方向のナデ調整。胎土緻密。焼成堅緻。瓦当唐草文、子葉付。瓦当部高5.0cm 内区高3.1cm	
84	9図	A区	LX39	SE1001 層	瓦	軒椽瓦	灰色・緑色を呈するいび瓦。外面縦方向のナデ調整後、端部横方向のナデ調整。胎土緻密。焼成堅緻。瓦当唐草文、子葉付。瓦当部高5.0cm 内区高2.9cm	
85	9図	A区	LX39	SE1001 層	瓦	嚢瓦	灰色・緑色を呈するいび瓦。外面横方向のナデ調整。釘穴が一面所認められる。胎土緻密。焼成堅緻。	
86	9図	A区	LX39	SE1001 上層	瓦	面戸瓦	灰色・緑色を呈するいび瓦。外面端部に削りによる面取り。胎土緻密。焼成堅緻。	
87	9図	A区	M46 ・ 47	SK1008 層	磁器	碗	肥前系。碗。	肥前 年代。 1690～1780
88	9図	A区	M46	SK1015 層	陶器	皿	京・信楽系。皿。内外面に透明釉。断面に漆塗りの痕跡が認められる。	17世紀中葉～17世紀後半。
89	9図	A区	M46	SK1015 層	土製品		方形状を呈する。中央部に方形状の段差が付き、円孔を空ける。内面中央に指環圧痕による調整。側縁部に削り。	近世。
90	9図	A区	M44	SK1028 層	磁器	香炉	肥前系。青磁香炉。内面と底部は無釉。	肥前 年代。 1780～1860
91	9図	A区	L244	SK1055 層	土器	かわらけ	型打ち成形の非口クロ製手づね。内外面に煤付着。	17世紀～18世紀代。
92	9図	A区	L243	SK1061 層	陶器	徳利	瀬戸美濃系。鉄胎陶器徳利。外面に鉄釉。底部に削り。内面と底部は無釉。	17世紀後半～18世紀前半。
93	9図	A区	L242	SK1068 層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に雲文を染め付ける。畳付無釉。	肥前 年代。 1680～
94	9図	A区	L242	SK1072 層	陶器		底部外面に判読不明の墨書が認められる。	近世。

第1表 遺物属性表(5)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・層位	分類	器種	特徴	備考
95	92図	A区	LZ42	SK1072 層	土器	土風炉	土風炉。	近世。
96	92図	A区	LZ42	SK1072 層	瓦	棧瓦	高梨台遺跡産か、暗赤褐色を呈する赤瓦。外面縦方向のナデ調整、側面横方向のナデ調整。胎土緻密。焼成堅緻。	
97	92図	A区	LY42	SK1073 層	陶器	擂鉢	鉄軸陶器擂鉢。外面に鉄軸。体部下半に高台を貼付。内面使用により摩耗。径目9B単位。2mm幅。	17世紀後半～18世紀前半。
98	93図	A区	LY42	SK1074 層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に格子文を染め付ける。	肥前 期。1780～1860年代。
99	93図	A区	LY42	SK1074 層	瓦	棧瓦	高梨台遺跡産か、暗赤褐色を呈する赤瓦。外面縦方向のナデ調整後、横方向のナデ調整。釘穴が二箇所認められる。胎土緻密。焼成堅緻。	
100	93図	A区	MW1・42	SK1077 4層	磁器	皿	肥前系。白磁皿。外面下半から高台は無釉。	肥前 期。1610～1650年代。
101	93図	A区	MW42	SK1077 5層上層	磁器	皿	肥前系。皿。豊付無釉。	肥前 期。1680～1700年代。
102	93図	A区	MW42	SK1077 5層上層	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに草花文を染め付ける。	肥前 期。1680～1700年代。
103	93図	A区	MW42	SK1077 5層上層	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに菫葉文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1630～1650年代。
104	93図	A区	MW41・42	SK1077 6層	磁器	皿	肥前系。染付皿。内面に梅枝文、外面に帆掛け舟・流水文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1680～1700年代。
105	93図	A区	MW41・42	SK1077 5層	磁器	皿	肥前系。染付皿。内面に梅文、外面に帆掛け舟・流水文を染め付ける。豊付無釉。断面に漆喰ぎの痕跡が認められる。	肥前 期。1680～1700年代。
106	93図	A区	MW42	SK1077 5層下層	磁器	皿	肥前系。染付皿。内面に曇芝文、見込みに手描き五弁花文を染め付ける。高台に砂付着。豊付無釉。高台内にハリ支えの痕跡が認められる。	肥前 期。1690～1780年代。
107	93図	A区	MW41・42	SK1077 4層	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに圏線区画内に格子文を染め付ける。高台に砂付着。豊付無釉。	肥前 期。1690～1780年代。
108	93図	A区	MW42	SK1077 5層上層	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに蛇の目輪刺ぎ。蛇の目部分に鉄灰を塗る。内面に草文を染め付ける。見込みと高台に砂付着。豊付無釉。	肥前 期。1690～1780年代。
109	93図	A区	MW42	SK1077 5層上層	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに蛇の目輪刺ぎ。蛇の目部分に鉄灰を塗る。見込みに簡略化した五弁花文を染め付ける。見込みと高台に砂付着。	肥前 期。1690～1780年代。
110	93図	A区	MW42	SK1077 5層上層	磁器	皿	肥前系。染付皿。内面に葉文を染め付ける。	肥前 期。1650～1690年代。
111	93図	A区	MW42	SK1077 5層下層	磁器	輪花皿	肥前系。染付輪花皿。型打ち成形。内面の染付区画内に水筒・滴・草花文、見込みに重配文、外面に折枝文を染め付ける。高台に砂付着。豊付無釉。	肥前 期。1690～1780年代。
112	93図	A区	MW42	SK1077 5層上層	磁器	瓜皿	肥前系。瓜皿。型押し成形。内面に葉脈状の襷列を施す。付け高台。	肥前 期。1690～1780年代。
113	93図	A区	MW41・42	SK1077 4層	磁器	碗	肥前系。染付碗。内外面に草花文、高台内に「天明」の銘を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1630～1650年代。
114	94図	A区	MW42	SK1077 5層上層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に葉文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1680～1700年代。
115	94図	A区	MW41・42	SK1077 5層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に曇草文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1650～1690年代。
116	94図	A区	MW41・42	SK1077 5層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に曇草文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1650～1690年代。
117	94図	A区	MW42	SK1077 5層下層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に梅花散らし文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1690～1780年代。

第12表 遺物属性表(6)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・ 層位	分類	器種	特徴	備考
118	94図	A区	M41 ・ 42	SK1077 5層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面にコンチャク印判の折枝桜文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1690～1780 年代。
119	94図	A区	M42	SK1077 5層上層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に柳文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1630～ 1650年代。
120	94図	A区	M42	SK1077 5層上層	磁器	碗	肥前系。染付碗。円盤状加工か。豊付無釉。	肥前 期。1680～ 1700年代。
121	94図	A区	M42	SK1077 5層下層	磁器	坏	肥前系。染付坏。外面にコンチャク印判の草文を染め付ける。豊付無釉。高台内兜巾。	肥前 期。1690～1780 年代。
122	94図	A区	M41 ・ 42	SK1077 6層	磁器	坏	肥前系。坏。高台内に砂付着。豊付無釉。高台外面削り出し。高台内兜巾。口縁部輪花文を呈する。	肥前 期。1690～1780 年代。
123	94図	A区	M42	SK1077 5層下層	磁器	花生	肥前系。染付花生。内面に絞り痕。外面に一重網目文。二重圏線区画内に葉文を染め付ける。内面無釉。	肥前 期。1650～1690 年代。
124	94図	A区	M42	SK1077 5層下層	磁器	瓶	肥前系。色絵瓶。外面肩部に三重圏線・丸・一重網目文を赤・緑・黒の顔料で釉薬の上から絵付け。内面無釉。	肥前 期。1650～1690 年代。
125	94図	A区	M42	SK1077 5層上層	磁器	瓶	肥前系。色絵瓶。外面肩部に一重圏線・一重網目文。高台に一重圏線を赤の顔料で釉薬の上から絵付けする。高台に砂付着。内面無釉。	肥前 期。1650～1690 年代。
126	94図	A区	M41 ・ 42	SK1077 5層	磁器	油壺	肥前系。油壺。底部外面糸切後にナデ調整。内面と底部無釉。内面に墨付着。	肥前 期。1650～1690 年代。
127	94図	A区	M42	SK1077 5層上層	磁器	水滴	肥前系。色絵水滴。型押し成形。外面口縁部に赤・緑の顔料で釉薬の上から絵付け。内面に型押し成形時の布目痕が認められる。	肥前 期。1690～1780 年代。
128	94図	A区	M42	SK1077 5層上層	陶器	皿	肥前系。銅釉皿。見込みに蛇の目釉刺ぎ。内面に銅釉。外面体部下半から高台内は無釉である。高台外面削り出し。	肥前 期。1650～1690 年代。
129	94図	A区	M42	SK1077 5層下層	陶器	蓋	肥前系。襷輪蓋。外面に襷輪。内面無釉。内面糸切りにナデ調整。重ね焼き時の結着痕が認められる。返り径4.5cm	肥前 期。1690～1780 年代。
130	94図	A区	M41 ・ 42	SK1077 4層	陶器	襖	襖。口縁部の形状「逆し字形」を呈する。	17世紀末～17世紀初 か。
131	94図	A区	M42	SK1077 5層上層	陶器	壺	壺。口縁部の形状「逆し字形」を呈する。内外面に横方向のナデ調整。内外面無釉。	17世紀末～17世紀初 か。
132	94図	A区	M42	SK1077 5層上層	陶器	襖	肥前系。鉄釉陶器襖。内外面に鉄釉。口縁部の形状「丁字形」を呈する。内面肩部に格子目叩き後にナデ調整。外面肩部に力千目。	肥前 期。1650～1690 年代。
133	94図	A区	M42	SK1077 5層上層	陶器	襖	肥前系。鉄釉陶器襖。内外面に鉄釉。口縁部の形状「丁字形」を呈する。内面肩部に格子目叩き後にナデ調整。外面肩部に1条の力千目。	肥前 期。1650～1690 年代。
134	95図	A区	M41 ・ 42	SK1077 5層	陶器	火鉢	肥前系。鉄釉陶器刷毛目火鉢。内外面に鉄釉。外面体部に白化粧土の波状文を描く。	肥前 期。1690～1780 年代。
135	95図	A区	M42	SK1077 5層下層	陶器	擂鉢	擂鉢。外面下半に削り。内外面無釉。擂目6本単位。2cm幅。	17世紀中葉か。
136	95図	A区	M42	SK1077 5層下層	陶器	擂鉢	明石・堺系。擂鉢。外面口縁部に平行沈線を二条施す。内外面無釉。擂目8本単位。2cm幅。	17世紀中葉～18世紀中 葉。
137	95図	A区	M41 ・ 42	SK1077 6層	陶器	擂鉢	肥前系。鉄釉陶器擂鉢。口縁部内外面に鉄釉。擂目5本単位。2cm幅。	肥前 期。1650～1690 年代。
138	95図	A区	M42	SK1077 5層上層	陶器	擂鉢	鉄釉陶器擂鉢。外面口縁部に鉄釉。擂目12本単位。3cm幅。	近世。
139	95図	A区	M42	SK1077 5層上層	瓦質土器	火鉢	火鉢。内面口縁部に横方向のナデ調整。外面口縁部に粗い磨き。	17世紀後葉～18世紀前 葉か。

第1表 遺物属性表(7)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・層位	分類	器種	特徴	備考
140	95図	A区	MM42	SK1077 5層下層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロク口製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。内外面口縁部に煤付着。	17世紀～18世紀代。
141	95図	A区	MM42	SK1077 5層上層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロク口製手づくね。内外面体部に横方向のナデ調整。内外面口縁部に煤付着。見込みを人為的に削り抜く。	17世紀～18世紀代。
142	95図	A区	MM41・42	SK1077 5層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロク口製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。内外面口縁部に煤付着。	17世紀～18世紀代。
143	95図	A区	MM41・42	SK1077 5層	土器	土風炉	土風炉。内外面にナデ調整。三足を貼付。	近世。
144	95図	A区	MM41・42	SK1077 6層	土器	土風炉	土風炉。底部外面に板目。見込みに煤付着。三足を貼付。	近世。
145	95図	A区	MM41・42	SK1077 6層	土器	燈炉	燈炉。内外面に横方向のナデ調整。内面に指頭圧痕。外面に吹きこぼれによる焦げ目が認められる。	19世紀か。
146	95図	A区	MM42	SK1077 5層下層	金属製品	釘	鉄釘。断面形は方形を呈する。完存。	
147	95図	A区	MM42	SK1077 5層下層	金属製品	釘	鉄釘。断面形は方形を呈する。先端部欠損。	
148	95図	A区	MM42	SK1077 5層下層	金属製品	釘	鉄釘。断面形は方形を呈する。先端部欠損。	
149	95図	A区	MM42	SK1077 5層下層	金属製品	釘	鉄釘。断面形は方形を呈する。完存。	
150	96図	A区	LV40	SK1091 霽	瓦	丸瓦	灰色を呈するいぶし瓦。内面に棒状圧痕、側縁に削り。胎土粗い。焼成堅直。	
151	96図	A区	LV89・40	SK1100 霽	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面体部に家屋文を染め付ける。量付無残。	肥前 期。1650～1690年代。
152	96図	A区	LV89・40	SK1100	土製品	土鏝	土鏝。半分欠損。	近世。
153	96図	A区	LV47	SK1124 霽	陶器	皿	瀬戸美濃系(美濃系)。灰釉陶器皿。内面に黒灰釉。見込みに鉄絵を描く。見込みに胎土目痕。外面無残。	17世紀中葉～17世紀後半。
154	96図	A区	LV46・47	SK1127 霽	陶器	折縁皿	肥前系(唐津系)。折縁皿。量付に砂付着。外面体部下半から高台は無残。高台内削り出し。	肥前 期。1680～1700年代。
155	96図	A区	LV46	SK1140 霽	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに椿文、外面に唐草文を染め付ける。量付無残。	肥前 期。1650～1690年代。
156	96図	A区	LV46	SK1140 霽	磁器	鉢蓋	肥前系。染付鉢蓋。外面に墨弾きによる白抜き青海波・梅花文を染め付ける。合せ目無残。返り径20cm。	肥前 期。1690～1780年代。
157	96図	A区	LV45・46	SK1141 霽	磁器	皿	肥前系。染付皿。内面に墨弾きによる白抜き波瀾文、外面に唐草文を染め付ける。量付無残。	肥前 期。1690～1780年代。
158	96図	A区	LV45・46	SK1162 霽	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに手描き五弁花文、内面に墨弾きによる白抜き波瀾文、外面に唐草文を染め付ける。量付無残。高台内に八り支えの痕跡が認められる。	肥前 期。1690～1780年代。
159	96図	A区	LV44	SK1190 2層	磁器	輪花皿	肥前系。染付輪花皿。見込みに鳥文を染め付ける。高台内に砂付着。量付無残。	肥前 期。1650～1690年代。
160	96図	A区	LV44	SK1190 2層	磁器	皿	肥前系。皿。	肥前 期。1690～1780年代。
161	96図	A区	LV44	SK1190 霽	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に緞面文、高台内に「明」の銘を染め付ける。高台内に砂付着。量付無残。	肥前 期。1650～1690年代。
162	96図	A区	LV44	SK1190 霽	磁器	鉢	肥前系(波佐見系)。染付鉢。内面口縁部の纏線区画内に唐草文、体部に氷裂文、外面に唐草文を染め付ける。	肥前 期。1650～1690年代。
163	96図	A区	LV44	SK1190 2層	陶器	壺	肥前系。鉄釉陶器壺。内外面に鉄釉。	肥前 期。1690～1780年代。

第14表 遺物属性表(8)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・ 層位	分類	器種	特徴	備考
164	96図	A区	LV44	SK1190 溜	土器	かわらけ	型打ち成形の非口クロ製手づくね。内外面に煤付着。	近世。
165	96図	A区	LV43	SK1193 溜	陶器	鉢	京・信楽系。鉢。内外面体部に透明釉。口縁部無釉。	17世紀中葉～17世紀後半。
166	96図	A区	LV41	SK1217 溜	金属 製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。先端部欠損。	
167	96図	A区	MB46 ・ 47	SK1235 上層	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに菫文を染め付ける。高台内に砂付着。豊付無釉。	肥前 年代。 1610～1650
168	96図	A区	MM47- MB MC 46- 47	SK1235 溜	磁器	皿	肥前系(唐津系)。染付皿。見込みに蝶・蘭菊文を染め付ける。高台内に砂付着。豊付無釉。高台内宛巾。	肥前 年代。 1610～1650
169	96図	A区	MM47- MB MC 46- 47	SK1235 溜	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に蕪草文を染め付ける。	肥前 年代。 1650～1690
170	96図	A区	MB- MC46	SK1235 上層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に蕪草文を染め付ける。	肥前 年代。 1630～ 1650年代。
171	96図	A区	MM47- MB MC 46- 47	SK1235 下層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に帆掛け舟文を染め付ける。	肥前 年代。 1650～1690
172	96図	A区	MM47- MB MC 46- 47	SK1235 溜	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に草文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 年代。 1650～1690
173	96図	A区	MM47- MB MC 46- 47	SK1235 下層	磁器	環	肥前系。染付環。外面に秋草文を染め付ける。	肥前 年代。 1680～ 1700年代。
174	96図	A区	MM47 MB46 ・ 47	SK1235 上層	磁器	花生	肥前系。染付花生。外面に松文を染め付ける。内面は部分的に釉垂れが認められる。	肥前 年代。 1610～1650
175	96図	A区	MM47 MB46 ・ 47	SK1235 上層	陶器	折縁皿	肥前系。灰釉陶器折縁皿。内外面に藁灰釉。見込みに胎土目痕。高台に砂付着。外面下半から高台内は無釉。高台外面削り出し。	肥前 年代。 1650～1690
176	96図	A区	MB46 ・ 47	SK1235 上層	陶器	折縁皿	肥前系。灰釉陶器折縁皿。内面と外面口縁部に藁灰釉。外面体部無釉。	肥前 年代。 1610～1650
177	96図	A区	MB46 ・ 47	SK1235 上層	陶器	折縁皿	肥前系。灰釉陶器折縁皿。内外面に藁灰釉。外面下半に削り。外面下半に煤付着。	肥前 年代。 1610～1650
178	96図	A区	MB46 ・ 47	SK1235 上層	陶器	段皿	肥前系。鉄釉陶器段皿。内面と外面口縁部に鉄釉。見込みに砂目痕。外面下半から高台内は無釉。	肥前 年代。 1610～1650
179	96図	A区	MB- MC46	SK1235 上層	陶器	皿	肥前系。灰釉陶器皿。内面から外面上半に灰釉。見込みに砂目痕。外面下半から高台内は無釉。高台外面削り出し。高台内宛巾。	肥前 年代。 1610～1650
180	96図	A区	MM47 MB46 ・ 47	SK1235 溜	陶器	皿	肥前系。染付皿。内面口縁部に二重圈線を染め付ける。外面下半に削り。	肥前 年代。 1650～1690
181	96図	A区	MB46 ・ 47	SK1235 上層	陶器	皿	肥前系。染付皿。内面口縁部に二重圈線を染め付ける。見込みに砂目痕。高台内に砂付着。豊付無釉。高台外面削り出し。	肥前 年代。 1650～1690
182	96図	A区	MB46 ・ 47	SK1235 上層	陶器	皿	肥前系。灰釉陶器染付皿。内面体部に一重圈線を染め付ける。見込みに砂目痕。高台に砂付着。豊付無釉。高台外面削り出し。	肥前 年代。 1650～1690
183	96図	A区	MM47 MB46 ・ 47	SK1235 下層	陶器	碗	肥前系。碗。高台内外無釉。高台外面削り出し。	肥前 年代。 1650～1690

第1表 遺物属性表(9)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・層位	分類	器種	特徴	備考
184	97図	A区	M46 ・47	SK1235 上層	陶器	鉢	大塚相馬系。灰釉陶器鉢。内外面に灰釉。内面体部に鉄絵を描く。	18世紀前半～18世紀後半か
185	97図	A区	M47- M6 MC 46 47	SK1235 層	陶器	鉢	肥前系(唐津系)。鉢。内外面に長石釉。外面体部下半に刷り。	肥前 期。1610～1650年代。
186	97図	A区	M47- M6 MC 46 47	SK1235 層	陶器	茶入	肥前系(唐津系)。鉄釉陶器茶入。内外面に鉄釉。	肥前 期。1680～1700年代。
187	97図	A区	M46 ・47	SK1235 上層	瓦質 土器	羽釜	羽釜。内面体部に刷毛目五条。外面体部に突帯を貼付。外面体部上半に円形の印判。外面体部下半に刷り。	近世。
188	97図	A区	M47- M6 MC 46 47	SK1235 下層	瓦	平瓦	灰色・銀色を呈するいぶし瓦。外面横方向のナデ調整。胎土緻密。焼成堅緻。	
189	97図	A区	M47- M6 MC 46 47	SK1235 層	瓦	平瓦	灰色・黒色を呈するいぶし瓦。外面横方向のナデ調整後、縦方向のナデ調整。胎土緻密。焼成堅緻。	
190	97図	A区	M46 ・47	SK1235 上層	石製品	砥石	砥石。凝灰岩製。三面に擦痕が認められる。	
191	97図	A区	M47- M6 MC 46 47	SK1235 下層	石製品	砥石	砥石。凝灰岩製。下半部欠損。二面に擦痕が認められる。側面に成形時の擦過痕が認められる。	
192	97図	A区	M6 MC46	SK1235 上層	土製品	炉壁	炉壁。胎土内に粘土・スサが混ざる。ガラス質の融着物が認められる。	
193	98図	A区	M46 ・47	SK1237 下層	瓦	平瓦	黒色を呈するいぶし瓦。外面横方向のナデ調整。胎土緻密。焼成軟質。	
194	98図	B区	M6 MF55	SK1245 層	陶器		不明焼締め陶器。内外面ナデ。口縁部内面に楕円八本を施す。	
195	98図	B区	M55	SK1247 層	陶器	皿	大塚相馬系。灰釉陶器皿。内外面に灰釉。内面口縁端部に鉄絵による口紅を染め付ける。外面下半に刷り。	18世紀前半～18世紀後半か
196	98図	B区	M55	SK1247 層	陶器	茶入	肥前系。鉄釉陶器茶入。内外面に鉄釉。外面口縁部無釉。	肥前 期。1650～1690年代。
197	98図	B区	M55	SK1247 層	土器	かわらけ	型打ち成形の非口ク口製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。	17世紀～18世紀代。
198	98図	B区	M55	SK1251 層	磁器	碗	染付碗。外面下半に笹葉文を染め付ける。裏付無釉。	18世紀前半～18世紀後半。
199	98図	B区	M55	SK1253 層	金属 製品	釘	鉄釘。断面形は長方形を呈する。先端部欠損。	
200	98図	B区	M55	SK1257 層	陶器	甕	肥前系。鉄釉陶器甕。外面に鉄釉。内面肩部から胴部下半に格子目叩き後ナデ。底部内面に刷毛状工具痕による放射状のナデ。外面は格子目叩き後ナデ消し。底部付近に格子目叩き痕が残る。	肥前 期。1610～1650年代。
201	98図	B区	M55	SK1259 層	陶器	瓜皿	京・信楽系か。瓜皿。型押し成形。内外面に透明釉。高台部欠損。見込みに楕円描きによる青海波文を施す。高台内にハリ支えの痕跡が認められる。付け高台。	17世紀中葉～17世紀後半。
202	98図	B区	M55	SK1260 層	陶器	碗	京・信楽系。碗。見込みに山水文を染め付ける。高台外面刷り出し。	17世紀中葉～17世紀後半。
203	98図	B区	M55	SK1260 層	土器	かわらけ	型打ち成形の非口ク口製手づくね。内面体部に横方向のナデ調整。厚手な作り。	17世紀～18世紀代。
204	98図	B区	M55	SK1260 層	銭貨	銭	寛永通寶。銅製。表「寛永通寶」。裏「無文」。古寛永銭。	

第16表 遺物属性表(10)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ット	出土地点 ・ 層位	分類	器種	特徴	備考
205	98図	B区	MF54	SK1274 層	陶器	皿	肥前系(唐津系)。灰釉陶器皿。内外面に灰釉。	肥前・期。1680~1700年代。
206	98図	B区	MF54	SK1274 層	陶器	皿	肥前系。灰釉陶器皿。内外面に灰釉。見込みに砂目痕。外面下半に削り。	肥前・期。1650~1690年代。
207	98図	B区	MF54	SK1274 層	陶器	折縁皿	肥前系。灰釉陶器折縁皿。内外面に灰釉。外面下半無釉。	肥前・期。1610~1650年代。
208	98図	B区	MF54	SK1274 層	陶器	碗	肥前系(唐津系)。灰釉陶器碗。内外面に灰釉。底部外面に削り。見込みに胎土目痕。	肥前・期。1610~1650年代。
209	98図	B区	MF54	SK1274 1・層	陶器	碗	肥前系。灰釉陶器碗。内外面に灰釉。見込みに胎土目痕。高台内に砂付着。外面下半から高台内は無釉。高台外面削り出し。	肥前・期。1650~1690年代。
210	98図	B区	MF54	SK1274 1・層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロクロ製手づくね。内外面口縁部に横方向のナデ調整。	17世紀~18世紀代。
211	98図	B区	MF54	SK1274 層	土器	かわらけ	ロクロ成形。内外面に横方向のナデ調整。底部に回転糸切り痕。外面体部に煤付着。	17世紀中葉~17世紀後葉。
212	98図	B区	MF54	SK1274 層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロクロ製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。	17世紀~18世紀代。
213	98図	B区	ME53・54	SK1280 層	陶器	火鉢	肥前系。銅線釉獅子頭付火鉢。内外面に銅線釉。内面に刷毛目文。外面上半に白化斑土の櫛掻き波状文。下半に青海波文を櫛く。獅子頭貼付。断面に深継ぎの痕跡が認められる。	肥前・期。1650~1690年代。
214	98図	B区	ME53・54	SK1280 層	陶器	鍋	肥前系。鉄釉陶器三足鍋。内面と外面体部下半に鉄釉。外面下半に削り。外面底部付近に煤付着。外面から底部は無釉。三足を貼付。	肥前・期。1780~1860年代。
215	98図	B区	MF53・54	SK1286 層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に紫羅蘭花文を染め付ける。	肥前・期。1650~1690年代。
216	98図	B区	MF53・54	SK1286 層	陶器	折縁皿	肥前系。灰釉陶器折縁皿。内外面に灰釉。	肥前・期。1650~1690年代。
217	98図	B区	MF53	SK1292 層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に雪輪・秋草文を染め付ける。豊付無釉。	肥前・期。1690~1780年代。
218	98図	B区	MF53	SK1292 層	陶器	皿	京・信楽系。皿。内外面に透明釉。見込みに山水文を鉄絵で描く。高台内に「木」の銘が認められる。「木下弥」の銘が。高台内外無釉。高台外面削り出し。	17世紀中葉~17世紀後葉。
219	98図	B区	MF53	SK1292 層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロクロ製手づくね。内外面体部に横方向のナデ調整。	17世紀~18世紀代。
220	98図	B区	MF53	SK1292 層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロクロ製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。外面口縁部に油煙による被熱の痕跡が認められる。	17世紀~18世紀代。
221	98図	B区	ME53	SK1293 層	磁器	坏	肥前系。染付坏。外面口縁部に一重圈線を染め付ける。	肥前・期。1780~1860年代。
222	98図	B区	ME・MF53	SK1293 層	陶器	碗	京・信楽系。碗。内外面に透明釉。	17世紀中葉~17世紀後葉。
223	98図	B区	ME・MF53	SK1293 層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロクロ製手づくね。内外面体部に横方向のナデ調整。体部下半にナデ。	17世紀中葉~18世紀。
224	98図	B区	ME53	SK1293 層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロクロ製手づくね。内外面体部に横方向のナデ調整。	17世紀~18世紀代。
225	98図	B区	ME・MF53	SK1293 層	土器	かわらけ	底部内面に判読不明の墨書が認められる。	近世。
226	98図	B区	ME・MF53	SK1293 層	土器	土風炉	土風炉。風口と思われる円孔を空ける。口縁端部に炭化物付着。外面体部に円形の墨書が認められる。	17世紀後葉~18世紀後葉。
227	98図	B区	ME53	SK1293 層	鉄貨	銭	寛永通寶。銅製。表「寛永通寶」。裏「無文」。	

第1表 遺物属性表(11)

遺物	図版 番号	調査区	グリッド	出土地点 ・層位	分類	器種	特徴	備考
228	99図	B区	MF53	SK1294 層	陶器	碗	大塩相馬系。碗。内外面に透明釉。	18世紀前半～18世紀後半 葉か。
229	99図	B区	ME53	SK1295 層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロクロ製手づくね。内外面 体部に横方向のナズ調整。	17世紀～18世紀代。
230	99図	B区	ME53	SK1295 層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロクロ製手づくね。内外面 体部に横方向のナズ調整。	17世紀～18世紀代。
231	99図	B区	MC53	SK1311	磁器	仏花瓶	肥前系。青磁仏花瓶。外面と高台内に青磁 釉。内面は無釉である。壺付に鉄災を塗 る。壺付にチャック取り外し時の痕跡が残 る。	肥前 期。1780～1860 年代。
232	99図	B区	MF52	SK1312 層	磁器	碗	肥前系。染付碗。碗の目凹型高台。高台内 にハリ支えの痕跡が認められる。	肥前 期。1630～ 1650年代。
233	99図	B区	MB55	SK1318 層	磁器	皿	肥前系(波佐見系)。青磁皿。内面に菊 花・流水文の線彫りを施す。	肥前 期。1650～1690 年代。
234	99図	B区	MA65	SK1319 層	皮革 製品		表面に九箇所の小孔を空ける。孔径2mm	
235	99図	B区	MA65	SK1322 層	陶器	花生	肥前系。花生。外面腰部に三条の沈線。内 外面裾部に削り。	肥前 期。1690～1780 年代。
236	100図	B区	LZ55	SK1322 層	石造物		凝灰岩製。側面と底面に型打ち工具による面 取りを施す。	
237	100図	B区	MB54	SK1323 層	陶器	擂鉢	明石・堺系(明石系)。鉄軸陶器擂鉢。内 外面に鉄釉。壺付無釉。体部下半に高台を 貼付。擂目2本。単位。2mm。	17世紀中葉～18世紀中 葉。
238	100図	B区	MB54	SK1324 層	金属 製品		青銅製。断面形は円形を呈する。基部上端 に覆いが付く。中空。	
239	100図	B区	MA・ MB54	SK1330 層	磁器	皿	肥前系(波佐見系)。青磁皿。見込みに蛇 の目有割ぎ。外面下半に削り。高台内に砂 付着。高台内外無釉。	肥前 期。1680～ 1700年代。
240	100図	B区	MA54	SK1336 層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に虫籠・梅枝文を染 め付ける。壺付無釉。	肥前 期。1690～1780 年代。
241	100図	B区	MA54	SK1336 層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に山文を染め付け る。壺付無釉。	肥前 期。1690～1780 年代。
242	100図	B区	MA54	SK1337 層	磁器	皿	肥前系。染付皿。	肥前 期。1650～1690 年代。
243	100図	B区	MA54	SK1337 層	陶器	碗	肥前系(唐津系)。灰釉陶器碗。内外面蓋 灰釉。外面下半から高台は無釉。高台外面 削り出し。	肥前 期。1650～1690 年代。
244	100図	B区	MA54	SK1337 層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロクロ製手づくね。内外面 体部に横方向のナズ調整。	17世紀～18世紀代。
245	100図	B区	LZ・MA 54・55	SK1342 層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に山水文を染め付け る。	肥前 期。1690～1780 年代。
246	100図	B区	LZ・MA 54・55	SK1342 層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に太湖石・秋草文、 高台内に「大」の銘を染め付ける。高台内 に砂付着。壺付無釉。	肥前 期。1680～ 1700年代。
247	100図	B区	LZ54	SK1343 層	磁器	油壺	肥前系。青磁油壺。内面腰部に輪遣れが認 められる。高台内に砂付着。内面と壺付無 釉。	肥前 期。1650～1690 年代。
248	100図	B区	LZ54	SK1343 層	磁器	碗	肥前系。白磁碗。	肥前 期。1690～1780 年代。
249	100図	B区	LZ54	SK1343 層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に菓文を染め付け る。	肥前 期。1650～1690 年代。
250	100図	B区	LZ54	SK1343 層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に草文を染め付け る。壺付無釉。	肥前 期。1690～1780 年代。
251	100図	B区	LZ54	SK1343 層	陶器	碗	京・信楽系。碗。内外面に透明釉。見込 みに山水文を鉄絵で描く。壺付無釉。	17世紀中葉～17世紀後 葉。

第18表 遺物属性表(12)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・層位	分類	器種	特徴	備考
252	10図	B区	LZ54	SK1344 溜	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロクロ製手づくね。外面体部に横方向のナデ調整。	17世紀～18世紀代。
253	10図	B区	LZ54 M55	SK1346	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に草文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1690～1780年代。
254	10図	B区	LZ54 M55	SK1346	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に菊花文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1690～1780年代。
255	10図	B区	LZ54 M55	SK1346 溜	陶器	皿	肥前系。灰釉陶器皿。内面から外面上半に灰釉を刷毛塗り。外面下半から高台は無釉。高台外面削り出し。	肥前 期。1650～1690年代。
256	10図	B区	LZ54 M55	SK1346	陶器	皿	肥前系(唐津系)。皿。見込みに蛇の目輪割ぎ。高台外面から高台内は無釉。高台外面削り出し。	肥前 期。1650～1690年代。
257	10図	B区	LZ54 M55	SK1346	瓦質 土器	鉢	鉢。内外面摩耗により調整不明。	近世。
258	10図	B区	LZ54 M55	SK1346	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロクロ製手づくね。内外面体部に横方向のナデ調整。	17世紀～18世紀代。
259	10図	B区	LZ54 M55	SK1346	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロクロ製手づくね。内外面体部に横方向のナデ調整。内外面に煤付着。	17世紀中葉～17世紀後葉。
260	10図	C区	MD49	SK1366 溜	陶器	碗	肥前系。鉄釉陶器碗。外面に鉄釉。高台内外無釉。高台外面削り出し。	肥前 期。1690～1780年代。
261	10図	C区	MB50	SK1376 溜	陶器	擂鉢	擂鉢。横目5本単位。2m幅。	近世。
262	10図	C区	MD48	SK1377 溜	磁器	碗	肥前系。青磁碗。豊付に砂付着。豊付無釉。高台外面削り出し。	肥前 期。1650～1690年代。
263	10図	C区	MD49	SK1377 溜	磁器	碗	肥前系。白磁碗。豊付無釉。	肥前 期。1650～1690年代。
264	10図	C区	MD49	SK1377 溜	磁器	皿	肥前系。染付皿。口縁端部に錆釉による口紅。見込みに薄文を染め付ける。高台内に砂付着。豊付無釉。	肥前 期。1630～1650年代。
265	10図	C区	M ^c - MD49	SK1377 溜	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに薄文を染め付ける。豊付に砂付着。豊付無釉。	肥前 期。1630～1650年代。
266	10図	C区	M ^c - MD48-49	SK1377 溜	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに草文を染め付ける。豊付に砂付着。豊付無釉。高台外面削り出し。	肥前 期。1650～1690年代。
267	10図	C区	MD49	SK1377 溜	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに墨弾きによる白抜き丸に格子・向日英文を染め付ける。豊付無釉。高台内にハリ支えの痕跡が認められる。	肥前 期。1650～1690年代。
268	10図	C区	MD49	SK1377 溜	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面にに草花文。高台内に「大宣化製」の銘を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1650～1690年代。
269	10図	C区	MD49	SK1377 溜	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に牡丹唐草文高台内に判読不明の銘を染め付ける。豊付に砂付着。豊付無釉。	肥前 期。1650～1690年代。
270	10図	C区	M ^c - MD49	SK1377 溜	磁器	瓶	肥前系。瓶。	肥前 期。1630～1650年代。
271	10図	C区	MD49	SK1377 溜	磁器	鉢	肥前系。染付先付付鉢。外面に草文を染め付ける。八角形状。	肥前 期。1680～1700年代。
272	10図	C区	M ^c - MD49	SK1377 溜	陶器	折縁皿	肥前系。灰釉陶器折縁皿。内外面に灰釉。見込みに胎土目輪。外面下半無釉。	肥前 期。1650～1690年代。
273	10図	C区	M ^c - MD49	SK1377 溜	陶器	皿	肥前系。灰釉陶器皿。内外面に灰釉。外面下半無釉。	肥前 期。1690～1780年代。
274	10図	C区	M ^c - MD49	SK1377 溜	陶器	碗	大塚相馬系。灰釉陶器碗。内外面に灰釉。豊付無釉。高台外面削り出し。	17世紀後半～18世紀前半。
275	10図	C区	M ^c - MD49	SK1377 溜	陶器	碗	肥前系(唐津系)。碗。内外面に透明釉。豊付無釉。高台内に削り。	肥前 期。1650～1690年代。

第19表 遺物属性表(13)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・層位	分類	器種	特徴	備考
276	10図	C区	MD49	SK1377 3層	陶器	碗	肥前系。灰釉陶磁器。内外面に灰釉。高台内に砂付着。外面下半から高台に削り。量付無釉。	肥前期。1650～1690年代。
277	10図	C区	MC-MD49	SK1377 3層	陶器	徳利	瀬戸美濃系。鉄釉陶磁器。外面鉄釉、内面首部から肩部にかけて釉重れ。内面首部に絞り痕。内面肩部から胴部は無釉。	17世紀中葉～18世紀前半か。
278	10図	C区	MC-MD48	SK1377 1層	陶器	擂鉢	鉄釉陶磁器。口縁部内外面に鉄釉。擂目6ヶ所。単位。3mm幅。	近世。
279	10図	C区	MC-MD48	SK1377 2層	陶器	擂鉢	鉄釉陶磁器。口縁部内外面に鉄釉。擂目単位不明。2mm幅。	17世紀中葉以降か。
280	10図	C区	MD48	SK1377 2層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロク口製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。	17世紀～18世紀代。
281	10図	C区	MD48-49	SK1377 2層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロク口製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。	近世。
282	10図	C区	MD48	SK1377 2層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロク口製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。	17世紀～18世紀代。
283	10図	C区	MC-MD48	SK1377 1層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロク口製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。内外面に煤付着。	17世紀中葉～17世紀後半。
284	10図	C区	MD49	SK1377 2層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロク口製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。口縁部内外面に煤付着。	17世紀～18世紀代。
285	10図	C区	MC-MD49	SK1377 4層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロク口製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。	17世紀～18世紀代。
286	10図	C区	MC-MD48	SK1377 2層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロク口製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。見込み内に煤付着。	17世紀～18世紀代。
287	10図	C区	MD49	SK1377 3層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロク口製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。	17世紀～18世紀代。
288	10図	C区	MC-MD48	SK1377 1層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロク口製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。	17世紀～18世紀代。
289	10図	C区	MC-MD49	SK1377 3層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロク口製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。	17世紀～18世紀代。
290	10図	C区	MC-MD48	SK1377 1層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロク口製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。内面に煤付着。	17世紀～18世紀代。
291	10図	C区	MC-MD49	SK1377 3層	土器	焼塩壺	泉州麻生製。焼塩壺。型押し成形。内外面ナデ調整。外面体部にへらナデ。内面に型押し成形時の布目痕が認められる。外面体部に「天一一堺」の刻印が認められる。	1645～1685年 SK134出土の個体と接合。
292	10図	C区	MC-MD49	SK1377 3層	土器	焼塩壺	焼塩壺。型押し成形。内外面ナデ調整。	17世紀中葉か。
293	10図	C区	MD49	SK1377 3層	金属製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。基部上端を折り曲げる。充存。	
294	10図	C区	MD48	SK1377 2層	金属製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。先端部欠損。	
295	10図	C区	MD48	SK1377 2層	金属製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。先端部欠損。	
296	10図	C区	MC-MD49	SK1377 3層	金属製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。基部上端を折り曲げる。充存。	
297	10図	C区	MC-MD48	SK1377 2層	金属製品	釘	鉄釘。断面形は楕円状を呈する。充存。	
298	10図	C区	MD49	SK1377 1層	金属製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。先端部欠損。	
299	10図	C区	MC49	SK1377 4層	金属製品	煙管	煙管火皿。青銅製。	
300	10図	C区	MD48	SK1377 1層	銭貨	銭	寛永通寶。銅製。表「寛永通寶」。裏「無文」。	

第20表 遺物属性表(14)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・ 層位	分類	器種	特徴	備考
301	10.図	C区	M48	SK1377 溜	銭貨	銭	寛永通寶。銅製。表「寛永通寶」。裏「無文」。	
302	10.図	C区	M48	SK1377 溜	銭貨	銭	寛永通寶。銅製。表「寛永通寶」。裏「無文」。	
303	10.図	C区	M48	SK1377 溜	銭貨	銭	寛永通寶。銅製。表「寛永通寶」。裏「無文」。	
304	10.図	C区	M49	SK1377 溜	銭貨	銭	寛永通寶。銅製。表「寛永通寶」。裏「無文」。古寛永銭。裏に木質付着。	
305	10.図	C区	M49	SK1377 溜	銭貨	銭	寛永通寶。銅製。1欠損。表「寛永通寶」。裏「無文」。古寛永銭。	
306	10.図	C区	M49	SK1377 溜	銭貨	銭	寛永通寶。銅製。表「寛永通寶」。裏「無文」。古寛永銭。	
307	10.図	C区	M49	SK1377 溜	銭貨	銭	寛永通寶。銅製。表「寛永通寶」。裏「無文」。	
308	10.図	C区	M49	SK1377 溜	銭貨	銭	寛永通寶。銅製。表「寛永通寶」。裏「無文」。古寛永銭。	
309	10.図	C区	M49	SK1378	金属 製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。基部上端を折り曲げる。完存。	
310	10.図	C区	LZ52	SK1408 溜	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に草花文を染め付け る。	肥前 期。1650～1690 年代。
311	10.図	C区	LZ53	SK1408 溜	陶器	鉢	肥前系。灰釉陶器鉢。内面口縁部と外面に 灰釉。内面に粘着れが認められる。内面脚 部無釉。	肥前 期。1650～1690 年代。
312	10.図	C区	LZ53	SK1408 溜	銭貨	銭	寛永通寶。銅製。表「寛永通寶」。裏「無 文」。古寛永銭。	
313	10.図	C区	LZ53	SK1410 溜	金属 製品	煙管	煙管火皿。青銅製。	
314	10.図	C区	LZ53	SK1410 溜	銭貨	銭	寛永通寶。銅製。半分欠損。表「寛 寛 」。裏「無文」。古寛永銭。	
315	10.図	C区	LX52	SK1420 溜	陶器	折縁皿	肥前系。灰釉陶器折縁皿。内面と外面上半 にかけて灰釉。見込みに胎土目痕。外面下 半から高台に削り。外面下半から高台は無 釉。外面下半に煤付着。	肥前 期。1650～1690 年代。
316	10.図	C区	LX52	SK1420 溜	陶器	碗 (加工円盤)	肥前系。碗(加工円盤)。碗の底部を円盤 状に加工を施す。高台内外無釉。高台内に 「大」の墨書が認められる。	肥前 期。1650～1690 年代。
317	10.図	C区	LX52	SK1420 1溜	陶器	鉢	肥前系(淡佐見系)。灰釉陶器鉢。内外面 に灰釉。見込みに胎土目痕。外面下半から 高台内は無釉。高台外面削り出し。裏付に 回転糸切り痕。裏付にクワ状の切込みが認 められる。	肥前 期。1610～1650 年代。
318	10.図	C区	W- LX49	SK1439 溜	金属 製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。基部上端 を折り曲げる。先端部欠損。	
319	10.図	C区	W49	SK1460 溜	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に草文を染め付ける 。	肥前 期。1630～ 1650年代。
320	10.図	C区	W49	SK1463 溜	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に花卉・格子文を染 め付ける。	肥前 期。1680～ 1700年代。
321	10.図	C区	LX- LY48	SK1469	磁器	瓶	染付瓶。外面胴部に菊花文を染め付ける。 。	18世紀後半～19世紀中 葉。
322	10.図	C区	LX- LY48	SK1469	陶器	皿	肥前系。灰釉陶器皿。内外面に濃灰釉。 。	
323	10.図	C区	LY48	SK1470 溜	土器	かわらけ	口クロ成形。内外面に横方向のナデ調整。 底部に回転糸切り痕。	17世紀中葉以前か。
324	10.図	C区	W LY 48-49	SK1477 溜	石製品	砥石	砥石。砂岩製。砥面に磨痕なし。 。	

第2表 遺物属性表(15)

遺物	図版番号	調査区	グリッド	出土地点・層位	分類	器種	特徴	備考
325	103図	C区	LX48	SK1478	陶器	碗	肥前系。碗。内外面に透明釉。	肥前年代。1650～1690
326	103図	C区	LX48	SK1478	石造物	石造物	凝灰岩製。鑿付工具による面取りを側と底面に施す。	
327	104図	C区	WV-LX48	SK1480	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに花唐草文を染め付ける。高台内に砂付着。量付無釉。	肥前年代。1610～1650
328	104図	C区	WV-LX48	SK1480	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に草花文を染める。	肥前年代。1650～1690
329	104図	C区	WV-LX48	SK1480	陶器	天目茶碗	肥前系。鉄釉陶器天目茶碗。内外面に鉄釉。高台内外無釉。外面下半から高台内に削り。	肥前年代。1650～1690
330	104図	C区	WV-LX48	SK1480	陶器	碗	肥前系。灰釉陶器碗。内外面に灰釉を刷毛塗り。	肥前年代。1690～1780
331	104図	C区	WV-LX48	SK1480	陶器	鉢	肥前系(唐津系)。鉢。内外面に透明釉。	肥前年代。1650～1690
332	104図	C区	LX47	SK1489	陶器	土瓶蓋	大塚相馬系。土瓶蓋。外面に灰釉。内面無釉。宝珠状の模みが付く。返り径3.7cm	19世紀前半～19世紀中葉。
333	104図	C区	LX47・48	SK1490	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに唐草文を染め付ける。	肥前年代。1650～1690
334	104図	C区	LX47・48	SK1490	陶器	折縁皿	肥前系。折縁皿。内外面に透明釉。外面下半に削り。外面下半無釉。	肥前年代。1610～1650
335	104図	C区	LX47・48	SK1490	陶器	碗	肥前系(唐津系)。灰釉陶器碗。内外面に灰釉。量付無釉。高台外面削り出し。	肥前年代。1610～1650
336	104図	C区	WV47・48	SK1502	陶器	天目茶碗	肥前系。鉄釉陶器天目茶碗。内外面鉄釉。高台内に砂付着。高台外面削り出し。量付無釉。高台内凹む。	肥前年代。1610～1650
337	104図	C区	LX47	SK1502	金属製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。完存。	
338	104図	C区	LX47	SK1504	磁器	香炉	肥前系。白磁香炉。内面体部無釉。	肥前年代。1610～1650
339	104図	C区	WV47	SK1531	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに鶴・水草文を染め付ける。高台内に砂付着。	肥前年代。1650～1690
340	104図	C区	WV47	SK1531	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに渦文を染め付ける。高台内に砂付着。量付無釉。	肥前年代。1690～1780
341	104図	C区	WV47	SK1531	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に竹垣・草花文を染め付ける。	肥前年代。1650～1690
342	104図	C区	WV47	SK1531	磁器	碗	肥前系。染付碗。内面に草花文、外面に花唐草文を染め付ける。	肥前年代。1650～1690
343	104図	C区	WV47	SK1531	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に唐草文を染め付ける。高台内外無釉。	肥前年代。1650～1690
344	104図	C区	WV47	SK1531	陶器	折縁皿	肥前系。灰釉陶器折縁皿。内外面に灰釉。見込みに胎土目肌。高台外面に砂付着。量付無釉。高台外面削り出し。	肥前年代。1650～1690
345	104図	C区	WV47	SK1531	陶器	鉢	肥前系(唐津系)。鉢。外面上半に白泥を塗る。外面下半から高台に削り。高台に工具による三方向の切込みを入れる。外面下半から高台は無釉。見込みに重ね焼き痕が認められる。	肥前年代。1650～1690
346	104図	C区	WV47	SK1531	陶器	鉢	大塚相馬系。灰釉陶器染付鉢。内外面に灰釉。内面体部に唐草文を染め付ける。高台内無釉。高台外面削り出し。高台内に「遠い鷹の羽文」と判読不明の銘が方形枠内に認められる。	17世紀後半～18世紀前半か。SK107出土の個体と推定。
347	104図	C区	WV47	SK1531	石製品	温石	温石。粘板岩製。半分欠損。表面に穿孔。長方形状を呈する。穿孔径6mm	

第2表 遺物属性表(16)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・層位	分類	器種	特徴	備考
348	104図	C区	L7- 47- 48	SK1535 甕	陶器	襖	鉄軸陶器襖。内外面に鉄軸。内外面口縁部に削り。	近世。
349	104図	C区	L747	SK1538 甕	陶器	襖鉢	肥前系。鉄軸陶器襖鉢。内外面口縁部に鉄軸。	肥前 期。1610～1650 年代。
350	105図	A区	MM6	SK2002	陶器	折縁皿	肥前系。灰釉陶器折縁皿。内外面に灰釉。外面体部から高台内は無釉。高台外面削り出し。見込みに煤付着。	肥前 期。1610～1650 年代。
351	105図	A区	MB45	SK2004 甕	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に草花・太湖石文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1690～1780 年代。
352	105図	A区	MB45	SK2005 甕	瓦	道具瓦	黒色を呈するいぶし瓦。外面横方向のナデ調整。胎土緻密。焼成軟質。外面剥離痕が認められる。	
353	105図	A区	LZ44	SK2022 甕	磁器	瓶	肥前系。染付瓶。外面に株草文を染め付ける。内面に釉垂れが認められる。内面無釉。	肥前 期。1630～ 1650年代。
354	105図	A区	LZ43	SK2033 甕	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に草花文を染め付ける。	肥前 期。1690～1780 年代。
355	105図	A区	LZ43	SK2033 甕	陶器	合子	肥前系。灰釉陶器合子。外面に灰釉。外面下半に削り。内面と底部は無釉。	肥前 期。1690～1780 年代。
356	105図	A区	LY- LZ43	SK2037 甕	磁器	碗	肥前系。染付碗。	肥前 期。1680～ 1700年代。
357	105図	A区	LZ43	SK2038 甕	磁器	鉢蓋	肥前系。染付鉢蓋。外面に桃文を染め付ける。返り径約7.6cm	肥前 期。1690～1780 年代。
358	105図	A区	LZ- MM42	SK2042 上層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に松文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1650～1690 年代。
359	105図	A区	LZ- MM42	SK2042 上層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に草花・斜め格子文を染め付ける。	肥前 期。1680～ 1700年代。
360	105図	A区	LZ- MM42	SK2042 上層	磁器	碗	肥前系。染付碗。豊付無釉。	肥前 期。1650～1690 年代。
361	105図	A区	LZ- MM42	SK2042 下層	磁器	碗	肥前系。色絵碗。外面に草花文を赤・緑・黒の顔料で釉薬の上から絵付け。	肥前 期。1650～1690 年代。
362	105図	A区	LZ- MM42	SK2042 上層	磁器	瓶	肥前系(伊万里系)。瓶。高台内に砂付着。内面無釉。	肥前 期。1610～1650 年代。
363	105図	A区	LZ- MM42	SK2042 下層	陶器	皿	肥前系。皿。内面と外面下半に鉄軸。外面上半に銅緑釉。鉄軸と銅緑釉を掛け分ける。外面下半に削り。高台内外無釉。	肥前 期。1690～1780 年代。
364	105図	A区	LZ- MM42	SK2042 上層	陶器	皿	肥前系。灰釉陶器皿。内外面に灰釉。見込みに胎土目痕。外面下半から高台内は無釉。高台外面削り出し。	肥前 期。1650～1690 年代。
365	105図	A区	LZ- MM42	SK2042 下層	土器	かわらけ	クワ口成形。内外面体部に横方向のナデ調整。外面体部下半に削り。口縁部内外面に煤付着。底部に回転糸切り痕。	1650年代以降。
366	105図	A区	LZ- MM42	SK2042 上層	土製品	土鈴	土鈴。下半部欠損。中空。	近世。
367	105図	A区	LZ- MM42	SK2042 下層	石製品	砥石	砥石。凝灰岩製。上部欠損。四面に磨痕が認められる。	
368	105図	A区	LZ- MM42	SK2042 下層	金属 製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。基部上端を折り曲げる。先端部欠損。	
369	105図	A区	LZ- MM43	SK2043 下層	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに桃折枝文を染め付ける。高台に砂付着。	肥前 期。1650～1690 年代。
370	105図	A区	LZ- MM43	SK2043 上層	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに草花文を染め付ける。高台に砂付着。高台内にハリ支えの痕跡が認められる。	肥前 期。1650～1690 年代。
371	105図	A区	LZ- MM43	SK2043 下層	土器	かわらけ	型打ち成形の非クワ口製手づね。内外面体部に横方向のナデ調整。内外面口縁部に煤付着。	
372	105図	A区	LZ- MM43	SK2043 下層	石製品	脚付盤	脚付盤。凝灰岩製。内外面にヘラ削り。	1世紀～18世紀代。

第2表 遺物属性表(17)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・層位	分類	器種	特徴	備考
373	10図	A区	LZ・ MM43	SK2043 下層	金属 製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。先端部欠損。	
374	10図	A区	LZ42	SK2046 甕	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに草花文を染め付けける。見込みに胎土目痕。豊付無釉。	肥前 年代。 1610～1650
375	10図	A区	LZ42	SK2046 甕	陶器	皿	肥前系(唐津系)。灰釉陶器皿。内外面に藁灰釉。見込みに胎土目痕。外面下半から高台内は無釉。高台外面削り出し。豊付に回転糸切り痕。	肥前 年代。 1650～1690
376	10図	A区	LZ42	SK2046 甕	陶器	碗	肥前系(唐津系)。碗。高台外面削り出し。高台内無釉。	肥前 年代。 1650～1690
377	10図	A区	LZ42	SK2046 甕	陶器	鉢	肥前系。鉄釉陶器鉢。外面に鉄釉。内面胴部に粗い格子目叩き後にナデ調整。内面底部に押圧に伴う爪痕が認められる。	肥前 年代。 1610～1650
378	10図	A区	LZ42	SK2048 甕	陶器	輪花皿	肥前系。鉄釉陶器輪花皿。型押し成形。見込みに蛇の目軸刺ぎ。内外面に鉄釉。外面に型押し成形時の布目痕が認められる。	肥前 年代。 1650～1690
379	10図	A区	LZ42	SK2048 甕	陶器	鉢	肥前系(唐津系)。鉄釉陶器鉢。外面口縁部に被熱で劣化した鉄釉がかかる。外面は鉄釉を塗状に塗る。内面無釉。	肥前 年代。 1690～1780
380	10図	A区	LZ42	SK2050 甕	磁器	輪花皿	肥前系。染付輪花皿。型打ち成形。見込みに鳥文を染め付けける。高台内に砂付着。豊付無釉。高台内兎耳。	肥前 年代。 1650～1690
381	10図	A区	LZ・ LY42	SK2051 甕	陶器	皿	肥前系。灰釉陶器皿。内外面に藁灰釉。	肥前 年代。 1650～1690
382	10図	A区	LZ42	SK2059 甕	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに魚文を染め付けける。	肥前 年代。 1650～1690
383	10図	A区	LZ42	SK2059 甕	磁器	鉢	肥前系。染付鉢。外面に水草文を染め付けける。外面下半に削り。豊付無釉。	肥前 年代。 1680～ 1700年代。
384	10図	A区	LZ42	SK2059 下層	陶器	折縁皿	肥前系。灰釉陶器折縁皿。内外面に灰釉。見込みに砂目痕。外面体部から高台は無釉。高台外面削り出し。	肥前 年代。 1650～1690
385	10図	A区	LZ42	SK2059 下層	陶器	鉢	肥前系。鉄釉陶器鉢。外面胴部上半に鉄釉。内面無釉。	肥前 年代。 1650～1690
386	10図	A区	LZ42	SK2061 甕	磁器	皿	肥前系。染付皿。内面に格子文。	肥前 年代。 1650～1690
387	10図	A区	LZ41	SK2069 甕	磁器	坏	肥前系。坏。	肥前 年代。 1680～ 1700年代。
388	10図	A区	LZ41	SK2071	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに手描き五弁花文を染め付けける。外面下半から高台は無釉。	肥前 年代。 1680～ 1700年代。
389	10図	A区	LZ41	SK2071 甕	土器	土風炉	土風炉。側面にヘラ削り。底部から脚部にかけて削り。三足を貼付。	17世紀中葉～18世紀 初め。
390	10図	A区	LY・LZ 40・41	SK2074 下層	磁器	仏飯器	肥前系。青磁仏飯器。脚部から底部は無釉。	肥前 年代。 1690～1780
391	10図	A区	LY・LZ 40・41	SK2074 下層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に梅花花文。高台の圏線区画内に粗い山形文を染め付けける。高台内に砂付着。豊付無釉。	肥前 年代。 1630～ 1650年代。
392	10図	A区	LY・LZ 40・41	SK2074 上層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に山文を染め付けける。	肥前 年代。 1680～ 1700年代。
393	10図	A区	LY・LZ 40・41	SK2074 上層	磁器	瓶	肥前系。染付瓶。外面に草文を染め付けける。高台内に砂付着。	肥前 年代。 1690～1780
394	10図	A区	LY・LZ 40・41	SK2074 上層	陶器	鉢	肥前系(唐津系)。鉄釉陶器刷毛目鉢。内面口縁部と外面に鉄釉。外面体部に刷毛目文。外面体部下半にヘラによる刻み。体部無釉。内面口縁部に軸垂れが認められる。	肥前 年代。 1650～1690
395	10図	A区	LY40 LZ40 -41	SK2074 下層	陶器	香炉	肥前系。鉄釉陶器香炉。内外面に鉄釉。外面下半から高台内は無釉。高台外面削り出し。豊付に回転糸切り痕。	肥前 年代。 1610～1650

第24表 遺物属性表(18)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・ 層位	分類	器種	特徴	備考
396	10図	A区	LY39	SK2078 4層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に松文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1690～1780 年代。
397	10図	A区	LY39 ・ 40	SK2078 4層	磁器	水滴	肥前系。染付水滴。型押し成形。外面注ぎ口部に染付。内面無釉。	肥前 期。1680～ 1700年代。
398	10図	A区	LY39	SK2080	磁器	壺蓋	肥前系。色絵壺蓋。外面上半に渦・草花・雲気文。下半に二重團扇を赤・青・緑の顔料で釉薬の上から絵付け。内面から合せ目無釉。横みが付く。返り径5.4cm。	肥前 期。1650～1690 年代。
399	10図	B区	MD ME 53 54	SK2108	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に松・若葉文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1690～1780 年代。
400	10図	B区	MD ME 53 54	SK2108	陶器	折縁皿	肥前系。灰釉陶器折縁皿。内外面に灰釉。外面下半から高台内は無釉。高台外面削り出し。豊付に回転系切り痕。	肥前 期。1650～1690 年代。
401	10図	B区	MD ME 53 54	SK2108 下層	瓦	平瓦	灰色・黒色を呈するいぶし瓦。外面縦方向のナデ調整後、横方向のナデ調整。胎土緻密。焼成堅固。	
402	10図	B区	MD ME 53 54	SK2108	石製品	砥石	砥石。凝灰岩製。上半部欠損。二面に擦痕が認められる。	
403	10図	B区	MD54	SK2111 4層	陶器	擂鉢	備前系。擂鉢。底部に削り。擂目9cm。単位。2m幅。	17世紀中葉～17世紀後 葉か。
404	10図	B区	MD54	SK2112 4層	陶器	碗	肥前系。灰釉陶器碗。内外面上半に灰釉。外面下半から高台内は無釉。高台外面削り出し。	肥前 期。1650～1690 年代。
405	10図	B区	ME52 ・ 53	SK2123	陶器	皿	肥前系(唐津系)。灰釉陶器皿。内面から外面上半にかけて灰釉。外面体部下半から底部にかけて無釉。底部に回転系切り痕。	肥前 期。1650～1690 年代。
406	10図	B区	MF52	SK2125 4層	陶器	擂鉢	鉄釉陶器擂鉢。内外面鉄釉。底部に砂付着。内面使用により摩耗。擂目本単位。2m幅。	18世紀か。
407	10図	B区	ME MF52	SK2126 4層	陶器	皿	肥前系。灰釉陶器皿。外面に灰釉。外面下半に煤付着。	肥前 期。1650～1690 年代。
408	10図	B区	MD53	SK2129 4層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に菊花・花散らし文。見込みに花散らし文。高台内に磨蝕化した「宣明年製」の銘を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1690～1780 年代。
409	10図	B区	MD53	SK2129 4層	磁器	油壺	肥前系。色絵油壺。外面前部に一重團扇・丸文。丸に雷・巴文。外面胴部に二重團扇・高台に一重團扇を赤・緑・黄の顔料で釉薬の上から絵付けする。内面と豊付無釉。	肥前 期。1780～1860 年代。
410	10図	B区	MD53	SK2129	陶器	鉢	肥前系(唐津系)。鉢。内外面口縁部に長石釉。内面下半と外面下半から高台内は無釉。	肥前 期。1650～1690 年代。
411	10図	B区	MD53	SK2129	土器	かわらけ	型打ち成形の非口口製手つくね。内外面に横方向のナデ調整。	17世紀中葉～17世紀後 葉。
412	10図	B区	MD53	SK2129 4層	金属 製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。先端部欠損。	
413	10図	A区	MM47 ・ 48	SP1002 4層	磁器	碗	肥前系。染付碗。内面に雷文、外面に斜め格子文を染め付ける。	肥前 期。1690～1780 年代。
414	10図	A区	MC45	SP1013 4層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面にコンヤク印判の桐葉文を染め付ける。断面に漆塗りの痕跡が認められる。	肥前 期。1690～1780 年代。
415	10図	A区	MM46	SP1015 4層	陶器	陶人形	肥前系。陶人形。型押し成形。外面に青色釉。人形の下半身の裾部のみ残存。中空。	肥前 期。1650～1690 年代。
416	10図	A区	LV40	SP1029 4層	磁器	碗	肥前系。碗。高台内に砂付着。豊付無釉。	肥前 期。1650～1690 年代。
417	10図	A区	LV46	SP1033 4層	磁器	坏	肥前系。坏。外面下半に削り。外面下半から高台は無釉。	肥前 期。1650～1690 年代。

第25表 遺物属性表(19)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・層位	分類	器種	特徴	備考	
418	108図	A区	LV45	SP1036	甕	金属 製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。先端部欠損。	
419	108図	A区	LV45 ・46	SP1038	甕	陶器	甕	肥前系(唐津系)。鉄釉陶器甕。内外面に鉄釉。内面上半無釉。口縁部に敲着痕が認められる。	肥前 年代。1610~1650
420	108図	A区	LV45	SP1039	甕	陶器	瓶	肥前系。鉄釉陶器瓶。外面に鉄釉。内面無釉。内面胴部に鉄錆が付着。外面腰部に削り。	肥前 年代。1650~1690
421	108図	A区	LV41	SP1058	甕	陶器	播鉢	明石・堺系。鉄釉陶器播鉢。内外面に鉄釉。内外面体部に横方向のナデ調整。播目ないし本単位。2mm幅。	17世紀後半~18世紀前 葉。
422	108図	B区	ME55	SP1064	甕	磁器	碗	染付碗。外面に蔓草文を染め付ける。豊付無釉。	明治期以降。
423	108図	B区	ME55	SP1065	甕	磁器	花生	肥前系。白磁花生。内面腰部に紋り模、外面裾部に削り、内面と外面裾部から底部にかけて無釉。	肥前 年代。1690~1780
424	108図	B区	MC55	SP1070	甕	石造物		凝灰岩製。側面と底面に鑿状工具による面取りを施す。	
425	108図	B区	MC MD55	SP1070	甕	金属 製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。完存。	
426	108図	B区	MC MD55	SP1070	甕	金属 製品	板状金属 製品	板状金属製品。鉄製。断面形は長方形状を呈する。完存。	
427	108図	B区	MF54	SP1071	甕	陶器	皿	肥前系。灰釉陶器皿。内外面に灰釉。高台内に削り。外面下半と高台内に砂付着。外面下半から高台内は無釉。高台内兎巾。	肥前 年代。1650~1690
428	108図	B区	ME MF54	SP1074	甕	金属 製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。先端部欠損。	
429	108図	B区	MC53	SP1089	甕	金属 製品	錠	錠。鉄製。断面形は方形状を呈する。先端部欠損。木質残存。	
430	108図	B区	MF56	SP1101	甕	瓦	軒丸瓦	高梨台通踏か。暗赤褐色を呈する赤瓦。胎土緻密。焼成堅固。焼成前に釘穴が二箇所穿孔。瓦当巴達珠文。	
431	108図	B区	MB54	SP1105	甕	磁器	碗	肥前系。染付碗。見込みに葡萄文、外面に朝顔文を染め付ける。豊付に砂付着。豊付無釉。	肥前 年代。1680~1700
432	108図	B区	LZ53	SP1114	甕	陶器	皿	肥前系。皿。内外面に透明釉。高台に厚く釉薬が付着。外面体部に重ね焼き痕跡が認められる。	肥前 年代。1690~1780
433	108図	C区	LV49	SP1159	甕	磁器	皿	肥前系。染付皿。内面に墨弾きによる白抜き波瀾文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 年代。1690~1780
434	108図	C区	LV48	SP1165	甕	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに草・流水文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 年代。1650~1690
435	108図	C区	LV47	SP1175	甕	金属 製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。基部上端を折り曲げる。先端部欠損。	
436	108図	C区	LV47	SP1176	甕	陶器	碗	肥前系(唐津系)。灰釉陶器皿。内外面に鉄釉。外面下半から高台内は無釉。高台外面削り出し。高台内兎巾。	肥前 年代。1610~1650
437	108図	A区	LZ43	SP2011	甕	陶器	把手付鉢	瀬戸美濃系鉄釉陶器把手付鉢。内面口縁部と外面に鉄釉。外面下半に削り。	18世紀後半か。
438	108図	B区	MD54	SP2018	甕	陶器	皿	肥前系(唐津系)。灰釉陶器皿。内面に灰釉。外面体部下半から高台内にかけて無釉。高台外面削り出し。高台内兎巾。	肥前 年代。1610~1650
439	108図	B区	MD53	SP2026	甕	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に遠山・家屋・松文を染め付ける。	肥前 年代。1650~1690
440	108図	C区	MC49 ・50	SS1021	甕	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに雲芝文を染め付ける。豊付に砂付着。豊付無釉。豊付にふき取りが甘い釉薬が残る。	肥前 年代。1690~1780
441	108図	C区	MB MC48	SS1024	甕	金属 製品	釘	鉄釘。断面形は楕円状を呈する。基部上端を折り曲げる。先端部欠損。木質残存。	

第2G表 遺物属性表(20)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・層位	分類	器種	特徴	備考
442	10図	C区	MB・ MC48	SS1024 層	金属 製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。先端部欠損。	
443	10図	A区	WB9	SS2008 層	銭貨	銭	寛永通寶。銅製。表「寛永通寶」。裏「文」。 。文銭。	
444	10図	A区	MB47	SX1001 層	磁器	香炉	肥前系。青磁香炉。内面下半無釉。六角形 状か。	肥前 期か。1610～ 1650年代か。
445	10図	A区	MB47	SX1001 層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に一重胡目文、高台 内に「福」の銘を染め付ける。高台内に砂 付着。量付無釉。	肥前 期。1630～ 1650年代。
446	10図	A区	LZ41	SX1002 層	磁器	碗	肥前系。染付碗。内面に花唐草文、外面に 唐草文を染め付ける。	肥前 期。1650～1690 年代。
447	10図	A区	LZ41	SX1002 層	石製品	硯	硯。砂岩製。下半部欠損。全体に墨付着。	
448	10図	A区	LZ41	SX1002 層	金属 製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。先端部欠 損。	
449	11図	A区	WA2	SX1004 層	磁器	輪花皿	肥前系。輪花皿。型打ち成形。	肥前 期か。1690～ 1780年代か。
450	11図	A区	WA2 ・ 43	SX1004 層	陶器	襖	越前系。襖。口縁部の形状「T字形」を呈 する。	18世紀。
451	11図	A区	WA2 ・ 43	SX1004 層	陶器	襖	越前系。襖。内外面横方向のナデ調整。	18世紀。
452	11図	A区	LV44	SX1008 層	石製品	砥石	砥石。流紋岩製。下半部欠損。二面に痕傷 が認められる。	
453	11図	B区	MF56	SX1010 層	瓦	棧瓦	高梨台遺跡産か。暗赤褐色を呈する赤瓦。 外面縦方向のナデ調整後、横方向のナデ調 整。胎土緻密。焼成堅緻。	
454	11図	B区	MC5 ・ 54	SX1012	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に唐草文を染め付け る。量付無釉。	肥前 期。1650～1690 年代。
455	11図	B区	MC5 ・ 54	SX1012	磁器	碗	肥前系。染付碗。見込みに梵字文を染め付 ける。量付無釉。	肥前 期。1690～1780 年代。
456	11図	B区	MC5 ・ 54	SX1012	陶器	鉢蓋	肥前系。鉄釉陶器鉢蓋。内外面に鉄釉。外 面天井部に飛び箱技法。	肥前 期。1650～1690 年代。
457	11図	B区	MC5 ・ 54	SX1012	陶器	鉢	白岩焼。鉄釉陶器鉢。内面はなまこ釉。外 面上半になまこ釉。下半に鉄釉を掛け分け る。	18世紀前半～19世紀 か。
458	11図	B区	MC5 ・ 54	SX1012	陶器	花生	肥前系。鉄釉花生。内外面に鉄釉。裾部外 面に釉垂れが認められる。裾部外面に削り。 裾部から底部は無釉。	肥前 期。1690～1780 年代。
459	11図	B区	MC5	SX1012 層	瓦	平瓦	高梨台遺跡産か。暗赤褐色を呈する赤瓦。 外面縦方向のナデ調整。胎土緻密。焼成堅 緻。	
460	11図	C区	LL47	SX1015	磁器	坏	肥前系。白磁坏。量付無釉。	肥前 期。1780～1860 年代。
461	11図	C区	LL47	SX1015	磁器	碗	染付碗。外面に秋草文、高台内に判読不明 の銘を染め付ける。量付無釉。	18世紀後半～19世紀中 葉。
462	11図	C区	LL47	SX1015	磁器	碗	肥前系。染付碗。高台内に「宣徳年製」の 銘を染め付ける。量付無釉。	肥前 期。1650～1690 年代。
463	11図	C区	LL47	SX1015	磁器	碗	肥前系（浪佐見系）。染付碗。外面に岩 文、高台内に判読不明の銘を染め付ける。 量付無釉。	肥前 期。1780～1860 年代。
464	11図	C区	LL47	SX1015	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に松文を染め付け る。	肥前 期。1690～1780 年代。
465	11図	C区	LL47	SX1015	陶器	碗	肥前系。鉄釉陶器染付碗。内面口縁部と外 面に鉄釉。見込みに草文を染め付ける。高 台内無釉。高台内児巾。釉薬二度掛け。	肥前 期。1610～1650 年代。
466	11図	C区	LL47	SX1015	瓦質 土器	火消壺蓋	火消壺蓋。内面に煤付着。宝珠状の構みが 付く。返り径 21 9cm	近世。
467	11図	C区	LL47	SX1015	瓦	棧瓦	灰色・黒色を呈するいぶし瓦。外面横方向 のナデ調整後、縦方向のナデ調整。胎土緻 密。焼成堅緻。	

第2表 遺物属性表(21)

遺物	図版 番号	調査区	グリッド	出土地点 ・層位	分類	器種	特徴	備考
468	11図	C区	LL47	SX1015	瓦	椀瓦	高梨台遺跡産か。暗赤褐色を呈する赤瓦。胎土緻密。焼成堅緻。内外面にガラス質の鉄粒。	
469	11図	A区	LT40	土層1 1層	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに向い兎・流水文、を染め付ける。高台内に砂付着。量付無粒。	肥前 期。1650～1690年代。
470	11図	A区	LT40	土層1 1層	磁器	皿	染付皿。銅板転写。西洋コバルトで染め付ける。見込みに銀杏文、口縁端部に精緻による口紅を染め付ける。量付無粒。	明治期以降。
471	11図	A区	LT38 ・39	土層1 1層	磁器	皿	染付皿。見込みに唐獅子文を染め付ける。量付無粒。	明治期以降。
472	11図	A区	LT38 ・39	土層1 1層	磁器	碗	肥前系。染付碗。見込みに菊花・一重網目文、外面に二重網目文、高台内に「寿」の銘を方形枠内に染め付ける。量付無粒。	肥前 期。1690～1780年代。
473	11図	A区	LT38	土層1 1層	磁器	坏	染付坏。西洋コバルトで染め付ける。見込みに桜葉のトレードマーク内に「A」・「備前」の銘、高台内に「秋田銘機株式会社」の銘を染め付ける。量付無粒。	明治期以降。
474	11図	A区	LT38 ～40	土層1 1層	磁器	坏	染付坏。西洋コバルトで染め付ける。外面に「太平山」の銘を枠内に染め付ける。量付無粒。	明治期以降。
475	11図	A区	LT38 ・39	土層1 1層	磁器	坏	染付坏。西洋コバルトで染め付ける。外面に分銅・小穂文を染め付ける。高台内にヘラ状工具痕、量付無粒。	明治期以降。
476	11図	A区	LU- LV46	土層1 1層	磁器	坏	染付坏。西洋コバルトで染め付ける。外面に一重網目文を染め付ける。量付無粒。	明治期以降。
477	11図	A区	LT40	土層1 1層	ガラス 製品	瓶	ビール瓶大瓶。自動製瓶機による機械成形。底部側面に「TRADE-MARK DAINIPPON BREWERY CO LTD」、底部内に「☆」のエンボス。	1917年(大正7年)以降。
478	11図	C区	MA49	層	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに瓜文を染め付ける。量付無粒。	肥前 期。1610～1650年代。
479	11図	A区	LT- LU 46- 47	層	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに月・山水文を染め付ける。量付無粒。	肥前 期。1680～1700年代。
480	11図	A区	LX46 ・47	層	磁器	輪花碗	肥前系(波佐見系)。染付輪花碗。内面に扇文、外面に唐草文を染め付ける。量付に砂付着。量付無粒。	肥前 期。1690～1780年代。
481	11図	A区	LL42	層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に花唐草文を染め付ける。量付無粒。	肥前 期。1650～1690年代。
482	11図	C区	MD50	層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に蝶文を染め付ける。量付無粒。	肥前 期。1780～1860年代。
483	11図	A区	LT- LU 46- 47	層	磁器	碗	染付碗。外面に家屋・松文を染め付ける。量付無粒。口縁部が波状を呈する。	19世紀か。
484	11図	C区	MA52	層	磁器	碗	肥前系。染付碗。高台内に簡略化した「大明年製」の銘を染め付ける。量付無粒。	肥前 期。1690～1780年代。
485	11図	A区	LZ44	層	磁器	徳利	染付徳利。銅板転写。西洋コバルトで染め付ける。外面口縁部に輪宝文、体部下半の二重網線区画内に牡丹唐草文、高台内に判読不明の銘を染め付ける。	明治期以降。
486	11図	A区	LZ44	層	陶器	壺	肥前系。鉄釉陶器壺。内外面に鉄粒。外面鉄粒二度掛け。外面下半に削り。底部に回転糸切り痕。	肥前 期。1610～1650年代。
487	11図	B区	ME- MF 52- 53	層	磁器	坏	肥前系。染付坏。外面口縁部に二重網線を染め付ける。	肥前 期。1680～1700年代。
488	11図	B区	ME- MF 52- 53	層	陶器	擂鉢	丹波系。鉄釉陶器擂鉢。内面外面鉄粒。擂目8～9cm単位。2cm幅。	18世紀後半。
489	11図	B区	MC55	層	磁器	輪花皿	肥前系。白磁輪花皿。型打ち成形。量付無粒。	肥前 期。1780～1860年代。

第29表 遺物属性表(22)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・層位	分類	器種	特徴	備考
490	113図	B区	ME53	層	磁器	皿	肥前系。染付皿。内面見込みに流水・花散らし文、外面に折松葉文を染め付ける。豊付無釉。高台内にハリ支えの痕跡が認められる。	肥前期。1690～1780年代。
491	113図	B区	ME52	層	磁器	皿	肥前系。染付皿。内面に月・松・山水文、外面に笠文を染め付ける。	肥前期。1650～1690年代。
492	113図	B区	ME・MF54	層	磁器	碗	肥前系。染付碗。見込みに桐葉文、外面に笹文、高台内に「宣明年製」の銘を染め付ける。豊付無釉。	肥前期。1650～1690年代。
493	113図	A区	LZ43・44	層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面上半に折枝花文、下半に若草文を染め付ける。豊付無釉。	肥前期。1690～1780年代。
494	113図	A区	MC46	層	磁器	碗	肥前系。染付碗。型紙摺。外面に秋草文を染め付ける。豊付無釉。	肥前期。1690～1780年代。
495	113図	A区	LZ43・44	層	磁器	徳利	染付徳利。外面に野菜文を描く。高台内に「之」の銘を染め付ける。	明治期以降。
496	113図	B区	MB54	層	陶器	土瓶蓋	肥前系。鉄釉陶器土瓶蓋。外面に鉄釉。釉薬により穿孔部が塞がる。内面無釉。宝珠状の構みが付く。穿孔径2mm	肥前期。1780～1860年代。
497	113図	B区	ME57・58	層	陶器	鍋	肥前系。鉄釉陶器鍋。内外面に鉄釉。外面下半無釉。	肥前期。1780～1860年代。
498	113図	B区	ME55	層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロクロ製手づくね。内外面口縁部に横方向のナデ調整。	17世紀中葉～18世紀。
499	113図	B区	ME53	層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロクロ製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。	17世紀～18世紀代。
500	113図	B区	LZ52・53	層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロクロ製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。	17世紀～18世紀代。
501	113図	B区	ME53	層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロクロ製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。	17世紀～18世紀代。
502	113図	A区	LZ43	層	瓦	丸瓦	高梨台遺跡産か。暗赤褐色を呈する赤瓦。外面縦方向のナデ調整。釘穴が一箇所認められる。胎土緻密。焼成堅固。	
503	113図	B区	ME・MF54	層	金属製品	鍔	鍔。鉄製。断面形は方形状を呈する。先端部欠損。	
504	114図	B区	ME54	層	銭貨	銭	寛永通寶。銅製。表「寛永通寶」。裏「無文」。古寛永銭。	
505	114図	B区	MF54	層	銭貨	銭	寛永通寶か。銅製。表「通寶」。裏「無文」。	
506	114図	B区	ME・MF53	層	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に太湖石・草文を染め付ける。高台内に砂付着。豊付無釉。	肥前期。1650～1690年代。
507	114図	B区	ME・MF53	層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロクロ製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。	17世紀～18世紀代。
508	114図	B区	ME・MF53	層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロクロ製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。	17世紀～18世紀代。
509	114図	B区	ME・MF53	層	土器	かわらけ	型打ち成形の非ロクロ製手づくね。内外面に横方向のナデ調整。内外面に煤付着。	17世紀～18世紀代。
510	114図	A区	MM46	層上面	磁器	坏	肥前系。白磁坏。	肥前期。1690～1780年代。
511	114図	C区	LY53	層上面	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに手描き五弁花文、内面に墨弾きによる白抜き波濤文を染め付ける。豊付無釉。	肥前期。1690～1780年代。
512	114図	A区	LL46	層上面	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに葡萄文、外面に唐草文を染め付ける。豊付無釉。	肥前期。1680～1700年代。
513	114図	C区	WW8	層上面	磁器	皿	肥前系。染付皿。内面の染付区画内に流水文を染め付ける。	肥前期。1650～1690年代。
514	114図	C区	LZ53	層上面	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に新文を染め付ける。豊付無釉。	肥前期。1690～1780年代。

第2表 遺物属性表(23)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・層位	分類	器種	特徴	備考
515	1148	C区	LZ53	層上面	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に草花文を染め付ける。墨付無釉。	肥前 期。1690~1780 年代。
516	1148	C区	UW8	層上面	磁器	碗	肥前系。染付碗。見込みに渦巻文、外面に渦巻文を染め付ける。墨付無釉。	肥前 期。1650~1690 年代。
517	1148	A区	LX47	層上面	磁器	碗	肥前系。染付碗。蛇の目凹型高台。見込みに梵字文、内面に格子文、外面に水陸・花文を染め付ける。墨付無釉。	肥前 期。1780~1860 年代。
518	1148	A区	LY41	層上面	陶器	皿	肥前系(唐津系)。皿。見込みに蛇の目釉剥ぎ。高台内外無釉。高台外面削り出し。高台内兜巾。外面下半にハリ支えの痕跡が認められる。	肥前 期。1690~1780 年代。
519	1148	A区	MV6	層上面	陶器	壺	壺。内面首部に指頭圧痕。	17世紀か。
520	1148	A区	MV6	層上面	陶器	襖	越前系。襖。内面に指頭圧痕。口縁端部に玉縁状を呈する。	近世。
521	1158	A区	LZ40 ・41	層上面	陶器	擂鉢	備前系。鉄釉陶器擂鉢。外面口縁部に鉄釉。外面口縁部に平行沈線を二条施す。擂目3本単位。3m幅。	17世紀中葉~17世紀後 葉か。
522	1158	A区	MV6	層上面	陶器	乗燭	肥前系。鉄釉陶器乗燭。内外面に鉄釉。内面に灯芯を通す小孔が認められる。受皿部径5.9cm	肥前 期。1690~1780 年代。
523	1158	A区	LV44	層上面	土器	土風炉	土風炉。外面に削り。内面に煤が付着する。	近世。
524	1158	A区	LZ40 ・41	層上面	瓦	丸瓦	灰色を呈するいぶし瓦。内面の布目痕を棒状工具でたたき消す。側縁に削り。釘穴が二箇所認められる。胎土緻密。焼成堅緻。	
525	1158	C区	UW8	層上面	瓦	軒椽瓦	高梨台遺跡産か。暗赤褐色を呈する赤瓦。外面横方向のナ字調整。胎土緻密。焼成堅緻。瓦当面がわずかに残る。瓦当部高4.8cm 内区高2.6cm	
526	1158	A区	LZ40 ・41	層上面	石製品	磁石	磁石。凝灰岩製。上半部欠損。三面に擦痕が認められる。	
527	1158	A区	UV9	層上面	金属 製品	釘	鉄釘。断面形は六角形状を呈する。基部上端を折り曲げる。先端部欠損。	
528	1158	A区	LX41	層上面	金属 製品	錠	錠。鉄製。断面形は方形形状を呈する。先端部欠損。	
529	1158	A区	LZ42	層上面	金属 製品	戸車	戸車。青銅製。孔内に木製管が残存する。孔径6mm	
530	1158	A区	UW5	層上面	銭貨	銭	寛永通寶か。銅製。表・裏判読不明。	
531	1158	C区	MP52	層上面	銭貨	銭	寛永通寶。銅製。文銭。表「寛永通寶」。裏「文」。	
532	1158	A区	LY42	層	磁器	瓶	肥前系。青磁瓶。高台内に砂付着。内面と墨付無釉。	肥前 期。1650~1690 年代。
533	1158	A区	LY42	層	磁器	皿	肥前系。染付皿。型紙摺。見込みに葡萄文、外面に唐草文を染め付ける。墨付無釉。	肥前 期。1690~1780 年代。
534	1158	A区	LY42	層	磁器	輪花皿	肥前系。染付輪花皿。型打ち成形。見込みに鳥文を染め付ける。墨付無釉。	肥前 期。1650~1690 年代。
535	1158	A区	MP42	層	磁器	皿	肥前系。染付皿。内面に格子文を染め付ける。	肥前 期。1690~1780 年代。
536	1158	A区	LZ43	層	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに菊花文。高台内に砂付着。墨付無釉。	肥前 期。1630~1650年代。
537	1158	A区	LZ42	層	磁器	碗	肥前系。染付碗。見込みに梅花文、外面に山文を染め付ける。高台内に砂付着。墨付無釉。	肥前 期。1630~1650年代。
538	1158	A区	LZ43	層	磁器	碗	染付碗。口縁端部に錆釉による口紅を染め付ける。墨付無釉。	18世紀後葉~19世紀中 葉。

第30表 遺物属性表(24)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・層位	分類	器種	特徴	備考	
539	114図	B区	MF53	層	陶器	皿	肥前系(唐津系)。灰釉陶器皿。内外面に灰釉。体部下半から高台は無釉。体部下半から高台に削り。高台内に判読不明の書畫が認められる。	肥前 期。1690~1780 年代。	
540	114図	A区	LZ43	層	陶器	碗	肥前系。灰釉陶器刷毛目文碗。内外面に灰釉。見込みに釉薬が融着。内外面に白化粧土による刷毛目文を描く。豊付無釉。	肥前 期。1690~1780 年代。	
541	114図	B区	ME53	層	陶器	碗	京・信楽系。碗。内外面に透明釉。見込みに家屋・松文を鉄絵で描く。外面体部下半から高台内は無釉である。高台内に「清水」の銘が認められる。	17世紀中葉~17世紀後 葉。	
542	114図	A区	MB46	層	陶器	襖	越前系。襖。内面無釉。	近世。	
543	114図	A区	MB44	層	陶器	襖鉢	鉄釉陶器襖鉢。外面口縁部に鉄釉。播目10本。単位。2=幅。	近世。	
544	114図	A区	LY39	層		瓦	丸瓦	灰色・緑色を呈するいぶし瓦。外面縦方向のナデ調整後、横方向のナデ調整。内面にコピキB、側縁に削り。胎土緻密。焼成堅固。	
545	114図	A区	LY41	層	金属 製品	釘	鉄釘。断面形は方形状を呈する。充存。木質残存。		
546	114図	A区	LV42	攪乱	磁器	香炉	肥前系。青磁香炉。外面に筋目状の隆刻。内面と豊付無釉。	肥前 期。1630~ 1650年代。	
547	114図	A区	LY39	攪乱	磁器	皿	肥前系。白磁皿。外面体部から底部無釉。	肥前 期。1690~1780 年代。	
548	114図	C区	LY50	攪乱	磁器	碗	肥前系。白磁碗。高台内に砂付着。豊付無釉。	肥前 期。1690~1780 年代。	
549	114図	A区	MM42	攪乱	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに桃文を染め付ける。高台内に砂付着。豊付無釉。	肥前 期。1610~1650 年代。	
550	114図	A区	MC46	攪乱	磁器	皿	肥前系。染付皿。見込みに草文。豊付に砂付着。豊付無釉。	肥前 期。1650~1690 年代。	
551	114図	C区		攪乱	磁器	皿	肥前系(波佐見系)。染付皿。見込みに秋草文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1690~1780 年代。	
552	114図	C区	MD48	攪乱	磁器	皿	肥前系(波佐見系)。染付皿。外面口縁部に遠山・樹木文、見込みに帆掛け舟文を染め付ける。豊付に砂付着。豊付無釉。	肥前 期。1650~1690 年代。	
553	114図	A区	LV41	攪乱	磁器	皿	肥前系。染付皿。内面に生埴・萬草文。見込みにコンチャク印判の五弁花文、外面に唐草文。高台内に判読不明の銘を染め付ける。簡略化した「成化年製」か。豊付無釉。	肥前 期。1690~1780 年代。	
554	114図	C区	LV46	攪乱	磁器	皿	肥前系。染付皿。内面に書文、見込みに篆文を染め付ける。豊付に砂付着。豊付無釉。	肥前 期。1690~1780 年代。	
555	114図	A区	MC46	攪乱	磁器	皿	肥前系。染付皿。内面に宝珠文、見込みに家屋・舟・月文、外面に雲文を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1780~1860 年代。	
556	114図	C区	LZ51	攪乱	磁器	皿	染付皿。型紙摺。西洋コバルトで染め付ける。見込みに桜花文を染め付ける。豊付無釉。	明治期以降。	
557	114図	A区	LV41	攪乱	磁器	皿	肥前系。染付皿。型紙摺。内面に宝・花唐草文、外面に唐草文を染め付ける。	肥前 期。1780~1860 年代。	
558	114図	C区	LV46	攪乱	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に鳥・扇文、高台内に判読不明の銘を染め付ける。簡略化した「大明年製」か。豊付無釉。	肥前 期。1690~1780 年代。	
559	114図	A区	LV41	攪乱	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に牡丹唐草文。高台内に「大明成化年製」の銘を染め付ける。豊付無釉。	肥前 期。1650~1690 年代。	
560	114図	B区	MA55 ・56	攪乱	磁器	碗	染付碗。口縁端部に繪釉による口紅、見込みに岩波文、外面に鳥文を染め付ける。豊付無釉。	19世紀。	
561	114図	C区	MB51	攪乱	磁器	碗	肥前系。染付碗。見込みに草文、外面に草花文を染め付ける。高台内に砂付着。豊付無釉。	肥前 期。1650~1690 年代。	

第3表 遺物属性表(25)

遺物	図版番号	調査区	グリッド	出土地点・層位	分類	器種	特徴	備考
562	117図	A区	LY38・39	攪乱	磁器	碗	染付碗。型紙描。西洋コバルトで染め付ける。見込みに環状松竹梅文、外面に竹文を染め付ける。	明治期以降。
563	117図	C区	M51	攪乱	磁器	碗	肥前系。染付碗。外面に蔓草文を染め付ける。	肥前 期。1650～1690年代。
564	117図	C区	LX46	攪乱	磁器	碗	肥前系。染付碗。型紙描。口縁端部に錆釉による口紅、外面に雨降り文を染め付ける。	肥前 期。1690～1780年代。
565	117図	C区	W46	攪乱	磁器	坏	染付坏。西洋コバルトで染め付ける。外面坏部に遠山・鳥文・「横江」の銘。脚部に太湖石・家屋・舟・柴垣・竹文「旅館松風亭」の銘。脚台内に「仙水」の銘を染め付ける。豊付無釉。	明治期以降。
566	117図	B区	M59 MF58・59	攪乱	磁器	花生	肥前系。染付花生。外面に折枝花文を染め付ける。内面と豊付は無釉。	肥前 期。1650～1690年代。
567	117図	A区	LZ44	攪乱	磁器	花生	肥前系。染付花生。外面に草花文を染め付ける。首部に駄面を貼付。内面は無釉。	肥前 期。1650～1690年代。
568	117図	C区	LT・LL47	攪乱	磁器	鉢蓋	肥前系。染付鉢蓋。型紙描。外面に唐子遊び・輪文、内面に輪文を染め付ける。携み縁部無釉。携み径約3.4cm	肥前 期。1780～1860年代。
569	117図	A区	LV44	攪乱	磁器	鉢蓋	肥前系。染付鉢蓋。外面に丸文を染め付ける。梨斗状の携みが付く。	肥前 期。1690～1780年代。
570	117図	A区	LV44	攪乱	磁器	碗蓋	統制食器研蓋。外面口縁部に二重墨線を染め付ける。携み部無釉。携み径約5.8cm	1940(昭和15年)～1946年(昭和21年)
571	117図	A区	LV42	攪乱	磁器	仏飯器	肥前系。染付仏飯器。外面の墨線区画内に磁文を染め付ける。底部内面削り。底部無釉。	肥前 期。1690～1780年代。
572	118図	A区	M42	攪乱	陶器	皿	肥前系。調漆皿。見込みに蛇の目輪割ぎ。内外面に調漆。外面下半から高台内は無釉。高台外面削り出し。豊付に回転糸切り痕。	肥前 期。1690～1780年代。
573	118図	A区	LY38・39	攪乱	陶器	急須蓋	肥前系。灰釉陶器急須蓋。外面に灰釉。外面に鉄絵による一重墨線・花文を描く。内面無釉。内面に回転糸切り痕。	肥前 期。1610～1650年代。
574	118図	A区	LV41	攪乱	陶器	土瓶蓋	銅緑釉土瓶蓋。外面に銅緑釉。内面に削り。内面無釉。宝珠状の携みが付く。	19世紀。
575	118図	A区	LZ40・41 M41	攪乱	陶器	仏花瓶	肥前系(唐津系)。仏花瓶。内面鉄釉。外面灰釉。釉薬を掛け分ける。底部に回転糸切り痕。	肥前 期。1610～1650年代。
576	118図	A区	LY38・39	攪乱	陶器	土瓶	大室相馬系。灰釉陶器土瓶。外面灰釉。容器本体・釣り手と注ぎ口部に鉄絵による山水文を描く。収納胴体部に削り。内面と収納胴体部下半は無釉。	19世紀中葉。
577	118図	C区	M52	攪乱	陶器	土瓶	肥前系。鉄釉陶器土瓶。内外面収納胴体部に鉄釉。開口部無釉。	肥前 期。1780～1860年代。
578	118図	C区	LX49	攪乱	陶器	播鉢	肥前系。播鉢。底部に回転糸切り痕。播鉢13cm単位。2cm幅。	肥前 期。1650～1690年代。
579	118図	A区	W43	攪乱	土器	かわらけ	型打ち成形の非ク口製手づくね。内外面に横方向のナズ調整。焼成後に底部穿孔。内外面口縁部に煤付着。	17世紀～18世紀代。
580	118図	C区	M52	攪乱	土器	かわらけ	型打ち成形の非ク口製手づくね。内外面に横方向のナズ調整。	17世紀中葉～18世紀。
581	118図	A区	W46	攪乱	土器	土風炉	土風炉。三足を貼付。	19世紀。
582	118図	B区	MF56	攪乱	土器	燈炉(湯炉)	湯炉。四隅に削りによる面取りを施す。底面に三足を貼付。被熱による劣化が著しい。	19世紀。
583	118図	A区	LX45	攪乱	土器	蓋	蓋。外面に指頭瓦痕。扁平の携みが付く。	近世。
584	118図	A区	W46	攪乱	瓦	軒丸瓦	灰色を呈するいぶ瓦。胎土緻密。焼成堅緻。瓦当三巴文。	
585	118図	C区	LX50	攪乱	瓦	軒平瓦	灰色・黒色を呈するいぶ瓦。外面横方向のナズ調整後。縦方向のナズ調整。胎土緻密。焼成堅緻。瓦当唐草文。瓦当部高4.4cm 内区高2.6cm	

第32表 遺物属性表(26)

遺物	図版 番号	調査区	グリ ッド	出土地点 ・ 層位	分類	器種	特徴	備考
586	119図	A区	LV45	攪乱	瓦	軒平瓦	灰色を呈するいぶし瓦。外面縦方向のナデ調整後、横方向のナデ調整。胎土緻密。焼成堅緻。瓦当唐草文、子葉付。瓦当部高4.9cm 内区高3.3cm	
587	119図	C区	LV LV48	攪乱	瓦	棧瓦	高梨台遺跡産か。暗赤褐色を呈する赤瓦。外面縦方向のナデ調整。水返しに釘穴が一面所認められる。胎土緻密。焼成堅緻。	
588	119図	A区	MV45	攪乱	ガラス 製品	瓶	薬瓶。水色の気泡ガラス。目盛り線が入る。	明治期以降。
589	119図	A区	MV46	攪乱	ガラス 製品	瓶	化粧水瓶。資生堂製。外面肩部に面取りを施す。底部に資生堂の高標「花椿」マークのエンボス。	昭和初期。
590	119図	B区	MF56 ・ 57	攪乱	ガラス 製品	瓶	サイダー瓶。淡い緑色の気泡ガラス。底部側面に「日本麥酒醸造株式会社 登録三矢マーク高標」、底部内に「1」のエンボス。	1921(大正10年)～1935年(昭和13年)
591	119図	B区	ME54	攪乱	ガラス 製品	瓶	牛乳瓶。口縁部側面に栓用の吊穴が認められる。外面胴部に「全乳一合」、丸枠内に「いろは牛乳部」のエンボス。	明治期以降。
592	119図	A区	MC46	攪乱	ガラス 製品	瓶	ビール瓶大瓶。自動製瓶機による機械成形。底部側面に「TRADE MARK DAINIPPON BREWERY CO LTD」、底部内に「12☆」のエンボス。	1915年(大正2年)以降。
593	120図	A区	MC46	攪乱	ガラス 製品	瓶	ビール瓶大瓶。人工成形。底部側面に「大日本麥酒株式会社醸造 高標 登録」のエンボス。	1889(明治22年)～1919年(大正8年)。
594	120図	A区	MA42	攪乱	石造物		凝灰岩製。表面に段状の加工を施す。	
595	120図	A区	LV46	攪乱	石製品	硯	硯。珪土製。全体に磨付着。使用による摩耗が著しい。内外面と側面に釘書きによる線刻や文字が認められる。右側面に「大」市「寿」、裏面に「大和田弥八号」「小土氏」「小」、二重円内に「大」、二重六角形内に「小」が確認できる。	
596	120図	C区	MB49	攪乱	石製品	硯	硯。粘板岩製。陸部分欠損。海内に使用時の磨痕が認められる。	
597	120図	C区	MB50	攪乱	石製品	石匙	石匙。珪質頁岩製。右側縁に刃部を設ける。未成品。	縄文時代。
598	120図	A区	LV40	攪乱	金属 製品	楔状製品	楔状製品。鉄製。断面形は扁平状を呈する。劣存。	
599	120図	C区	MA53	攪乱	金属 製品	煙管	煙管吸い口。青銅製。吸い口と籬字の境で折れる。内部に木質残存。	
600	120図	A区	LV42	攪乱	銭貨	銭	寛永通寶。銅製。表「寛永通寶」。裏「無文」。	
601	120図	C区	LV52	攪乱	銭貨	銭	寛永通寶か。銅製。外縁部欠損。表「通寶」。裏「無文」。	
602	120図	A区	MV45	攪乱	銭貨	銭	寛永通寶か。銅製。半分欠損。表「寛通」。	
603	120図	B区		排土	磁器	碗	肥前系。青磁碗。墨付無釉。	肥前年代。1650～1690
604	120図	A区	LY38 ・ 39	排土	磁器	香炉	肥前系。青磁香炉。墨付に鉄漿を塗る。内面無釉。体部下半に暗略化した獣面・三足を胎付。	肥前年代。1650～1690
605	120図	A区		排土	瓦	軒棧瓦	灰色・緑色を呈するいぶし瓦。瓦当内面にへら状工具による磨き調整。胎土緻密。焼成堅緻。瓦当三巴文(右巻)。瓦当部高9.3cm 内区高6.8cm	

第5節 自然科学分析

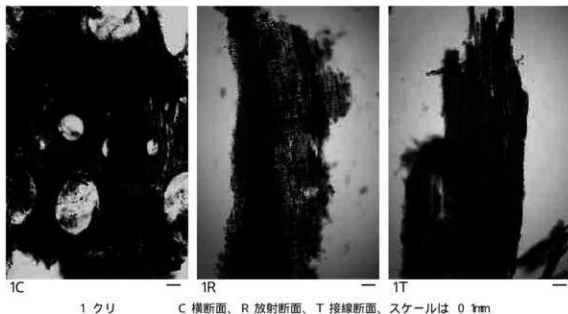
106号ピットより出土した礎板について、当時の木材利用状況を把握するため樹種同定を実施した。試料は106号ピットの底面より出土した礎板で、遺物番号第88図6である。縦22.7cm 横17.7cm 厚さ2.9cmで、転用材の可能性があるが詳細は不明である。

試料からはステンレス剃刀で横断面、放射断面、接線断面の切片を切り取り、封入剤ガムクロラルでプレパラートに固定して生物顕微鏡で観察・同定した。同定の結果、礎板はクリと同定された。

クリは県内では縄文時代以降建築材として利用頻度が高い樹種であるが、古墳時代以降は針葉樹、特にスギが多用され江戸時代はクリをはじめとした広葉樹は少ない傾向にある。県内における江戸時代の建築材の同定件数は少ないが中屋敷 遺跡では建築材としてクリ6点が確認されている（伊東ほか2012）。

以下に同定された分類群の記載を行う。

クリ *Castanea crenata* Sieb et Zucc. : 年輪初めに大きな道管が数列並びその後径が急減して小さい道管が波状や火炎状に配列する環孔材で、道管は単穿孔で道管内にチロースがたまる。放射組織は同性で1-2細胞幅である。



第12図 久保田城跡出土木材の顕微鏡写真

第3章引用・参考文献

- 秋田市教育委員会 1991『寺内焼窯跡 - 寺内小学校建設に伴う近世陶磁器・瓦・煉瓦窯跡の発掘調査 - a』
 秋田市教育委員会 2002『藩校明德館跡 - 市街地再開発事業に伴う発掘調査報告書 - a』
 秋田市教育委員会 2017『平成28年度秋田市遺跡確認調査報告書 a』
 秋田市教育委員会 2018『平成29年度秋田市遺跡確認調査報告書 a』
 秋田市教育委員会 2021『令和2年度秋田市遺跡確認調査報告書 a』
 秋田市教育委員会 2022『久保田城跡 - 千秋久保田町マンション建設工事に伴う発掘調査報告書 - a』
 愛知県陶磁資料館 1990『特別展 東北の近世陶磁 - 東北陶磁文化館所蔵品展 - a』

- 東京都建設局・新宿区内藤町遺跡調査会 1992『東京都新宿区内藤町遺跡・放射5号線整備事業に伴う緊急発掘調査報告書』
- 長崎県波佐見町教育委員会 1993「波佐見町内古窯跡群調査報告書」『波佐見町文化財調査報告書第4集』
- 五十嵐芳郎 1967『高梨台 遺跡とその資料 秋田市新藤田字高梨台遺跡』
- 大橋康二 1989『肥前陶磁』ニューサイエンス社
- 九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年・九州近世陶磁学会10周年記念』
- 江戸遺跡研究会 2001『図説江戸考古学研究辞典』柏書房
- 東北中世考古学会 2003『中世奥羽の土器・陶磁器』高志書院
- 伊東隆夫・山田昌久 2012『木の考古学 出土木製品用材データベース』海青社
- 梶木理央 2022「ガラス瓶製造技術の工業化とその画期」『月刊考古学ジャーナル7』ニューサイエンス社

第4章 まとめ

第1節 出土遺物の年代と各遺構・各整地層の年代について

調査の結果、調査地全体において近現代の攪乱跡が多数検出され、近世以前の整地層や遺構は大部分が削平されている状況を確認した。調査地は近現代以降秋田県立図書館や旧秋田市立佐竹史料館、民間の旅館等が設置されており、それらの利用に伴って大幅な土地の改変・造成を受けていると考えられる。以下では確認された整地層の年代と、性格が考察できる主要な遺構について、重複関係や方位、出土遺物の検討を行い、その年代について記述していく。なお、主に出土している肥前系陶磁器の分類と年代推定については、大橋康二（1989）九州近世陶磁学会（2000）に従った（註1）。

第層は現在の生活面で、表土と旧佐竹史料館や裏手にあった旅館によるものと考えられる造成が確認された。第層は1世紀～18世紀の肥前系陶器が多く確認されたが、明治期以降のものと考えられる徳利（第115図495）が確認されていることから、久保田城廃絶後の明治期以降の利用に伴う造成土と考えられる。

近世整地層として確認された整地層は第層である。これら整地層の出土遺物の年代から、形成された年代を推定していく。第層は遺存している場所が限られ、調査地内において面的に対応する層を判別することが困難であることから、細かく幾度かの整地によって形成されていることによると考えられる。調査地内は築城当初より段階的に施設が増えていることが絵図等から確認できることから、それら施設の整備に合わせて造成・整地されて構成されていったと推測される。特に肥前期（1690～1780）等、江戸中期から江戸後期の遺物が多数を占めていることから、その頃の施設整備に伴っている可能性が高い。今回の調査で第層として大別している層は、令和2年に行われた千秋公園整備事業に伴う発掘調査において検出された第層・第層に相当していると考えられる（秋田市教育委員会2021）。その中で示されている諸施設設置の造成に伴う整地であるという見解とも矛盾は無い。上層と認識できる地点から肥前期（1780～1860）の遺物が出土していること、18世紀後葉から19世紀中葉の染付碗（第115図538）も出土していることから、久保田城廃絶直前の生活面を含んだ整地層でもともとと考えられる。

第層は遺物が出土していないことから、久保田城築城時の整地層であると考えられる。久保田城は慶長8年（1603）に築城を開始し、翌9年（1604）には主要部分が完成、その後継続して造営されたとされているが、今回の調査地が含まれる二の丸地点は安楽寺が慶長9年には設置され、算用場として機能していたことが記録に残されていることから、今回の調査で検出された第層も創建時の時期の整地によるものと考えられる。

続いて主要な各遺構の年代観や性格について考察していく。今回の調査において、第層が検出された面を便宜上第1遺構面と呼称するが、前述のとおり第層は遺存状況が悪いため、本来は下層のものである遺構も含まれていると考えられる。

まず第1遺構面から検出された遺構について検討していく。

調査区の南端より検出されている100号礎石建物跡（SB1001）について、第3章第3節で述べたように、位置関係により100号石敷遺構、100号遺構（SX1004）、100号遺構（SX1005）、100号堀跡（SA1001）は付随する施設であると考えられる。これらの年代観について検討すると、100号礎石建物跡（SB1001）が検出された地点より、18世紀後葉から19世紀中葉の磁器染付碗（第115図538）が出土している。また100号遺構（SX1004）より出土している甕（第116図451）が18世紀のものとして比定され、100号石敷遺構上面より18世紀後半から19世紀中葉の磁器の仏飯器（第88図13）が検出されていることから18世紀後

葉以降に建設、利用された施設群だと考えられる。

他に建物跡と考えられる掘立柱建物跡が2棟検出されている。年代が比定できる遺物が出土しているのは100号掘立柱建物跡（SB1002）である。構成するピットより、18世紀と考えられる陶器摺鉢（第8図11）、17世紀中葉から後半であると考えられる瓦質土器の鉢（第8図12）が出土している。また、軸方向を同一する施設として100号塀跡（SA1004）がある。検出地点の調査範囲が変則的なことから、二つの礎石跡の組み合わせしか把握できず塀跡としたが、建物跡になる可能性もある。抜き取り埋土より18世紀後葉から19世紀中葉の陶器（第8図3）が出土している。よって、これら一連の施設は18世紀後半には廃絶したと考えられる。遺物から推定される時期や軸方向から関連する施設、もしくは同時期に存在していた施設である可能性がある。また、これらが検出されている地点は、調査地の他地点よりも整地層が薄いこと、久保田城跡廃絶直後までに残っていたと考えられる建物跡と位置を同一にする建物跡が確認されなかったことから、19世紀中葉以降の火事後に再建された建物等に伴う遺構群や整地層は削平され失われていると考えられる。

また調査地からは複数の井戸状遺構や廃棄土坑と考えられる土坑が検出されている。前述したように検出面の年代が判別しづらいことから年代を比定することは困難である。そのうち、調査地南端で検出されている100号井戸状遺構（SE1001）は前述した100号石敷遺構を切っていることから、100号礎石建物跡（SB1001）を含めた一連の施設が機能を失ってから、構築されたと考えられる。人為的に埋め戻され、炭化物や遺物が上層よりまとまって出土していることから、火事等による廃棄物を捨てるため使用した際に廃絶したと考えられる。

他に年代がわかる遺構として土塁が調査地ならびに隣接地点で確認されている。第1遺構面として分類しているが、構築自体は第1層の直上に行われていることから、年代は築城時にまで遡ると考えられる。確認した地点においては遺物がほとんど含まれなかったことから、構築から廃絶までほとんど形を変えずに存在していたと考えられる。調査地の東側に確認された土塁の遺存状況は良いが、南東部の土塁状の高まりは近代以降の遺物が大量に含まれた複数の攪乱により破壊されており、また南西部に関しては上部が大幅に削平され裾部のみが検出されており、調査地南部の土塁についてはほとんど旧形状を留めていない。そのため、調査地の南隣接地点において土塁1と土塁2がつながり、その上には御隅櫓等の施設が存在していたと考えられるが、現況より様相を推察することは困難である。

第1層を除去して検出された面を第2遺構面とする。第2遺構面からは溝跡、礎石、土坑、ピット等が複数検出されているが、調査区が不定形であることもあり、組み合わせや性格等を推察できるものは少ない。

層や層が検出面であり、肥前期・期の遺物を含んだ遺構が多く、第1層が形成される直前まで機能していた遺構も多いと考えられるが、詳細は不明である。

第2節 調査地の利用状況について

前節で整理した遺構・整地層の年代観を含む周辺調査状況を顧みつつ、調査地の利用状況について推察していく。第2章第2節（3久保田城二の丸の変遷について）で整理したように、二の丸南東部は様々な施設が時期的な変遷をもって推移している。本調査で得られた知見と、文献史料から読み取れる調査地の利用状況とを改めて照らし合わせ、二の丸南東地点の利用状況の変遷について考察を試みる。

過年度調査により、調査地周辺の本来の旧地形は、北西から南東に向かって高低差が存在していたことが確認されていた。今回の調査によって調査対象地の第1層地山の標高は北端が22m、南端の標高は19mであり、比高は2m存在していることが確認され、改めて元来の旧地形は北西が高く南東に向かい傾斜して



第 122 図 正保 4 年 (1647) 「出羽国秋田郡久保田城絵図」(部分) 秋田県公文書館所蔵

いたことが確認された。したがって、現在でこそ舌状に張り出し、南に向かって緩やかに傾斜する平場となっている今回の調査地点は、久保田城築城以前は、南に向かって低かったが、平坦になるよう人為的な造成を行って地形を構築し、二の丸を形成したと考えられる。

築城時に存在していたと考えられる施設は安楽寺である。元来佐竹氏の祈禱寺であり、水戸から転封する際、一緒に移されたものとされ、慶長9年(1604)には梅津政景が出勤し事務を執り行っていた記録が残っていることから、築城当初より機能していたと考えられる施設である。また調査地点において確認された土塁についても、今回の調査によっていずれの地点においても築城当初に構築されている状況が確認されたことから、土塁ならびに南東隅にあったとされる御隅櫓も築城当初より存在していたと考えられ、概ね「羽国秋田郡久保田城絵図」(第12図)のとおり土地利用状況であったと推察される。その後、寛永16年(1639)に時鐘(鐘楼)が善性院の梵鐘という名目で作られたという。善性院の隣、御隅櫓の北隣に建てられたということから、今回の調査地の南端、もしくは南隣接地に鐘楼が存在していた可能性がある。またこの記述により善性院が1639年以前には建築されていたと考えられる。善性院も安楽寺と同じ宝鏡院を本寺とする寺であり、安楽寺と同じく無住であったとされる。

調査地の範囲にある施設が絵図の中に確認されるようになるのは「御城下古絵図」(第12図)からである。寛文年間(1661-1672)のものであり、安楽寺の記載と調査地周辺の敷地の長さが示されている。今回の調査によって判明した土塁裾部と裾部の長さは約10mであり、絵図によると土塁で囲まれた南端部の平場の幅は5間(約10m)とされているため、今回の調査地はおおよそ土塁が囲む南端部に隣接している地点にあたると思われる。これにより調査地南端部から北側に向かって建物を建てるために整地が行われ、利用されていたといえる。

三代藩主佐竹義處の時代、元禄10年(1697)に佐竹氏が所有する資料の編集や収集を行うために安楽寺に文書所を開設したとされ、その頃に安楽寺は安楽院と改称されたと伝えられる。またその後宝永4年(1707)に、安楽寺の南側に勘定所が設置され、安楽寺が担っていた算用所としての機能が分離されることとなる。

16世紀末から17世紀にかけてこの地点の施設の増設や機能強化が増え、役所的な機能を持つ地点としての性格を強めていった。南端部における第1層は元来の



第12図 寛文年間(1661-1672)
「御城下古絵図」(部分) 秋田県立博物館所蔵



第14図 寛保2年(1742)
「御城下古絵図」(部分) 秋田県公文書館所蔵

標高の低さのため北側に比べ厚く遺存している。これら施設の増築に伴い整地と造成が繰り返され、現況の地形が構築されたと考えられる。

寛保2年(1742)の絵図、「御城下絵図」(第124図)に勘定所の記載が見られる。絵図からも安楽院の南側に配置されたことがうかがえるが、詳細な規模や位置関係は不明である。

またこの絵図には他施設の記載は無いが、その後の宝暦9年(1759)「御城下絵図」(第125図)の絵図には善性院の記述がある。位置関係に差異があるが、善性院が南端部に近い所にあったことはこの絵図からも推察できる。その後、嘉永7年(1854)に境目方役所が焼失したという記録があることから、19世紀中頃から火事以前までの間に境目方役所が作られたことがわかる。安楽院の南側に存在していたようだが、規模等の詳細は不明である。また勘定所、境目方役所の両役所には土蔵が付随していたようだが、これらに関しても記述は少なく位置関係等は不明である。



第125図 宝暦9年(1759)
「御城下絵図」(部分) 秋田県公文書館所蔵

二の丸周辺において確認されている火事はこの嘉永7年(1854)の火事と、天保13年(1842)の二の丸殿が焼失した火事がある。既の火事は主に二の丸中心部において既や土蔵等が被害に遭い、嘉永7年(1854)の火事では勘定所に火がつけられ、境目方役所と安楽院、これらの役所に伴う区画施設等が焼失したとされる。土蔵や調査地南端付近にあったであろう鐘楼等は被害を免れたという。明治元年(1868)の「秋田城郭市内全図」には時鐘の記載があることから、少なくとも鐘楼については久保田城が廃絶するまで調査地周辺に存在していたことになる。今回の調査において火事によって生じたと考えられる廃棄物が出土した遺構がいくつか確認されている。いずれの火事によるものかは不明であるが、これらはおおよそ19世紀中頃の廃棄土坑として使用されたと考えられる。

第125図は、縮尺が明確である「明治十七年陸軍所轄地秋田城郭全図」(註2、以下「明治十七年の図」と呼ぶ)と現況図に主たる検出遺構の位置関係を重ね比較したものである(註3)。この図に示される火事後に復元された勘定所および境目方役所は、今回の調査によって検出され、おおよそ19世紀から利用され19世紀中頃までに廃絶されたと考えられる建物跡とは位置関係が重複していないことがわかる。よって今回検出された建物跡は火事以前に利用された諸施設であると考えられる。

また同図によると、調査地南側で検出された礎石建物跡の位置は空地となっている。火事により焼失し、再建されなかった可能性がある。仏具と考えられる遺物が出土していることや、位置関係と文献等による記述とを対照すると、寺院関係の建物であった可能性がある。また城内他調査地点に比べ本瓦が出土している割合が高いことから、礎石建物跡周辺には文献等にあるような寺院関係の建物があったことが推察できる。

現時点では検出層位や組み合わせ等が不明瞭な遺構が多く、これまで述べてきた諸施設に対応する遺構を判断することは難しいが、今後久保田城内他調査地点の調査成果が蓄積することにより城内の施設の規則性や構造等の様相が明らかになることにより、対応関係がより明らかになることだろう。今後二の丸東部、ひいては城内の利用状況を解明していく上で貴重な知見をもたらしたといえる。

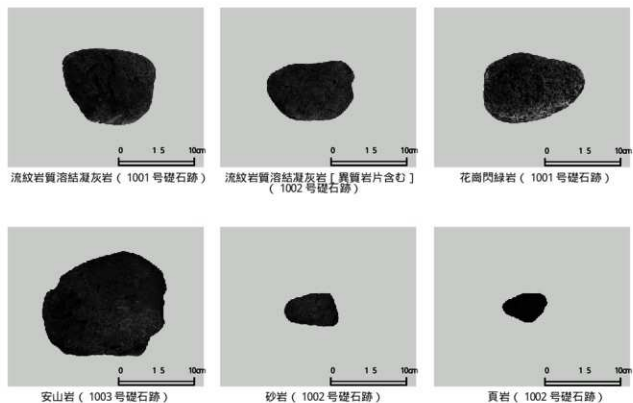
第3節 100号礎石建物跡の根固石石材について

調査区南側端で検出された100号礎石建物跡（SB1001）は礎石こそ失われていたものの、根固石が遺存した状態で確認された。そこで、これらの石材の岩石学的な特徴の分析ひいては採取地を検討するために、現地では石材番号を付けてすべて取り上げて、洗浄を行った後に写真撮影を行い、岩石種の鑑定、礫径・円磨度の計測を行った。岩石種は肉眼鑑定、礫径は見かけ上の最大径をcm単位で計測、円磨度はWadell 1933が示した定義とKrunbein(1941)による印象図を用いて数値化して記録した。分析の対象とした根固石は17石である。

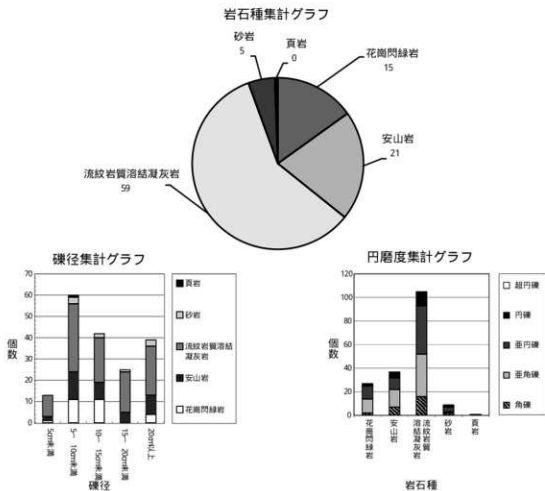
岩石種については5種類の岩石が確認された。代表的な岩石写真を第12図に示した。岩石種毎の分布比率は第12図の岩石種集計グラフのとおりである。最も多く用いられているのは、流紋岩質溶結凝灰岩で10石と全体の58.6%を占める。次いで安山岩の3石 20.6%、花崗閃緑岩の2石 15.0%、砂岩の9石 5.0%、頁岩の1石 0.5%となる。各岩石の特徴としては、流紋岩質溶結凝灰岩が白色珪長質で流理構造をもち細かい異質岩片を含むものがある。安山岩は1~4mm程度のカリ長石の斑晶が認められる。花崗閃緑岩は中粒、優白質で黒雲母、角閃石などの有色鉱物が目立たない。砂岩は中粒から細粒のものである。頁岩は暗灰色のものである。

礫径については第12図の礫径集計グラフのとおりである。5~15mm未満のものが全体の56.9%を占めているがそれ以上のものも一定量存在している。岩石種毎にみると、流紋岩質溶結凝灰岩では最小が2.5mm 最大が39.5mmであり、5mm以上のものが平均的に存在する特徴をもつ。安山岩では礫径の最小は3.5mm 最大は35.0mmで、流紋岩質溶結凝灰岩と同様に5mm以上のものが平均的に存在する特徴をもつ。花崗閃緑岩では礫径の最小は3.5mm 最大は27.0mmで、5~15mm未満で81.4%とほとんどを占めている。砂岩は礫径の最小が6mm 最大が27.5mmで、標本数が少ないため傾向をつかむことは難しいが5~10mm未満と20mm以上で66.6%を占めている。一方、円磨度については第12図の円磨度集計グラフのとおりである。流紋岩質溶結凝灰岩では、亜円礫が4石 39.0%。亜角礫が3石 34.2%である。安山岩では、亜角礫が1石 40.5%、亜円礫が10石 27.0%である。花崗閃緑岩では、亜角礫が1石 44.4%、亜円礫が1石 40.7%である。砂岩では、亜円礫が4石 44.4%でピークをつくっている。頁岩では唯一確認された1石は亜角礫である。このように円磨度においては亜角礫~亜円礫のものが多い。

根固石石材については以上のような特徴が確認された。この特徴をもとに石材の採取地について検討しておく。まず岩石から、流紋岩質溶結凝灰岩、安山岩、花崗閃緑岩が主要石材であるが、久保田城跡周辺においては、地質図によれば花崗閃緑岩については太平山周辺に広く認められる。安山岩についても同様である。円磨度によれば河川礫であることが明らかであるから、太平山から流下する河川が供給源となる可能性がある。旭川、太平川の2系統の河川がこれにあたる。根固石の半分以上を占める流紋岩質溶結凝灰岩については、旭川上流部のみ確認されることから、根固石の採取地は旭川が妥当である。また、礫径・円磨度の分析から中流域を中心とする地点となる可能性が高い。今回は河川における石材調査を実施していないため、河川礫と根固石の直接的な対比をすることができなかったが、今後、河川礫の調査を行うことでより確度の高い採取地の推定を行うことが出来るものと思われる。



第12図 根固石岩石写真



第12図 100号礎石建物跡根固石岩石種・礫径・円磨度グラフ

第4節 まとめ

以上、今回の調査によって、調査地は近現代の利用によって削平・攪乱をうけており、多くの情報は既に失われてしまっていたが、二の丸南東部に存在していた建物や諸施設の有無と、土塁の規模や方向を把握することが出来た。

建物跡の性格は不明であるが、出土遺物から役所的な機能を持った建物や、仏教関係の建物がこの地点に存在していたことを改めて考古学的に確認することが出来たといえる。今回検出された建物跡や個別の遺構群と文献等による記述に残されている諸施設との対応関係についての詳細は不明なものが多い。今回の調査成果を元に施設の変遷や機能なども更に把握するためには、今後の城内他地点の調査成果の蓄積を待ち、城内の建物や施設の規模や規則性等についての把握に努める必要がある。その成果と今回の調査成果を比較検討することで、今回検出された遺構群の性格についてより理解が深まるだろう。

第4章註

註1：肥前系陶磁器については、肥前産のものを主として、それに直接影響を受けた周辺及び地方窯のものも含め「系」として含めた。また、肥前系陶磁器の時期区分は大橋（1989）および九州近世陶磁学会（2000）に従い次のとおりとした。

期	1580～1610年代（	1期	1580～1594年頃、	2期	1594年頃～1610年代に細分）
期	1610～1650年代（	1期	1610～1630年代、	2期	1630～1650年代）
期	1650～1690年代				
期	1690～1780年代				
期	1780～1860年代				

なお、上記区分に限らず、年代を絞り込める場合は、その年代を並記した。

註2：「明治十七年陸軍所轄地秋田城郭全図」は秋田県立図書館所蔵のものをトレースした図（秋田市教育委員会2019 付録第14図）を用いた。秋田県立図書館所蔵の原図（秋田市教育委員会2019 付録第15図）には縮尺1/200分の1と明示されている。

註3：「明治十七年の図」は赤線で示した。「明治十七年の図」と現況図を重ね合わせると、完全には一致しない。測量精度の違いの問題であると考えられるが、「明治十七年の図」の土塁を現況図に合わせると表門へ続く石段と合わず、石段にあわせると土塁と合わない。第12図では、「明治十七年の図」に描かれる土塁を現況図に合わせて作成した。

第4章引用・参考文献

- 秋田市教育委員会 2019『久保田城跡 - 秋田和洋女子高等学校校舎建設に伴う発掘調査報告書 - 』
 秋田市教育委員会 2021『久保田城跡 - 千秋公園整備事業(大坂等融雪整備工事)に伴う発掘調査報告書 - 』
 大橋康二 1989『肥前陶磁』ニューサイエンス社
 九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年 - 九州近世陶磁学会10周年記念 - 』
 株式会社ハウス・サポート・株式会社C・ファクトリー 2021『松ヶ洞19号墳発掘調査報告書』

写真図版



調査前全景（北から）



久保田城跡本丸・二の丸（南から）



二の丸南部（C区調査時（上が西））



調査地と黒門（C区調査時 南東から）



第1遺構面全景オルソ画像



第2遺構面全景オルソ画像



A区第1遺構面全景(北から)



B区第1遺構面完掘状況(上が北)



C区完掘状況(上が西)



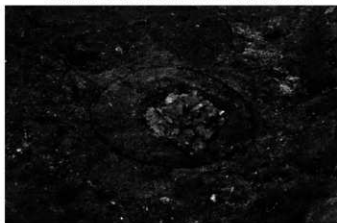
100号堀跡完掘状況(南西から)



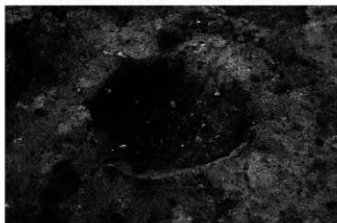
100号堀跡100号礎石跡根固石検出状況(南西から)



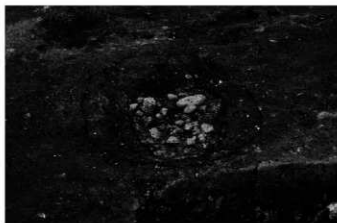
100号堀跡100号礎石跡根固石掘方完掘状況(北東から)



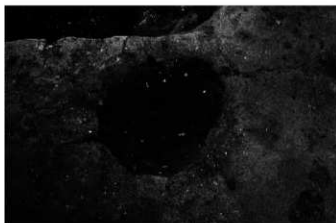
100号堀跡100号礎石跡根固石検出状況(南西から)



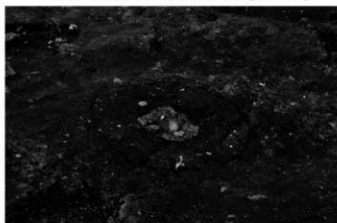
100号堀跡100号礎石跡掘方完掘状況(北東から)



100号塚跡 101号礎石跡根固石検出状況（南西から）



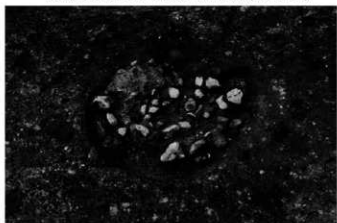
100号塚跡 101号礎石跡掘方完掘状況（北東から）



100号塚跡 101号礎石跡根固石検出状況（南西から）



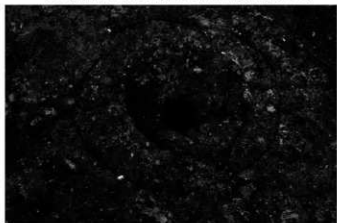
100号塚跡 101号礎石跡掘方完掘状況（北東から）



100号塚跡 101号礎石跡根固石検出状況（北東から）



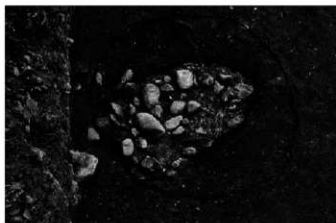
100号塚跡 101号礎石跡掘方完掘状況（北東から）



100号塚跡 104号ビット柱痕完掘状況（西から）



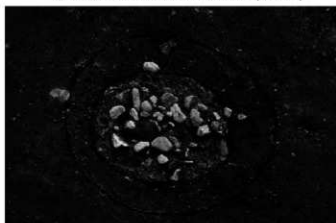
100号塚跡完掘状況（北西から）



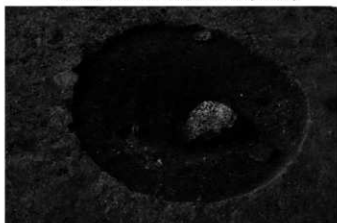
100号塚跡 101号礎石跡根固石検出状況 (西から)



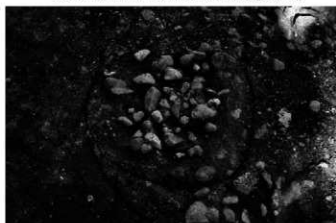
100号塚跡 101号礎石跡掘方完掘状況 (西から)



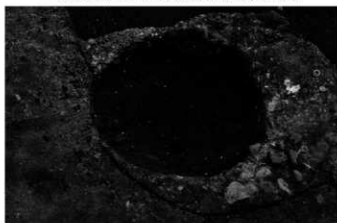
100号塚跡 101号礎石跡根固石検出状況 (西から)



100号塚跡 101号礎石跡掘方完掘状況 (西から)



100号塚跡 101号礎石跡根固石検出状況 (西から)



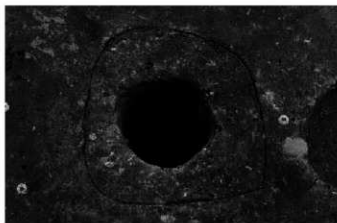
100号塚跡 101号礎石跡掘方完掘状況 (西から)



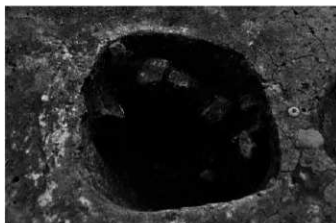
100号塚跡 112号ビット掘方土層状況 (西から)



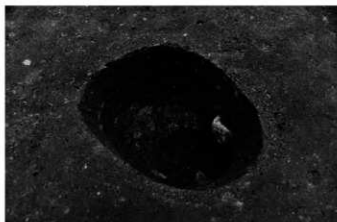
100号塚跡 112号ビット掘方完掘状況 (西から)



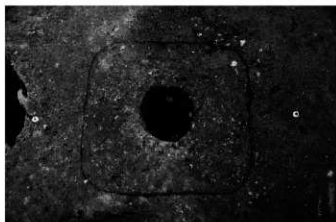
100号塚跡 112号ビット柱痕完掘状況 (西から)



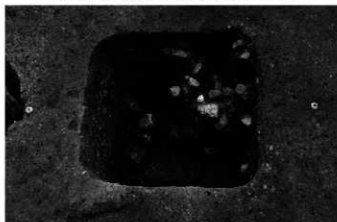
100号塚跡 112号ビット掘方完掘状況 (西から)



100号塚跡 112号ビット掘方完掘状況 (西から)



100号塚跡 112号ビット柱痕完掘状況 (西から)



100号塚跡 112号ビット掘方内礫出土状況 (西から)



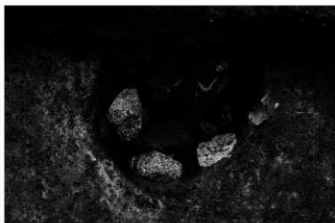
100号塚跡 112号ビット掘方完掘状況 (西から)



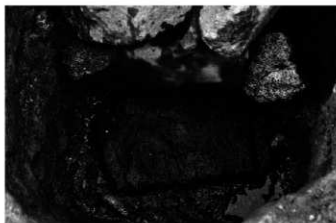
100号塚跡 105号ビット礫出土状況 (北から)



100号塚跡 105号ビット完掘状況 (北から)



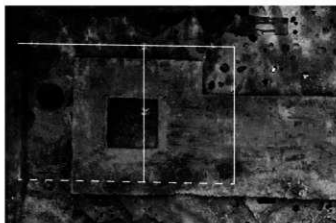
100号掘跡 106号ピット石材出土状況（北から）



100号掘跡 106号ピット礎板出土状況（北から）



100号掘跡 106号ピット完掘状況（北から）



100号礎石建物跡完掘状況（上が北）



100号礎石建物跡完掘状況（北西から）



100号礎石建物跡 100号礎石跡根固石検出状況 (南から)



100号礎石建物跡 100号礎石跡掘方完掘状況 (南から)



100号礎石建物跡 100号礎石跡根固石検出状況 (南西から)



100号礎石建物跡 100号礎石跡掘方完掘状況 (南から)



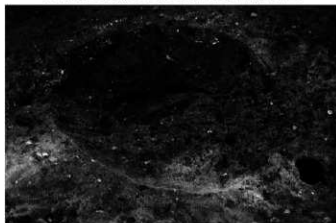
100号礎石建物跡 100号礎石跡根固石検出状況 (西から)



100号礎石建物跡 100号礎石跡掘方完掘状況 (西から)



100号礎石建物跡 100号礎石跡根固石検出状況 (西から)



100号礎石建物跡 100号礎石跡掘方完掘状況 (西から)



100号礎石建物跡 100号礎石跡根固石検出状況（西から）



100号礎石建物跡 100号礎石跡掘方完掘状況（西から）



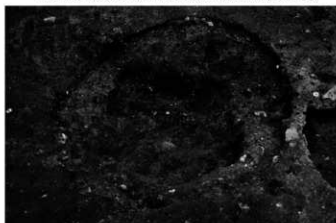
100号礎石建物跡 100号礎石跡根固石検出状況（西から）



100号礎石建物跡 100号礎石跡掘方完掘状況（西から）



100号礎石建物跡 100号礎石跡検出状況（南から）



100号礎石建物跡 100号礎石跡掘方完掘状況（南から）



100号石敷完掘状況（東から）



100号石敷完掘状況（南西から）



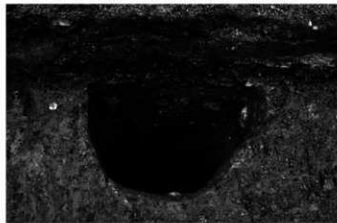
100号掘立柱建物跡北東部完掘状況（東から）



100号掘立柱建物跡 109号ピット掘方完掘状況（北東から）



100号掘立柱建物跡 109号ピット柱痕完掘状況（南東から）



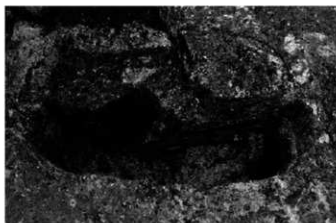
100号掘立柱建物跡 109号ピット掘方完掘状況（南東から）



100号掘立柱建物跡 109号ピット土層状況（南東から）



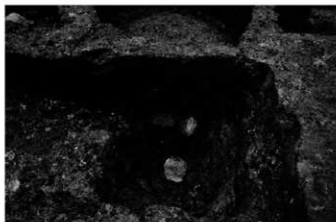
100号掘立柱建物跡 1093号ピット礎石検出状況（南東から）



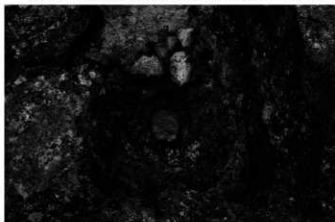
100号掘立柱建物跡 1093号ピット柱痕完掘状況（南東から）



100号掘立柱建物跡 1094号ピット掘方完掘状況（南東から）



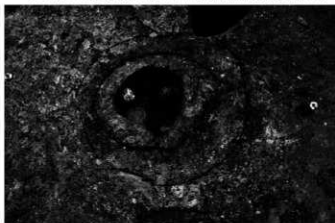
100号掘立柱建物跡 1094号ピット土層状況（南東から）



100号掘立柱建物跡 1095号ピット礎石検出状況（南東から）



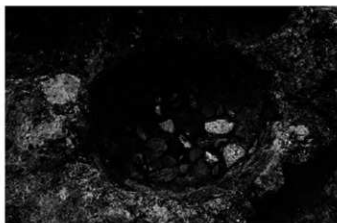
100号掘立柱建物跡 1095号ピット土層状況（南西から）



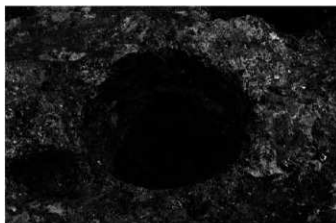
100号掘立柱建物跡 1096号ピット柱痕完掘状況（西から）



100号掘立柱建物跡 1096号ピット上面礫出土状況（北西から）



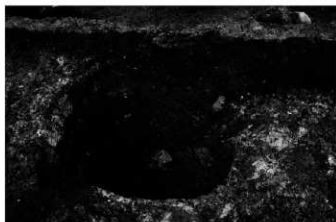
100号掘立柱建物跡 1096号ピット底面礫出土状況 (南東から)



100号掘立柱建物跡 1096号ピット掘方完掘状況 (北西から)



100号掘立柱建物跡 1097号ピット掘方完掘状況 (北から)



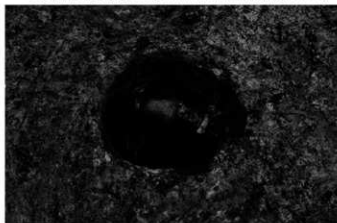
100号掘立柱建物跡 1098号ピット土層状況 (南東から)



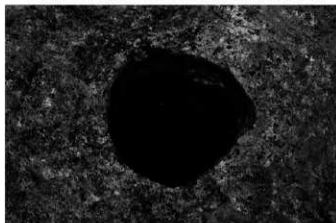
100号掘立柱建物跡 1098号ピット礎石検出状況 (南東から)



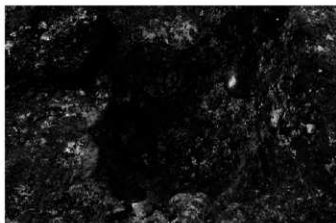
100号掘立柱建物跡 1098号ピット礎石検出状況 (北東から)



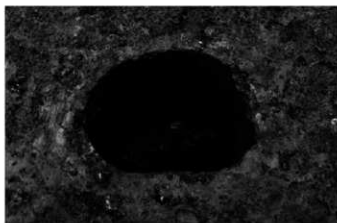
100号掘立柱建物跡 1113号ピット礫出土状況 (南東から)



100号掘立柱建物跡 1113号ピット掘方完掘状況 (南東から)



100号掘立柱建物跡 113号ピット掘方完掘状況 (南東から)



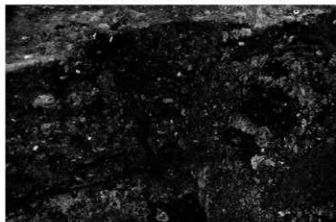
100号掘立柱建物跡 113号ピット掘方完掘状況 (東から)



100号掘立柱建物跡 113号ピット土層状況 (南から)



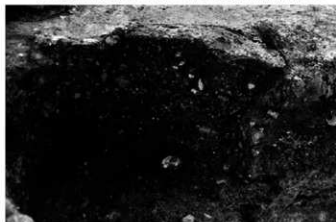
100号掘立柱建物跡 113号ピット掘方完掘状況 (南から)



100号掘立柱建物跡 114号ピット掘方完掘状況 (東から)



100号掘立柱建物跡 114号ピット掘方完掘状況 (東から)



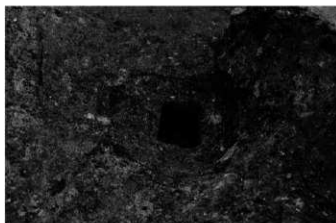
100号掘立柱建物跡 117号ピット土層状況 (西から)



100号掘立柱建物跡 117号ピット掘方完掘状況 (西から)



100号掘立柱建物跡 121号ビット土層状況 (東から)



100号掘立柱建物跡 120号ビット柱痕完掘状況 (西から)



100号掘立柱建物跡 112号ビット掘方土層状況 (西から)



100号掘立柱建物跡 112号ビット掘方完掘状況 (西から)



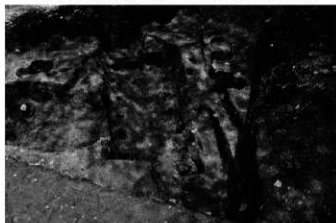
100号掘立柱建物跡 112号ビット土層状況 (南から)



100号掘立柱建物跡 112号ビット掘方完掘状況 (南から)



1002・1003号溝跡土層状況 (南東から)



1002・1003号溝跡完掘状況 (南西から)



101号溝跡土層状況(南西から)



101号溝跡出土状況(南西から)



101号溝跡土層状況(南西から)



101号溝跡完掘状況(南西から)



101号溝跡土層状況(南西から)



101号溝跡完掘状況(北東から)



1023・1024号溝跡、1171・1172号ピット土層状況(南西から)



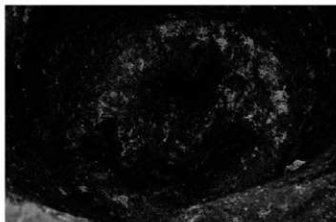
1023・1024号溝跡完掘状況(南西から)



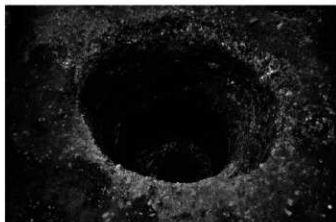
100号井戸土層状況(北西から)



100号井戸漆器桶出土状況(北西から)



100号井戸炭化材出土状況(北西から)



100号井戸完掘状況(西から)



100号井戸完掘状況(北東から)



100号井戸完掘状況(南から)



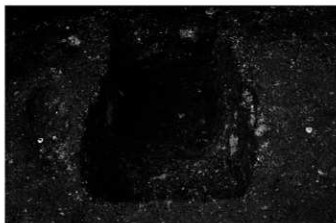
100号土坑土層状況(東から)



100号土坑完掘状況(東から)



101号土坑遺物・礎出土状況（東から）



102号土坑完掘状況（東から）



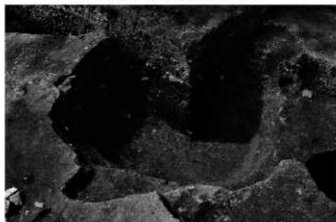
105号土坑遺物出土状況（北西から）



105号土坑完掘状況（北西から）



107号土坑土層状況（北から）



107号土坑完掘状況（北東から）



119号土坑完掘状況（東から）



109号土坑礎出土状況（南西から）



109号土坑完掘状況(南西から)



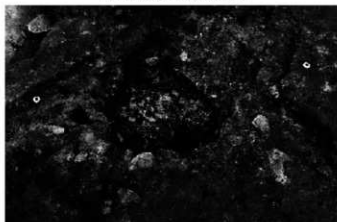
1100号土坑完掘状況(北西から)



1199号土坑竊出土状況(東から)



1193号土坑竊出土状況(南西から)



1193号土坑完掘状況(西から)



1235号土坑土層状況(北東から)



1235・1236・1237号土坑完掘状況(東から)



1249号土坑完掘状況(西から)



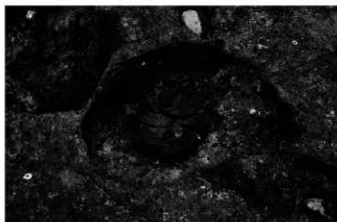
125号土坑土層状況（南東から）



125号土坑礫・陶器出土状況1（南東から）



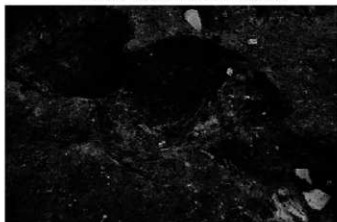
125号土坑陶器出土状況2（南東から）



125号土坑陶器出土状況3（南東から）



125号土坑漆器椀出土状況（南東から）



125号土坑完掘状況（南東から）



125号土坑遺物出土状況（南東から）



125号土坑完掘状況（南東から）



127号土坑礫出土状況（南西から）



127号土坑完掘状況（南西から）



128号土坑完掘状況（南西から）



129号土坑礫出土状況（南西から）



129号土坑完掘状況（南西から）



129号土坑土層状況（西から）



129号土坑完掘状況（西から）



131号土坑土層状況（東から）



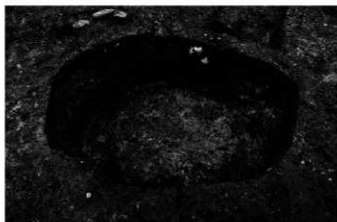
1319号土坑礫出土状況(東から)



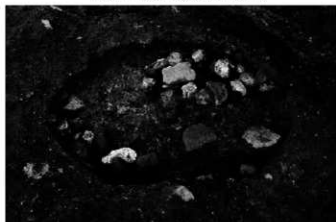
1319号土坑完掘状況(南西から)



1327号土坑礫出土状況(南西から)



1327号土坑完掘状況(南西から)



1329号土坑礫出土状況(北西から)



1336号土坑土層状況(南東から)



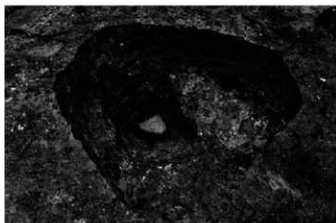
1336号土坑完掘状況(南東から)



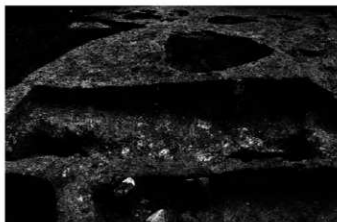
1347号土坑礫出土状況(西から)



134号土坑遺物出土状況（南東から）



134号土坑完掘状況（南東から）



134号土坑土層状況（北西から）



134号土坑完掘状況（北西から）



137号土坑土層状況（北西から）



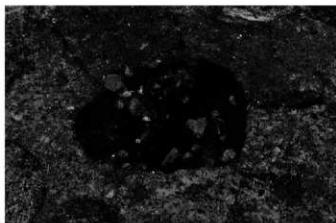
137号土坑完掘状況（北西から）



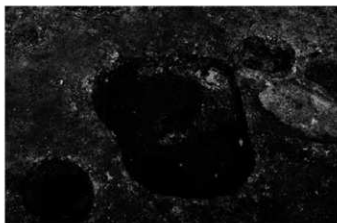
138号土坑土層状況（西から）



138号土坑完掘状況（西から）



140号土坑礫出土状況(南から)



141号土坑完掘状況(南から)



142号土坑土層状況(南東から)



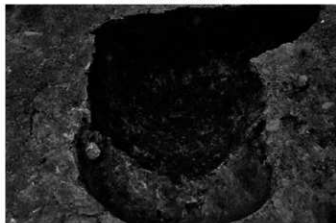
142号土坑遺物出土状況(南から)



142号土坑完掘状況(南から)



143号土坑礫出土状況(南から)



143号土坑完掘状況(南から)



146号土坑土層状況(東から)



146号土坑完掘状況（東から）



147号土坑遺物出土状況（南から）



147号土坑完掘状況（南から）



147号土坑遺物出土状況（西から）



147号土坑完掘状況（西から）



147号土坑土層状況（南から）



148号土坑完掘状況（南から）



148号土坑土層状況（南から）



148号土坑完掘状況（南から）



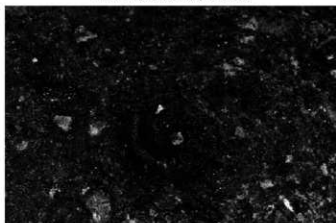
149号土坑礫出土状況（北西から）



149号土坑完掘状況（北西から）



153号土坑土層状況（北西から）



153号土坑漆器椀出土状況（北西から）



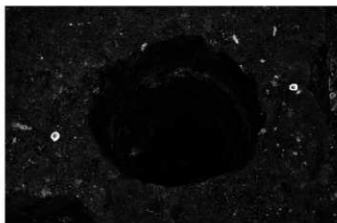
153号土坑完掘状況（北西から）



153号土坑土層状況（西から）



153号土坑完掘状況（西から）



100号ビット完掘状況(南から)



103号ビット完掘状況(南東から)



103号ビット土層状況(西から)



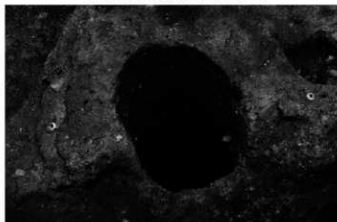
103号ビット完掘状況(西から)



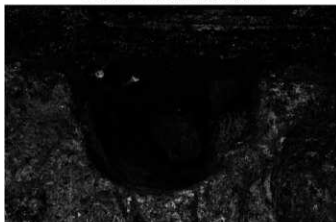
103号ビット柱痕完掘状況(南から)



103号ビット石靴出土状況(南から)



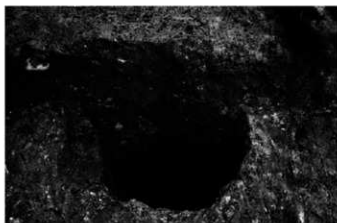
103号ビット完掘状況(南から)



1070号ビット礫出土状況(南東から)



107号ビット完掘状況(南東から)



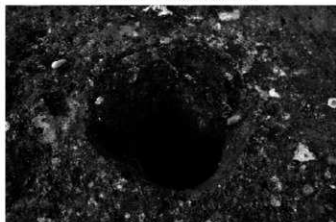
108号ビット土層状況(北東から)



108号ビット完掘状況(北東から)



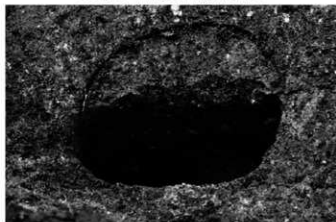
110号ビット土層状況(南東から)



110号ビット柱痕完掘状況(南東から)



110号ビット完掘状況(南東から)



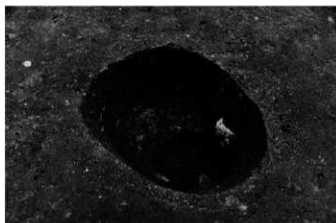
111号ビット土層状況(南東から)



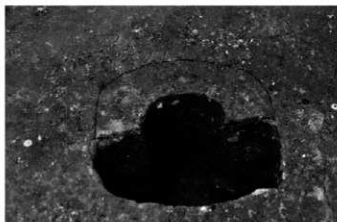
112号ビット土層状況(西から)



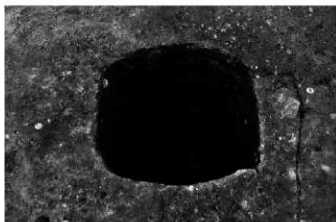
112号ピット完掘状況（西から）



112号ピット完掘状況（北西から）



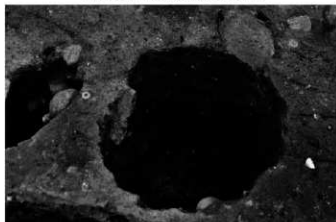
115号ピット柱痕完掘状況（南から）



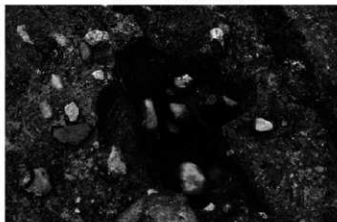
115号ピット掘方完掘状況（南から）



116号ピット土層状況（北西から）



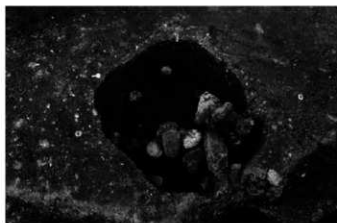
116号ピット完掘状況（北から）



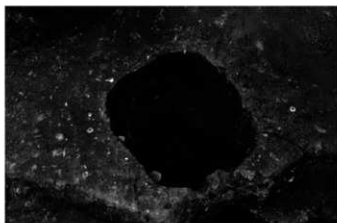
117号ピット礫出土状況（南西から）



117号ピット完掘状況（南西から）



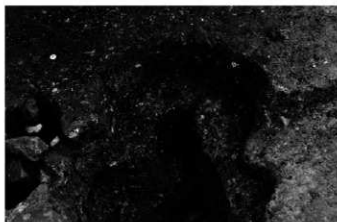
117号ビット礫出土状況(西から)



117号ビット柱痕完掘状況(西から)



1176号ビット土層状況(北から)



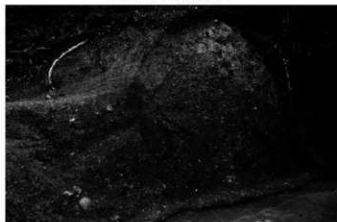
1176号ビット完掘状況(北西から)



土壘1完掘状況(北から)



土壘1南東土層土層状況(北から)



土壘1北東土層土層状況(南西から)



土壘2完掘状況(北東から)



100号遺構礫検出状況（西から）



100号遺構土層状況（西から）



100号遺構掘方完掘状況（北東から）



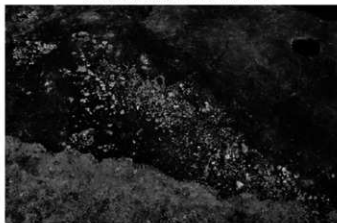
100号遺構掘方土層状況（西から）



100号遺構陶器掘出土状況1（西から）



100号遺構陶器掘出土状況2（北西から）



100号遺構礫検出状況（南西から）



100号遺構掘方完掘状況（西から）



100号遺構完掘状況（西から）



101号遺構土層状況（南東から）



101号遺構礫出土状況（南東から）



101号遺構完掘状況（南東から）



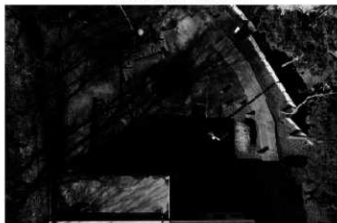
102号遺構礫出土状況（北から）



102号遺構完掘状況（上が東）



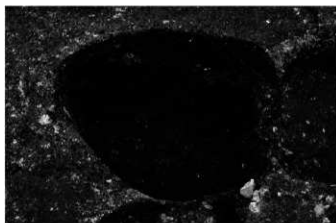
A区第2遺構面全景（南から）



B区第2遺構面完掘状況（上が北）



200号土坑完掘状況（南東から）



203号土坑完掘状況（西から）



204号土坑土層状況（南から）



204号土坑完掘状況（南東から）



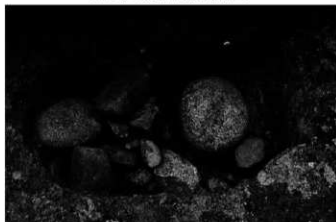
204号土坑土層状況（南東から）



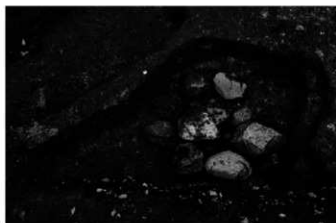
204号土坑完掘状況（南東から）



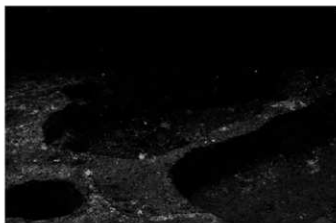
205号土坑礫・遺物出土状況（北西から）



206号土坑礫出土状況（西から）



207号土坑礎出土状況（東から）



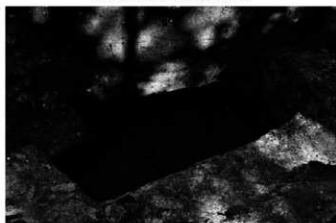
2069・207号土坑完掘状況（西から）



207号土坑土層状況（南東から）



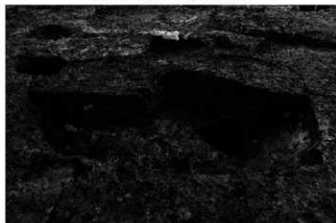
207号土坑完掘状況（南東から）



207号土坑完掘状況（南西から）



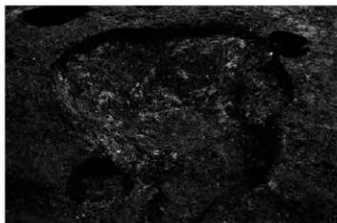
2078・2079号土坑礎出土状況（北西から）



2108号土坑土層状況（南東から）



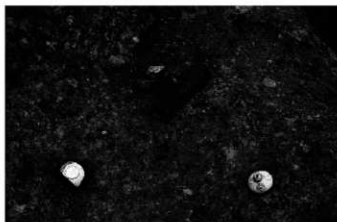
212号土坑土層状況（南東から）



212号土坑完掘状況（南東から）



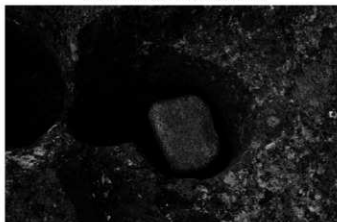
212号土坑土層状況（南東から）



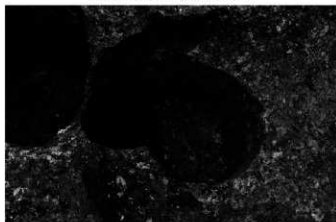
212号土坑遺物出土状況（南東から）



202号ピット完掘状況（南西から）



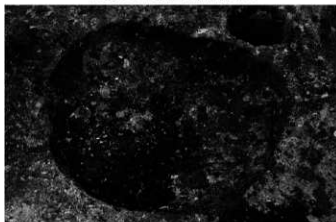
202号ピット礎石検出状況（南西から）



202号ピット完掘状況（南西から）



208号礎石跡根固石検出状況（西から）



208号礎石跡掘方完掘状況（西から）



1 SP1123 2 SA1003 SP1126、 3-5 SA1004 SP1059)、6 SA1004 SP1060、7 SB1001
 8 SB1001 SS1001、9 SB1001 SS1004、10-12 SB1002 SP1090、13 1001石敷
 (5はS11 1はS12 2はS14 7はS16 その他はS13)

出土遺物(1)



14 SD1001 15~ 37 SD1002 38 SD1002- 1003 39・ 40 SD1003
 (すべて S 1 3)

出土遺物(2)



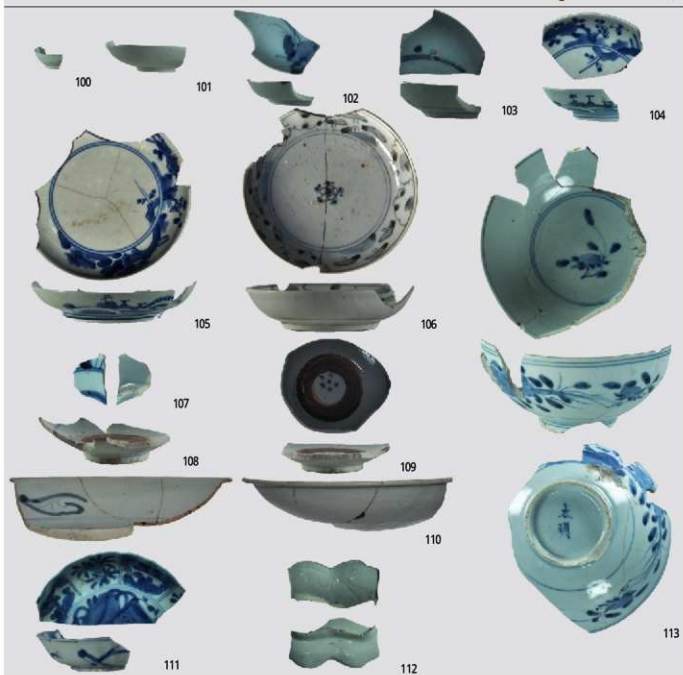
41- 58 SD1003 59 SD1010 60- 61 SD1012 62- 67 SD1014 68- 69 SD1016 70 SD1023 71 SD1024
 72- 73 SD2001 74- 77 SE1001(58- 67は S 1 2 64は S 1 4 その他は S 1 3

出土遺物(3)



78- 86 SE1001 87 SK1008 88- 89 SK1015 90 SK1028 91 SK1055 92 SK1061 93 SK1068
 94- 96 SK1072 97 SK1073(78- 79- 87- 95- 97は S 1 3 80- 86- 96は S 1 4

出土遺物(4)



98・99 SK1074 100～113 SK1077
 (98・100～113はS13 99はS14)

出土遺物(5)



114～ 139 SK1077
 (すべて S13)

出土遺物(6)



140~ 149 SK107Z 150 SK109I 151・ 152 SK110Q 153 SK1124 154 SK112Z 155・ 156 SK1140
 157 SK1141 158 SK1162 159~ 164 SK119Q 165 SK1193 166 SK121Z 167~ 172 SK1235
 (146~ 149・ 164は S 1 2 154は S 1 4 その他は S 1 3

出土遺物(7)



173~ 192 SK1235 193 SK1237
 (173~ 187・190~ 192は S 1 3 188・189・193は S 1 4

出土遺物(8)



194 SK1245 195~ 197 SK1247 198 SK1251 199 SK1253 200 SK1257 201 SK1259 202~ 204 SK1260
 205~ 212 SK1274 (204は S 1 1 199は S 1 2 その他は S 1 3

出土遺物(9)



213・214 SK1280 215・216 SK1286 217～220 SK1292 221～227 SK1293 228 SK1294 229・230 SK1295
 231 SK1311 232 SK1312 233 SK1318 234 SK1319 235・236 SK1322 237 SK1323 238 SK1324 239 SK1330
 240・241 SK1336 242～244 SK1337 245・246 SK1342 (227は S 1 1 238は S 1 2 239は S 1 6 その他は S 1 3)

出土遺物 (10)



247～ 251 SK1343 252 SK1344 253～ 259 SK1346 260 SK1366 261 SK1376 262～ 273 SK1377
 (すべて S 13)

出土遺物 (11)



274~ 308 SK1377, 309 SK1378, 310~ 312 SK1408
 (300~ 308・312は S 1 1, 293~ 299・309は S 1 2, 274~ 292・310・311は S 1 3

出土遺物 (12)



313・314 SK141Q 315～317 SK142Q 318 SK1439 319 SK146Q 320 SK1463 321・322 SK1469 323 SK1470
 324 SK1477 325・326 SK1478 327～331 SK148Q 332 SK1489 333～335 SK149Q 336・337 SK1502 338 SK1504
 339～343 SK1531(314は S 1 1 313・318・337は S 1 2 その他は S 1 3

出土遺物(13)



344~ 347 SK1531, 348 SK1535, 349 SK1538, 350 SK2002, 351 SK2004, 352 SK2005, 353 SK2022,
 354~ 355 SK2033, 356 SK2037, 357 SK2038, 358~ 368 SK2042, 369~ 373 SK2043, 374~ 377 SK2046
 378~ 379 SK2048 (368・373は S 1 2, 352は S 1 4, その他は S 1 3

出土遺物 (14)



380 SK2050 381 SK2051 382~ 385 SK2059 386 SK2061 387 SK2069 388・389 SK2071 390~ 395 SK2074
 396・397 SK2078 398 SK2080 399~ 402 SK2108 403 SK2111 404 SK2112 405 SK2123 406 SK2125
 407 SK2126 408~ 412 SK2129(412は S 1 2 408は S 1 4 その他は S 1 3

出土遺物 (15)



413 SP1002 414 SP1013 415 SP1015 416 SP1029 417 SP1033 418 SP1036 419 SP1038 420 SP1039
 421 SP1058 422 SP1064 423 SP1065 424~ 426 SP1070 427 SP1071 428 SP1074 429 SP1089 430 SP1101
 431 SP1105 432 SP1114 433 SP1159 434 SP1165 435 SP1175 436 SP1176 437 SP2011 438 SP2018
 439 SP2026 (418・425・426・428・429・439は S 1 2 430は S 1 4 424は S 1 6 その他は S 1 3

出土遺物 (16)



440 SS1021 441・442 SS1024 443 SS2008 444・445 SX1001 446～448 SX1002 449～451 SX1004 452 SX1008
 453 SX1010 454～458 SX1012(443は S 1 1, 441・442・448は S 1 2, 453は S 1 4, 451 トー3は S 1 6, その他は S 1 3)

出土遺物(17)



459 SX1012 460~ 468 SX1015 469~ 477 土壘 1 1層
 (459・467・468は S 1 4 その他は S 1 3

出土遺物 (18)



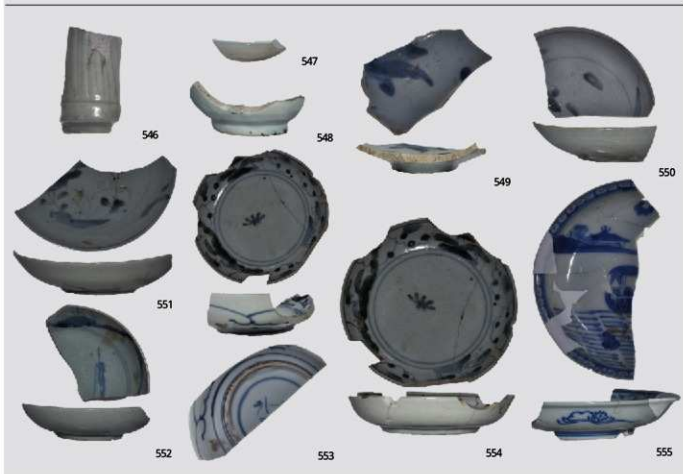
478～486 層、487～488 層、489～505 層
 (504・505は S11 503は S12 502は S14 その他は S13

出土遺物 (19)



506～509 層、510～531 層上層、532～536 層
 (530・531は S 1 1、527～529は S 1 2、524・529は S 1 4、その他は S 1 3

出土遺物 (20)



537～ 545 屬、546～ 555 攪乱
 (549は S 1 2 544は S 1 4 その他は S 1 3

出土遺物 (21)



556～580 攪乱
 (すべてS13)

出土遺物(22)



581



583



584



585



582



586



588



589



590



587

581～ 590 攪乱
(584～ 587は S 1 4 その他は S 1 3

出土遺物 (23)



591～602 攪乱 603～605 排土
 (600～602は S 1 1, 598・599は S 1 2, 603は S 1 4 その他は S 1 3)

出土遺物 (24)

報 告 書 抄 録

ふりがな	くぼたじょうあと							
書名	久保田城跡							
副書名	佐竹史料館改築事業に伴う発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	佐藤桃子・佐藤好司・山崎貴之・石田純子							
編集機関	秋田市教育委員会（秋田市観光文化スポーツ部文化振興課）							
所在地	〒010 8560 秋田市山王一丁目1番1号 TEL: 018 888 5607 FAX: 018 888 5608							
発行年月日	2024年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くぼたじょうあと 久保田城跡	あきたしせんしやうこうえん 秋田市千秋公園地内	05201	217	39度 43分 11秒	140度 7分 29秒	A区・B区 20220525 ～ 20221208 C区 20230403 ～ 20230731	1644	佐竹史料館改築事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
久保田城跡	城郭	近世	礎石建物跡1棟、竪立柱建物跡2棟、柱列（塙）跡4条、溝跡2条、井戸状遺構3基、土坑67基、ピット21基、礎石跡3基、石敷遺構1基、土塁1基、その他18基		陶磁器・土器・瓦・鉄製品・石製品・木製品・金属製品・皮革製品・銭貨			
要約	久保田城二の丸南東部に所在したと考えられる施設やそれに伴う付随施設であると考えられる遺構が検出され、二の丸南東部を囲む土塁の構造や方向、規模等が明らかになった。近世以降の整地層として2つの整地層が確認された。出土遺物の年代から、第1層は久保田城築城時（1604）、第2層は17世紀後半から18世紀後半にかけての複数層の整地であると考えられた。							

秋田市

久保田城跡

- 佐竹史料館改築事業に伴う発掘調査報告書 -

印刷・発行 令和6年3月19日

編 集 秋田市教育委員会

(秋田市観光文化スポーツ部文化振興課)

〒010-8560 秋田市山王一丁目1番1号

TEL 018-888-5607 FAX 018-888-5608

印 刷 城島印刷株式会社
